HP Universal CMDB

ソフトウェアバージョン:10.10

モデリング・ガイド

ドキュメントリリース日:2013 年 11月 ソフトウェアリリース日:2013 年 11月



保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供 するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コン ピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政 府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (**英語サイト**)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。http://support.openview.hp.com

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
 サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- サホートケースの登録とエンハンスメン
 ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ー 部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サ ポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューション を検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURL はhttp://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jspです。

目次

目次	3
HP Universal CMDB の概要	14
第 1章 : トポロジ・クエリ言 語 (TQL)	15
トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要	15
UCMDB マネージャでの TQL クエリの作 成	
TQL クエリ結果の表示	17
複合関係	18
結合関係	18
クエリ・ノード条件	19
複合タイプ条件	21
サブグラフ定 義	
更新値ポリシーを使用修飾子	
TQL クエリの定 義 方 法	
TQL クエリへのクエリ・ノード と関係の追加方法	
複合関係の定義方法 - シナリオ	
結合関係の定義方法 - シナリオ	
属性条件の定義方法 - シナリオ	
複 合 タイプの条 件 の定 義 方 法 - シナリオ	
サブグラフの定 義を作 成 する方 法 - シナリオ	
ショートカット・メニュー・オプション	
属性演算子の定義	
TQL ログ	
トポロジ・クエリ言 語 のユーザ・インタフェース	
[計算された関係の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス	43
[複合関係の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス	45
[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス	
[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス	51
[関連クエリノードの追加]ウィザード	53
[関連クエリノードのタイプ]ページ	55

モデリング・ガイド

[関係タイプ]ページ	
[関連クエリノードのプロパティ]ページ	
[関連クエリノードのインスタンス]ページ	59
[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックス	60
CI インスタンス・ダイアログ・ボックス	63
条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス	67
要素レイアウトのプレビュー・ダイアログ・ボックス	67
[Cl インスタンスをフィルタ]ダイアログ・ボックス	68
[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス	69
[レイアウト設定]ダイアログ・ボックス	
[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス	71
[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックス	85
[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス	
[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス	87
[サブグラフの定 義]ダイアログ・ボックス	89
[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス	91
トラブルシューティングおよび制限事項	91
第2章:計算された関係の使用	96
計算された関係の概要	
計算関係	
計算された関係のタイプ	97
複合 CI の折りたたみルールの設定方法	
第3章:ダイレクト・リンクの URL の作成	101
ダイレクト・リンクの生成 – 概要	
ダイレクト・リンクの生成方法 - シナリオ	
パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成方法	102
JMX コンソールを使用してダイレクト・リンクのパスワードを暗号化する方法	
[ダイレクト リンクを生 成]のユーザ・インタフェース	
[ダイレクト リンクの生 成]ダイアログ・ボックス	
ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード	
[コマンドを選択]ページ	105

モデリング・ガイド

[ダイレクト リンク パラメータ]-[Cl の選 択]ページ	. 107
[ダイレクト リンク パラメータ]-[Cl タイプ セレクタ]ページ	108
[ダイレクト リンク パラメータ] - [CII グリッド]ページ	109
[ダイレクト リンク パラメータ] - [影響 マップ]ページ	110
[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデル エディタ]	111
[ダイレクト リンク パラメータ]-[クエリ エディタ]	112
[ダイレクト リンク パラメータ] – [関 連 CI]ページ	113
[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]ページ	113
[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート]ページ	114
[ダイレクト リンク パラメータ]-[Cl プロパティを表示]ページ	115
[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビュー トポロジを表 示] ページ	115
[ダイレクト リンク パラメータ]ページ – [ビュー エディタ]ページ	116
[ダイレクト リンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ	116
[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビューを表 示]ページ	117
[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ	118
[完了]ページ	118
第4章:ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み	120
ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み	120
UCMDB アプレット・タグ - 概要	120
ダイレクト・リンク操 作 フロー	121
第5章: CI セレクタでの作業	126
CI セレクタの概要	126
ブラウザ・モードでのビューの表示方法	126
検索モードでのCIの検索方法	127
CI セレクタ表示オプションの修正方法	. 128
CI の選 択 のユーザ・インタフェース	129
[Cl 条件検索]ダイアログ・ボックス	129
CI セレクタ	131
[検索を整理]ダイアログ・ボックス	141
[ソフトウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス	141
[検索基準を保存]ダイアログ・ボックス	142

トラブルシューティングおよび制限事項	143
第6章:トポロジ・マップの作業	
トポロジ・マップの概要	
大きなビューの処理	144
トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス	145
画像にマップをエクスポート	145
レイアウト・プロパティ・ダイアログ・ボックス	
メイン・メニュー	
[印刷]ダイアログ・ボックス	
[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス	
[印刷設定]ダイアログ・ボックス	
ツールバー・オプション	
[トポロジ マップ] サイド バー	
モデリング	175
第7章:IT ユニバース・マネージャ	
IT ユニバース・マネージャの概要	
IT ユニバース・マネージャでの作業	
ツリー構造を表示	
CI での作業	179
関係での作業	
CIと関係の作成方法	
関連 CIの表示方法	
アプリケーション・ディスカバリのステータスをチェックする方法(ビューの再検出)	
影響分析結果の取得方法 - シナリオ	191
ビューのスナップショットを取る方法	
トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法	
IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース	
[CIをモデルに追加]ダイアログ・ボックス	
[CIをビューに追加]ダイアログ・ボックス	
[時間枠の変更]ダイアログ・ボックス	199
[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス	

[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス	
[サブレポートの生成]ダイアログ・ボックス	
[CMDB からの関連 CI の取得]ダイアログ・ボックス	
[関係の挿入]ダイアログ・ボックス	
[関係]ページ	
[IT ユニバース マネージャ] ページ	
[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス	
[関係]ダイアログ・ボックス	228
[最近のディスカバリ元]ダイアログ・ボックス	230
[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス	231
[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス	
[ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス	234
[影響を表示]表示枠	
第8章:モデリング・スタジオ	
モデリング・スタジオ概 要	
ビュー形 式	238
ビジネス・ビューの構築	238
テンプレートとパースペクティブ	241
定義済みのフォルダとビュー	
テンプレート・ベース・ビューの作成	
ビジネス Cl モデル	
パースペクティブ・ベース・ビューの作成	
隣接検索 Cl とウォッチポイント	
パターン・ビューの作成方法	251
テンプレートの作成方法	
パースペクティブの作成方法	
動的 ウィジェット の作成方法	
テンプレート・ベース・ビューの作成方法	
複数のテンプレート・ベース・ビューの作成方法	
レポート設定の定義方法	259
インスタンス・ベース・モデルの作成方法	

新規パターン・ベース・モデルの作成方法	
モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法	
CI のコレクションに基 づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作 成 方 法	
モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース	
[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス	
[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス	
[選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス	
[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス	
[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス	
[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス	
[サイクル定義]ダイアログ・ボックス	271
[非表示 Cl]ダイアログ・ボックス	
[階層ルール]ダイアログ・ボックス	
左側の表示枠	273
[Cl ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックス	279
モデル・エディタ	
[モデリング スタジオ]ページ	
[選択済みのCIを含むモデル]ダイアログ・ボックス	
[新規モデル]ダイアログ・ボックス	
[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアロ ス	グ・ボック 291
[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス	
[隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス	
[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス	
[パターン ベース モデル] ウィザード	
[Cl タイプの選 択] ページ	
[クエリの選択]ページ	
パターン・ビュー・エディタ	
パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ	
[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス	
[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス	
[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス	

[クエリを保存]ダイアログ・ボックス	
[ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス	314
[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス	
[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス	
[テンプレート ベースビュー]ウィザード	
[テンプレートの選択]ページ	
[パラメータ値をインポート]ページ	
[パラメータを入力]ページ	319
[ビューの場所を選択]ページ	320
[サマリ]ページ	
[ビューを保存]ページ	
[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックス	
TQL クエリ・エディタ	
[選択した CI を含むビュー]ダイアログ・ボックス	
[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス	327
[<クエリ/ テンプレート / パースペクティブ名 > の依存関係]ダイアログ・ボックス	र328
第9章:レポート	
トポロジ・レポートの概要	330
カスタム・レポートの概要	
トポロジ・レポートの表示方法	331
カスタム・レポートの生成方法	
CIを比較する方法	
スナップショットを比較する方法	
Cron 式	
レポートのユーザー・インタフェース	
エージェント・ステータス・レポート	337
アプリケーション・ブレークダウン・レポート	
アプリケーション・ライセンス・レポート	341
アセット・レポート	
変更済みアプリケーション・レポート	
変更されたビューのレポート	

CI変更レポート	
CMDB 使 用 率 レポート	
アーカイブ・レポートを比較	
CI 比較レポート	
スナップショット比較レポート	
データベース・ブレークダウン・レポート	
削除候補レポート	
依存関係レポート	
ディスカバリ・エラー・レポート	
汎用ブレークダウン・レポート	
ゴールド・マスタ・レポート	
ハードウェア・コンポーネント・サマリ・レポート	
影響分析レポート	
[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート	
ノード OS のブレークダウン・レポート	
ノード・サマリ・レポート	
VLAN によるノード・サマリ・レポート	
変更数	
認識されたアプリケーション・レポート	
[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス	
[レポート]ページ	
スキャン・ファイル・ステータス・レポート	401
スキャナ実行詳細レポート	
[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]	
ソフトウェア使用率レポート	408
Solaris ゾーン・レポート	
トポロジ・レポート	411
ビュー変更レポート	412
VMware ホスト・レポート	415
VMware 仮想 センター・レポート	416

ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート	417
ツールバー・オプションのレポート	419
英語以外のロケールでのレポート - 注意事項および制限事項	423
第10章∶影響分析マネージャ	425
影響分析マネージャの概要	425
影響 ルールの定義方法 - ワークフロー	425
影響分析マネージャのユーザ・インタフェース	428
[詳細]ダイアログ・ボックス	428
[影響分析マネージャ]ページ	429
[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス	436
[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス	437
新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード	438
[影響ルールのー般属性]ページ	439
[影響ルールベースクエリ]ページ	440
[影響 ルール グループ] ページ	441
第 11章 : Cl タイプ・マネージャ	442
Cl タイプの概 要	442
Cl タイプ属性	443
CI タイプの関係	444
廃止 Cl タイプ	
システム・タイプ・マネージャ	445
Cl タイプの作成方法	446
関係タイプの作成方法	447
計算された関係タイプの作成方法	448
リストと列挙定義の作成方法	449
列挙定義の作成方法 – ワークフロー	450
CI タイプと関係の説明を表示	451
Cl タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース	452
[属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス	452
[関係の追加 / 削除]ダイアログ・ボックス	455
CI タイプ・マネージャ・ページ	456

構 成 アイテム・タイプ / 関 係 / 計 算 関 係 の作 成	460
[詳細]ページ	461
[属性]ページ	463
[修飾子]ページ	467
[トリプレット]ページ	469
[アイコン]ページ	470
[アタッチメニュー]ページ	471
[標準設定ラベル]ページ	474
[一 致 ルール]ページ	475
[リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ボックス	477
[選択した CIT を Excel ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス	479
[選択した CITを PDF ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス	481
[システム タイプ マネージャ]ダイアログ・ボックス	482
第 12章 : エンリッチメント・マネージャ	484
エンリッチメント・マネージャー概要	484
エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ	486
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加 する方法	490
新規テナント関連付けルールの定義方法	491
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース	492
[エンリッチメント マネージャ]ページ	493
新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメン ルールとして保存ウィザード	ト・ 500
[ルールー 般 属 性] ページ	501
[ルール ベース クエリ] ページ	503
新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント 付けルールとして保存ウィザード	関連 504
[ルールー 般 属 性] ページ	505
[ルール ベース クエリ] ページ	507
[クエリノード / 関係の定義]ダイアログ・ボックス	508
[クエリノード定義]-[詳細な属性]ダイアログ・ボックス	510
	511
し所有者テナントを更新」ダイアロク・ホックス	

HP Universal CMDB データ・モデル	514
第 13章: UCMDB データ・モデルの紹介	515
ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要	515
第 14章 : UML ツールへの UCMDB データ・モデルのエクスポート	516
UML へのエクスポート・ツール - 概 要	516
クラス・モデルのエクスポート方法	516
クラス・モデルの選択部分のXMLを変換する方法	
UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース	518
UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード	518
有効なリンクの選択	
選択した項目のエクスポート	519
ツール・プラグイン入力	520
参照情報	
第 15章 : テーブルでの作 業	523
カラムのインタフェース	
[カラムの選択]ダイアログ・ボックス	523
[カラムコンテンツの並 ベ替え]ダイアログ・ボックス	524
第16章:正規表現の例	
正規表現の例	526
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。	

HP Universal CMDB の概要

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

本章の内容

トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要	15
UCMDB マネージャでの TQL クエリの作 成	16
TQL クエリ結果の表示	
複合関係	
結合関係	
クエリ・ノード条件	
複合タイプ条件	21
サブグラフ定 義	
更新値ポリシーを使用修飾子	22
TQL クエリの定 義 方 法	23
TQL クエリへのクエリ・ノード と関係の追加方法	24
複合関係の定義方法 - シナリオ	25
結合関係の定義方法 - シナリオ	
属性条件の定義方法 - シナリオ	29
複合タイプの条件の定義方法 - シナリオ	
サブグラフの定 義を作 成 する方 法 - シナリオ	
ショートカット・メニュー・オプション	32
属性演算子の定義	
TQL ログ	
トポロジ・クエリ言 語 のユーザ・インタフェース	42
トラブルシューティングおよび制限事項	91

トポロジ・クエリ言語(TQL)の概要

トポロジ・クエリ言語(TQL)は、IT インフラストラクチャ・データを検出,編成,管理するための言語およびツールです。 CMDB からビジネス・サービス・データを取得する TQL クエリを作成できます。 TQL クエリでは、データの監視と管理を容易にするビジュアル表示でデータを表示できます。

本項の内容

- 「トポロジ・クエリ言語(TQL)」(16ページ)
- •「TQL の役割」(16ページ)

トポロジ・クエリ言語(TQL)

TQLでは、次の2つの重要な機能を追加することによって標準のSQL言語を拡張します。

- TQLを使うことで、実際の相互依存関係を表す構成アイテム(CI)間の概念上の関係を描くことができます。定義済みの演算子を使って、CI間に存在するさまざまな相互接続(関係)を確立し、その結果、インフラストラクチャの設計とパフォーマンスをより正確に表現できます。この表現は、複雑なインフラストラクチャのディスカバリ、配置、クエリ、および管理の基礎となりモデルとなります。
- TQL には、リソースおよびそれらの相互接続を表す視覚的な記号や構文で構成されたグラフィカルな側面があります。このIT インフラストラクチャの視覚化により、IT ビジネス・オペレーションの理解、監視、および管理が簡易化されます。

TQL の役割

TQL には, 次に示すようにいくつかの役割があります。

- ビジネス・サービスとしてともに機能する IT アセット間の相互接続を定義,説明するビジネス・サービス・モデルを構築します。ビジネス・サービス・モデルにより,増え続けるインフラストラクチャ・リソースの数と複雑さにも関わらず、ビジネス・サービスのディスカバリと識別が容易になります。ビジネス・サービスを構成するリソースが検出されると、ビジネス・サービス・モデルは、CMDB で整理や管理を行う方法を構成します。
- 常に CMDB を検索し, 管理されたリソースの状態で発生する変更を検出します。このような変更が検出された場合には, 関連するサブシステムに通知されて更新されます。
- CMDB からのビジネス・サービス・データを取得するクエリを作成し、データ監視と管理を容易にするビジュアル表示でデータを表示します。

UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成

次のマネージャでは, CMDB から特定のデータを取得する TQL クエリを作成し, そのデータを表示できます。

- ・影響分析マネージャ:影響ルールでインフラストラクチャの変更がシステムにどのような影響を与えるかをシミュレートし、問題の真の原因とそれによるビジネスへの影響を究明できます。ルールの作成時にベースのTQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、「影響分析マネージャ」(425ページ)を参照してください。
- エンリッチメント・マネージャ:エンリッチメント・ルールを使用すると、CMDBを拡大し、CMDBから CIインスタンスを削除し、または CMDB にすでに存在している CIの属性を更新できます。ルールの作成時にベースの TQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、「エンリッチメント・マネージャ」(484ページ)を参照してください。
- モデリング・スタジオ: TQL クエリ・エディタを使用して新しい TQL クエリを作成 するか, パターン・

ビュー・エディタを使用して新規ビュー, テンプレート, パースペクティブの定義時に新しいクエリを作成できます。また, パターン・ビュー・エディタでは各ビューのトポロジ・レポート設定も定義できます。 詳細については, 「モデリング・スタジオ」(237ページ)を参照してください。

TQLクエリ結果の表示

結果データを、IT ユニバース・マネージャでビジュアル表示します。結果として得られるトポロジ・マップの構造は、クエリにより定義されます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。ツールバーで[プレビュー] (() ボタンをクリックして、クエリの結果を表示し、IT ユニバース・マネージャと同じプレビュー表示を開くことができます。IT ユニバース・マネージャの詳細については、「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)を参照してください。

TQL クエリ・タイプと優先度

TQL クエリを定義する場合, [クエリ定義 プロパティ]ダイアログ・ボックスの[タイプ] フィールドで TQL クエリのタイプを定義します。利用可能なクエリ・タイプは次のとおりです。

- ビュー:パターン・ビューのベースとして使用される TQL クエリ。
- 統合: インテグレーションに使用される TQL クエリ。
- ディスカバリ: DFM パターンのベースとして使用される TQL クエリ。
- テンプレート: テンプレートのベースとして使用される TQL クエリ。
- パースペクティブ: パースペクティブのベースとして使用される TQL クエリ。
- 影響分析:影響ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、影響分析マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。
- エンリッチメント:エンリッチメント・ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、エンリッチメント・マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。

依存関係(表示,テンプレートなど)がある場合,既存のTQL クエリのタイプは変更できません。

インテグレーションを通じてインポートされたクエリにタイプが割り当てられていない場合, そのクエリは 非表示とみなされ, モデリング・スタジオのクエリ・リストには表示されません。 クエリ・リストで非表示 のクエリを表示するには, [ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックスの[全般]にある, 非表示クエリの 設定を変更します。詳細については, 「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照 してください。

TQL クエリの優先度も設定できます。この優先度によって、クエリが更新された情報を取り込んで自動的に再実行される頻度が決まります。利用可能な優先度は次のとおりです。

- 低: TQL クエリは 2 分ごとに更新されます。
- 中間: TQL クエリは 30 秒ごとに更新されます。
- 高: TQL クエリは 10 秒ごとに更新されます。

- **至急**: TQL クエリは常時更新されます。
- 非アクティブ: TQL クエリは非アクティブになります。

注:上記の更新時間は平均値です。

TQL クエリの優先度を[**非アクティブ**]に設定するとクエリは非アクティブになり、自動的には実行されませんが、手動でビューを作成する場合には使用できます。

ベース・クエリ

[クエリ定義のプロパティ]ダイアログ・ボックスで、TQL クエリのベース・クエリを選択できます。この場合、 ベース・クエリはまず IT ユニバース全体に適用され、結果を生成します。その後、新しいクエリはユニ バースのサブセットに適用され、結果の精度をさらに高めます。ベース・クエリを選択すると、クエリ結果 のフィルタリングの精度を高め、一部の事例では結果を迅速に生成できるようになります。

選択するベース・クエリは、アクティブ化する新しいクエリに対し、アクティブかつ持続的でなければなり ません。ベース・クエリが非アクティブで持続的である場合、新しいクエリには[**非アクティブ**]のプライオリ ティが自動的に割り当てられます。

TQL クエリ・スレッド・プール

各 TQL クエリはスレッド・プールからの個別スレッドで計算されます。計算中の TQL クエリが多くある場合は、 プール・サイズを拡大してパフォーマンスを改善することができます。 [インフラストラクチャ設定マネージャ]で[**TQL スレッド プール サイズ**]設定を編集します。 プールのサイズは1から64の間の整数にできます。 値を入力しないと、 プールのサイズは自動的にユーザあたりの CPU コア数に設定されます(数値が4より小さい場合は最小4スレッドに設定されます)。

複合関係

複合関係はトポロジ・グラフ内のパスを表します。 複合関係を使うと、ソース CI とターゲット CI の間の パスに許可されているステップを定義できます。

各行は、トポロジ・マップ内でソース CI からターゲット CI に至るパスの許可されている手順の1つを表します。

ソース	関係	ターゲッ
🖾 lpSubnet	Membership	Node
Node	Containment	III IpAddress

複合定義の例については、「複合関係の定義方法 - シナリオ」(25ページ)を参照してください。複合関係の定義の詳細については、「「複合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(45ページ)を参照してください。

結合関係

結合関係とは2つのCI間の関係を表す論理的接続です(結合関係は, TQL クエリ結果を含むト ポロジ・マップにのみ表示されます)。CMDBには存在しません。結合関係を作成するには, 値を比 較に使用する各クエリ・ノードの属性を定義します。 TQL 結果により、属性値が結合定義に定義されている条件を満たしている CI のすべてが取得されます。

たとえば, 作成者属性値が等しい IP アドレス CI に接続されているすべてのノード CI をリンクする結合定義を作成できます(次の例を参照してください)。

Node	演算子	IpAddress
Created By	等価	Created By

各結合定義は、結合関係に定義されている条件の1つを表しています。

注:複数の条件を定義できます。

結合定義の例については、「結合関係の定義方法 - シナリオ」(28ページ)を参照してください。結 合関係を定義する方法の詳細については、「[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(48ペー ジ)を参照してください。

クエリ・ノード条件

[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスで TQL クエリのクエリ・ノードと関係 に条件を追加 できます。この条件は、クエリで定義した条件に一致する CIと関係のみを取得することで、クエリ結果をフィ ルタリングします。 定義可能な条件にはいくつかのタイプがあります。

- **属性**:Cl プロパティ値に基づく条件。
- カーディナリティ: 関連するクエリ・ノードの数に基づく条件。
- 修飾子: Cl タイプ修飾子に基づく条件。
- 要素タイプ: CI サブタイプに基づく条件。詳細については、下記を参照してください。
- 識別情報: CI 要素 ID に基づく条件。

それぞれは、ダイアログ・ボックスで別々のタブを持ちます。詳細については、「[クエリ・ノード / 関係の プロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

属性名 **CI タイプ**を使用して属性条件を定義すると、クエリを保存するときに、条件は複合タイプ条件に変換されます。この条件は[属性]タブから除去され、[要素タイプ]タブに表示されます。エンリッチメントと影響タイプのクエリの場合は、この条件はエンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの[属性]タブから消えるので、モデリング・スタジオでクエリを開いて、[要素タイプ]タブでそれを編集する必要があります。

注: 選択したデータでサポートされていない属性条件を定義すると、その条件は TQL クエリ計算時に無視されます。

要素タイプ条件

要素タイプ条件を使用すると、クエリ結果に表示するクエリ・ノードのサブタイプを指定できるようになります。この条件を定義するオプションには、次の2つがあります。

- Simple タイプ条件 simple タイプ条件を使用すると、クエリ結果の選択したクエリ・ノードのすべてのサブタイプを含めるか、そのすべてを除外できます。
- complex タイプ条件 complex タイプ条件を使用すると、クエリ結果に含めるクエリ・ノードの特定のサブタイプを選択できます。詳細については、「複合タイプ条件」(21ページ)を参照してください。

要素レイアウト

[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブのTQL クエリで,各クエリ・ノード または関係のクエリ結果に含める属性を指定できます。[レイアウトの属性を選択]ラジオ・ボタンを選 択し,[Clタイプ]表示枠でCIT または関係を選択します。属性条件に[特定の属性]を選択した 場合,[特定の属性]表示枠に移動する属性のみが,その要素のクエリ結果に含められます。属性 条件に[すべて]を選択した場合,利用可能なすべての属性は,その要素のクエリ結果に含められ ます。この場合,[特定の属性を除外する]を選択し,選択した属性を[除外属性]表示枠に移動 できます。

修飾子別に属性を選択するオプションもあります。[Attributes with the following qualifiers]フィールドで修飾子を選択した場合,[特定の属性]表示枠で選択した属性に加えて,選択した修飾子を持つすべての属性が,その要素のクエリ結果に含められます。この場合も,属性を[除外属性] 表示枠に移動することで,選択した属性を除外できます。

デフォルトでは、CIT に選択する属性設定は、クエリ結果で自動的にその子孫 CIT に適用されます が、ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブにはこの設定は表示されません。たとえば、特定の属 性を[Database]CIT に含めるよう選択した場合、同じ属性が[Oracle]CIT([Database]の 子 CIT)に含められますが、[CIT]表示枠で[Oracle]を選択した場合、表示される属性条件は[な し]になります(デフォルトの条件)。

こうして子 CIT 自身にも属性条件を選択できるようになります。親 CIT の属性条件に[すべて]が選択されている場合,子 CIT の[特定の属性]オプションは無効になります。親 CIT の属性条件に[特定の属性]が選択されている場合,子 CIT には[すべて]または[特定の属性]を選択できます。[特定の属性]を選択した場合,属性を[特定の属性]表示枠に移動することで、さらに多くの属性を追加できます。これらは、親 CIT の設定から継承された属性とともに、クエリ結果に含められます。同様に、属性を[除外属性]表示枠に移動することで、子 CIT について除外する属性を、親 CIT の設定から選択できます。属性を選択するための修飾子が親 CIT にある場合、これらも子 CIT に継承されます。子 CIT の属性選択をフィルタリングするため、さらに修飾子を選択する場合、選択した修飾子の結合セットは、子 CIT の属性選択をフィルタリングするために使用されます。

[クエリノード / 関係タイプの変更]ダイアログ・ボックスを使用して、クエリ・ノードまたは関係のタイプを 変更する場合には、その要素の属性選択は失われます。

選択したクエリ・ノードに対して無効な属性選択を伴うクエリを含むパッケージをインポートした場合, またはJMX コンソールを使用して無効な属性選択を行った場合, クエリは正常に保存され, ログに 警告が表示されます。

注: レイアウト選択は、ユーザ・インターフェイスのクエリ結果には表示されません。選択した属性のクエリ結果を表示するには、JMX コンソールにアクセスして、TQL サービスを選択し、calculateTqlAdHocメソッドを起動します。

[要素レイアウト]タブの詳細については、「[要素レイアウト]タブ」(81ページ)を参照してください。

複合タイプ条件

複合タイプ条件を使用すると、クエリ結果に含めるクエリ・ノードの特定のサブタイプを選択できます。CIタイプ・ツリーは、選択したクエリ・ノードのすべてのサブタイプとともに表示されます。デフォルトでは、表示されたすべてのサブタイプのインスタンスは、クエリ結果に含まれます。各サブタイプについて、クエリ結果から該当するサブタイプのインスタンスを除外する[クエリから<サブタイプ>を除外する]を 選択できます。[この条件を再帰的にすべてのサブタイプに適用]チェックボックスをオンにすると、サブタ イプのインスタンスと、そのすべての子孫が結果から除外されます。

ツリーからサブタイプを選択し、[この条件を再帰的にすべてのサブタイプに適用]チェック・ボックスをオフにしたまま、[クエリに<サブタイプ>を含める]をオンにした場合、指定されたサブタイプのインスタンスのみが含められ、その子孫のインスタンスは含まれません。

[含める]/[除外する]オプションについては、[条件]表示枠でさらに選択する箇所があります。[**Cl タイプ別**]を選択した場合,指定したサブタイプのすべてのインスタンスが結果に含められ、または結果から除外されます。[**修飾子別**]を選択し、ポップアップ・リストから修飾子を選択した場合,選択した修飾子を持つ選択したサブタイプのインスタンスのみが、クエリ結果に含められ、またはクエリ結果から除外されます。

たとえば, CIT_BとCIT_C は, CIT_A のサブタイプで, CIT_AとCIT_B は修飾子 Q1を持ちます。可能なオプション構成の一部を次に示します。

- CIT_A とそのすべての子孫について,除外するを選択する。CIT は含まれない。
- CIT_A (その子孫を含まない)について、除外するを選択する。CIT_BとCIT_Cのみが含まれる。
- 修飾子 Q1 を持つ CIT_A とそのすべての子孫について、除外するを選択する。CIT_C のみが含まれる。

注:

- 除外オプションをツリーのルート(つまりオリジナルのクエリ・ノードのCIタイプ)に適用することもできます。[この条件を再帰的にすべてのサブタイプに適用]チェック・ボックスが選択されている場合,結果にCIは含まれません。チェック・ボックスがオフになっている場合,ルートCIタイプのインスタンスは除外されますが、子孫のインスタンスは含められます。
- 要素タイプ条件機能は、モデリング・スタジオでのみ利用できます。モデリング・スタジオで複合タイプ条件を定義し、エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで TQL クエリを修正した場合、条件は上書きされ、有効ではなくなります。複雑な条件が、単純条件と同じものである場合には、エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの[修飾子]タブで TQL クエリを編集できます。
- クエリ・ノードの修飾子条件を、以前のUCMDBバージョンの機能を使用するよう定義する場合には、[サブタイプをカスタマイズ]を選択し、[CIタイプ]ツリーでルート・クエリ・ノードを選択します。そして[含める]オプションを選択し、[修飾子別]を選択し、必要な修飾子を選択します。同様に、以前のUCMDBバージョンまたはエンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで定義した修飾子条件を持つTQLクエリにアクセスする場合、[含める]および[修飾子別]オプションを使用し、条件は[要素タイプ]タブの[サブタイプをカスタマイ

ズ]セクションに表示されます。

(CIタイプ属性を使用して)複合タイプ条件と同じ結果を生成する属性条件を定義することも可能なことがあります。しかし、複合タイプ条件のほうがパフォーマンスは優れています。これらの場合、UCMDBは、複合タイプ条件を、同等のシンプルな条件に置き換えることで、クエリ計算を自動的に最適化します。クエリがアクティブな場合、次回そのクエリを開いたときに、TQL 定義に複合条件が表示されます。

複合タイプ条件の定義の詳細については、「複合タイプの条件の定義方法 - シナリオ」(30ページ) を参照してください。

サブグラフ定 義

サブグラフの定義を使うと、特定の CI に関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。 DFM ジョブにより、 TQL クエリとサブグラフの定義の両方で結果が検索されます。 クエリは、 サブグ ラフの定義に一致する、定義された深さのすべての関連 CI を再帰的に取得します。 サブグラフの定 義の詳細については、「 [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックス」(89ページ)を参照してください。

グラフでは、特定のクエリ・ノードに接続された関係を定義できます。たとえば、いずれかのクエリ・ノードがノード・タイプである場合は、Windows、ルータ、および IP アドレスに対して異なる関係を指定できます。クエリ・ノードの属性条件も定義できます。詳細については、「[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス」(87ページ)を参照してください。

DFM ジョブにより、サブグラフに定義された条件に一致するデータが取得されます。

サブグラフの定義の例については、「サブグラフの定義を作成する方法 - シナリオ」(30ページ)を参照 してください。

更新値ポリシーを使用修飾子

この修飾子は, 値のわずかな差異を許容する属性をマークするために使用します。たとえば, わずかなディスク・サイズの変更(8.00008 GB から8.00009 GB への変更)はレポートする必要がない場合があります。

この修飾子が付けられている属性を更新する場合には、HP Universal CMDBが新しい値を古い値 とチェックします。このチェックはレコード更新の一部としてサーバ上で実行され、2つの値の差が許容 差異よりも小さい場合は、更新は実行されません(操作は偽の更新とみなされます)。

修飾子を選択すると、[感度以下の値の偏り]のパラメータが適用されます。ボックス内の値を入力し、[割合]または[絶対値]をドロップダウン・リストから選択します。

[割合]を選択した場合, [感度以下の値の偏り]が0から100の間でなければなりません。この値よりも小さい割合の偏りは偽のアップデートと見なされます。

[絶対値]を選択した場合,次のルールが適用されます。

- 数値属性の場合, [感度以下の値の偏り]は属性と同じタイプでなければならない
- データ属性の場合, [感度以下の値の偏り]は正数でありミリ秒単位で偏りを示すものでなけれ ばならない

この値よりも小さい割合の偏りは偽のアップデートと見なされます。

標準設定では、[更新値ポリシーを使用]は次の数値属性または日付属性についてのみ有効です。

- CIT :Node
 - MemorySize
 - SwapMemorySize

これらの属性は比較可能修飾子および静的修飾子も含みます。

- CIT :CPU
 - CpuClockSpeed
- CIT : Filesystem
 - Disk_size

修飾子を無効にする:

インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします([マネージャ]>[管理]>[インフラストラクチャ設定 マネージャ])。[ボラティリティを許可]オプションに移動します。値を False に変更します。

TQL クエリの定義方法

このタスクでは、モデリング・スタジオで TQL クエリを作成する方法について説明します。

注: TQL クエリは,影響ルール,エンリッチメント・ルール,ビュー,テンプレート,パースペクティブの作成時にも作成できます。

本項の内容

- •「TQL クエリの作 成」(23ページ)
- 「クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(23ページ)
- 「クエリ・プロパティの設定」(24ページ)
- 1. TQL クエリの作成

モデリング・スタジオで[新規作成]>[クエリ]を選択して、TQL クエリ・エディタを開きます。詳細については、「TQL クエリ・エディタ」(322ページ)を参照してください。

2. クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリ・ノードは CI タイプ・マネージャで定義される CIT を表します。関係 はノード間の接続を表します。関係 は、クエリ内の TQL クエリ・ノードのペアごとに、一度に1つずつ定義されます。詳細については、「TQL クエリへのクエ

リ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。

注: クエリ・ノードからそのノード自身への自己関係も定義できます。

3. クエリ・プロパティの設定

[**クエリ定義プロパティ**] 「オタンをクリックして[クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。 クエリ・タイプ,スコープ,優先度,およびその他のプロパティを設定します。 詳細については, 「[クエリ/ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス」(309ページ) を参照してください。

TQL クエリ定義の例を次に示します。

関係の方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。次の例は、クライアントとサーバの 関係によって相互にリンクされた2つのノード、1つのIP サービス・エンドポイント、1つのクラ イアント・ポートを示しています。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要がありま す。



注: IQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、「トラフルシューティン グおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。

TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法

本項では, クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加する方法について説明します。これには影響分 析マネージャ, エンリッチメント・マネージャ, モデリング・スタジオが関係します。

注: TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。

クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順を実行します。

1. 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで左側の表示枠のツリーから必要なクエリ を選択し、「新規作成」 新なンをクリックして新しく作成します。

モデリング・スタジオの左側の表示枠で[リソース]タブを選択し、クエリを[リソースタイプ]として選択してツリーから必要なクエリを選択するか、[新規作成]>[クエリ]をクリックして新しいクエリを作成します。

2. 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで CI タイプ・セレクタに表示されているツリーから必要な TQL クエリ・ノードを1つ以上クリックして、編集表示枠にドラッグします。モデリング・スタジオの左側の表示枠で[CI タイプ]タブを選択し、必要な TQL クエリ・ノードをツリーから編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。

フェデレート CI のクエリも行うときは、 [クエリノード]を右 クリックして[統合 ポイントの設定]を選 択します。 [統合 ポイントの設定]ダイアログ・ボックスから[外部データで使用 する統合 ポイント] を選択します。 詳細については、 「[統合 ポイントの選択]ダイアログ・ボックス」(315ページ)を参 照してください。

- 3. 2つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次のいずれからの手順で行います。
 - CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要な TQL クエリ・ノードを選択し、 右クリックして[関係の追加]を選択します。[関係の追加]ダイアログ・ボックスが開きます。必 要な関係を選択してください。詳細については、「[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」 (51ページ)を参照してください。
 - [関係を作成] ・アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係のタイプを選択してください。詳細については、「[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス」(86ページ)を参照してください。
- 4. [OK]をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

複合関係の定義方法 - シナリオ

本項では、**IpSubnet** CI と**IpAddress** CI の間に複合関係を形成する,許容される手順の定義方法について説明します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

IpSubnet CI と IpAddress CI の間に複合関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1. タイプ・ビューの TQL クエリを作成し, 編集表示枠に次のクエリ・ノードをドラッグします。
 - IP Subnet
 - IP アドレス
- 2. [IP サブネット]と[IP アドレス]のクエリ・ノードを右クリックし, [複合関係の追加]を選択して[複

合関係の追加]ダイアログ・ボックスを開きます。

- 3. [追加] 「ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオ内のテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
 - [ソース]リストで, [IP サブネット]を選択します。
 - [ターゲット]リストで, [Node]を選択します。
 - [関係]リストで, [membership]を選択します。
 - 必要な関係の方向を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[OK]をクリックして変更内容を保存します。

- 4. [追加] 🛨 ボタンをクリックし,次の選択を行います。
 - [ソース]リストで, [ノード]を選択します。
 - [ターゲット]リストで, [IP アドレス]を選択します。
 - [関係]リストで, [Containment]を選択します。
 - 必要な関係の方向を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[OK]をクリックして変更内容を保存します。

次の例は、変更後の複合定義を示しています。

ソース	関係	ターゲッ
🖳 lpSubnet	Membership	Node
Node 📄	Containment	IpAddress

5. [OK]をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内のTQLクエリは、次のように表示されます。

∭ Virt u	ial - Compound
IpAddress	lpSubnet

- 6. TQL クエリに基づいてビューを作成し,保存します。
- 7. IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。[ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示]オプションを選択していない場合は,関係の実際の名前ではな

く, CI をリンクする関係の名前が Virtual-Compound として結果に表示されます。次の図を参照してください。



IT ユニバース・マネージャから[Virtual - Compound] 関係をダブルクリックしてリンク・マップを開くと IP Subnet CIとIP アドレス CI をリンクできる手順を構成する CIと関係が表示されます。



前述の例では、192.168.168.0(IP サブネット)CIは、labm1ccm15(ノード)CIを通じて 192.168.0.1(IP アドレス)CI にリンクされています。

[ソースおよびターゲット CI の間にフル パスを表示]オプションを選択した場合, IT ユニバース・マネージャの結果には, CI をリンクする関係の実際の名前と, ソース CI とターゲット CI の間のフル・パスが表示されます。次の図を参照してください。



結合関係の定義方法 - シナリオ

本項では、作成者属性値が等しいソード CIとIP アドレス CI をリンクする結合関係を定義する方法について説明します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

作成者属性値が等しい IP アドレス CI とノード CI をすべてリンクする結合関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1. TQL クエリを作成し,次のクエリ・ノードを CI タイプ・セレクタから編集表示枠にドラッグします。
 - Node
 - IP アドレス
- 2. [ノード]および[IP アドレス]クエリ・ノードを選択し、右クリックして[結合関係の追加]ダイアロ グ・ボックスを開きます。
- 3. [追加] 🛃 ボタンをクリックし,次の選択を行います。
 - [Node 属性]ボックスで[作成者]を選択します。
 - [演算子]ボックスで, [等しい]を選択します。
 - [IpAddress 属性]ボックスで[作成者]を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャの[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス で、これらの選択を行います。

[定義の結合]領域は、次のように表示されます。

Node	演算子	IpAddress
Created By	等価	Created By

4. [OK]をクリックして,変更内容を保存します。

編集表示枠内のTQLクエリは、次のように表示されます。



属性条件の定義方法 - シナリオ

このタスクでは、先週に作成または更新されたノード CIを選択するための属性条件を定義する方法について説明します。

- 1. モデリング・スタジオ, エンリッチメント・マネージャ, または影響分析マネージャで, ノード CI を含む TQL クエリ, ビュー, エンリッチメント・ルール, または影響分析 ルールを開きます。
- 2. ノード CI を右 クリックし, [**クエリノード のプロパティ**]を選択します。
- 3. [属性]タブの[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスで, [追加] 🛃 ボタンをクリックして, 条件を追加します。
- 4. [属性名]に、ドロップダウン・リストから[作成日時]を選択します。
- 5. [演算子]に、ドロップダウン・リストから[途中で変更[時間]]を選択します。
- 6. [値]に[7]を入力します。
- 7. [OK]をクリックして, 属性条件を保存します。

複合タイプの条件の定義方法 - シナリオ

本 セクションでは[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスで複合タイプの条件を定義する方法について説明します。この例では, TQL クエリでノード・クエリ・ノードにサブ・タイプを追加します。

複合タイプの条件の定義

- 1. TQL クエリを作成し, [ノード]タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- 2. クエリ・ノードを右 クリックし, [クエリノード のプロパティ]を選択します。[クエリノード のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3. [要素タイプ]タブから[サブタイプをカスタマイズ]を選択します。
- CI タイプの表示枠から、[Computer]を選択し、[条件]表示枠から[クエリから<コンピュータ>を除外する]を選択します。[この条件を<コンピュータ>のすべてのサブタイプに再帰的に適用します]チェックボックスを選択します。クエリ結果からコンピュータ・タイプのすべての CI とその子孫が除外されます。
- 5. CI タイプの表示枠から、[Unix]を選択し、[条件]表示枠から[**クエリに<Unix>を含める**]を選択します。 クエリ結果にすべての Unix CI が含まれます。
- CI タイプの表示枠から、[IBM Frame]を選択し、[条件]表示枠から[クエリに< IBM Frame> を含める]を選択します。続いて[修飾子別]から[CONTAINER]修飾子を選択します。クエリ 結果にすべての IBM Frame CIs とコンテナ修飾子が含まれます。
- CI タイプの表示枠から、[Firewall]を選択し、[条件]表示枠から[クエリから<ファイヤーウォー ル>を除外する]を選択します。[修飾子別]から[HIDDEN_CLASS]と[MAJOR_APP]修飾 子を選択します。クエリ結果からHIDDEN_CLASSとMAJOR_APP 修飾子のすべてのファイ ヤーウォールCI が除外されます。
- 8. [OK]をクリックして条件を保存し、ダイアログ・ボックスを閉じます。

サブグラフの定義を作成する方法 - シナリオ

本項では、サブグラフの定義を作成する方法について説明します。この例では、TQL クエリの結果として、Containment 関係によりビジネス・サービス CI と接続される、深さ3までのすべての CI が取得 されます。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

このサンプルのサブグラフの定義を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. TQL クエリを作成し, [ビジネス サービス]タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- 2. [ビジネス サービス]クエリ・ノードを右 クリックし, [サブグラフの定義]を選択して[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスを開きます。

- 3. [追加] T ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオ内のテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
 - [ソース]ドロップダウン・リストで, [管理対象オブジェクト]を選択します。
 - [ターゲット]ドロップダウン・リストで, [管理対象オブジェクト]を選択します。
 - [関係]ドロップダウン・リストで, [Containment]を選択します。
 - 関係の方向を左から右に設定します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[OK]をクリックして変更内容を保存します。

[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスが、次のように表示されます。

ソース	関係	ターゲット
iT Universe	😭 Container link	🏐 IT Universe
iT Universe	😭 Contains	iT Universe
🔘 IT Universe	😭 Contained	🔘 IT Universe

- 4. [深さ]の設定を[3]に設定します。
- 5. [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスで[**OK**]をクリックします。

IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。



結果として、ビジネス・サービス CI aaaと、Containment 関係によってそれに連続してリンクされる、レベル3までのすべての CI が表示されます。

ショートカット・メニュー・オプション

本項では、TQL クエリのショートカット・メニューのオプションのリストを紹介します。

UI要素	詳細
計算関係を追加	計算された関係を作成できます。
	 計算された関係を作成する方法の詳細については、「[トリ プレット]ページ」(469ページ)を参照してください。
	 影響モデリングの詳細については、「計算された関係の使用」(96ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
複合関係の追加	複合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義でき ます。
	詳細については、「[複合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(45ページ)を参照してください。
結合関係の追加	結合関係を定義できます。各クエリ・ノードの属性を定義して 作成します。クエリ・ノードの値は,連携するときの比較に使用 されます。
	詳細については、「[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(48ページ)を参照してください。
[関連クエリノードの追加]ウィ ザード	[関連クエリノードの追加]ウィザードが表示されます。 このウィ ザードでは TQL クエリを作成できます。詳細については、「[関 連クエリノードの追加]ウィザード」(53ページ)を参照してください。
関係の追加	定義済みリストから関係を選択することによって, クエリ・ノードの 関係を作成できます。 [関係の追加]ダイアログ・ボックスが表示 されます。
	詳細については、「[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(51 ページ)を参照してください。
	注: エンリッチメント・マネージャでは、エンリッチメント・モード で作業している場合、このオプションを設定するとエンリッチ メント関係がルールに追加されます。通常のクエリ・ノードと エンリッチメント・クエリ・ノードに適用されます。詳細につい ては、「エンリッチメント・マネージャ」(484ページ)を参照して ください。追加した関係は、追加済み ● インジケータで示 されます。
階層に追加	選択したクエリ・ノードを分離されたクエリ・ノードとして階層に追加します。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
モデル出力に追加	選択したクエリ・ノードをパターン・ベースのモデルの出力として指定します。
	注 :モデリング・スタジオ内のパターン・ベースのモデルにのみ 関連します。

UI要素	詳細
ノード要素タイプ/関係タイプを 変更	[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックスが表示されま す。 クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更でき ます。詳細については、「[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ ボックス」(266ページ)を参照してください。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
クリア	利用するには、エンリッチメント・マネージャのエンリッチメント・モー ドで作業しているときに、クエリ・ノードまたは関係を右クリックし ます。クエリ・モード/関係のエンリッチ・ルールの定義をクリアしま す。詳細については、「エンリッチメント・マネージャ」(484ページ) を参照してください。
	エンリッチメント・ルールを使用してクエリ・ノードまたは関係を更 新または削除した場合にのみ表示されます。
	注: エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
コピー/貼り付け	既存のTQL クエリ・ノードまたは関係を同じクエリ内で,または別のTQL クエリにコピーまたは貼り付けします。
	コピーした TQL クエリ・ノードまたは関係には,TQL 定義がすべ て含まれています。
	関係を⊐ピー,貼り付けするには,関係の接続先であるTQLク エリ・ノードも選択している必要があります。接続先のTQLクエ リ・ノードがない単独の関係は、コピーできません。
	複数のTQL クエリ・ノードまたは関係を選択することもできます。
	注:[コピー]と[貼り付け]オプションは、モデリング・スタジオ でのみ使用できます。[貼り付け]オプションは、[コピー]オプ ションを使用して既存のTQL クエリ・ノードまたは関係をコ ピーした後でのみ利用できます。
影響を受けるものを定義	TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、 システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義し ます。詳細については、「[影響を受けるクエリノード]ダイアロ グ・ボックス」(436ページ)を参照してください。
	注:影響分析マネージャにのみ関連します。

UI要素	詳細
削除	選択したクエリ・ノード,関係,または CI が削除されます。
	注: このオプションは、計算された関係には利用できません。
関係/クエリ・ノードを削除	利用するには、 エンリッチメント・モー ドで作業しているときに、ク エリ・ノードまたは関係を右クリックします。
	CI または関係を CMDB から削除 するように設計された特定の エンリッチメント・ルールが作成されます。通常のクエリ・ノードと関係にのみ適用されます。たとえばこのオプションを使って CMDB から不要なデータを削除できます。詳細については、「エンリッチ メント・マネージャ」(484ページ)を参照してください。
	削除したクエリ・ノードと関係には、削除済みを示す 🗖 インジ ケータで示されます。
	注: エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
関係を編集	[関係タイプを詳細化]ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックス」(85ページ)を参照してください。
	注:
	 モデリング・スタジオには関連しません。
	• このオプションは,選択した関係に子孫がある場合のみ 表示されます。
クエリ結果で要素を非表示	このオプションを選択すると、編集表示枠で選択した TQL クエ リ・ノードの右に[クエリ結果で非表示]のインジケータ®が表示 されます。
	TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示 されません。これは、特定の関係やTQL クエリ・ノードがクエリの 構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利 です。ビューを有効にするには、少なくとも1つのクエリ・ノードが 表示状態である必要があります。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。

UI要素	詳細
クエリ・ノ <i>ー</i> ド/関係のプロパティ	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスが表示され, 選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義でき ます。詳細については,「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイ アログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。
	注:このオプションは ,計算された関係には利用できません。
クエリ・ノード・タイプの再設定	[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックスが表示されま す。 クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更でき ます。 詳細については、「[クエリノード タイプの再設定]ダイアロ グ・ボックス」(85ページ)を参照してください。
	注: このオプションは, CI タイプの子 が存在する場合のみ表示されます。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
サブグラフを削除	サブグラフを定義している場合のみ表示されます。詳細については、「[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックス」(89ページ)を参照してください。
影響を受けるものをリセット	該当するクエリ・ノードに適用されている[影響を受けるものを定 義]の定義が削除されます。[影響を受けるものを定義]の定 義の詳細については、「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ ボックス」(436ページ)を参照してください。
	注:影響分析マネージャにのみ関連します。
内部関係をリセット	見やすいように、トポロジ・マップの自己参照の関係を四角形に 再描画します。
	注:四角形でない自己参照の関係にのみ関連します。
すべて選択	TQL クエリからクエリ・ノードと関係をすべて選択します。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
コンタクト・クエリ・ノード として設 定	選択したクエリ・ノードをパースペクティブのコンタクト・クエリ・ノー ドとして指定します。
	注 :モデリング・スタジオのパースペクティブにのみ関連しま す。
UI要素	詳細
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------
統合ポイントの設定	[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックスが表示され, TQL クエ リ・ノードの必要なデータ・ソースを選択できます。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
クエリ結果に要素を表示	このオプションを選択すると, TQL クエリ・ノード に属 するクエリ結 果 がトポロジ・マップに表 示されます。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
要素インスタンスの表示	[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスが表示され, テーブル内の 各クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。詳細については,「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」 (63ページ)を参照してください。
ノード のパラメータの表 示	[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスが表示され、クエ リ・ノードのパラメータ値を設定できます。 注:モデリング・スタジオ内のテンプレート・ベースのビューにの み関連します。
サブグラフ定義	[サブグラフ定義]ダイアログ・ボックスが表示され,特定のクエリ・ ノードに関連する追加のTQL クエリ・データを表すグラフを作成 できます。詳細については,「[サブグラフの定義]ダイアログ・ ボックス」(89ページ)を参照してください。
関係を更新/クエリ・ノードを更 新	エンリッチメント・ルールを使用して CMDB 内の CI 属性の値を 更新するか,現在値が設定されていない属性にデータを追加 します。[クエリノード定義 - 属性]ダイアログ・ボックスが開きま す。詳細については、「[クエリノード/関係の定義]ダイアログ・ ボックス」(508ページ)を参照してください。これは、通常のクエリ・ ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードの両方に適用されます。 更新されたクエリ・ノードには、更新されたことを示す プインジ ケータによって示されます。
	注: エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。

属性演算子の定義

本項では、 [サブグラフ条件]ダイアログ・ボックス、 [影響ルール定義]ダイアログ・ボックス、 または [クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスなど、 さまざまなダイアログ・ボックスで属性条件の定義 に使用する演算子のリストを紹介します。

演算子	詳細
途中で変更 [時間]	(日付の属性タイプを選択した場合にのみ表示)[値]ボックスで指定した期間 内に変更されたインスタンスのみが表示されます。
等しい	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しいかどうかがチェックされます。
等しい(大文 字小文字の	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しいかどうかがチェックされます。大文字 と小文字は区別されません。
£,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	注: Microsoft SQL Server を使用する場合は、このオプションは等しいと同 じです。
より大きい	属性値が[値]ボックスで指定した値より大きいかどうかがチェックされます。
	注: タイプが[文字列]の属性を比較する場合, 比較は, 文字列のASCII 値に基づきます。
以上	属性値が[値]ボックスで指定した値以上かどうかがチェックされます。
含まれる	この属性値が選択した値のいずれかに等しいインスタンスのみが表示されます。 たとえば、CIの[変更ステータス]が[計画]および[新規]に等しい場合,演算子 の含まれるを[演算子]リストから選択し,[計画]と[新規]の両方を[値]ボックス で選択します。
含まれる(大 文字小文字 の区別なし)	大文字小文字に関係なく、この属性値が選択した値のいずれかに等しいインス タンスのみが表示されます。
	注 : Microsoft SQL Server を使用する場合は、このオプションは 含まれると 同じです。
null	属性値がNULL かどうかがチェックされます。
より小さい	属性値が[値]ボックスで指定した値より小さいかどうかがチェックされます。
	注: タイプが[文字列]の属性を比較する場合, 比較は, 文字列のASCII 値に基づきます。
以下	属性値が[値]ボックスで指定した値以下かどうかがチェックされます。
類似('%'を 使用)	ワイルドカード(%)を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに 類似('%'を使用)を使用します。

演算子	詳細
類似(大文 字小文字の 区別なし) ('%' を使用)	ワイルドカード(%)を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに [類似(大文字小文字の区別なし)('%'を使用)]を使用します。文字列の大 文字と小文字は区別されません。
	注: Microsoft SQL Server を使用する場合は、このオプションは 類似 と同じ です。
等しくない	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しくないかどうかがチェックされます。
途中で変更 なし[時間]	(日付タイプの属性を選択したときに表示されます)[値]ボックスで指定した期間内に変更されなかったインスタンスのみが表示されます。

注:

- ・等しくない演算子については、クエリ結果には値が割り当てられていない CI インスタンスからのデータは含まれません。たとえば、システムには次の3つのノードが含まれます。Node1に値Aが割り当てられ、Node2には値Bが割り当てられ、Node3には値は割り当てられていません。この場合、Aと等しくない値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成すると、ノード3には値が割り当てられていないため、ノード2のみがクエリ結果に含まれることになります。
- HP Universal CMDBは、Microsoft SQL ServerとOracle Serverデータベースをサポートしています。Microsoft SQL Serverでは、標準設定で大文字と小文字が区別されません(Oracleデータベースでは大文字と小文字が区別されます)。その結果、Microsoft SQL Serverを使用する場合、等しい演算子を使うと、等しい(大文字小文字の区別なし)演算子と同じクエリ結果が取得されます。たとえば、市町村属性を選択し、等しい演算子を選択して「値」ボックスにNEW YORKと入力すると、大文字と小文字の区別は無視されて、クエリ結果には NEW YORK、New York および new york が含まれます。

TQL ログ

本項では, TQL パラメータのログ・ファイルの定義について説明します。

本項の内容

- 「パターン統計情報ログ」(39ページ)
- 「監査簡略ログ/監査詳細ログ(TQLの観点)」(40ページ)
- •「増分統計ログ」(41ページ)
- 「増分スプリッタ・ログ」(41ページ)
- •「増分詳細ログ」(42ページ)

パターン統計情報ログ

ログ名は cmdb.pattern.statistics.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	各 TQL クエリの一般的な計算データで、あらかじめ定義された間隔で更 新されます。
情報レベル	次の情報が各 TQL クエリに与えられます。
	● 名前
	• 平均計算時間, 最短計算時間, および最長計算時間
	 計算の数
	● 最終計算時間
	 結果のサイズ
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブル シュ ーティン グ	 特定のTQL クエリが更新されたかどうかを検証します。
	• TQL クエリの計算時間を評価します。
	• TQL クエリの結果のサイズを評価します。

監査簡略ログ/監査詳細ログ(TQLの観点)

ログ名 は, cmdb.audit.short.log ログです。

ログ・ファイル	説明
目的	CMDB の状態の変更, CI タイプの変更, および TQL クエリの結果で す。
	このログを使用すると, TQL クエリの結果を追跡できます。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	 TQL クエリの最終計算がログに記録されます。 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化していない場合は、 その事実が記録されます。 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化している場合は、CI および関係の結果が詳細ログに記録されます。CI および関係の数は 簡略ログに記録されます。

ログ・ファイル	説明
基本的なトラブル シュ ーテ ィング	 このログを使用して、TQL クエリ・サブシステムがどのような通知を発行したかを確認します。
	 それぞれの結果の最後にあるセクションをチェックします。本項には、 追加、削除、または更新された CI および関係が含まれています。
	 CIT の変化を追跡して、クエリ結果も変化したかどうかを調べます。こうすることで、CIT の変化をクエリ計算の結果に関連付けられます。

増分統計ログ

ログ名は cmdb.incremental.statistics.log です。

ログ・ファイル	説明
目的	各クエリの計算手順(完全または増分)を追跡します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	 日付,時刻,クエリ名,および増分統計の計算が実行されたかどうか (yes/no)が記録されます。
	 増分統計の計算が実行されなかった場合は、その理由、副計算の数(増 分計算にのみ該当)、および完全な計算時間が記録されます。
基本的なトラブ ルシューティング	計算プロセスを監視します。
	特定のクエリの計算に長い時間がかかる場合は、その計算が完全か増分かを チェックします。
	 完全な計算の場合は、完全な計算が必要かどうかをチェックします。
	• 増分の場合は、実行された副計算の数をチェックします。

増分スプリッタ・ログ

ログ名は cmdb.incremental.splitter.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	増分計算の最中に行われた増分スプリッタの結果を監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。

ログ・ファイル	詳細
デバッグ・レベル	増分スプリッタによって作成された各クエリ・グラフのクエリ・ノード番号の セットが記録されます。
基本的なトラブル シュ ー ティング	増分計算による TQL 結果が誤っている場合は、スプリッタの結果が正し いかどうかを検証します。

増分詳細ログ

ログ名は cmdb.incremental.detailed.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	増分計算プロセスを監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	それぞれの増分副計算エントリには、次の要素が含まれます。
	 トリガ・クエリ・ノード
	• トリガ・クエリ・ノードと分類された要素の数
	 副計算ステップが、モデルに追加された新しい要素によって行われたか、それとも既存の要素によって行われたか
	• 計算されたクエリ・グラフ
基本的なトラブル シューティング	増分計算の基本手順に従います。

トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース

本項の内容

[計算された関係の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス	. 43
[複合関係の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス	. 45
[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス	48
[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス	51
[関連クエリノードの追加] ウィザード	53
[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックス	60
CI インスタンス・ダイアログ・ボックス	63
条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス	67
要素レイアウトのプレビュー・ダイアログ・ボックス	67

[Cl インスタンスをフィルタ]ダイアログ・ボックス	68
[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス	69
[レイアウト設定]ダイアログ・ボックス	70
[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス	71
[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックス	85
[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス	86
[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス	87
[サブグラフの定 義]ダイアログ・ボックス	89
[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス	91

[計算された関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI タイプ・モデルから計算された関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, またはモデリング・スタジオの編集 表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし, [計算関係を追加]を選択します。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部 で クエリ・モー ドを選択して[計算関係を追加]オプションを表示します。
	データ・フロー管理(DFM)のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🌌 ボタン([入力クエリ]ボックスの 右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[計算関係を追加]を選択します。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作 成 方 法 」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	•「計算された関係の使用」(96ページ)
	• 「CI タイプの関 係 」(444ページ)

UI 要素	詳細
1	すべてを展開:ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
5	すべてを折りたたみ:ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
ッリー・ビュー 🖺	ツリー・ビュー :計算された関係ツリーの表示形式を選択できます。次のオ プションを利用できます。
	 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧クラス名別
<計算された関係ツ リー>	2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する計算された関係を選択します。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係の名前	計算された関係の名前です。

UI 要素	詳細
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理 する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	注: このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを 選択したときのみ表示されます。
	• 全関係を許可します:すべての関係がウエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可します:自己関係(自身へとつながる関係)のみ が、 クエリ結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。

[複合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、複合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, モデリング・スタジオで利 用するには, 次の手順を実行します。
	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,またはモデリング・スタジ オの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし, [複合関係の追加]を選 択します。
	注: エンリッチメント・マネージャを 使用している場合は、編集表示枠の 上部で クエリ・モー ドを選択して[複合関係の追加]オプションを表示し ます。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🧖 ボタン([入力クエリ] ボックスの右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[複合関係の追加]を選択します。
重要情報	複合定義は、必要な数だけ作成できます。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・ア ダプタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	•「複合関係」(18ページ)
	•「複合関係の定義方法 - シナリオ」(25ページ)

UI 要素	詳細
+	追加:複合定義が追加されます。
	DFM の影響分析マネージャ,エンリッチメント・マネージャ,および入力クエリ・エディ タでは、 [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオで は、テーブルに標準設定の複合定義が入力されます。 定義コンポーネントを編集 するには、 [編集]ボタンをクリックします。
×	削除:選択した複合定義が削除されます。
Ø	条件 :選択した結合定義を編集できます。
	DFM の影響分析マネージャ,エンリッチメント・マネージャ,および入力クエリ・エディ タでは, [トリプレットの編集]ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオで は, [複合関係条件の定義]ダイアログ・ボックスが開きます。
最大ス テ ップ 数	CMDB内の2つのCI間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最長 パスです。
	標準設定 :5
最小ステップ	CMDB内の2つのCI間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最短 パスです。
	標準設定:1
関係	2 つのクエリ・ノードを接続する関係です。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。

UI 要素	詳細
関係の名前	複合関係の名前です。
関係の制限	クエリ結果において同ークエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法 を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノー ド自身につながっている関係のことです。
	注: このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択した ときのみ表示されます。
	• 全関係を許可します:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可します:自己関係(自身へとつながる関係)のみが, クエリ 結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。
クエリ結 果 に 要 素 を表 示	[クエリ結果に要素を表示]を選択すると、結合関係または複合関係に関係す るクエリ結果が含まれます。標準設定では、このオブションが選択されています。こ のチェック・ボックスをクリアすると、編集表示枠の関係の名前の左に[クエリ結果で 非表示]® インジケータが表示され、その関係に属するクエリ結果はトポロジ・マッ プに表示されないことが示されます。 Node Virtual - Join
ソースおよび ターゲット CI の間にフル・ パスを表示	このオプションを選択すると、クエリ結果に、CIをリンクする関係の実際の名前と、 ソース CI とターゲット CI の間の完全パスが表示されます。
ソース	必須のソース・クエリ・ノードです。



[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは結合関係を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,またはモデリング・スタジオの編集 表示枠で必要なクエリを右クリックし, [結合関係の追加]を選択します。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部 で クエリ・モー ドを選択して[結合関係の追加]オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🌌 ボタン([入力クエリ]ボックスの 右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[結合関係の追加]を選択します。
重要情報	モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスにアクセスした場合,属性および演算子 はこのダイアログ・ボックス内で選択します。影響分析マネージャまたはエンリッチメン ト・マネージャからダイアログ・ボックスにアクセスした場合,属性および演算子は[関 係条件を結合]ダイアログ・ボックスで選択します。
	注:結合関係条件のタイプ・リストの属性は選択できません。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	●「結合関係」(18ページ)
	• 「結合関係の定義方法 - シナリオ」(28ページ)

UI要素	詳細
+	追加 :結合定義を定義できます。DFM の影響分析マネージャ,エンリッチ メント・マネージャ,および入力クエリ・エディタでは,[関係条件の結合]ダイ アログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは,選択した属性および 演算子がリストに追加されます。
×	削除:選択した結合定義が削除されます。
	編集: 結合定義を編集できます。[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス が開きます。
	注: このオプションはモデリング・スタジオには関連しません。
<クエリ・ノード 1 属 性>ボックス	<end_1> クエリ・ノードの属性を選択します。</end_1>
	注: このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<クエリ・ノード 2 属 性>ボックス	<end_2> クエリ・ノードの属性を選択します。</end_2>
	注: このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<選択したクエリ・ ノード 1>カラム	選択したクエリ・ノード。1 つ目の属性は <end_1> に適用されます。</end_1>
<選択したクエリ・ ノード 2>カラム	選択したクエリ・ノード。2つ目の属性は <end_2> に適用されます。</end_2>
And	すべての結合定義が、および演算子でリンクされます。
	注: モデリング・スタジオには関連しません。
演算子ボックス	演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については、「[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス」(69ページ)を参照してください。
	注: このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
[演算子]列	[関係条件を結合]ダイアログ・ボックスで選択した演算子。演算子の定 義の詳細については、「属性演算子の定義」(37ページ)を参照してください。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係の名前	結合関係の名前です。

UI要素	詳細
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理 する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	注 :このリストは,1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを 選択したときのみ表示されます。
	• 全関係を許可します:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	 自己関係のみを許可します:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。
クエリ結果に関係を 表示	[クエリ結果に関係を表示]を選択すると、結合関係または複合関係に 関係するクエリ結果が含まれます。標準設定では、このオプションが選択さ れています。このチェック・ボックスをクリアすると、編集表示枠で選択した関 係名の左に[クエリ結果で非表示]インジケータ D が表示されます。関係 に属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。
	Node Virtual - Join
	lpAddress

[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ内の2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,およびモデリング・スタジ オで利用するには,次のいずれかの手順を行います。
	 エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、[関係の追加]を選択します。
	• [関係を作成] 🗽 ボタンをクリックし, 必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。[通常の関係]を選択します。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部で クエリ・モー ドを選択して[関係の追加]オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🖉 ボタン([入力クエリ] ボックスの右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。
重要情報	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは,選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのク エリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの実装
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの実装 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの実装 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ) 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
重要情報 関連タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの実装 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ) 「テンプレートの作成方法」(252ページ) 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
重要情報 関連タスク 関連情報	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に有効な関係がない場合は表示されません。 「影響ルールの定義方法-ワークフロー」(425ページ) 「エンリッチメント・ルールを定義する方法-シナリオ」(486ページ) 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの実装 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ) 「テンプレートの作成方法」(252ページ) 「パースペクティブの作成方法」(254ページ) 「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)

UI要素	詳細
1	すべてを展開:関係ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
1	すべてを折りたたみ :関係ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
ツリー・ビュー 🔒	ツリー・ビュー : 関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。
	 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧クラス名別
<関係ツリー>	2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する関係を選択します。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係の名前	関係の名前です。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理 する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	注: このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを 選択したときのみ表示されます。
	• 全関係を許可します:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	 自己関係のみを許可します:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、 クエリ結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。

[関連クエリノードの追加]ウィザード

このウィザードでは TQL クエリを構築できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
	編集表示枠で, 必要なクエリ・ノードを右クリックし, [関連クエリノードの追加]を 選択します。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部 で クエリ・モー ドを選択して[関連クエリノードの追加]オプションを表示します。
	DFMのUniversal Discovery でアクセスするには:
	1. [ディスカバリ モジュール]表 示 枠 でジョブを選 択します。
	2. [プロパティ]タブで[トリガ クエリ]を選 択します。 [クエリ エディタを開く] ボタン
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[[関連クエリノードの追加]ウィザード]を 選択します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🌌 ボタン([入力クエリ]ボックスの 右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[[関連クエリノードの追加]ウィザード]を 選択します。
重要情報	TQL クエリが空の場合, 左側の表示枠のCI タイプ・セレクタまたは[CI タイプ] タブ に表示されているツリーから編集表示枠に必要な TQL クエリ・ノードをドラッグしま す。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	●「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

ウィザード・ マップ	[関連クエリノードの追加]ウィザードには次のページが含まれています。
	「[関連クエリノードのタイプ]ページ」>「[関係タイプ]ページ」>「[関連クエリノー ドのプロパティ]ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス]ページ」
関連情報	「トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要」(15ページ)

[関連クエリノードのタイプ]ページ

このウィザード・ページでは, クエリ・ノードを TQL クエリに追加 できます。

重要情報	TQL クエリが空の場合は、必要な TQL クエリ・ノードを[構成アイテムタイプ]表示 枠に表示されているツリーから編集表示枠にドラッグします。
	[関連クエリノードの追加]ウィザードの一般的な情報については,「[関連クエリ ノードの追加]ウィザード」(53ページ)を参照してください。
ウィザード・	「[関連クエリノードの追加]ウィザード」には次のページが含まれています。
マッフ	「[関連クエリノードのタイプ]ページ」>「[関係タイプ]ページ」>「[関連クエリノー ドのプロパティ]ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス]ページ」

UI要素	詳細
1	すべてを展開:ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
5	すべてを折りたたみ:ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
״יוש-ייניב- 🖺	ツリー・ビュー : CI タイプ・ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを 利用できます。
	 表示ラベル別
	 クラス名別
	• 旧 クラス名 別
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。

UI要素	詳細
<クエリ・ノード>必須	関係のカーディナリティを定義します。詳細については、「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。
	 各クエリ・ノードの [<クエリ・ノード>必須]チェック・ボックスを選択にすると、関係の他端にあるクエリ・ノードのインスタンスが最低1つクエリ結果に含まれます。このチェック・ボックスを選択すると、関係にカーディナリティ値1*が設定されます。
	 [<クエリ・ノード>必須]チェック・ボックスをクリアにすると、関係にカーディナリティ値 0* が設定されます。
<tql クエリ・ノード<br="">の階層ツリー></tql>	必要なクエリ・ノードを選択します。選択したクエリ・ノードは, [要素名] ボックスに表示されます。
	このリストには, 選択した(ソース)クエリ・ノードに対して有効な関係を持つ CI タイプのクエリ・ノードだけが表示されます。
	各クエリ・ノードの右に, CMDB に存在する, 該当する CI タイプの CI イン スタンスの数が表示されます。 インスタンスの数は, [関連クエリノードの追 加] ウィザードを閉じて再度開いた後にのみ更新されます。
	注: 階層 ツリーの最初のクエリ・ノードが標準で選択されています。
要素名	選択したクエリ・ノードの名前が含まれます(任意指定)。標準設定では、CIタイプは要素の名前として割り当てられます。
	TQL クエリ・ノードの名前は, 一意のラベルを付けることによって[要素名] ボックスで変更できます。これは, TQL クエリに, 同じ CI タイプのクエリ・ノー ドが複数ある場合に便利です。
インスタンスのある CIT のみ表示する	このチェック・ボックスを選択するとCMDBにインスタンスのある CIT のみが表示されます。このボックスを選択しない場合、 ツリーにはソース・クエリ・ノード への有効なリンクのある CIT がすべて含まれます。
	注: [インスタンスのある CIT のみ表示する]チェック・ボックスは,標準 設定で選択されています。

[関係タイプ]ページ

このウィザード・ページでは、関係をTQL クエリに追加できます。

ウィザー	「[関連クエリノードの追加]ウィザード」には次のページが含まれています。
ド・マップ	「[関連クエリノードのタイプ]ページ」>「 [関係タイプ]ページ」 >「[関連クエリノードの プロパティ]ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス]ページ」

UI 要素	詳細
ツリー・ビュー 🔒	ツリー・ビュー : 関係 ツリーの表 示 形 式を選 択します。 次 のオプションを利用 できま す。
	 表示ラベル別
	 クラス名別
	• 旧 クラス名 別
	注 :この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<tql クエリ<br="">関係の階層 ツリー></tql>	必要な関係を選択してください。
関係の方向	必要な関係の方向を選択します。方向は, クエリ・ノード間の依存関係を示しま す。
関係の名前	関係の名前です。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
関係タイプ	選択したクエリ・ノード間の接続を定義する有効な関係です。このボックスには、 関係階層ツリーで選択した関係が表示されます。
	注: この機能は、エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ 使用できます。
インスタンスの ある関係の み表示する	CMDB内にインスタンスが存在する関係だけが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーには選択したクエリ・ノード間の有効な関係がすべて含まれます。

[関連クエリノードのプロパティ]ページ

このウィザード・ページでは、属性条件をクエリ・ノードまたは関係に追加することで、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限する式を作成できます。

重要情報	各行は,指定する属性条件を表します。[And]/[Or]列と[大括弧]列を使用し て複数の条件をリンクします。これにより,より正確な論理ステートメントを構成して 必要な結果を生成できます。
	モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合,このウィザード・ページには3つの タブが表示されます。[属性],[要素タイプ],[要素レイアウト][属性]タブには、以 下に説明されている要素が含まれます。[要素タイプ]タブの詳細については、 「[要素タイプ]タブ」(79ページ)を参照してください。[要素レイアウト]タブの詳細に ついては、「[要素レイアウト]タブ」(81ページ)を参照してください。
ウィザード・ マップ	「[関連クエリノードの追加]ウィザード」には次のページが含まれています。 「[関連クエリノードのタイプ]ページ」>「[関係タイプ]ページ」>「 [関連クエリノー ドのプロパティ]ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス]ページ」

UI要素	詳細
+	追加: 属性条件行を追加します。属性名,演算子,値を選択して属性 条件を定義します。
×	削除:選択した属性条件を削除します。
	上へ:選択した行を上へ移動します。
$\overline{\mathbb{V}}$	下へ:選択した行を下へ移動します。
9	基準を表示:選択した条件の基準をポップアップ・ダイアログ・ボックスに表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR] フィールド内をクリックし、 [AND]または[OR]を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
大括弧 ()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成 するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[Cl インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
サブタイプを含める	選択した CI とその子 がトポロジ・マップに表示されます。
	注: このチェック・ボックスは,エンリッチメント・マネージャおよび影響分 析 マネージャでのみ使用できます。

UI要素	詳細
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられて いない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システムに 3 つのノードがあり。ノード 1 には値 A が割り当てられ, ノード 2 には値 B が割り当てられ, ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に 等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を 選択した場合, ノード 3 には値が割り当てられていないため, クエリの 結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、「属性演算子の定義」 (37ページ)を参照してください。
クエリ結果に要素を表示	[クエリ結果に要素を表示]を選択すると、選択した TQL クエリ・ノードが編 集表示枠に表示されます。このチェック・ボックスをクリアすると、編集表示 枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に[クエリ結果で非表示]のインジケー タロが表示されます。 IPAddress Containment Windows TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されませ ん。これは、特定の関係やTQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であ るが結果には必要でないという場合に便利です。たとえば、特定のIP アド レスを定義することによってWindowsをネットワークに接続しているが、クエ リ結果には IP アドレス要素だけを表示し、Windows 要素を表示したくない場合があります。
値	属性の値を入力または選択します。 [値]オプションは, 選択した属性タイ プに応じて変わります。

[関連クエリノードのインスタンス]ページ

このウィザード・ページでは, 選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべてのインスタンスが テーブルに表示されます。

重要情報	レポートに表示されるカラムは、選択した CI タイプによって異なります。
	標準設定では、CIタイプ・マネージャでアセット・データ、管理対象、履歴に残って いないもの、および比較可能属性修飾子を使って定義されている属性に対応す るカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、 「[属性]ページ」(463ページ)を参照してください。
	必要に応じて[非表示カラムを表示]ボタンをクリックし,可視として定義されている が静的として定義されていない属性を表示できます。静的属性の詳細について は,「[属性]ページ」(463ページ)を参照してください。
	注: [関連クエリノードのインスタンス]ページに含まれる要素の情報については、「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。
ウィザード・	「[関連クエリノードの追加]ウィザード」には次のページが含まれています。
マップ	「[関連クエリノードのタイプ]ページ」>「[関係タイプ]ページ」>「[関連クエリノー ドのプロパティ]ページ」> 「[関連クエリノードのインスタンス]ページ」

[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、サブグラフの定義、複合関係、または計算された関係の作成時に、 ソース CI からターゲット CI へのトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義できます。

利用方法	DFM のエンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージゃ, または DFM の入力クエ リ・エディタ内で:
	• [複合関係の追加]ダイアログ・ボックスで, [追加]ボタン [➡] をクリックします。 詳細については,「[複合関係の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス」(45ページ) を参照してください。
	• [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスで, [追加]
	CI タイプ・マネージャで, [CI タイプ]表示枠のドロップダウン・リストから[計算関係]
	を選択します。編集ペインで,[トリプレット]ページを選択し,[追加] ^全 をクリック します。
重要情報	トポロジ・グラフに含めるクエリ・ノードと関係を選択します。
	注: [サブグラフ定 義]ダイアログ・ボックスから[トリプレットの追 加]ダイアログ・ ボックスにアクセスする場合のみ, [条 件]フィールド が表 示されます。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	●「複合関係」(18ページ)
	• 「複合関係の定義方法 - シナリオ」(25ページ)
	• 「サブグラフ定 義」(22ページ)

UI要素	詳細
	 条件:選択したソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義できます。[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスから[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスを開くと、[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックスが開きます。[複合関係の追加]ダイアログ・ボックスから[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスを開くと、[複合関係条件の定義]ダイアログ・ボックスが開きます。 [条件]ボタンは、クエリ・ノードをソース・リストまたはターゲット・リストから選択した後に有効になります。 注: Cl タイプ・マネージャではソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義できません。
関係	2 つのクエリ・ノードを接続する有効な関係を選択します。有効な関係のリ ストは,両方のクエリ・ノードを定義した後でのみ表示されます。
関係の方向	必要な方向を選択します。異なる関係の方向を設定すると、異なるクエリ 結果が得られる場合があります。例については、「複合定義に異なる関係 の方向を設定」(62ページ)を参照してください。 注:関係リストは、ソースとターゲットを選択するまで空のままになりま す。
ソース	必要なソース・クエリ・ノードを選択します。
ターゲット	必要なターゲット・クエリ・ノードを選択します。

複合定義に異なる関係の方向を設定

異なる関係の方向を設定すると、異なる TQL 結果が得られます。たとえば、ビジネス環境において、次の図に示すように、CIT aのクエリ・ノードとCIT bのクエリ・ノードを接続する複合関係を作成するとします。深さは5に定義されています(詳細については、「深度」(90ページ))。



[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスでは、複合定義を作成して、異なる関係の方向を使用してクエリ・ノード a とb をリンクできます。

複合定義	ソース	ターゲット	関係	関係の方向
#1	クエリ・ノード a	クエリ・ノード c	<関係>	ソース> ターゲット
#2	クエリ・ノード c	クエリ・ノード b	<関係>	ソース> ターゲット
#3	クエリ・ノード c	クエリ・ノード b	<関係>	ソース < ターゲット

• 複合定義1と2の結果、次のクエリが得られます。



• 複合定義1と3の結果,次のクエリが得られます。



• 複合定義 1, 2, および3の結果, 次のクエリが得られます。



CI インスタンス・ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, 選択した TQL クエリ・ノード で検出されたすべての Cl インスタンスを表示 します。

エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
編集表示枠で, 必要なクエリ・ノードを右クリックし, [要素インスタンスの表示]を 選択します。
注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部で [クエリ]モードを選択して[要素インスタンスの表示]オプションを表示します。
DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
1. [リソース]表 示 枠 でアダプタを選 択します。
2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリ]ボックスの右側にある[入力クエリの編集] 🖉 をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
3. 必要なクエリ・ノードを右クリックし, [要素インスタンスの表示]を選択します。
Integration Studio で利用するには、次の手順を実行します。
Jython 統合アダプタに基づいて統合ポイントを作成します。 [トリガ CI インスタン ス]メニューで [既存の CI を選択]を選択します。
テーブルのカラムに、選択した CI タイプの属性が表示されます。表示される属性は、選択した CI タイプによって異なります。
標準設定では、CIT マネージャで[アセット データ],[管理対象],および[比較可能]属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、「[属性]ページ」(463ページ)を参照してください。

関連タスク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	「TQL クエリの定 義 方 法 」(23ページ)
	「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
	『HP Universal CMDB データ・フロー管 理ガイド』の「ポピュレーション・ジョブの操 作 方 法 」
	『HP Universal CMDB データ・フロー管 理ガイド』の「データ・プッシュ・ジョブの使 用 方 法 」
関連情報	• 「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要 」(15ページ)
	• 「トポロジ・クエリ言 語 のユーザ・インタフェース」(42ページ)

UI要素	詳細
次の CI インスタンスを表示: Network (5) 💌	テーブルに表示する CIT を指定します。テー ブルには,選択した CIT の子も含まれます。
*	CMDB から削除 :選択した CI を削除しま す。
	プロパティ :選択したCIの[構成アイテムの プロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
S	更新: CI インスタンスのリストを更新します。
	フィルタの設定 :選択したクエリ・ノードで表 示する CI インスタンスをフィルタします。[CI インスタンスをフィルタ]ダイアログ・ボックスが 開きます。
	フィルタのクリア :[Cl インスタンスをフィルタ]ダ イアログ・ボックスで作成したフィルタ定義をク リアします。
	カラムの選択 :表示するカラムを選択できま す。詳細については、「[カラムの選択]ダイア ログ・ボックス」(523ページ)を参照してくださ い。

UI 要素	詳細
	カラム・コンテンツの並べ替え: CI インスタン スの並べ替え順序を設定できます。詳細に ついては、「[カラムコンテンツの並べ替え]ダ イアログ・ボックス」(524ページ)を参照してく ださい。
	検索 :検索ツールバーが表示されます。
	メールを送信 :テーブルのデータを電子メー ルで送信できます。

UI 要素	詳細
	データをファイルにエクスポート :表のデータ のプレビューおよびエクスポートの形式を選択 できます。次のオプションを使用できます。
	• Excel:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファイル形式に整形されます。
	• PDF :テーブルのデータは, PDF 形式で エクスポートされます。
	注 : PDF にエクスポートする場合, レ ポートが読みやすくなるよう表示列の 適切な数を選択します。
	 csv:テーブルのデータは、スプレッドシート に表示できるカンマ区切り(CSV)テキス ト・ファイル形式に整形されます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを 正しく表示するには、カンマ(,)を区 切り文字として定義する必要があり ます。Windowsでは、区切り文字の 値を確認または変更するには、コン トロール・パネルの[地域のオプショ ン]を開いて、[数値]タブでカンマが 区切り文字の値として定義されてい ることを確認します。Linuxで は、CSV ファイルを開くアプリケーショ ンで区切り文字を指定できます。
	• xml :テーブルのデータは, テキスト・エディ タまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント: レポートからHTMLコードを抽出 するには、次の手順を実行します。
	 ファイルを HTML エディタで開きます。 関連するテーブルをターゲット・ファイ
	ルにコピーする。

UI要素	詳細
30 🔽 ページの行 数	各ページに表示する行の数を選択します。 また,手動でページあたりの行数の値を入力 することができます。
🖾 3 of 16528 ▷	クリックすると, ページごとに結果を移動した り, または最初のページや最後のページに移 動したりできます。
<ci インスタンス=""></ci>	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出さ れた CI インスタンスです。インスタンスをダブ ルクリックすると、その CI の[構成 アイテムのプ ロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
<ci インスタンスのショートカット・メニュー=""></ci>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャ のショートカット・メニュー」(218ページ)を参照 してください。
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI インスタンス の名前です。

条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは, [クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの [要素タイプ]タブで, 複合タ イプの条件を選択するときに選択した状態を表示します。

利用方法	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素タイプ]タブから[プレビュー] ボタン 🔍 をクリックします。
関連情報	「クエリ・ノード条件」(19ページ)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
CI タイプ	条件を定義したサブタイプを表示します。
条件	凡例で定義され,選択した条件のアイコンが表示されます。
フィルタ基準	選択した条件を指定します(たとえば、CIタイプや修飾子別。また、修飾子の場合は特定の修飾子を指定します)。

要素レイアウト のプレビュー・ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは,選択した要素のクエリ結果に含まれる,[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブで選択した属性が表示されます。

利用方法	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブから[プレ ビュー]ボタン 🔍 をクリックします。
関連情報	「クエリ・ノード条件」(19ページ)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
属性 モード	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブで 選択した属性の状態が表示されます。
CI タイプ	選択したクエリ・ノードまたは関係のCITが表示されます。
除外属性	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブで, [除外属性]表示枠に表示される属性が表示されます。
修飾子でマークされた 属性	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブで 選択した修飾子が表示されます。
特定の属性	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素レイアウト]タブで, [特定の属性]表示枠に表示される属性が表示されます。

[CI インスタンスをフィルタ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に対して条件と値を選択することによって、リストに表示する CI インスタンスの数を減らすことができます。

利用方法	[CI インスタンス]ダイアロ	コグ・ボックスから[フィルタ]	ボタン 🕜 をクリックします。
重要情報	定義したフィルタ条件の テーブルのカラムの上にす Windows である CI イン た。	説明は, [Cl インスタンス 表示されます。たとえば, ジ ッスタンスのみを表示するよ]ダイアログ・ボックスに表示される 欠の図では, CI タイプが ようにフィルタ条件を作成しまし
	フィルタ: Cl Type[等価	nt];	
	Display Label	CI Type	
	🛃 bert	Windows	

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
属性	CI が属する CI タイプの属性がすべて表示されます。
条件	必要な演算子を選択します。詳細については、「属性演算子の定義」 (37ページ)を参照してください。
NOT	条件および値の否定によって結果をフィルタする場合に選択します。
値	必要な値を選択または入力します。

[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、結合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの[結合関係の追加]ダイア ログ・ボックスで, [追加]ボタン <table-cell-rows> をクリックします。</table-cell-rows>
重要情報	結合関係条件のタイプ・リストの属性は選択できません。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装

UI要素	詳細
<選択したクエリ・ ノード 1>	選択したクエリ・ノード。1つ目の属性は <end_1> に適用されます。</end_1>
<選択したクエリ・ ノード 2>	選択したクエリ・ノード。2つ目の属性は <end_2> に適用されます。</end_2>
演算子	次の演算子のいずれかを選択します。
	• 等しい:選択した2つの属性が等しいかどうかがチェックされます。
	• 等しくない:選択した2つの属性が等しくないかどうかがチェックされます。
	• サブ・ストリング:1つ目の属性の値が、2つの属性の値の部分文字列 かどうかがチェックされます。
	 サブ・ストリング(大文字小文字を区別しない):1つ目の属性の値が,2 つ目の属性の値の部分文字列かどうかがチェックされます(文字列の大 文字と小文字は区別されません)。
	注: 演算子の等しくないを使用するときは、結合関係の両側で結果のサイズが制限されていることを確認してください。膨大な量の結果によりシステムが過負荷になるのを避けるために、より具体的な条件を定義することをお勧めします。

[レイアウト設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、UCMDB API を使用するときに TQL クエリの計算に使用する属性を決定できます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のHP Universal CMDB Web サービス APIを参照してください。

利用方法	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの[クエリノード/関係のプロパ ティ]ダイアログ・ボックスで[詳細レイアウト設定]をクリックします。
重要情報	このオプションは, CMDB API に問い合わせるときしか関係ないため, ユーザ・インタ フェースに対するクエリ結果は, このダイアログ・ボックスで選択する属性の影響を受 けません。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作 成 方 法 」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI 要素	詳細
属性名	属性の名前です。
計算	このチェック・ボックスを選択すると、クエリの計算に属性が含まれます。

[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用 するには,次の手順を実行します。
	編集ペインで,必要なクエリ・ノードを右クリックし, [クエリノード/関係のプロ パティ]を選択するか,必要なクエリ・ノードや関係をダブルクリックします。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の 上部で[クエリモー ド]を選択して[クエリノードのプロパティ]オプションを 表示します。
	DFM で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [アダプタ定義]タブから利用するには、アダプタを選択し、[入力クエリ] ボックスの右にある[入力クエリの編集] 🌌 ボタンをクリックして、入力ク エリ・エディタを開きます。
	 必要なクエリ・ノードまたは関係を右クリックして[クエリノードのプロパティ]または[関係のプロパティ]を選択するか、必要なクエリ・ノードや関係をダブルクリックします。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダ プタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
要素名	[要素名]ボックスには、選択したクエリ・ノードまたは関係の名前が表示されます(任意指定)。標準設定では、CIタイプは要素の名前として割り当てられます。TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって [要素名]ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプ のクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。
要素タイプ	選択したクエリ・ノードのCIタイプを表示します。クエリ・ノードのタイプを変 更する場合,元のタイプの子に変更する場合,サブタイプをドロップダウン・ リストから選択します。
サブタイプを含める	選択すると,選択した CI とその子 がトポロジ・マップに表示されます。 注:この機能は,エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネー ジャでのみ使用できます。
クエリ結果	[クエリ結果]をクリックすると、各クエリ・ノード/関係のインスタンス数が示されている TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。 注 : この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。


[属性]タブ

このタブでは、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を定義する式を作成できます。 クエリ・ノードまたは関係に属性条件を追加して、クエリ結果をフィルタすることもできます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[属性]タブをクリックし ます。
重要情報	各行は、指定する属性条件を表します。[And]/[Or]列と[大括弧]列を 使用して複数の条件をリンクします。これにより、より正確な論理ステート メントを構成して必要な結果を生成できます。
	注:
	 このタブは、計算された関係には利用できません。
	 モデリング・スタジオで[クエリノード/関係プロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスする場合、このタブはエンリッチ・ルールまたは影響ルールが定義されるエンリッチメントや影響タイプでは読み取り専用です。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・ア ダプタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	説明
+	追加: 属性条件行を追加します。属性名,演算子,値を選択して属性 条件を定義します。
×	削除:選択した属性条件を削除します。
	上へ:選択した行を上へ移動します。
V	下へ :選択した行を下へ移動します。
9	基準を表示:選択した条件の基準をポップアップ・ダイアログ・ボックスに表示します。
詳細レイアウト設定	[レイアウト設定]ダイアログ・ボックスが開きます。 このダイアログ・ボックスで は, サード パーティー製 ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行う ときに TQL クエリの計 算 で使 用 する属 性を決 定 できます。
	注: この機能は、エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにの み表示されます。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR] フィールド内をクリックし、 [AND]または [OR]を選択します。
属性名	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
	注: 次のいずれかの属性タイプを選択すると、 含まれる 演算子は使用 できません。

UI要素	説明
大括弧()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成 するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
標準設定値	パラメータ化された属性について、パラメータの標準設定値を入力します。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられて いない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3 つのノードがあり。ノード 1 には値 A が割り当てられ, ノード 2 には値 B が割り当てられ, ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に 等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を 選択した場合, ノード 3 には値が割り当てられていないため, クエリの 結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、「属性演算子の定義」 (37ページ)を参照してください。
	注: 次のいずれかの属性タイプを選択すると、 含まれる 演算子は使用 できません。
パラメータ化	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、 [はい]を選択します。 属 性に固定値を定義する場合は、 [いいえ]を選択します。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
パラメータ名	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、 パラメータ名を入力する 必要があります。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
値	属性の値を入力または選択します。 [値]オプションは, 選択した属性タイ プに応じて変わります。
	注: キーボードで CTRL+v を押 すと, コピーした値をウィンドウに貼り付 けできます。

[カーディナリティ]タブ

この領域では関係のカーディナリティを定義します。これにより、クエリ結果で関係の端部に得られる CI インスタンスの数を定義できます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[カーディナリティ]タブ をクリックします。
重要情報	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。次に、クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限と上限を定義します。
	各行は、指定するカーディナリティ条件を表します。[And]/[Or]列と[大括弧]列を使用して複数の条件をリンクします。
	条件を定義する式を作成することによって,関係の接続クエリ・ノードが TQL クエリ結果に含まれるようにする関係条件を定義できます。例につい ては,「関係条件の例」(78ページ)を参照してください。
	注:
	• このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。
	 モデリング・スタジオで[クエリノード/関係プロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスする場合、このタブはエンリッチ・ルールまたは影響ルールが定義されるエンリッチメントや影響タイプでは読み取り専用です。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・ア ダプタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)

UI要素	説明
+	追加 :カーディナリティ条件行を追加します。クエリ・ノードと最大および 最小値を選択してカーディナリティ条件を定義します。
×	削除:[カーディナリティ]領域からカーディナリティ条件が削除されます。
	上へ :選択した行を上へ移動します。

UI要素	説明
V	下へ :選択した行を下へ移動します。
Q	基準を表示:ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
1*	[最小]ボックスに1を, [最大]ボックスに*を挿入します。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
0*	[最小]ボックスに0を, [最大]ボックスに*を挿入します。
	注: モデリング・スタジオにのみ関連します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR]フィールド内をクリックし、 [AND]または [OR]を選択します。
大括弧 ()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[Cl インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義したカーディナリティ条件の定義が含まれています。
最大	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの上限を定義する値を 入力します。
	注:[最大]ボックスでアスタリスク(*)を使用すると、無限大を表します。
最小	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限を定義する値を 入力します。
	たとえば、 <end_1> が IpAddress で、<end_2> が Windows の場合、 [最小]ボックスに「1」と入力し、[最大]ボックスにアスタリスク(*)を入力す ると、少なくとも1つの Windows オペレーティング・システムに接続されて いる IP アドレスのみが取得されます(アスタリスクは無限大を表します)。 [最小]ボックスに「3」と入力し、[最大]ボックスにアスタリスク(*)を入力す ると、少なくとも3つの IP アドレスに接続されている Windows オペレーティ ング・システムのみが取得されます。</end_2></end_1>
クエリ・ノード	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。 リストには,選択したクエリ・ノードにリンクされている関係がすべて含まれます。

UI要素	説明
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられ ていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システム に3つのノードがあり。ノード 1 には値 A が割り当てられ, ノード 2 に は値 B が割り当てられ, ノード 3 には値が割り当てられていないとし ます。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成 し, [NOT]を選択した場合, ノード 3 には値が割り当てられていな いため, クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。

関係条件の例

関係条件の例は、次のTQL クエリに基づいています。



[関係のカーディナリティ]ダイアログ・ボックスで、クエリに対して次の関係条件を定義します。

- Containment 最小:2, 最大:4
- Membership 一最小:1, 最大:*

OR 演算子を使用すると、次のようにカーディナリティセクションに定義が表示されます。

NOT	(基準
		Containment (Node, IpAddress) : 24
		Membership (IpSubnet, Node) : 1*

 [Containment (Node, IP Address)] OR [Membership (IP Subnet, Node)]は、ノードは2 つから4つのIP アドレスを持っているか、またはIP サブネットのメンバである必要があることを意味 します。

AND 演算子を使用すると、次のようにカーディナリティセクションに定義が表示されます。

NOT	(基準
		Containment (Node, IpAddress) : 24
		Membership (IpSubnet, Node) : 1*

• [Containment (Node, IP Address)] AND [Membership (IP Subnet, Node)] は、ノードは 2つから4つのIP アドレスを持ち、かつIP サブネットのメンバでもある必要があることを意味します。

注: (0..0) のカーディナリティは、関係の両端がそのカーディナリティで定義場合の唯一の値で す。1 つの端がカーディナリティ (0..0) で定義され、他の端が別のカーディナリティで定義される場 合は、その条件は無効です。ただし、TQL クエリは保存されます(カーディナリティのクエリ結果に 影響しません)。

[要素タイプ]タブ

この領域では、tab選択したクエリ・ノードまたは関係のサブタイプ条件を指定できます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[要素タイプ]タブをクリックしま す。	
重要情報	このタブはモデリング・スタジオでのみ使用できます。	
	このタブは、計算された関係には利用できません。	
関連タ スク	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)	
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)	
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)	
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)	
	• 「複合タイプの条件の定義方法 - シナリオ」(30ページ)	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	説明
<凡例>	サブタイプの横に選択した条件に応じたアイコンが表示されます。
	• 🗊 子孫なしのサブタイプを含みます。
	• 🕸 子孫ありのサブタイプを含みます。
	• 🖗 子孫なしのサブタイプを除外します。
	• 🏁 子孫ありのサブタイプを除外します。

UI要素	説明
[Cl タイプ]/[関係]ウィン ドウ	[サブタイプをカスタマイズ]を選択した場合, [Cl タイプ]ウィンドウに, 選択した Cl タイプのすべてのサブタイプのツリーが表示されます(関係 については, [関係]ウィンドウに選択した関係のすべてのサブタイプの ツリーが表示されます)。[条件]ウィンドウで条件を選択したら, [プレ ビュー]ボタン をクリックして[条件のプレビュー]ダイアログ・ボックスを 開きます。
[条件]ウィンドウ	詳細については、「[条件]ウィンドウ」(80ページ)を参照してください。
サブタイプをカスタマイズ	複合タイプ条件を設定する場合は[サブタイプをカスタマイズ]を選択 します。 下記のとおり、 [CI タイプ]/[関係] ウィンド ウのツリーから必要 なサブタイプを選択し、 [条件] ウィンド ウから条件を選択します。
要素タイプ	簡易タイプ条件を設定する場合は[要素タイプ]を選択します。選択した CI タイプのすべてのサブタイプを含める場合は、[サブタイプを含める]チェック・ボックスを選択します。 すべてのサブタイプを含める場合は、 チェック・ボックスをクリアしてください。

[条件]ウィンドウ

UI要素	説明
この条件を<選択した CI タイプ>のすべてのサブタイ プに再帰的に適用します	選択した CI タイプの指定条件を CI タイプの子孫すべてに再帰的に 適用する場合にこのチェック・ボックスを選択します。
CI タイプ別	クエリ結果で選択した CI タイプのすべてのインスタンスを含めるか除 外する場合に[CI タイプ別]を選択します。
修飾子別	クエリ結果で選択した特定修飾子付きCIタイプのすべてのインスタンスを含めるか除外する場合に[修飾子別]を選択します。修飾子 ー覧のポップアップ・ウィンドウが表示されます。選択したサブタイプに 必要な修飾子を選択します。修飾子の詳細については、「[修飾 子]タブ」(83ページ)を参照してください。

UI要素	説明
条件	選択した CI タイプの条件を選択します。次のオプションを利用できます。
	 なし:この CI タイプには条件選択がありません。この CI タイプのインスタンスはおよびすべての子孫がクエリ結果に含まれます。ただし、この CI タイプの親タイプが除外選択されており[この条件を<選択したサブタイプ>のすべてのサブタイプに再帰的に適用します]チェック・ボックスが選択されている場合はこの限りではありません。
	 クエリに<選択したサブタイプ>を含める。選択した CI タイプのイン スタンスがクエリ結果に含まれます(選択した条件に基づく)。この オプションが該当する状況の例には、CI タイプの親が除外選択されており[この条件を<選択したサブタイプ>のすべてのサブタイプに 再帰的に適用します]チェックボックスが選択されている場合があり ます。クエリ結果に指定したものを除いて親 CI タイプのすべてのサ ブタイプを除外するように、特定のサブタイプを含めることもできま す。
	• クエリから<選択したサブタイプ>除外する。選択した CI タイプのインスタンスがクエリ結果から除外されます(選択した条件に基づく)。

[要素レイアウト]タブ

この領域では、選択したクエリ・ノードまたは関係のクエリ結果で帰された属性値を選択できます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[要素レイアウ ト]タブをクリックします。
重要情報	特定 CIT のクエリ結果に含める属性を選択した場合, この選択は 子孫 CIT にも適用されます。 [条件] ウィンドウで, 手動で子孫 CIT の特定の属性を除外することができます。
	このオプションは, CMDB API のクエリ時にのみ該当します。 ユーザ・イ ンターフェースのクエリ結果は, このダイアログ・ボックスで選択した属 性の影響は受けません。
	このタブはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
	このタフは、計算された関係には利用できません。
関連タスク	このタフは,計算された関係には利用できません。 •「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
関連タスク	このタフは、計算された関係には利用できません。 •「TQL クエリの定義方法」(23ページ) •「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
関連タスク	このタフは、計算された関係には利用できません。 •「TQL クエリの定義方法」(23ページ) •「パターン・ビューの作成方法」(251ページ) •「テンプレートの作成方法」(252ページ)
関連タスク	このタフは、計算された関係には利用できません。 「TQL クエリの定義方法」(23ページ) 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ) 「テンプレートの作成方法」(252ページ) 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	説明
<凡例>	サブタイプの横に選択した属性条件に応じたアイコンが表示されます。 ・ ¹¹ このサブタイプのすべての属性を含めます。
	• 🕸 このサブタイプの選択した属性のみが含まれます。
[Cl タイプ]/[関係]ウィン ドウ	[レイアウトの属性を選択]を選択した場合, [Clタイプ]ウィンドウ に, 選択した Clタイプのすべてのサブタイプのツリーが表示されます (関係については, [関係]ウィンドウに選択した関係のすべてのサブ タイプのツリーが表示されます)。[条件]ウィンドウで条件を選択した ら, [プレビュー] ((ボタンをクリックして [要素レイアウト プレビュー]ダ イアログ・ボックスを開きます。
[条件]ウィンドウ	詳細については、「[条件]ウィンドウ」(82ページ)を参照してください。
属性なし	[属性なし]を選択した場合,選択したクエリ・ノードまたは関係について,クエリ結果に属性値が返されません。
レイアウトの属性を選択	[レイアウトの属性を選択]を選択した場合,選択したクエリ・ノード または関係のクエリ結果に含める属性を選択できます。

[条件]ウィンドウ

UI要素	説明
属性条件	次のオプションのいずれかを選択します。
	• なし: 選択した要素のクエリ結果に属性は含まれません。
	• すべて :選択した要素に定義されたすべての属性がクエリ結果に 含まれます。
	• 特定の属性:選択した要素のクエリ結果に選択した属性のみが 含まれます。
Attributes with the following qualifiers	特定の修飾子の付いた属性を含めることができます。省略ボタンをク リックすると、利用可能な修飾子のダイアログ・ボックスが表示され必 要な修飾子を選択することができます。
	注: この機能は、 [属性]条件で[特定の属性]を選択した場合 にのみ表示されます。
利用可能な属性	選択した要素に使用できる属性がすべて表示されます。

UI要素	説明
除外属性	[属性]条件に[すべて]を選択した場合,属性を[除外属性]表示 枠に移動することで,選択した属性を除外できます。
	親 CIT から属性選択を継承した CIT の[属性]条件として[特定の 属性]を選択した場合,属性を[除外属性]表示枠に移動すること で選択から特定の属性を除外できます。
	または、CITの選択修飾子付き属性を選択した場合は、属性を[除外属性]表示枠に移動することで、一部の属性を選択から除外できます。
	属性は、矢印ボタンを使用して表示枠内外に移動できます。
特定の属性を除外する	[利用可能な属性]および[除外属性]表示枠および矢印ボタンを有効化するにはこのチェック・ボックスを選択します。
	注: この機能は, [属性]条件で[すべて]を選択した場合にのみ 表示されます。
特定の属性	選択したノードに関してクエリ結果に含められる属性が表示されま す。属性は、矢印ボタンを使用して表示枠内外に移動します。
	注: この機能は, [属性]条件で[特定の属性]を選択した場合 にのみ表示されます。

[修飾子]タブ

この領域では, tab 選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。たとえば, 修飾子を使用して, CITを abstract として定義できます。これは, その CIT からインスタンスを作成できないことを意味します。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[修飾子]タブをク リックします。
重要情報	標準設定では、複数選択すると条件がOR 演算子でリンクされます。
	注: このタブは,DFM のエンリッチメント・マネージャ,影響分析マネー ジャ,または入力クエリ・エディタでのみ利用できます。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・ア ダプタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
<修飾子>	利用可能な修飾子オプションのリストについては、「[修飾子]ページ」(467 ページ)を参照してください。
無効な修飾子	このチェック・ボックスを選択すると、要素は、選択した修飾子のリストに修飾子がない場合にのみクエリ結果に含まれます。

[ID]タブ

この領域では、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスの要素 ID に従って TQL クエリ結果をフィルタできます。

利用方法	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスで[ID]タブをクリックします。
重要情報	左右の矢印を使用して, 必要な要素を左側の[オプション ID]表示枠から右側の[選択された ID]表示枠に移動して, TQL クエリ結果に含める 要素を定義します。
	注: このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・ア ダプタの実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

含まれている要素は次のとおりです(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	説明
<ツールバー>	ツールバー・ボタンの説明は、「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ペー ジ)を参照してください。
[オプション ID]表 示枠	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。
[選択された ID] 表示枠	TQL クエリ結果に含める要素を定義するのに使用する要素が表示されます。

[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードの Cl タイプを変更できます。

利用方法	影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで必要なクエリ・ノードを右ク リックし, [クエリノード タイプの再設定]を選択します。
	注:エンリッチメント・マネージャを使用している場合は,編集表示枠の上部でクエ リ・モードを選択して[クエリノードタイプの再設定]オプションを表示します。
重要情報	CI タイプを CI タイプの子 のいずれかのタイプに変 更 できます(存在する場合)。その ような CI タイプが存在しない場合, このオプションは表示されません。

関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作 成 方 法 」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	 「トポロジ・クエリ言 語 (TQL)の概 要 」(15ページ)
	 「CI タイプ・マネージャ」(442ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<選択元の CI タイプのリスト>	必要な CI タイプを選択します。

[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、作成する TQL 関係のタイプを選択できます。

利用方法	影響分析マネージャ,エンリッチメント・マネージャ,およびモデリング・スタジオの編集 ペイン表で、ツールバーにある[関係を作成]ボタン か をクリックし、2つのクエリ・ ノードの間に線を引きます。[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックスが自動的に 開きます。
重要情報	次の関係のタイプのいずれかを選択します。 • 通常の関係:詳細については、「[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(51 ページ)を参照してください。
	 結合関係:詳細については、「[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」 (48ページ)を参照してください。
	• 複合関係:詳細については、「[複合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」 (45ページ)を参照してください。
	• 計算関係:詳細については、「[計算された関係の追加/編集]ダイアログ・ ボックス」(43ページ)を参照してください。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	• 「TQL クエリの定 義 方 法 」(23ページ)
	• 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	• 「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)
	• 「CI タイプの関係」(444ページ)

[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を作成できます。

利用方法	DFM の影響分析マネージャ,エンリッチメント・マネージャ,および入力クエリ・エディ タで, [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスから[条件] 2 をクリックします。 モデリング・スタジオで, [サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックスから[条件] 2 をクリックします。
重要情報	 次のタブが表示されます。 属性:クエリ・ノードと関係に対して属性条件を定義できます。[属性]タブの要素の説明は、下の表を参照してください。各行は、指定する属性条件を表します。[And]/[Or]列と[大括弧]列を使用して複数の条件をリンクします。これにより、より正確な論理ステートメントを構成して必要な結果を生成できます。 修飾子(DFMのエンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージゃ、または入力クエリ・エディタ用):選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。詳細については、「[修飾子]タブ」(83ページ)を参照してください。 [要素タイプ](モデリング・スタジオ)選択したクエリ・ノードまたは関係のサブタイプの条件を定義できます。詳細については、「[要素タイプ]タブ」(79ページ)を参照してください。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	 「Microsoft Internet Information Services (IIS) Discovery」(『HP UCMDB ディス カバリ / インテグレーション・コンテンツ・ガイド』)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
+	追加:サブグラフ条件の定義が追加されます。
×	削除:サブグラフ条件の定義が削除されます。
	上へ:選択した行を上へ移動します。
U	下へ:選択した行を下へ移動します。
	基準を表示:サブグラフの条件定義をポップアップ・ダイアログ・ボックスに表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR]フィールド内をクリックし、 [AND]または[OR]を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
大括弧()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成 するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
CIT	[ソース]リストと[ターゲット]リストから選択した CIT が含まれています。
	注: このオプションは,モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスを利用 する場合には該当しません。
基準	[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。

UI要素	詳細
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられて いない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システム内に 3つのノードがあるとします。ノード 1には値 A が割り当てられ, ノード 2 には値 B が割り当てられ, ノード 3には値が割り当てられていないとし ます。A に等しい値を持つすべてのホストを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場合, ノード 3には値が割り当てられていないた め, クエリの結果にはノード 2のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、「属性演算子の定義」 (37ページ)を参照してください。
値	属性の値を入力または選択します。 [値]オプションは, 選択した属性タイ プに応じて変わります。

[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定のCIに関連する追加のTQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
	編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし, [サブグラフの定義]を選択しま す。
	注: エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部 で クエリ・モー ドを選択して[サブグラフの定義]オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース]表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義]タブで, [入力クエリの編集] 🧖 ボタン([入力クエリ]ボックスの 右)をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[サブグラフの定義]を選択します。
重要情報	次のアイコンが,サブグラフを定義するクエリ・ノードの横に表示されます。

関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	 「サブグラフ定 義」(22ページ)
	• 「サブグラフの定 義を作 成 する方 法 - シナリオ」(30ページ)

UI 要素	詳細
+	追加:サブグラフの定義が追加されます。 DFM の影響分析 マネージャ,エ ンリッチメント・マネージャ,および入力クエリ・エディタで,クリックして[トリプ レットの追加]ダイアログ・ボックスを開きます。 モデリング・スタジオでは,ク リックするとテーブルに行が追加されます。
×	削除:選択したサブグラフ定義が削除されます。
	条件:サ ブグラフ定 義を編集 できます。 DFM の影響分析 マネージャ,エン リッチメント・マネージャ,および入力 クエリ・エディタでは, [トリプレットの編 集]ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオでは, [サブグラフ条 件の定義]ダイアログ・ボックスが開きます。
深度	DFM プロセスに含める必要がある CMDB の2 つの CI 間で許可されてい る最長パス(つまり, 最も接続の多いクエリ・ノード)の数です。 標準設定:5
要素条件が存在し ます	[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックスで,サブグラフの定義のソース, 関係,またはターゲットのいずれかに属性条件が定義されている場合は, 緑色のアスタリスクがその横に表示されます。詳細については,「[サブグラフ 条件の定義]ダイアログ・ボックス」(87ページ)を参照してください。
関係	ソースからターゲット・クエリ・ノードへの接続に選択されている関係です。
関係の方向	選択されている関係の方向です。クエリ・ノード間の依存関係を示します。
ソース	選択されている必要なソース・クエリ・ノードです。
ターゲット	選択されている必要なターゲット・クエリ・ノードです。

[ユーザ プリファレンス]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、システムのプリファレンスをリセットできます。

利用方法	[ツール]>[ユーザプリファレンス]を選択するか、またはステータス・バーで[ユーザプ リファレンスの構成]ボタン 🖾 をクリックします。
重要情報	選択したプリファレンスはすべて(特定のウィザード・ページを表示するかどうかや,警告メッセージのプリファレンスなど)システムに保存されます。 このダイアログ・ボックスでは,これらのプリファレンスをリセットできます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<左の表示枠>	編集するプリファレンス・ページを選択します。 次のオプションを利用できます。
	• ウィザード・プリファレンス特定のウィザード・ページを表示または非表示 に定義できます。
	• オプション・メッセージ・プリファレンス特定のメッセージを表示または非表示に定義できます。
	• ディスカバリ・プリファレンス下記を定義できます。
	■ 特定のディスカバリーの警告メッセージを表示または非表示
	■ 必要な初期設定の外部エディタ(メモ帳など)
	■ 基本または詳細ディスカバリー・モードを使用するかどうか
	• 全般 一般的なアプリケーションの環境設定を定義することができます。
	 レポート初期設定で選択されたカスタム・レポートのカテゴリを設定することができます。
<プリファレンス・リス ト>	警告メッセージとユーザが選択したプリファレンスのリストです。
フィルタ基準	オプションのリストをフィルタするための検索語を入力します。
すべてリセット	クリックすると、すべてのプリファレンスが標準設定値にリセットされます。
ページのリセット	クリックすると、選択したプリファレンスが標準設定値にリセットされます。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、トポロジ・クエリ言語のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- TQL クエリ, ビュー, 影響 ルールなどのリソース作成時は, リソース名の最後にスペースがないよう にしてください。
- マルチテナンシ環境では, TQL クエリ名に@文字を含めることはできません。
- モデリング管理者のビューで作業中, CMDBにCIを追加するとき, または既存のCIを更新するときにエラーが発生して, エラーログにオブジェクトがデータベース内にありませんと示された場合は, JMX コンソールにアクセスして[service = DAL services]から次の手順を実行します。
 - rebuildModelViews
 - rebuildModelDBSchemaAndViews
- モデリング・モジュールに移動するときにログインに長い時間がかかる場合、インフラストラクチャ設定マネージャに移動し、mam.gui.automation.flow.mapping.enabled 設定の値を false に設定してください。これにより、自動化フロー機能が無効になりますが、モデリング・モジュールのログイン時間が改善します。
- TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。

本項の内容

- 「検証制限について」(92ページ)
- 「影響分析 TQL クエリの検証」(93ページ)
- 「エンリッチメント TQL クエリの検証」(94ページ)

検証制限について

影響分析, ディスカバリ, およびエンリッチメント TQL クエリ・タイプを有効にするには, これらが次の制限に従っている必要があります。

- 一意の名前: TQL クエリ要素は一意の名前である必要があります。
- 自己関係: TQL クエリは自己関係を含むことができません。 つまり,次の例に示すように,関係 がクエリ・ノードから,そのクエリ・ノード自身につながっていてはいけません。



■ 環状図:次の例に示すように, TQL クエリ構造は閉じた円にはできません。



クエリ・ノードとグループの分離:すべてのTQL クエリ・ノードは互いにリンクされている必要があります。つまり、次の例に示すようにTQL クエリは分離されたクエリ・ノードやグループを含むことはできません。



影響分析 TQL クエリの検証

影響分析 TQL クエリは次の制限にも従っている必要があります。

- **クエリ・ノードの数**:影響分析 TQL クエリは, 少なくとも2つのクエリ・ノードで構成されている必要があります。
- トリガと影響を受けるクエリ・ノードが接続されていること:起動されるクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードまでの関係のパスがある必要があります。
- 影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードの選択:影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、クエリ・ノードは次の制限に従う必要があります。

- 複数のクエリ・ノードをトリガとして選択できます。ただし、1つのクエリ・ノードを影響を受けるクエリ・ノードおよびトリガの両方として定義することはできません。
- クエリ・ノードに、下限が0の関係がある場合(つまり、関係の一端にクエリ・ノードがリンクされていないかもしれない場合)、他端にリンクされているクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードになれません(TQL クエリに存在するかどうかわからないため)。下限の詳細については、「[カーディナリティ]タブ」(75ページ)を参照してください。たとえば、構成アイテムは、最小0でクエリ・ノードに接続されているため、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードのいずれにもできません。



注: 非表示クエリ・ノードは、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードになれません。

■ トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの間の接続:定義するトリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードは、起動されたクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードに関係のパスによって接続されている必要があります。

エンリッチメント TQL クエリの検証

エンリッチメント TQL クエリは,次の制限に従っている必要があります。

必須な要素:必須でないクエリ・ノードにはエンリッチメントは実行できません。必須でないクエリ・ノードとは、TQLクエリ結果に必ずしも表示されないクエリ・ノードのことです。

例 1:この例では、TQL クエリ結果はA およびB,またはA およびC です。このため、エンリッチ メント・クエリ・ノードをクエリ・ノードB またはC に追加できません。これらは必須な要素ではな いためです。クエリ・ノードA にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。このクエリ・ノード は常にTQL クエリ結果に表示されるためです。エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、「エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追 加する方法」(490ページ)を参照してください。



例 2:この例では、AとBの両方がTQL クエリ結果に常に表示される必須な要素です。Cの みが、カーディナリティが0なので必須な要素ではありません。このため、Cにはエンリッチメン ト・クエリ・ノードを追加できません。



第2章:計算された関係の使用

本章の内容

計算された関係の概要	96
計算関係	. 96
計算された関係のタイプ	. 97
複合 CI の折りたたみルールの設定方法	97

計算された関係の概要

計算された関係は、パスが CI タイプ・マネージャで関係が基づいているトリプレットに対し定義された 条件を満たしている、2つの CI の間の接続を表します。トリプレットを定義する方法の詳細は、「[ト リプレット]ページ」(469ページ)を参照してください。

CI タイプ・モデルのほかの関係と同様,計算された関係を使用して TQL クエリを作成できます。これ により、エンリッチメント・ルール、影響ルールおよびビュー・ルールは計算された関係をベースにすること ができます。

計算された関係の方向は、CIタイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。計算された関係のベースとなるトリプレットの定義方法に応じて、2つのCIの間には関係が1つ以上存在する可能性があります。

計算関係

計算された関係は,1つ以上のトリプレットで定義されます。 各トリプレットは次のコンポーネントで定義されます。

- 1つのソース CI タイプ
- 1つのターゲット CI タイプ
- 2つの CI タイプをリンクする物理的な関係タイプ(包含など)
- 必須の方向は、ソース CI とターゲット CI 間の物理的な関係の方向と同じまたは反対の、いずれの可能性もあります。

計算された関係は、クラス・モデル内から物理的な関係によって定義されるため、その存続期間は 物理的な関係の存続期間によって決まります。クラス・モデルの物理的な関係が削除されたときは、 対応する計算された関係もすべてのビュー結果から削除されます。

注: CI タイプ・マネージャで新しい CI タイプまたは関係を作成する場合は, 適切なトリプレットを 定義する必要があります。

トリプレット定義の例:

🛞 Web Service	😰 Link	RunningSoftware	\Rightarrow

計算された関係のタイプ

Impacted By という、 定義済みの計算関係があります。 Impacted By には2つのサブタイプが含まれており、 それぞれが異なるタイプの依存関係(完全な依存と潜在的な依存)を表します。

- Impacted by (Directly)
- Impacted By (Potentially)

複合 CI の折りたたみルールの設定方法

このタスクでは、Configuration Manager で使用される複合 CI を定義する折りたたみルールの設定方法について説明します。複合 CI は管理ビューのコンテンツを形成します。

注: このタスクは, HP Universal CMDB Configuration Manager のユーザにのみ該当します。

本項の内容

- •「前提条件」(97ページ)
- •「条件のない折りたたみルールの定義」(97ページ)
- •「条件付きの折りたたみルールの定義」(99ページ)
- 1. 前提条件

Configuration Manager の複合 CI のデータの表示方法を考慮し, 複合 CI の範囲 のルールを 決定します。

- 2. 条件のない折りたたみルールの定義
 - a. [モデリング]>[Cl タイプ マネージャ]を選択します。
 - b. [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから、[計算関係]を選択します。[計算リンク]の下で、 [折りたたみルール(Config Manager)]を選択します。
 - c. 右の表示枠で[トリプレット]タブをクリックします。
 - d. [トリプレット]タブで, 🛃 をクリックして[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスを開きます。トリ プレットを次のように定義します。

UI要素	詳細
ソース	目的のソース CI タイプを選択します。
ターゲット	目的のターゲット CI タイプを選択します。
関係	ソース CI タイプとターゲット CI タイプに必要な関係を選択します。
	注: 使用可能な関係のリストは、ソース CI タイプとターゲット CI タイプを定義した後にのみ表示されます。
関係の方向	必要な方向を選択します。
	○ ➡ 方向は, ソースからターゲットです。
	。 🔄 方向は, ターゲットからソースです。
	関係の方向により, どちらが複合 CI でどちらがコンポーネント CI かが決まります。
	 ○ 関係の矢印がターゲットに向いている場合, ソース・クエリ・ノード は複合 CI で, ターゲット・クエリ・ノードはコンポーネント CI です。
	複合 CI コンポーネント CI
	ソース A 関係 ターゲット A
	 ・ 関係の矢印がソースに向いている場合、ターゲット・クエリ・ノード は複合 CI で、ソース・クエリ・ノードはコンポーネント CI です。
	コンポーネント CI 複合 CI
	ソース B 関係 ターゲット B

e. [OK]をクリックして,変更内容を保存します。

変更を保存すると、Configuration Manager が変更の通知を受け取り、関連ビューを再計 算します。

3.条件付きの折りたたみルールの定義

特定のノードに属性条件を指定する場合は、このオプションを選択します。これらの条件に一致する CI のみが Configuration Manager のルールで折りたたみが行われます。たとえば、特定の 名前を持つインストール済みのソフトウェアがノードのコンポーネント CI である場合にのみ、指定 できます。

- a. [モデリング]>[モデリング スタジオ]を選択します。
- b. [**リソース**]タブで, [リソースタイプ]リスト・ボックスから[**クエリ**]を選択します。
- c. まだ存在しない場合は、ツリーの[Configuration Manager]ノードで 🧔 をクリックして、Filtered Folding Rules というフォルダを追加します。
- d. [新規作成]>[クエリ]を選択して, TQL クエリ・エディタを開きます。次の構成を持った TQL クエリを定義します。

[ソース]>[関係]>[ターゲット]

ソース・ノードとターゲット・ノードの詳細については、「条件のない折りたたみルールの定義」 (97ページ)の表を参照してください。TQL クエリ作成の全般的な情報については、TQL クエ リの定義を参照してください。

- e. [プロパティの編集] 「ポタンをクリックし, [タイプ]ドロップ・ダウン・リストで[パースペクティブ] を選択します。
- f. [OK]をクリックします。
- g. ソース・クエリ・ノード・アイコンを右クリックし、 [コンタクト クエリノードとして設定]を選択します。
- h. ターゲット・クエリ・ノード・アイコンを右クリックし, [**クエリノードのプロパティ**]を選択します。 をクリックして, 折りたたみルールに必要な条件を指定します。
- i. [OK]をクリックして、変更内容を保存します。次の図に、折りたたみルールに定義された TQL クエリの例を示します。この例では、Node は TQL クエリのソース、InstalledSoftware は ターゲットです。



- j. 次のJMX コマンドを実行します:
 - i. Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力することによって、JMX コンソールにアクセスします。http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console。<サーバ名>は、Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
 - ii. JMX コンソールの認証資格情報を入力します。
 - iii. [構成マネージャ]>[View Service]をクリックします。updateFoldingRules を選択して[Invoke]をクリックします。
- k. Configuration Manager のサーバを再起動します。

第3章: ダイレクト・リンクの URL の作成

本章の内容

ダイレクト・リンクの生成 – 概要	101
ダイレクト・リンクの生成方法 -シナリオ	
パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成方法	
JMX コンソールを使用してダイレクト・リンクのパスワードを暗号化する方法	
[ダイレクト リンクを生 成]のユーザ・インタフェース	

ダイレクト・リンクの生成 - 概要

ダイレクト・リンクを使用することで、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビュー または CI に誘導する URL を作成できます。

次のような URL を作成できます。

 HP Universal CMDBで特定のHP Universal CMDBビューまたは CI を直接開きます。これにより ユーザは、HP Universal CMDBコンテキストで検索 せずにHP Universal CMDBから情報を取得で きるようになります。

注: 特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDBで開くには、 [コンテキスト リンクで開く]オプションを使用します。詳細については、 「[コマンドを選択]ページ」を参照してください。

- HP Universal CMDBとの統合を可能にします。
 - [埋め込みリンク]オプションを使用して URL を作成した場合は、最初にHP Universal CMDB ログイン・ページが表示されます。ログイン名とパスワードを入力すると、ターゲット・ページがブラ ウザに表示されます。

注: ブラウザでターゲット・ページを開くには、 [**埋め込みリンク**]オプションを使用します。 詳細については、 「[コマンドを選択]ページ」を参照してください。

URLの作成時には次のことができます。

- URLを電子メール受信者に送信する
- URLをクリップボードにコピーする
- URLをテストして, ターゲット・アプリケーション・ページが見 つかるか確認 する

URL の送信先となるユーザには、ターゲット・ページを開くのに十分な権限が割り当てられているアカウントが必要です。ターゲット・ビューへのアクセスが必要なユーザおよびユーザ・グループには、適切なビュー権限および編集権限を適用する必要があります。 [マネージャ] > [セキュリティ] > [ロールマ

ネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の[ロールマネージャ] ページを参照してください。

ダイレクト・リンクの生成方法 - シナリオ

本シナリオでは、ダイレクト・リンクを生成して特定のCIのURLを電子メールで別のユーザに送信する方法について説明します。

Jane Harrison は ABC ソフトウェアという会社のシニア・エンジニアです。彼女は、自分が作成した ビューで問題のある CI を発見しました。そこで、HP ServiceCenterを通じてその同じビューを使用し ている Henry Jones に、この問題のある CI のことを知らせようと思いました。彼女が作成したビューに は何百もの CI が含まれているため、Henry がその特定の CI を探すのに多くの時間を割かなくてもい いように、CI の URLを電子メールで Henry に送信することにしました。

Jane は IT ユニバース・マネージャの[編集]メニューから[ダイレクト リンクの生成]を選択しました。そして、[コマンドの選択]ページで[コンテキストリンクで開く]を選択し、[ビューを表示]オプションを選択してから[次へ]をクリックしました。

[**ダイレクト リンク パラメータ**]ページでは, Jane 自身が作成したビューと問題のある CI を選択し, Henry が CI を開くモードとして [**トポロジの表示**]を選択しました。 URL が作成されたので, Jane は問題のある CI へのリンクを電子メールで Henry に送信しました。

詳細については、「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。

パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作 成方法

このタスクでは、URLにパラメータ値を指定してテンプレートへのダイレクト・リンクを生成する方法について説明します。

本項の内容

- 「テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する」(102ページ)
- 「URLを編集する」(102ページ)
- 「ブラウザに URL を貼り付ける」(103ページ)
- 1. テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する

IT ユニバース・マネージャで, [編集]>[ダイレクト リンクの生成]を選択して[ダイレクト リンクの生成] ウィザードを実行します。[コマンドの選択] ページで, [埋め込みリンク]を選択します。オプションのリストから[トポロジの表示]を選択します。[ダイレクト リンク パラメータ] ページで, ドロップ ダウン・リストから必要なテンプレートを選択します。

2. URL を編集する

ウィザードが完了したら、[URL をコピー]をクリックして、メモ帳などのテキスト・エディタに URL に 貼り付けます。

次のテキストをURLの末尾に追加します。

¶ms=[parameter1=value1,parameter2=value2]

ここで, parameter1 および parameter2 は選択したテンプレートのパラメータ名, value1 および value2 はパラメータに入力する値です。

注: 特殊文字はURL エンコーディングを使用して入力する必要があります。前述の例では、[文字のURL エンコーディングは %5B,]文字のURL エンコーディングは %5D, コンマのURL エンコーディングは %2C です。このため、入力する実際のテキストは次のようになります。

¶ms=%5Bparameter1=value1%2Cparameter2=value2%5D

3. ブラウザに URL を貼り付ける

ブラウザに URL を貼り付 けます。HP Universal CMDB は、指定した値が割り当てたパラメータを 含む、選択されているテンプレートを開きます。

JMX コンソールを使用してダイレクト・リンクのパスワードを 暗号化する方法

このタスクでは、JMX コンソールを使用してダイレクト・リンク内に含まれるパスワードを暗号化する方法について説明します。

JMX コンソールを使用してダイレクト・リンクのパスワードを暗号化するには,次の手順を実行します。

- Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。http://<サーバ名>:<ポート番号>/jmxconsole に移動します。ここで、<サーバ名>は、HP Universal CMDB がインストールされている マシンの名前です。
- 2. [UCMDB-UI]下で, [UCMDB Integration]を検索します。
- 3. getEncryptedPasswordForURL でユーザ名と暗号化するパスワードを入力します。
- 4. [Invoke]をクリックして暗号化された文字列を表示します。

[ダイレクト リンクを生成]のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)
- 「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)

[ダイレクト リンクの生 成]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ユーザに送信して HP Universal CMDBにアクセスできるようにするための URL を作成できます。

利用方法	[モデリング]メイン・メニューから、[編集]>[ダイレクト リンクの生成]を 選択します。「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)でダイ レクト・リンクのパラメータを設定した後、[完了]ページで[完了]をク リックして[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックスを開きます。
	IT ユニバース・マネージャで, [ビューの参照]モードの[CIの選択]ツー ルバーで[ビューへのダイレクト リンクを生成] 🕯 ボタンをクリックします。
	[レポート]モジュールのツールバーで[ダイレクト リンクの生成] ☞ ボタ ンをクリックするか, [モデリング]メイン・メニューで[操作]>[ダイレクト リ ンクの生成]> [アプリケーションへのダイレクト リンク]を選択します。
関連タスク	「ダイレクト・リンクの生成方法 - シナリオ」(102ページ)
関連情報	「ダイレクト・リンクの生成 – 概要」(101ページ)

UI 要素	詳細
URL をコピー	URL がクリップボード にコピーされます。
詳細	URL に含まれるパラメータについて説明します。 パラメータの選択の詳細については、「[コマンドを選択]ページ」(105ページ)を参照してください。
リンク URL	作成された URL で, 指定のHP Universal CMDB機能にアクセスします。
URL をメール	リンクの URL が含まれた電子メールが開きます。
URL をテスト	指定されたアプリケーション・ページが見つかるかどうか URL が検査さ れます。
	注: このボタンは, Linux の使用時には利用できません。

ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード

このウィザードでは、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

利用方法	[モデリング]メイン・メニューから、 [編集]>[ダイレクト リンクの生成]を選択します。
重要情報	標準設定では, このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されて います。 [ようこそ]ページを表示しないようにするには, [次回からこのページを 表示しない]チェック・ボタンを選択します。
関連タスク	「ダイレクト・リンクの生成方法 - シナリオ」(102ページ)

ウィザード・マップ	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードには次の項目が含まれます。
	「[コマンドを選択]ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション>と<[埋め込みリンク]オプション>) >「[完了]ページ」
関連情報	「ダイレクト・リンクの生成 – 概要」(101ページ)

[コマンドを選択]ページ

このウィザード・ページでは、URLに追加する必要のある必須パラメータを選択できます。

次の2種類のリンクを作成できます。

- コンテキスト・リンクで開く: HP Universal CMDBコンテキストである必要なしに、特定のビューまた は CI を直接 HP Universal CMDB に開くURL を作成します。
- 埋め込みリンク: HP Universal CMDB アプレットを外部 アプリケーションに埋め込むことができる URLを作成します。

重要情報	標準設定では, このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。 [ようこそ]ページを表示しないようにするには, [次回からこのページを表示しない]チェック・ボタンを選択します。
ウィザード・マッ プ	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードには次の項目が含まれます。 「[コマンドを選択]ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション>と<[埋め込みリ ンク]オプション>) >「[完了]ページ」
関連情報	「ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード」(104ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<左の表示 枠>	選択したコマンドのイラストです。
CII グリッド	CMDB で見つかった,選択した CI タイプとその子のすべての CI インスタンスを表示 する URL を作成します。詳細については,「[ダイレクト リンク パラメータ] - [CII グ リッド] ページ」(109ページ)を参照してください。 注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI の選択	選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、「[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI の選択]ページ」 (107ページ)を参照してください。 注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。

UI 要素	詳細
CI タイプ・ セレクタ	CI タイプ・セレクタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、「[ダイレクトリンクパラメータ]-[CI タイプセレクタ]ページ」(108ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
詳細	選択したコマンドの説明です。
影響 マップ	影響マップを外部アプリケーションに埋め込むURLを作成します。詳細については,「[ダイレクトリンクパラメータ] - [影響マップ]ページ」(110ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モデル・エ ディタ	モデル・エディタを, モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部 アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については,「[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデルエディタ]」(111ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
クエリ・エディ タ	選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め 込む URL を作成します。詳細については、「[ダイレクト リンク パラメータ]-[クエリエ ディタ]」(112ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
関連 CI	選択したビュー内で選択した CI とその直接の隣接を表示するトポロジ・マップを開く URLを作成します。詳細については、「[ダイレクト リンク パラメータ] – [関連 CI] ページ」(113ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
レポート・ ビューア	特定のレポートを開くURLを作成します。詳細については、「[ダイレクト リンクパラ メータ]-[レポート ビューア]ページ」(113ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
レポート・ ビューア - 保存済み レポート	保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開くURLを作成します。詳細については、「[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート]ページ」(114ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。

UI 要素	詳細
CI プロパ ティを表示	CI プロパティを表示する URL を作成します。詳細については、「[ダイレクト リンクパ ラメータ]-[CI プロパティを表示]ページ」(115ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビューを表 示	選択したビューおよび, 任意でそのビューに事前に選択したクエリ・ノードを表示する URLを作成します。詳細については, 「[ダイレクト リンクパラメータ] – [ビューを表示]ページ」(117ページ)を参照してください。
	注: [コンテキストリンクで開く]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビュー・トポ ロジを表 示	選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込む URLを作成します。詳細については、「[ダイレクト リンクパラメータ] – [ビュートポロジを表示]ページ」(115ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モー ドで開 始	選択したページで HP Universal CMDB を開くURL を作成します。詳細については,「[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ」(118ページ)を参照してください。
	注: [コンテキストリンクで開く]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ステップ	手順の現在のステップ。
ビュー エディ タ	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開くURLを作成しま す。詳細については、「[ダイレクトリンクパラメータ]ページ – [ビュー エディタ]ページ」 (116ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビュー・セ レクタ	ビュー・セレクタを外部 アプリケーションに埋め込み、アプリケーション内でビューを選択、表示できるようにする URL を作成します。詳細については、「「ダイレクト リンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ」(116ページ)を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI の選択]ページ

このウィザード・ページでは,選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部 アプリケーションに埋め込む URL を作成できます。

ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[Clの選択])>「[完了]ページ」
重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。

UI 要素	詳細
複数選択を 許可	CIの単一選択または複数選択を可能にします。
選択された ビュー	CIを選択する必要のあるビューを選択します。 ・ ・ をクリックして[ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。CIの選択に表示するビューを選択します。 ・ ・ ※ をクリックして選択したビューを削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI タイプ セレクタ]ページ

このウィザード・ページでは、外部アプリケーションに埋め込むことができる、選択した CI タイプの階層 ツリーまたはリスト への URL を作成できます。

重要情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは[完了]をクリックします。詳細については、「[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザード・マップ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク] > [Cl タイプ セレクタ]) > [[完 了]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
CI タイプ・セレク タ・モード	選択したCIタイプが階層ツリーまたはリストで表示されます。
UI 要素	詳細
------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------
非表示 CIT(ツ	ツリーに表 示しない CI タイプを選 択します。
·J—(Jæl)	 をクリックして、[Cl タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。 ツリーに表示する Cl タイプを選択します。
	• 🐱 をクリックして, 選択した CI タイプを削除します。
ルート CI タイプ ())リーのみ)	階層ツリーで、ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。
	 ● をクリックして、 [Cl タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。 階層 ツリーで、 ルート Cl タイプとして使用する Cl タイプを選択します。
	• をクリックして,選択した CI タイプを削除します。標準設定は[構成ア イテム]です。
選択モード	CIタイプの単一選択または複数選択を可能にします。
選択不可の	ツリーで選択できない CI タイプを選択します。
み)	 をクリックして、[Cl タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。 ツリー で選択できない Cl タイプを選択します。
	• 🐱 をクリックして, 選択した CI タイプを削除します。
可視 CIT(リスト のみ)	CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。
	 をクリックして、[CI タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。
	• 🞽 をクリックして, 選択した CI タイプを削除します。
	注: CIT をリストに表示することを選択した場合は、少なくとも1つのCIタイプを選択する必要があります。

[ダイレクト リンク パラメータ] - [CII グリッド]ページ

このウィザード・ページでは, CMDB で見つかった, 選択した CI タイプとその子のすべての CI インスタン スを表示 できます。

重要情報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、 「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは[完了]をクリックします。 詳細については、「[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックス」 (103ページ)を参照してください。
ウィザード・マップ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[Cll グリッド])>「[完 了]ページ」
関連情報	「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
クラス・タイプ	必要な CI タイプを選択します。
	• - をクリックして、必要な CI タイプを選択します。
	• 🔀 をクリックして、ボックスをクリアします。

[ダイレクト リンク パラメータ] - [影響 マップ]ページ

このウィザード・ページでは、影響分析マネージャで定義した影響分析ルールを実行できます。作成 された URL では、選択した重大度および状態に対するトリガ CI の影響を受けるすべての CI のシ ミュレーションが表示されたトポロジ・マップを埋め込むことができます。詳細については、「[影響分析 を実行]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してください。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[影響マップ])>「[完了]ページ」
関連 情報	「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)

UI 要素	詳細
CI タイプで フィルタ	影響分析結果に表示しないCIタイプを選択します。
	• 🔤 をクリックして,必要な CI タイプを選択します。
	• 😹 をクリックして, 選択した CI タイプを削除します。
ルール・バンド ル	影響ルールを実行できる場所を定義できます。
重大度	ドロップダウン・リストで必要な重大度を選択します。
	注:状態の重大度リストは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、「システム・タイプ・マネージャ」(445ページ)を参照してください。
	たとえば、トリガ・クエリ・ノードの重大度を「変更なし」以外として定義する影響 ルールを影響分析マネージャで作成するとします(「[影響ルール定義]ダイアログ・ ボックス」(437ページ)を参照してください)。この場合、「No Change」以外の重大 度(たとえば、「Plan」)を選択すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム 内の変化が起動されます。
	詳細については、「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照し てください。
トリガ Cl	• • • • • • • • • •
	• 😹 をクリックして, 選択した CI を削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデル エディタ]

このウィザード・ページでは, モデル・エディタを, モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部 アプリケーションに埋め込むことができます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[モデルエディタ])>「[完了]ページ」
関連 情報	「ビジネス CI モデル」(243ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
モデル名	モデル・エディタに表示するモデルを選択します。
	 ・
	• 🔀 をクリックして, 選択したモデルを削除します。
選択された	モデル・エディタのCIの選択で強調表示するCIを選択します。
快系中 U	• - をクリックして, [CIの選択]を開きます。
	• 😻 をクリックして, 選択した CI を削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[クエリ エディタ]

このウィザード・ページでは,選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[クエリエディタ])>「[完了]ページ」
関連 情報	「ビジネス CI モデル」(243ページ)

UI要素	詳細
クエリ名	モデル・エディタに表示するモデルを選択します。
	 をクリックして、[クエリを選択]ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・エディタに表示するクエリを選択します。
	• 🔀 をクリックして, 選択したクエリを削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ] – [関連 CI]ページ

このウィザード・ページでは、トポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。このマップは特定のCIと、ただ1つの関係の距離でそのCIにリンクされているすべてのCIを表示します。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[関連 Cl])>「[完了]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
CI	トポロジ・マップに表 示 する CI のタイプを選 択します。
	• - をクリックして, 必要な CI タイプを選択します。 [CI の選択] ダイアログ・ ボックスが開きます。
	• 📚 をクリックして, [CI]ボックスの値を削除します。
CI タイプでフィ ルタ	1つ以上のCIタイプの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。
	• 🔤 をクリックして,必要な CI タイプを選択します。
	• 🔀 をクリックして, [Cl タイプでフィルタ]ボックスの値を削除します。
表示に限定	特定のビューの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。
	 ・ をクリックして、必要なビューを選択します。 [ビュー セレクタ]ダイアログ・ ボックスが開きます。
	• 遂 をクリックして, [表示に限定]ボックス内の選択したビューを削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]ページ

このウィザード・ページでは、特定のレポートを開くURLを作成できます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[レポート ビューア])>「[完了]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
レポート・ タイプ	必要なレポート・タイプを選択します。 各レポート・タイプの詳細については、「レポート」(330ページ)を参照してください。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート] ページ

このウィザード・ページでは、保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開くURLを作成できます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[レポート ビューア-保存済みレポート]) >「[完了]ページ」

UI要素	詳細
レポート	必要な保存済みレポートを選択します。
	• - をクリックして, [レポートの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。 必要なトポロジまたはカスタム・レポートを選択します。
	• 🔀 をクリックして, 選択したレポートを削除します。
	保存済みレポートの詳細については、「レポート」(330ページ)を参照して ください。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI プロパティを表示]ページ

このウィザード・ページでは、既存のCIの基本情報を表示できます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[Clプロパティを表示])>「[完了]ペー ジ」
関連 情報	「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ソース CI の オ ブジェク ト ID	必要な CI を選択します。 をクリックして、ソース CI を選択し、そのオブジェクトを取得します。 [ソース CI の選択]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。
	• をクリックして、 [ソース CI のオブジェクト ID]ボックス内の値を削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビュートポロジを表示]ページ

このウィザード・ページでは, 選択したビューのトポロジ・マップを表示し, そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[ビュートポロジを表示])>「[完了] ページ」

UI要素	詳細
次のビューのトポロジを 表示	•
	• をクリックして、ビュー・ボックスの[トポロジの表示]で選択した ビューを削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]ページ – [ビュー エディタ]ページ

このウィザード・ページでは、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開くURL を作成できます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[ビュー エディタ])>「[完了]ページ」
関連 情報	「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ビュー名	• - をクリックして, URL によって開く必要があるビューを選択します。 [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• 🞽 をクリックして, [ビュー名]ボックスで選択したビューを削除します。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ

このウィザード・ページでは、ビュー・セレクタを外部アプリケーションに埋め込み、そのアプリケーションで ビューを選択、表示するようにできます。

重要 情報	•	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	•	ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については, 「[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。

ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([埋め込みリンク]>[ビュー セレクタ])>「[完了]ページ」
関連 情報	「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)

[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビューを表示]ページ

このウィザード・ページでは,特定のビュー,および任意でそのビューで選択した特定のノードのURL を作成できます。ビューが開くと,選択した CI がビュー内で選択された状態になります。ビューは IT ユ ニバース・マネージャ内で開きます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([コンテキストリンクで開く]>[ビューを表示])>「[完了] ページ」

以下では,使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
<左の表示枠>	選択したオプションのイラストです。
詳細表示枠(可 視性)	IT ユニバース・マネージャの詳細表示枠を表示または非表示にします。
ビュ ー結 果から CI を選択	CIを選択してそのオブジェクト ID を取得するときにクリックします(任意指定)。ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。
	 をクリックして、ターゲット・ビューで選択する CI を選び、そのオブジェクト ID を取得します。[CI の選択]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。
	• をクリックして、[ビュー結果から CI を選択]ボックスで選択した CI の オブジェクト ID を削除します。

UI要素	詳細
選択されたビュー	URL で開くターゲット・ビューです。
	 をクリックして、URLによって開くターゲット・ビューを選択します。 [ビューの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• をクリックして、[選択したビュー]ボックス内の選択したビューを削除します。
ビュー・ モー ド	次のビュー・オプションを使用できます。
	• トポロジの表示:ビュー内の全レイヤが表示されます。
	• ビュー内の関連 CI:現在のビュー内の選択された CI とその直接の隣接 が表示されます。
	• CMDB 内の関連 CI: CMDB 内の選択された CI とその直接の隣接が表示されます。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ

このウィザード・ページでは,たとえば[モデリングスタジオ]ページなど,選択したページで UCMDB アプリケーションを開始できます。

重要 情報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,「ダイレクト・リンクの 生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、 「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択]ページ」([コンテキストリンクで開く]>[モードで開始]ページ)>「[完 了]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<左の表示枠>	選択したモードのイラストです。
初期モード	選択したモードで UCMDB アプリケーションを開始します。

[完了]ページ

これは[ダイレクト リンクの生 成] ウィザード の最後のページです。ウィザードを閉じて URL を作 成 するときは[完了]をクリックします。[ダイレクト リンクの生 成] ダイアログ・ボックスが開きます。

重要情	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,「ダイレクト・リンクの
報	生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。
ウィザー	「[コマンドを選択]ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション>と<[埋め込みリンク]
ド・マップ	オプション>) >「[完了]ページ」

第4章: ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

本章の内容

ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み	120
UCMDB アプレット・タグ - 概 要	120
ダイレクト・リンク操作フロー	121

注:この章は、統合開発者にのみ関係があります。

ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部 アプリケーションに直接埋め込むことができます。 ダイレクト・リンクは、 ダイレクト・リンク・ウィザードを使用して作成する URL です。 詳細については、「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。

UCMDB アプレットは、次の方法で埋め込むことができます。

 URL そのものを使用して、CMDBのコンテンツを外部アプリケーションに表示します。たとえば、ダイレクト・リンク・ウィザードでURLを作成して、特定のCIプロパティを表示できます。HP Universal CMDBで有効でない場合、ログイン・ページが開きます。

注: URL を使用した統合を可能にするには、Iframe または新規ウィンドウでリンクを開く必要 があります。この場合、クロスサイト・スクリプティングに関する問題により、UCMDB アプレットを Javascript を使用して管理することはできません。たとえば、オブジェクト ID を使用して特定 CI プロパティを表示する URL を使用する場合、同じ URL を使用して他の CI プロパティを表示することはできません。

UCMDB アプレット・タグを使用して、UCMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込みます。これにより、統合開発者はHP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの一部を独自のアプリケーションの一部として表示できます。また、Javascriptを使用した埋め込みHP Universal CMDB ユーザ・インタフェースとのやり取りが可能になります。

UCMDB アプレット・タグ - 概要

UCMDB アプレット・タグは、UCMDB アプレットの実行に必要な環境(HTML, Javascript, および サーバ・セッションのパラメータ)を作成します。次のいずれかの場合、タグの背後にあるコードにより、HP Universal CMDB サーバにログインできます。

- ログイン・パラメータが指定されていて、ユーザがまだログインしていない
- clear session パラメータが true である。

ユーザ・セッションが確立されると、JSP プロセッサが結果を出すまで、タグは必要なアプレット環境 (HTML および Javascript コード)の記述を続けます。生成された HTML ページには、指定したサー バから UCMDB アプレットをロードするのに必要な Javascript コードが含まれます。エラー発生時に は、指定されたエラー文字列がページに印刷されます。この文字列は、userErrorMessage パラメー タを使用してカスタマイズできます。また、エラー処理シナリオを開始するための HTML 要素 および HTML ラップ Javascript コードを含むことがあります。

UCMDB アプレット・タグのユース・ケース

```
<ucmdb:ucmdb_applet
serverConnectionString="http://server_name.server_domain:server_port"
serverType="UCMDB"
directLinkParameters="initViewName=NetworkTopology"
userName="user-name"
userPassword="password"
customerId="1"
encoded="false"
printDebugLogs="true"
userErrorMessage="This is your general error"
navigation="false"
clearSessionCookies="false"
command="ShowCISelector"/>
```

注意: directLinkParameters は、ダイレクト・リンク・ウィザードで作成された URL から取得します。各パラメータの値を、表示どおりにタグに挿入します。上記に表示されてないパラメータ値が URL に含まれている場合、それらをコピーして、タグの directLinkParameters 行に追加します。ダイレクト・リンクを作成する方法の詳細については、「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」(104ページ)を参照してください。

UCMDB アプレット・タグは **<HP Universal CMDBルート・フォルダ>\deploy\ucmdb-ui\WEB-**INF\tagsmdb_applet.tag にあります。

UCMDB アプレット・タグを外部 アプリケーション・サーバにコピーできます。次の場合, UCMDB アプレット・タグは HP Universal CMDB サーバからのログイン・データを要求します。

- 外部アプリケーション・サーバが JSP タグとやり取りできる場合。
- 外部アプリケーション・サーバおよびブラウザが HP Universal CMDB サーバにアクセスできる場合。

ダイレクト・リンク操作フロー

本項では,ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部 マシンに埋め込むさまざまなシナリオを説明します。

本項の内容

- 「通常のログイン」(122ページ)
- 「ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み」(123ページ)
- 「UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み」(124ページ)

通常のログイン

このフローでは、HP Universal CMDB サーバへの通常のログインについて説明します。これは、ダイレクト・リンク・フローの基本情報となります。



- 1. ダイレクト・リンク URL をブラウザに入力して、HP Universal CMDB サーバにログインします。
- 2. ブラウザはログイン要求をHP Universal CMDB サーバに送信します。
- 3. サーバはユーザの資格情報を確認し、必要に応じてユーザ・セッションを作成します。
- 4. サーバは要求された HP Universal CMDB の最初のページを返します。
- 5. ブラウザは code base location パラメータ(このパラメータは、JVM に UCMDB アプレット・ファイル

のロード元を指示します)をHP Universal CMDB サーバとして指定して, Java 仮想マシン (JVM)をロードします。

6. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード された JVM 間で転送されます。

この時点で、UCMDB アプレットがロードされ、HP Universal CMDB がやり取りするサーバとして認識されます。

ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは, ダイレクト・リンクを使用して, 新しいブラウザ・フレームで UCMDB アプレットを開く(指定したコンテキストで開く)方法を示します。



- 1. 外部 アプリケーションに, UCMDB アプレットの表示を必要とするページがあります。
- 2. 返されたページには、Iframe または新しいブラウザ・ウィンド ウでダイレクト・リンクを開くディレクティ ブが含まれます。
- 3. ブラウザは, ダイレクト・リンクをフレーム URL として新しいフレーム(Iframe または新しいウィンドウ)を開きます。
- 4. 新しいフレームは、ダイレクト・リンクを HP Universal CMDB サーバに送信します。

- 5. ユーザがまだ HP Universal CMDB, HP Universal CMDB はログイン・ページを表示し, ユーザが 資格情報を入力してログイン・ボタンをクリックするまで待機します。
- 6. 必要に応じて,ユーザ・セッションが作成されます。
- 7. HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロード するディレクティブを含 むページを返します。
- 8. ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードするディレクティブを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を "コード・ベース" として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 9. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード された JVM 間で転送されます。

注意: HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンからアクセスできる必要があります。

UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、UCMDB アプレット・タグをダイレクト・リンクとともに使用して、外部アプリケーション・ ページに UCMDB アプレット(指定したコンテキストで開いた)を埋め込む方法を示します。



- 1. UCMDB アプレット・タグが、外部アプリケーションの処理済み JSP に格納されます。
- 2. UCMDB アプレット・タグは指定されたパラメータを使用して, HP Universal CMDB サーバへの HTTP/HTTPS 接続を作成し, アプレット HTML スニペット・コードを要求します。
- ユーザがまだログインしていない場合、UCMDB アプレット・タグのパラメータが使用されます(この 手順の参照情報については、タグ自体を参照してください)。ログインに失敗すると、UCMDB ア プレット・タグは、事前設定されているエラー・メッセージまたはUCMDB アプレット・タグのパラメー タで指定されたエラー・メッセージを返します。
- HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを(埋め込み Javascript とともに)返します。これで、外部アプリケーションはこのスニペット・コードをページに実装し、ページをブラウザに送信できます。
- 5. 外部 アプリケーションは、HTML スニペット・コードを含む完了 ページをブラウザに送信します。
- 6. ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を" コード・ベース"として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 7. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード された JVM 間で転送されます。

注意: HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンおよび外部 アプリケーション・マシンの両方 からアクセスできる必要 があります。

第5章: CI セレクタでの作業

本章の内容

CI セレクタの概要	126
ブラウザ・モードでのビューの表示方法	126
検索 モードでの CI の検索 方 法	127
CI セレクタ表 示 オプションの修 正 方 法	128
CI の選 択 のユーザ・インタフェース	. 129
トラブルシューティングおよび制限事項	. 143

CI セレクタの概要

注: CI の選択は,前のバージョンのHP Universal CMDB ではビュー・エクスプローラと呼ばれていました。

CI の選択では, HP Universal CMDB 内のIT ユニバース・モデルの要素をビューを使って表示します。 HP Universal CMDB では, CI の選択は IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオの左側の 表示枠に表示されます。

CIの選択でビューを選択すると、CI間で定義されている関係に従って、ビューに含まれている構成ア イテム(CI)が階層ツリー形式で表示されます。TQLクエリに一致するCIが見つからない場合は、 ビューは空の場合があります。ビューの詳細については、「ビュー形式」(238ページ)を参照してください。

CI の選択を使用し, ビューを選択して CI を検索できます。ビューを選択して, CI のリストの参照や, 名前または CI タイプで特定の CI の検索を行うことができます。後で使うために検索条件を保存す ることもできます。

CI の選択のコンポーネントの詳細については、「CI の選択のユーザ・インタフェース」(129ページ)を参照してください。

ブラウザ・モードでのビューの表示方法

CIの選択を参照モードに設定すると、選択したビューの内容を表示できます。参照モードでのCIの 選択のユーザ・インタフェースの詳細については、「CIセレクタ」(131ページ)を参照してください。

本項の内容

- •「前提条件」(127ページ)
- 「表示するビューの選択」(127ページ)

1. 前提条件

[CIの選択]表示枠で, [ビューの参照]モードを選択します。

2. 表示するビューの選択

検索モードでのCIの検索方法

CI の選択の検索ツールを使用すると、特定のCI を検索できます。検索は CMDB 全体で実行されます。 CI の選択の検索ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、「CI セレクタ」(131ページ) を参照してください。

本項の内容

- •「前提条件」(127ページ)
- •「CI名またはグローバルIDによる検索」(127ページ)
- •「構成アイテム・タイプによる検索」(127ページ)
- •「検索の実行と結果の並べ替え」(128ページ)
- •「高度な検索の実行」(128ページ)

前提条件

[CIの選択]表示枠で[CIの検索]モードを選択し、[簡易]タブを選択します。

CI名またはグローバル ID による検索

名前を使って CI を検索するには、 [CI 名] ボックスに CI の名前, または名前の一部を表す文字列 を入力します。検索結果には、入力文字列を名前のどこか(定義したほかの検索条件の境界内) に含む、すべての CI が返されます。

[CI名]ボックスに CI のグローバル ID を入力することもできます。この場合, 完全なグローバル ID を入力する必要があります。

注: CI名による検索のオプションでは、大文字と小文字は区別されません。

構成アイテム・タイプによる検索

[CI タイプ]ボックスを使用して CI を検索できます。この検索では、 [CI タイプ]ボックスで指定したタイプの CI が返されます。

省略記号 🔤 ボタンをクリックして, 必要な CI タイプを選択します。 [**CI タイプ**]ボックスに CIT を手 動で入力することはできません。 [Cl タイプ]ボックスで Cl を定義したら、異なるアプリケーションに移動するまで、または異なる値を定義するまで、HP Universal CMDB によって選択内容が記憶されます。

検索の実行と結果の並べ替え

検索を実行します。結果は[CIの選択]表示枠の下部に表示され、エントリごとに CI名とタイプが 示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。

検索結果で CI を選択すると、トポロジ・マップに、その CI が CMDB 内の関連する CI とともに表示されます。

(任意指定), [最後の検索パターンを保存] 🔲 ボタンをクリックして検索条件を保存し, 検索名を 入力します。詳細については,「[検索基準を保存]ダイアログ・ボックス」(142ページ)を参照してくだ さい。

高度な検索の実行

ほかの検索オプションでは、 [詳細]タブを選択できます。 CI条件検索の詳細については、 「[CI条件検索]ダイアログ・ボックス」(129ページ)を参照してください。 実行中のソフトウェア検索の詳細については、 「[ソフトウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス」(141ページ)を参照してください。

CI セレクタ表示オプションの修正方法

CI の選択の表示オプションは変更できます。 これらのオプションは, インフラストラクチャ設定マネージャで設定します。

注意: インフラストラクチャ設定マネージャで特定の設定を変更すると、HP Universal CMDB の パフォーマンスが低下する場合があります。設定を変更する際は、まずHP ソフトウェア・サポート または HP プロフェッショナル・サービス担当者にお問い合わせください。

本項の内容

- 「前提条件」(128ページ)
- 「選択した設定の変更」(128ページ)
- 1. 前提条件

[マネージャ]>[管理]>[インフラストラクチャ設定マネージャ]の順に選択して、インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします。

2. 選択した設定の変更

次の設定を変更できます。

- **すぐに表示される子の数**: CIの選択で親クエリ・ノードを展開したときに即座に表示される子の数。
- 子の最大数: CIの選択の親クエリ・ノードの下に表示される子の最大数。

- 最大検索結果サイズ:1回の検索操作で返されるCMDBインスタンスの最大数。
- 最近使ったビュー・リストのサイズ:ユーザごとに格納する最近使ったビューの最大数。

CIの選択のユーザ・インタフェース

本項の内容

[CI条件検索]ダイアログ・ボックス	129
CI セレクタ	131
「検索を整理]ダイアログ・ボックス	141
[ソフトウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス	.141
[検索基準を保存]ダイアログ・ボックス	142

[CI条件検索]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。

利用方 法	[CIの選択]で,検索モードの[詳細]タブを選択し,[CI条件検索]の横の省略記号のボタンをクリックします。
関連情 報	「CI セレクタの概 要」(126ページ)

UI要素	詳細
属性名	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
	注: [属性名]リストから[表示ラベル]を選択する場合は, CI名/ 関連する CI名を使用して[User Label 類似(大文字小文字の 区別なし)('%'を使用)]条件を追加できるので, [演算子]リスト に演算子[類似(大文字小文字の区別なし)]が表示されませ ん。
CI 名	検索するCIの名前を入力します。
CI タイプ	省略記号 🚥 ボタンをクリックして、 ツリーから CI タイプを選択します。

UI要素	詳細
統合ポイント	フェデレート CI でも検索を実行する場合は, 省略記号 🚥 ボタンをク リックして, CI のターゲット統合ポイントを選択します。
	注: 切断された統合ポイントを検索に選択すると, 検索の実行時 にエラー・メッセージが表示され, ローカルの検索結果を表示するど うかを質問してきます。
演算子	ドロップダウン・リストから演算子を選択します。
関連するCI名	検索する関連 CI の名前を入力します。
関連する CI タイプ	省略記号 🛄 ボタンをクリックして, 関連 CI で検索するためにツリーから CI タイプを選択します。
関係タイプ	省略記号 🛄 ボタンをクリックして, 関連 CI で検索するためにツリーから関係を選択します。
CI 条件で検索	チェック・ボックスを選択すると、指定した条件で CIの検索を実行します。
	各行は、指定する属性条件を表します。[And]/[Or]列と[大括弧]列 を使用して複数の条件をリンクします。定義した内容と反対の条件構 文を使用する場合に[NOT]を選択します。これにより、より正確な論 理ステートメントを構成して必要な結果を生成できます。
	◆ 属性条件の追加: 属性条件行を追加します。 属性名, 演算子, 値を選択して属性条件を定義します。
	選択した行の削除 :選択した属性条件を削除します。
	2 選択した行を上へ移動:選択した行を上へ移動します。
	✓ 選択した行を下へ移動:選択した行を下へ移動します。
	基準を表示:選択した条件の基準をポップアップ・ダイアログ・ボックスに表示します。
関連 CI 基準で検索	指定した条件で、CIに関連するCIを検索するときに選択します。
	注: [属性名] リストから[表示ラベル]を選択する場合は、CI名/ 関連する CI名を使用して[User Label 類似(大文字小文字の 区別なし)('%'を使用)]条件を追加できるので、[演算子]リスト に演算子[類似(大文字小文字の区別なし)]が表示されませ ん。

UI要素	詳細
関連 CI 基準で検索	指定した CI または CI タイプに関連する CI を検索するときに選択します。
値	属性条件の値を入力します。

CI セレクタ

ビューを選択して CI を検索できます。

利用方法	[IT ユニバース マネージャ]ページとモデリング・スタジオの左 側 の表 示 枠 に表 示 され ます。
重要情報	CIの選択では, ビューの参照モードとCIの検索モードの2つの機能を使用できます。
	 ビューの参照モードでは、ビューを検索、表示したり、ビューを参照して特定の CIを検索できます。ショートカット・メニューから CI に対する操作を実行することも できます。
	 CIの検索モードでは、CMDB内のCIを、名前やCIタイプで検索できます。
関連タスク	「ブラウザ・モード でのビューの表 示 方 法」(126ページ)
	「検索モードでのCIの検索方法」(127ページ)
関連情報	「CI セレクタの概要」(126ページ)

ビューの参照モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
S	CI ツリーの更新 :ほかのユーザによって変更された可能性がある 階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
<p></p>	テンプレート・パラメータを表示 :[テンプレート パラメータ値]ダイア ログ・ボックスが表示され,選択したテンプレートのパラメータを編 集できます。
	注: このボタンは, テンプレートが選択されている場合のみ有 効です。

UI要素	詳細
⇒	選択した CI をモデルビューに追加 :選択した CI が現在のモデル またはビューに追加されます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
() P	関連 CI としてモデルに追加:選択した CI が関連 CI としてモデ ルに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみ アクティブになります。
69	選択したモデルを新しいタブで開く:選択したモデルをモデル・エ ディタで開きます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択している 場合のみアクティブになります。
	選択した CI を含むモデルを表示:選択した CI を含むモデルのリ ストが表示されます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
T.	IT ユニバース・マネージャでは、これは[ビュー定義の表示]を表し ており、現在のビューに対するモデリング・スタジオのビュー定義に 直接移動できます。
	モデリング・スタジオでは, これは[選択されたビューを開く]を表して おり, 選択したビューをエディタ表示枠で開きます。
- AB	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択した CI やモデルを 含むビューのリストが表示されます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
7.4	選択したモデルのビューを生成:[新規ビューの作成]ダイアログ・ ボックスが開き,選択したモデルに基づいてビューを構築できます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している 場合のみアクティブになります。

UI要素	詳細
	 ディスカバリおよび変更のサマリを表示:最初にCIを検出した DFM ジョブを手動で開始することによって、選択したビュー内のす べての CI が再検出されます。詳細については、「[ディスカバリのス テータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス」(234ページ)を参照し てください。 注:このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されま す。
8	ビューへのダイレクト・リンクを生成:ダイレクト・リンク・ウィザードの 生成を使用してビューへのダイレクト・リンクを作成できます。
	注: このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。

UI要素	詳細
E	ブラウズ結果をファイルヘエクスポート : ブラウズ結果をエクスポート できます。 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
	 Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls (Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF : テーブルのデータは, PDF 形式 でエクスポートされます。
	注: CIを PDF 形式にエクスポートする場合, エクスポート 可能な最大 CI数はおよそ20,000 CIですが, エクスポー トする CI に関連付けられたテキストの量に応じて変わりま す。レポートが読みやすくなるよう表示列の適切な数を選 択することも重要です。
	• RTF : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式 でエクスポートされます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ 区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには, カンマ(,)を区切り文字として定義する必要がありま す。Windows では, 区切り文字の値を確認または変更 するには, コントロール・パネルの[地域のオプション]を開い て, [数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義され ていることを確認します。Linux では, 区切り文字はCSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディ タで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント: レポートから HTML コードを抽出するには、次の手順 を実行します。
	• ファイルを HTML エディタで開きます。
	• 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。

UI要素	詳細
	スナップショット : スナップショットを使用できます。 次のオプションを 利用できます。
	 スナップショットを保存する:選択して[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックスを開き、ビューのスナップショットを保存します。詳細については、「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」(233ページ)を参照してください。
	• スナップショットを比較する:スナップショット比較レポートを実行 する場合に選択します。詳細については、「スナップショット比 較レポート」(362ページ)を参照してください。
	 スナップショットをスケジュールする:選択すると、[スナップショットをスケジュールする]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)を参照してください。
	 スケジュールされたスナップショット・ジョブを表示:選択すると、 [ジョブリスト]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」(382ページ)を参照してください。
	注: このボタンは,IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	ビュー・ベース・レポート :選択したビューのトポロジ・レポートが表示されます。
	注:このボタンは,IT ユニバース・マネージャにのみ表 示されます。
	アセット・レポート :選択したビューのアセット・レポートを開きます。 詳細については、「アセット・レポート」(342ページ)を参照してくだ さい。
	注:このボタンは,IT ユニバース・マネージャにのみ表 示されます。
	[ビュー]ボックスの右にある省略記号のボタンをクリックすると, [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 フォルダ・ツリーを 参照して,表示するビューを見つけることができます。
© ©	[検索]ボックスに入力した文字列の次の検索結果または前の 検索結果に移動できます。

UI要素	詳細
<ci></ci>	現在選択されているビューに含まれているCIです。
<ツールチップ>	カーソルを CI に合わせると, 関連する CI タイプのツールチップが表示されます。
検索	[検索]ボックスに CI 名またはその一部を入力して, CI ツリーで CI を検索します。
ビュー-	[ビュー]ボックスには、現在選択されているビューが表示されます。 表示するビューを選択するには、[ビュー]ボックスの右側にある下 矢印をクリックします。これにより、ごく最近にアクセスしたビューを 含むビューの簡略リストが表示されます。リストの下部にある矢印 をクリックすると、リスト全体をスクロールできます。最近アクセスした ビューは、ドロップダウン・リストの上部の分割線の上に表示されま す。ビューの完全なリストは、分割線の下に表示されます。 あるいは、カーソルをリスト内に合わせ、ビューの名前を入力しま す。入力した最初の数文字が既存のエントリに一致する場合 は、HP Universal CMDB によりビューの名前の残りが入力されま す。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合 は、ー致するビューがすべてリストに表示されます。

CIの検索モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	検索結果をテーブルで表示 :別の表示枠が開いて検索結果 に含まれる CI がテーブルに表示されます。
	注: このボタンは,IT ユニバース・マネージャにのみ表示され ます。
⇒	選択した CI をモデル/ビューに追加 :選択した CI が現在のモデ ルまたはビューに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

UI要素	詳細
(@	関連 CI としてモデルに追加 :選択した CI が関連 CI としてモデ ルに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみ アクティブになります。
69	選択したモデルを新しいタブで開く :選択したモデルをモデル・エ ディタで開きます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択してい る場合のみアクティブになります。
	選択した CI を含むモデルを表示:選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
L.	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択した CI やモデルを 含むビューのリストが表示されます。
	注: このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
₩.	選択したモデルのビューを生成:[新規ビューの作成]ダイアログ・ ボックスが開き,選択したモデルに基づいてビューを構築できま す。
	注: このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択してい る場合のみアクティブになります。

UI要素	詳細
	検索結果をファイルヘエクスポート :検索結果をエクスポートでき ます。次のオプションからエクスポート形式を選択します。
	• Excel:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls (Excel)ファイル形式に整形されます。
	• PDF :テーブルのデータは, PDF 形式 でエクスポートされます。
	注: CIを PDF 形式にエクスポートする場合, エクスポート可能な最大 CI数はおよそ20,000 CIですが, エクスポートする CI に関連付けられたテキストの量に応じて変わります。レポートが読みやすくなるよう表示列の適切な数を選択することも重要です。
	• RTF:テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポート されます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには, カンマ(,)を区切り文字として定義する必要がありま す。Windows では, 区切り文字の値を確認または変更 するには, コントロール・パネルの[地域のオプション]を開 いて, [数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義 されていることを確認します。Linux では, 区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは, テキスト・エディタまたは XML エディ タで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント: レポートから HTML コードを抽出するには、次の手順を実行します。
	 ファイルを HTML エディタで開きます。 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。
	保存した検索のリストを管理:[検索の整理]ダイアログ・ボック スが開き,保存した検索のリストから検索を編集または削除で きます。

UI要素	詳細
*	検索条件パネルを折りたたみ/検索条件パネルを展開:検索条件領域を折りたたむまたは展開します。
9	検索を開始: 検索を実行します。検索結果は、[CIの選択] 表示枠の下部に表示されます。
	最後の検索パターンを保存 :後で使用するために現在の検索 条件を保存します。
	[検索]フィールドに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。
<検索結果>	検索の実行後,結果は[CIの選択]表示枠の下部にリストされます。結果は、次の2つのカラムに表示されます。
	• 名前: CI の名前が含まれます。
	• CI タイプ: CI の CI タイプが含まれます。
	CI またはビューの名前が短縮されている場合は、ポインタをエントリに合わせると完全な名前が表示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。
[詳細]タブ	次の詳細検索オプションを利用できます。
	 CI 条件検索: 属性条件, 関連 CI, または関連 CI の属性 条件に基づいて CI を検索できます。
	• 実行中のソフトウェア検索:ホストで実行されているアプリ ケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプ リケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリ ケーションを検索できます。
	検索ごとに、省略記号 🔤 ボタンをクリックして検索ダイアログ・
	ボックスを開きます。検索を実行した後に、 [保存] 🛅 をクリック して今後の使用のために検索を保存します。
CI 名	名前で CI を検索するには, 検索する CI の名前またはグローバ ル ID を入力します。
Cl タイプ	CI タイプで CI を検索 するには,省略記号 🚥 ボタンをクリックし て[構成アイテムタイプの選択]ダイアログ・ボックスから CI を選択 します。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, モデル 内の CI を検索します。

UI要素	詳細
検索	保存した検索のドロップダウン・リストから検索を選択します。
検索結果数	[検索]ボックスの下の検索結果数には、検索で検出された Cl の合計数が表示されます。
[簡易]タブ	[簡易]タブでは,標準の検索機能を使用できます。詳細な検 索オプションを使用する場合は,[詳細]タブをクリックします。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
<it ユニバース・マ<br="">ネージャのショート カット・メニュー・オプ ション></it>	IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップの通常のショートカット・メニュー は, CI の選択からも利用できます。 メニュー・オプションの詳細については, 「[IT ユニバース マネージャ]ページ」(213ページ)を参照してください。
追加	選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。
	注: この機能は, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
関連 CI としてモデ ルに追加	選択した CI が関連 CI として現在のモデルに追加されます。
	注: この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルの ビューを生成	選択すると,現在のモデルに基づいてビューが作成されます。 [新規ビューの 作成]ダイアログ・ボックスが開き,適用するパースペクティブを選択できま す。
	注: この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルを新 しいタブで開く	選択したモデルがモデル・エディタの新しいタブで開きます。
	注: この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれる モ デルを表 示	[選択した CI を含むモデルを表示]を選択すると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	注:このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

メニュー項目	詳細
含まれるビューを表 示	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]を選択すると,選択した CI また はモデルを含むビューのリストが表示されます。
	注:このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

[検索を整理]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、保存した検索のリストから検索を編集または削除できます。

利用方法	[CIの選択]で[保存した検索のリストを管理] 🚰 ボタンをクリックします。
関連情報	「CI セレクタの概要」(126ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	クリックして, 選択した検索を編集します。簡易検索の場合は, [CI簡易検 索]ダイアログ・ボックスが開き, CIの名前やタイプを編集できます。 CI条件検索 の場合は, [CI条件検索]ダイアログ・ボックスが開きます。
×	選択した検索を削除する場合にクリックします。
1	クリックすると、検索ツリーが展開されます。
1	クリックすると、検索ツリーが折りたたまれます。
<検索ツリー>	保存したすべての検索がソリー形式で表示されます。
検索	[検索]ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、 リスト内を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリック します。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリック します。

[ソフト ウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索したり、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。

モデリング・ガイド 第5章: CI セレクタでの作業

利用 方法	[CIの選択]で,検索モードの[詳細]タブを選択し,[実行中のソフトウェア検索]の横の省略記号のボタンをクリックします。
関連 情報	「CI セレクタの概要」(126ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ホスト名	検索するノードの名前を入力します。
実行中のソフトウェア	ドロップダウン・リストから実行中のソフトウェア CI を選択します。
	注: ドロップダウン・リストには、利用可能な実行中のソフトウェア CI タ イプの正確なリストが表示されないことがあります([任意]オプションの みが表示される)。この場合、ホスト名検索のみを実行します。
検索対象	[RunningSoftware]または[Node]を選択します。
	注: 特定のノードで実行されている実行中のソフトウェア CI を検索す るには、ノード名を入力し、必要な実行中のソフトウェア CI を選択し て、 [検索]をクリックして検索を実行します。

[検索基準を保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、後で使用するために現在の検索条件を保存できます。

利用方法	[CIの選択]の検索モードで, [保存] 🛅 をクリックします。
関連情報	「CI セレクタの概要」(126ページ)

UI要素	詳細
既存のクエ リ	既存の検索のリストがソリー形式で表示されます。
名前	現在の検索の名前を入力します。
検索	[検索]ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、 リスト内を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では, CIの選択のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

利用できないビューとCI

次の理由から, [CIの選択]の[ビュー]リストに CMDB内のすべてのビューが表示されない場合や, ビューの内容が表示されない場合があります。

- [ビュー]リストには、必要な権限をユーザが持っているビューだけが含まれます。同様に、検索モードは、[検索を許可]全般アクション権限を持っている場合のみ利用できます。権限を設定するには、[マネージャ]>[管理]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、「ロール・マネージャ」(『HP Universal CMDB 管理ガイド』)を参照してください。
- 現在非アクティブなビューは、[ビュー]リストに赤色に表示されますが、これらのビューを選択することはできません。IT ユニバース・マネージャでは、非アクティブなビューは淡い色のテキストで表示されます。
- 定義済みビューで、ユーザがライセンスを持っていないビューは、[ビュー]リストに表示されますが、
 これらのビューには CI は含まれていません。定義済みビューの詳細については、「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

注: 1 つ以上のクエリ・ノードを TQL クエリから削除した後,変更内容をビューに更新するのに時間がかかる場合があります。この間,削除した CI はビューに表示されています。ビューが更新される前に,削除した CI を選択すると,エラー・メッセージが表示されます。[更新]ボタンをクリックしてビューを更新してください。

第6章:トポロジ・マップの作業

本章の内容

トポロジ・マップの概要	. 144
大きなビューの処理	. 144
トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス	145

トポロジ・マップの概要

トポロジ・マップは、ビューのグラフィック表示を提供します。ビューの1レイヤ内のすべての CI がアイコンで表され、それらをつなぐ線が CI 間の関係を表します。トポロジ・マップ内でも、左の表示枠の[CI の選択]でも、CIを選択できます。[CI の選択]でドリル・ダウンして、ビューの別のレイヤをトポロジ・マップに表示することもできます。

CI のラベルがアイコンの下に表示されます。[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックスの[全般]で,行 ごとの最大文字数と最大行数を設定できます。詳細については,「[ユーザプリファレンス]ダイアロ グ・ボックス」(91ページ)を参照してください。

ビューの階層 セットによって作成された,別の CI 階層を持つ CI は,トポロジ・マップで下 矢印 アイコンと,すべてのサブレイヤの CI の合計数を表示するカウント・インジケータとともに表示されます。 矢印をクリックして,サブレイヤに含まれる CI を表示できます。



192.168.214.0/2

CI アイコンにポインタを置いたままにすると、CI の詳細がツールチップに表示されます。カウント・インジ ケータにポインタを置いたままにすると、CI の下 にある CI のブレークダウンが CI タイプごとにツールチッ プに表示されます。

トポロジ・マップは、IT ユニバース・データに変更があった場合、自動的かつ動的に更新されます。 データ・フロー管理プロセスにより検出された新しい CI などがこの例です。

トポロジ・マップの上にあるツールバーとメイン・メニューを使って, ズームイン, トポロジ・マップのレイアウトの変更, トポロジ・マップの印刷ができます。このほかに, トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右 クリックすると表示されるショートカット・メニューから使用できる機能もあります。

大きなビューの処理

トポロジ・マップでは,単一のレイヤに 900 個を超える CI が含まれているビューは表示 できません。 CI の数が 900 個を超えるレイヤを含んでいるビューを選択すると、トポロジ・マップの表示が空白になります。 900 を超える CI があるレイヤは、テキスト・モードでテーブルに表示 できます。

トポロジ・マップで大きなビューを表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

• モデリング・スタジオでビューを再定義して、TQL クエリの結果を減らします。詳細については、 「[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス」(266ページ)を参照してください。
- ビューのレイヤの CI を再分配するには、ビューに異なる階層を定義します。階層の定義の詳細 については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。
- 設定パラメータで,許可されるCIの最大数を設定しなおします。インフラストラクチャ設定マネージャの[視覚化設定]にある[TSの最大オブジェクト数 GUI]パラメータを選択します。ただし、レイヤあたりのCIの最大数を増やすと、トポロジ・マップの再描画が非常に遅くなる可能性があります。

インフラストラクチャ設定マネージャの詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のインフラストラクチャ設定マネージャのユーザ・インタフェースを参照してください。

トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス

本項の内容

画像にマップをエクスポート1	145
レイアウト・プロパティ・ダイアログ・ボックス1	146
メイン・メニュー	160
[印刷]ダイアログ・ボックス1	161
[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス1	162
[印刷設定]ダイアログ・ボックス1	162
ツールバー・オプション1	163
[トポロジ マップ] サイドバー1	172

画像にマップをエクスポート

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップをファイルに保存できます。

利用方法	トポロジ・マップから[操作]>[画像にマップをエクスポート]を選択します。	
関連タスク	「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法」(197ページ)	
関連情報	 「トポロジ・マップの概要」(144ページ) 	
	 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ) 	

UI 要素	詳細
実際のサイズ	グラフ・ノードのサイズが最大になるようにしてビューを保 存します。

UI要素	詳細
現在のズーム・レベル	ビューをトポロジ・マップに表示されているとおりに保存しま す。たとえば、 [インタラクティブ ズーム]モードを使って ビューの倍率を下げていた場合は、保存されたビューで もグラフ・ノードが小さく表示されます。詳細については、 「インタラクティブ・ズーム」(167ページ)を参照してくださ い。
カ スタム	[幅]ボックスと[高さ]ボックスで,保存するビューのサイズ を指定します。
ファイル名	必要なファイル名と保存場所を指定します(または、 [参 照]をクリックしてファイルと保存場所を検索します)。
用紙にフィット	ビューを拡大または縮小して表示枠にぴったり合わせま す。
画像品質	印刷するマップの品質です。[高], [中間], または[低] を選択します。
選択済みオブジェクトのみ	マップ内で選択されているグラフ・ノード/CI とそれらの関 係だけを保存します。
タイプ	必要なファイル形式を選択します。
可視ウィンドウのみ	グラフのうち表示枠内に表示されている部分だけを保存 します。

レイアウト・プロパティ・ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビュー内の特定のレイヤのレイアウトをカスタマイズして、可能な範囲内 で最大限明確なプレゼンテーションを実現することによって、管理対象のデータをより的確に把握し て監視できるようになります。

利用方法	[レイアウト]>[レイアウト プロパティ]を選択します。	
重要情報	レイヤー内に表示されるグラフのノードおよび関係の論理的な位置を割り当てるこ とによって、ビューのレイヤーのレイアウトを定義します。 レイヤのレイアウトをカスタマ イズするには、標準設定値を変更します。	
	レイアウト定義の設定は,特定のレイヤに対してのみできます。定義を別のレイヤ や別のビューに対して保存することはできません。	
	パラメータ値はピクセル数です。	
関連情報	 「トポロジ・マップの概要」(144ページ) 	
	 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ) 	

[グローバル]タブ

この領域では、グローバルなレイアウト・パラメータを定義できます。

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[グローバリレ]タブをクリックします。
重要情報	[グローバル]タブでは, レイアウトのグローバルな設定を定義できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
描画にフィット	次のいずれかのオプションを選択して、 レイアウトを調整します。
	• 用紙に合わせる:レイアウトを画面の用紙に合わせます。
	• 印刷に合わせる:レイアウトを印刷ページに合わせます。
	• フィットなし:レイアウトを変更しません。
ラベリング	[ラベリングの実行]を選択して、 レイアウトの再描画時にラベルが表示されるようにします。 このフィールドが選択されていないと、 再描画レイアウトにラベルは表示されません。
スタイル	[スタイルを強制的に適用]を選択し、選択したレイアウトをトポロジ・マップのネストされたすべてのレイヤに適用します。

[すべてのスタイル]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで [すべてのスタイル]タブをクリックします。



UI要素	詳細
コンポーネント	非接続グラフ内のコンポーネント間の間隔は、各コンポーネントのサイズに 基づいた定数値と比例値で構成されます。
	[コンポーネントの検出]を選択すると、非接続コンポーネントを表示できます。すべてのコンポーネントを一緒にレイアウトすることも、ほかのコンポーネントに関係なく個別にレイアウトすることもできます。コンポーネントのグループ化を選択すると、各コンポーネントがレイアウトされ、その後一緒にまとめられます。
	[コンポーネントの検出]が選択されている場合,次の設定の値を入力します。
	 コンスタント・スペーシング:それぞれの非接続コンポーネントの周囲の固定間隔(水平および垂直)を設定します。 標準設定値:20
	 プロポーショナル・スペーシング:それぞれの非接続コンポーネントの周囲の間隔(水平および垂直)を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 標準設定値:0.05
切断されたノード	非接続グラフ内のグラフ・ノード間の間隔は,各グラフ・ノードのサイズに基 づいた定数値と比例値で構成されます。
	[切断されたノードの検出]を選択すると,非接続グラフ・ノードを表示できます。非接続グラフ・ノードをグループ化して1つのコンポーネントにすることも,各ノードを個別にレイアウトすることもできます。
	[切断されたノードの検出]が選択されている場合,次の設定の値を入力 します。
	 コンスタント・スペーシング: それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の固定間隔(水平および垂直)を設定します。 標準設定値:20
	 プロポーショナル・スペーシング:それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の間隔(水平および垂直)を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 標準設定値:0.05
余白スペーシング	レイアウトの右, 左, 上, したの余白スペーシングの値を入力します。

[円形]タブ

利用方法	利用方法:[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[円形]タブをクリックします。
重要情報	[円形]タブは, 選択するグループ化オプションに基づいて, グラフのノードをいくつか のグループまたはクラスタにまとめます。これは特に, リングおよびスター・ネットワーク・ トポロジと, リンク分析に適しています。

UI要素	詳細
クラスタリング	 次の設定の値を指定します。 クラスタ・サイズ・ファクタ:平均クラスタ・サイズとクラスタ数との比率を指定します。クラスタのサイズは、そのクラスタ内の全グラフ・ノードの加重の合計として定義されます。加重値を各グラフ・ノードに割り当てることができます。 最小クラスタ数:レイヤ内の最小クラスタ数です。 最大クラスタ数:レイヤ内の最大クラスタ数です。
クラスタ・レイアウト・スタイル	対称型または円形レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。 次のオプションのいずれかを選択します。 ・ 対称:対称型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。 ・ 円形 :円形レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。

UI要素	詳細
レイアウト品質	生成されたレイアウトの品質を、アプリケーションのニーズに合うように調節 します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッド の数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりま すが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	 ドラフト:([中間]および[プルーフ]よりも早く)高速に結果を生成します。
	 中間:[ドラフト]と[プルーフ]を組み合わせたような結果を生成します。グラフのレイアウトの精密度は[ドラフト]と[プルーフ]の中間になります。
	• プルーフ:より洗練された結果を生成しますが、より多くの時間がかかります。
	注:これらの品質設定それぞれによる速度と結果の差異は、レイアウトされているグラフの性質によって変わります。各オプションを試した上で、どの設定が一番有用かを決めてください。



[階層構造]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[階層的]タブをクリックします。
重要情報	[階層的]タブでは、組織または情報管理システムの依存関係、プロセス・モデル、 ソフトウェア呼び出しグラフ、およびワーク・フローを表す優先順位関係を表示しま す。階層レイアウトでは、グラフ・ノードを異なるレベルに配置することで依存関係が 強調されます。

UI 要素	詳細
後方エッジ	階層レイアウト内で逆行関係がどのように表示されるかを指定します。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• 最小後方エッジ:レイヤ内に表示される逆行関係の数を最小に設定します。
	• フィード バック・フローの最適化:レイヤ内に表示される逆行関係の数を最大に 設定します。このモードはフロー・チャートに適しています。
水平ス	各レベルの隣り合う2つのグラフ・ノード間の水平方向の最小間隔を設定できます。
ヘーシンク	次の設定の値を入力します。
	 ノード間:レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 標準設定値:28
	 エッジ間:この設定は、[ルーティング]>[直交]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ内のエッジ間の水平方向の間隔を設定します。 標準設定値:12
レイアウト 品質	生成されたレイアウトの品質を、アプリケーションのニーズに合うように調節します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ドラフト:([中間]および[プルーフ]よりも早く)高速に結果を生成します。
	ドラフト
	山間 ・「ドラフト]と「プルーフ]を組み合わせたようた結果を生成します グラフのレ
	イアウトの精密度は[ドラフト]と[プルーフ]の中間になります。
	• プルーフ:より洗練された結果を生成しますが、より多くの時間がかかります。
	注: これらの品質設定それぞれによる速度と結果の差異は、レイアウトされているグラフの性質によって変わります。各オプションを試した上で、どの設定が一番 有用かを決めてください。



UI 要素	詳細
直交ルー ティング - 固定ノー ド・サイズ	この設定は、 [ルーティング]>[直交]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ・ ノードのサイズを維持します。 グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるとき に、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、 レイアウト内のグラフ・ノード のサイズを拡大できるようにする場合は、 このオプションをクリアします。
ポリライン・ ルーティン グ - ベンド 間 のスペー シング	この設定は、[ルーティング]>[ポリライン]を選択した場合にのみ使用できます。ポリ ライン・ルーティングでは、任意の角度で曲がる1つ以上の直線分としてエッジ(連結 線)がルーティングされます。エッジ(連結線)が重なり合わないように、パス・ノードが 自動的に追加されます。 標準設定値:12
ルーティン グ	レイアウトのルーティング・タイプを選択します。次のオプションを使用できます。 • 直交 • ポリライン
方向付け のないレイ アウト	階層図のレベル構築にエッジの方向を使用しません。
変数レベ ル・スペー	可変レベル間隔では、レベル間のエッジの密度に従って、隣り合う2つのレベル間の 間隔を調整します。
シング	図中のエッジが直交ルーティングされている場合は、これによってレベル間にルーティン グされた水平方向のエッジ間に必要な垂直方向の間隔が確保されます(上から下 または下から上のレイアウトで)。
	ポリライン・ルーティングの場合は、可変レベル間隔を使うことによって、密度の高い 図でも各エッジを区別しやすくなります。

UI要素	詳細	
垂直ス ペーシング	異なるレベルにある隣り合う2つのグラフ・ノード間の垂直方向の最小間隔を設定 できます。	
	次の設定の値を入力します。	
	 ノード間:レベル内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 標準設定値:28 	
	 エッジ間:この設定は、[ルーティング]>[直交]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ内のエッジ間の垂直方向の間隔を設定します。 標準設定値:12 	

[直交]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[直交]タブをクリックします。
重要情報	[直交]タブでは、直交線レイアウトのルート関係を水平方向と垂直方向で設 定できます。この結果、関係を示す線の折れ曲がりは常に90度になります。

UI要素	詳細
固定ノードサイズ	グラフ・ノードのサイズを維持します。 グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに,指定した関係の間隔設定を維持する必要があり,レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は,このオプションをクリアします。
水平スペーシング	グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ノード間:レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。
	標準設定値: 20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。
	標準設定値:12

UI要素	詳細
レイアウト品 質	生成されたレイアウトの品質を, アプリケーションのニーズに合うように調節します。この品質は, レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば, 高品質にすると表示がより明瞭になりますが, レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ドラフト:レイアウトを下書き品質に設定します。
	• 中間 :レイアウトを中間品質に設定します。
	• プルーフ:レイアウトを最高品質に設定します。
垂直スペーシング	グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ノード間:レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間 隔を設定します。
	標準設定値 :100
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。
	標準設定値 :20

[対称]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[対称]タブをクリックします。	
重要情報	[対称]タブでは,複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示します。対称レイアウトでは, グラフ内に存在する対称性が強調されます。	

UI要素	詳細
レイアウト品 質	生成されたレイアウトの品質を, アプリケーションのニーズに合うように調節 します。この品質は, レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの 数を反映しています。たとえば, 高品質にすると表示がより明瞭になります が, レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	 ドラフト:([中間]および[プルーフ]よりも早く)高速に結果を生成します。
	 中間:[ドラフト]と[プルーフ]を組み合わせたような結果を生成します。 グラフのレイアウトの精密度は[ドラフト]と[プルーフ]の中間になります。
	 プルーフ:より洗練された結果を生成しますが、より多くの時間がかかります。
	注: これらの品質設定それぞれによる速度と結果の差異は、レイアウトされているグラフの性質によって変わります。各オプションを試した上で、どの設定が一番有用かを決めてください。



[ルーティング]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで [ルーティング]タブをクリックします。
重要情報	[ルーティング]タブでは,原則としてグラフ・ノードの位置はそのままで,線が直交す るようにルーティングしなおすことができます。

UI要素	詳細
ノード位置の固定	表示内のすべてのグラフ・ノードの位置を維持します。 レイアウトを 改良する必要があり、 レイアウト内のグラフ・ノードを移動できるよう にする場合は、 このオプションをクリアします。 重なり合いを避け、 折 れ曲がりの数が最少になるように、 最小限の移動が行われます。
固定ノードサイズ	グラフ・ノードのサイズを維持します。 グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。

UI要素	詳細
水平スペーシング	グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ノード間:レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間 隔を設定します。
	標準設定値 :20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。
	標準設定値:12
垂直スペーシング	グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ノード間:レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間 隔を設定します。
	標準設定値 :20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。
	標準設定値:12

メイン・メニュー

この機能には、トポロジ・マップの作業のためのオプションが含まれます。

利用 方法	画面の左上にあります。
重要 情報	メイン・メニューの各ドロップダウン・リストに含まれている個々のオプションについては、「ツー ルバー・オプション」(163ページ)を参照してください。
関連	 「トポロジ・マップの概要」(144ページ)
1月 书仪	• 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ)

UI要素	詳細
編集	トポロジ・マップ用の選択オプションが含まれています。

UI要素	詳細		
エディタ・アイテム	現在のマネージャ用のトポロジ・マップ・ショートカット・メニュー・オプションが含 まれています。		
	注: このドロップダウンは、 CI タイプ・マネージャには表示されません。		
レイアウト	トポロジ・マップのレイアウトを変更するためのオプションが含まれています。		
	注: このドロップダウンは、 レポートには表示されません。		
マネージャ	さまざまな UCMDB モジュールへのリンクが含まれています。		
操作 トポロジ・マップを印刷またはエクスポートするためのオプションが ます。			
リソース	現在のマネージャ用の左表示枠ショートカット・メニュー・オプションが含まれ ています。		
	注: このドロップダウンは, IT ユニバース・マネージャ, レポートには表示 されません。 CI タイプ・マネージャでは, これは CI タイプ と呼ばれます。		
ツール	ユーザ・プリファレンス・ツール, ユーザ・プロファイル, ログ設 定 ツール, 画 面 キャプチャ, およびユーザ認証の更 新 ツールが含まれます。		
ビュー	モジュールの各表示枠の表示/非表示を切り替えられます。		

[印刷]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの内容を印刷できます。

利用方法	[操作]>[印刷]を選択します。		
重要情報	トポロジ・マップの印刷結果は、画面キャプチャとほぼ同じです。したがって、印刷前に次の作業を行うことをお勧めします。		
	 印刷設定を定義し、必要に応じてトポロジ・マップの内容を整理します。詳細については、「[印刷設定]ダイアログ・ボックス」(162ページ)を参照してください。 		
	 トポロジ・マップの内容を印刷用に整理します。それには、[レイアウト]オプション と[レイアウト プロパティ]を使用します。レイアウト・オプションの詳細については、 「レイアウト・プロパティ」(168ページ)を参照してください。レイアウト・プロパティの 詳細については、「レイアウト・プロパティ・ダイアログ・ボックス」(146ページ)を参照してください。 		
関連タスク	「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法」(197ページ)		

関連情報	 「トポロジ・マップの概要」(144ページ)
	 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ)

UI 要素	詳細	
部数	印刷する部数を入力します。	
プロパティ	必要に応じてドキュメントのプロパティを定義します。	

[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、印刷前にトポロジ・マップの内容をプレビューできます。

利用方法	[操作]>[印刷プレビュー]を選択します。	
関連タスク	「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法」(197ページ)	
関連情報 • 「トポロジ・マップの概要」(144ページ)		
	 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ) 	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

メニュー 項目	詳細
	印刷設定 :[印刷設定]ダイアログ・ボックスが表示され、印刷設定を指定できます。
	印刷:マップを印刷します。詳細については、「[印刷]ダイアログ・ボックス」(161ページ)を参照してください。
۲	ズーム・イン :マップの特定の詳細にズーム・インします。
0	ズーム・アウト:マップをズーム・アウトして表示します。
2	フィット:ビュー全体を表示枠内にぴったり収めます。

[印刷設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの印刷設定を定義できます。

利用方法	[操作]>[印刷設定]を選択します。
関連タスク	「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法」(197ページ)

関連情報	 「トポロジ・マップの概要」(144ページ)
	• 「トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス」(145ページ)

UI要素	詳細			
実際のサイズ	ビューを実際の大きさで印刷します。			
色	テキストの色を設定します。			
フォント	必要なフォントを設定します。			
ページ設定	印刷設定を定義します。			
ペ—ジ	マップを行と列に分割し,各セクションを別々に印刷します。[ページカラム]ボックスと[ページ行]ボックスに,それぞれ列数と行数を入力します。			
位置	キャプションの位置を[位置]リストから選択します。			
背景を印刷	ビューの背景を印刷します。			
境界を印刷	マップを境界線付きで印刷します。境界線の色を選択するには、 [色]をク リックします。			
印刷 キャプション	テキスト領域にキャプションを入力し, [フォント]をクリックして使用するカスタ ム・フォントを選択します。			
描画全体を印刷	クロップ・マークを印刷します。			
現在の選択範囲を 印刷	選択したグラフ・ノードとその関係を印刷します。			
現在のウィンドウを 印刷	ビューの表示枠内に表示されている部分を印刷します。			
描画全体を印刷	ビューの全体を印刷します。			
ページ番号を印刷	ページ番号を印刷します。			
ズーム・レベル	現在のズーム・レベルでビューを印刷します。			

ツールバー・オプション

トポロジ・マップの各ツールバー・オプションについて、次の表で説明します。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
œ	追加数	エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの 数を計算します。作成された TQL クエリ・ノード・インスタンス および関係の数は、次の図のようにエンリッチメント・クエリ・ ノードまたは関係の横に表示されます。
		IpSubnet(0)
		+ New Node(51)
		注: このオプションがツールバーに表示されるのは, エン リッチメント・マネージャだけです。
	詳細表 示枠	詳細表示枠を画面の下部中央に表示するか非表示にす るかを切り替えます。
		利用方法 :[ビュー]>[詳細表示枠]を選択します。
	クエリ結 果数を計 算する	各 TQL クエリ・ノード/関係について, 見つかったインスタンス の数を計算します。
	ラベルの	ラベルに含める最大文字数を入力します。
	長さを変 更/ラベ ル・プロパ ティの変 更	利用方法:IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[ラベルプロパティの変更]を選択します。その他のマネージャでは, [レイアウト]>[ラベルの長さを変更] を選択します。
	CI タイ プ・ツリー	CI タイプ・セレクタを画面の右に表示するか非表示にするか を切り替えます。
		利用方法 :[ビュー]>[Cl タイプ ツリー]を選択します。
		注: モデリング・スタジオでは、このオプションは[Cl タイプ] と呼ばれます。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
Ûĸ	関係を作 成	ほとんどのマネージャでは、2つの既存のTQLクエリ・ノードの間に関係を作成します。詳細については、「TQLクエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。
		IT ユニバース・マネージャで,既存 CI間の関係を作成しま す。詳細については、「既存のCIの関連付け」(184ページ) を参照してください。
*	選択した 項目の 削除	IT ユニバース・マネージャから CI を削除するか, 影響分析マ ネージャまたはエンリッチメント・マネージャから TQL クエリ・ノー ドを削除します。
	マップをド	ビューをドラッグします。
	ラッグ	利用方法 :[モード]ボックスのドロップダウン・メニューを開く か, または[ビュー]>[マップをドラッグ]を選択します。IT ユニ バース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[ド ラッグ モード]を選択します。
F	レイヤを 1 つドリル・ ダウン	トポロジ・マップ内の1つ下のレベルに移動します。このオプ ションは、ビューの階層を設定して作成された、別のCIレイ ヤが下位に存在する場合にのみ有効になります。階層設 定の詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を 参照してください。
		注 :このオプションは IT ユニバース・マネージャでのみ表 示されます。
ê	関連 CI の取得を 毎効化/	CIの選択で新しい CIを選択するときに、関連する CI でのト ポロジ・マップの再描画の無効化と有効化を切り替えます。
有效化	注 :このオプションは[関連 CI]タブの IT ユニバース・マ ネージャでのみ表示されます。	
	エンティ ティ・ツ	マネージャ固有のエンティティ・ツリーを画面の左に表示する か非表示にするかを切り替えます。
IJ—	利用方法 :[ビュー]>[エンティティ ツリー]を選択します。	
		注: モデリング・スタジオでは、左表示枠(リソース、CIタ イプ、CIの選択)の各タブが別個のオプションとして表示 されます。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	画像に マップを エクスポー ト	トポロジ・マップをファイルに保存します。詳細については、 「画像にマップをエクスポート」(145ページ)を参照してください。 利用方法:[操作]>[画像にマップをエクスポート]を選択します。
	ウィンドウ に合わせ る	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。 利用方法 :[レイアウト]>[ウィンドウに合わせる]を選択しま す。
	ダイレク ト・リンク の生 成	ビューまたは CI へのダイレクト・リンクを生成します。 利用方法 :[編集]>[ダイレクト リンクの生成]を選択しま す。
	レイヤを 1 つ上 げる	トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。このオプ ションは、ビューの階層を設定して作成された、別のCIレイ ヤが上位に存在する場合にのみ有効になります。階層設 定の詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を 参照してください。 注:このオプションはITユニバース・マネージャでのみ表 示されます。
	マップから すべての 継承を非 表示	Inheritance_f 関係と、その接続クエリ・ノードの表示 / 非表示を切り替えます。 利用方法:[レイアウト]>[マップからすべての継承を非表示]を選択します。 注:このオプションがツールバーに表示されるのは、CIタ イプ・マネージャだけです。
	全クエリ・ ノード のラ ベルを非 表示	CI/CIT/クエリ・ノード/パターン・ラベルの表示/非表示を切り 替えます。 利用方法:[レイアウト]>[全クエリノードのラベルを非表示] を選択します。 注:このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	全関係ラ ベルを非 表示	関係ラベルの表示と非表示を切り替えます。
		利用方法 :[レイアウト]>[全関係ラベルを非表示]を選択 します。
		注: このオプションは,IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは エッジのラベルを非表示 という名前になっ ています。
	全関係を 非表示	表示されているマップ内の関係の表示/非表示を切り替えま す。
		利用方法 :[レイアウト]>[全関係を非表示]を選択しま す。
		注: このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。
2a	[関連 CI を取得]	[関連 CIを取得]表示枠の表示/非表示を切り替えます。
	表示枠 の表示 / 非表示	注 :このオプションは[関連 CI]タブの IT ユニバース・マ ネージャでのみ表示されます。
	インタラク ティブ・	 クリックしてマウス・ポインタを上に移動すると、表示倍率 が低くなります。
		 クリックしてマウス・ポインタを下に移動すると、表示倍率 が高くなります。
		利用方法 :[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開く か, [ビュー]>[インタラクティブズーム]を選択します。
		注: このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	レイアウト	リストからレイアウト表示を選択します。次のオプションを選択 できます。
		• 階層レイアウト:トポロジ・マップ内の優先関係を表示できます。
		• 直交ルーティングを持つ階層レイアウト :水平線と垂直線 のみで構成されるエッジで階層レイアウトを表示し, 交差 する右側の角度を形成します。
		 対称型レイアウト :複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示できます。
		• 円形レイアウト: グラフのノードをグループまたはクラスタに グループ化します。
		• 直交レイアウト :水平線と垂直線のみで構成されるエッジ でレイアウトを表示し,交差する右側の角度を形成しま す。
		各オプションの詳細については、「レイアウト・プロパティ・ダイア ログ・ボックス」(146ページ)を参照してください。
		注: このレイアウト・オプションは,エンリッチメント・マネー ジャ, CIT マネージャ,影響分析マネージャでのみ使用 されます。
	レイアウ ト・プロパ ティ	クエリ・ノードのポジションとビューの関係を割り当て、ビューの レイヤ・レイアウトを定義します。詳細については、「レイアウ ト・プロパティ・ダイアログ・ボックス」(146ページ)を参照してくだ さい。
		利用方法 :[レイアウト]>[レイアウト プロパティ]を選択しま す。
	ログ構成	[ログ構成]ダイアログ・ボックスが開きます。
		利用方法:[ツール]>[ログ構成]を選択します。
	マップ概 要	トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。 この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに 便利です。
		利用方法 :[レイアウト]>[マップ概要]を選択します。 IT ユニ バース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[マッ プ概要を表示]を選択します。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	ワークス ペースの 最大化/ ワークス ペースの 復元	トポロジ・マップの通常表示と全画面表示を切り替えます。
	ナビゲー ション	時計回りで次の接続された CI/CIT/TQL クエリ・ノードにポイ ンタを移動します。 ・関係を左クリックすると、時計回りに次の CI/CIT/ノード/パ ターンへ移動します。 ・CI/CIT/クエリ・ノード/パターンを右クリックすると、時計回り に次の CI/CIT/ノード/パターンへの方向(関係)が強調さ れます。 利用方法:[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開く か、[ビュー]>[ナビゲーション]を選択します。 注: ・このオプションは、関係で接続されている CI/CIT/クエ リ・ノード/パターンだけに使用できます。 ・このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。
*	新規 CI	新規の関連付けされていない CI を作成します。詳細については、「CI での作業」(179ページ)を参照してください。 注: このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユ ニバース・マネージャだけです。
8	新規関 連 CI	新規の関連 CI を作成します。詳細については、「CI での作業」(179ページ)を参照してください。 注: このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユ ニバース・マネージャだけです。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	中央に 配置	選択した CI/CIT/クエリ・ノード/パターンをマップの中央に配置します。
		利用方法:[レイアウト]>[中央に配置]を選択します。
		注: このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。
	印刷	トポロジ・マップの内容を印刷します。詳細については、「[印刷]ダイアログ・ボックス」(161ページ)を参照してください。
		利用方法:[操作]>[印刷]を選択します。
	印刷プレ	マップの内容を印刷前にプレビューできます。
	<u> </u>	利用方法 :[操作]>[印刷プレビュー]を選択します。
	印刷設 定	トポロジ・マップの印刷設定を定義します。詳細については、 「[印刷設定]ダイアログ・ボックス」(162ページ)を参照してく ださい。
		利用方法 :[操作]>[印刷設定]を選択します。
<u>Alan</u>	エンリッチ メント結 果を削除 する	CMDB からのエンリッチメント・ルールが作成したインスタンス を削除します。
		注:このオプションがツールバー に表示されるのは、エン リッチメント・マネージャだけです。
	画 面 キャ プチャ	画 面 キャプチャ・ツールを使 用して, 画 面 のスナップショットを 取ります。
		利用方法 :[ツール]>[画面キャプチャ]を選択します。
K	選択	単一のCI/CIT/TQL クエリ・ノード, または複数の CI/CIT/TQL クエリ・ノードを選択します。
		利用方法:[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開く か, [ビュー]>[選択]を選択します。IT ユニバース・マネージャ とモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[選択モード]を選択し ます。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
	すべて選 択	選択したレイヤ内のすべてのCIと関係を選択します。
		利用方法 :[編集]>[すべて選択]を選択します。
		注: このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。
	全クエリ・	選択したレイヤ内のすべてのクエリ・ノードを選択します。
	ノードを選択	利用方法 :[編集]>[全クエリノードを選択]を選択します。
		注: このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリン グ・スタジオでは利用できません。
	カラムの 選択	表示するカラムを選択できます。詳細については、「[カラムの 選択]ダイアログ・ボックス」(523ページ)を参照してください。
		注 : このオプションは IT ユニバース・マネージャのテキスト・ モード でのみ表 示 されます。
۲	変更時 間枠の 設定	[時間枠を変更]ダイアログ・ボックスが開き, 追加または変 更した CI インジケータの表示時間を設定できます。
		注: このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユ ニバース・マネージャだけです。
<u>ش</u>	削除の	削除候補のCIを現在のビューで識別します。
	候禰を衣	注: このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユ ニバース・マネージャだけです。
٩	スケ ジュール 情報を表 示	選択したジョブのスケジュール情報を表示します。詳細につ いては、 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の 「 [ディスカバリスケジューラ] ダイアログ・ボックス」を参照してく ださい。
		注: このオプションはツールバーの[データ フロー管理] > [ディスカバリ モジュールジョブ] > [依存関係 マップ]タブ に表示されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[依存関係]タブ」 を参照してください。

ボタン	オプション 名	このオプションの機能
≧ ↑	カラム・コ ンテンツの 並 <i>べ</i> 替え	表示されているカラムの順序を設定できます。詳細について は、「[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス」(524 ページ)を参照してください。
		注 : このオプションは IT ユニバース・マネージャのテキスト・ モード でのみ表示 されます。
	そろえる	角度がある2つのクエリ・ノード間の選択した関係をまっすぐ にできます。
		利用方法 :[レイアウト]>[そろえる]を選択します。
		注: このオプションは、エンリッチメント・マネージャと影響 分析マネージャでのみ使用できます。
	ユーザ・プ リファレン ス	[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックスが開き, そこで警告 メッセージのプリファレンスをリセットできます。詳細について は,「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を 参照してください。
		利用方法 :[ツール]>[ユーザプリファレンス]を選択します。
	ユー <mark>ザ</mark> ・プ ロファイル	[ユーザ・プロファイル]ダイアログ・ボックスが開き, 現在ログイ ンしているユーザのユーザ詳細情報が表示されます。
		利用方法 :[ツール]>[ユーザプロファイル]を選択します。
	ズーム・イ ン	トポロジ・マップ内の拡大する部分をクリックし, 選択の矩形 で囲むことによって, その部分を拡大表示できます。選択した領域は, トポロジ・マップに収まる最大の倍率で表示されます。
		利用方法 :[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開く か, [ビュー]>[ズームイン]を選択します。 IT ユニバース・マ ネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[ズームイン] を選択します。

[トポロジ マップ] サイドバー

トポロジ・マップの各 サイド バー・オプションについて,次の表で説明します。 [トポロジ マップ] サイド バー は、 IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオに表示されます。

ボタ ン	オプション名	このオプションの機能
»	レイアウト・ツー ルバーを右 / 左 へ移動	サイドバーを画面の右側または左側に移動します。
đ	ズーム・イン/ズー ム・アウト	トポロジ・マップでズーム・インまたはズーム・アウトします。
N	選択モード / ド ラッグ・モード	トポロジ・マップで選択モードとドラッグ・モードを切り替えます。
-	最適なレイアウ トを取得するた め更新	トポロジ・マップを更新し, レイアウトを最適化します。
8	ウィンドウに合わ せる	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。
	マップ・レイアウト を変 更	マップ・レイアウトを選択します。次のオプションを利用できます。

ボタ ン	オプション名	このオプションの機能
12	マップ設定	次の設定を修正できます。
		• ^え エッジのラベルを表示/非表示:すべての関係のラベルを表示また は非表示にします。
		• И インジケータを表示/非表示: クエリ・ノード のカウント・インジケー タを表示または非表示にします。
		• エッジの強調表示を有効/無効 :選択したクエリ・ノードのすべての関係を強調表示します。
		• 回 凡例を表示/非表示 :トポロジ・マップの凡例の表示/非表示を 切り替えます。
Ĩ	マップ・ツール	次のツールが利用できます。
		• P マップ概要を表示 :トポロジ・マップのコピーを表示する小さな ボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インし ているときに便利です。
		• 🗇 印刷:トポロジ・マップを印刷します。
		• 🔝 画像にマップをエクスポート:トポロジ・マップをファイルに保存します。
1	すべてのグルー プを展開	トポロジ・マップですべての CI グルーピングを展開します。
	~ С.IX М	注: このオプションは, グルーピング・オプションが選択されている場合 にのみ利用できます。
5	すべてのグルー プを折りたたさ、	トポロジ・マップですべての CI グルーピングを折りたたみます。
	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	<b>注:</b> このオプションは,グルーピング・オプションが選択されている場合 にのみ利用できます。



# 第7章: IT ユニバース・マネージャ

本章の内容

IT ユニバース・マネージャの概要	176
IT ユニバース・マネージャでの作業	177
ツリー構 造を表 示	179
CI での作業	179
関係での作業	182
CIと関係の作成方法	187
関連 CIの表示方法	188
アプリケーション・ディスカバリのステータスをチェックする方法(ビューの再検出)	189
影響分析結果の取得方法 - シナリオ	191
ビューのスナップショットを取る方法	197
トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法	197
IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース	197

## IT ユニバース・マネージャの概要

IT ユニバース・マネージャにより, IT ユニバース・モデルのコンテンツを管理できます。次に, このアプリ ケーションの基本機能を示します。

- 関係を作成せずに CI を作成: CMDB に追加する新しい CI を個々に定義して,新しい関係が 作成されないようにできます。詳細については,「非関連 CI の作成」(180ページ)を参照してください。
- 対応する関係を持つ CI を作成:新しい CI を定義して既存の CI に関連付けることで、新しい CI と新しい関係を CMDB に定義できます。詳細については、「関連 CI の作成」(180ページ)を 参照してください。
- 既存のCIを追加して、追加したCIの関係を作成:CIを既存のCIに関連付けると、既存のCIに対して新しい関係を作成できます。詳細については、「既存のCIの関連付け」(184ページ)を参照してください。
- CI の削除: CI を CMDB から削除 できます。詳細については、「CI の削除」(180ページ)を参照 してください。
- 影響分析結果の取得:ビューに定義した影響ルールを実行すると、定義された特定の変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートし、変化の根本原因を発見できます。影響ルールの詳細については、「影響分析マネージャの概要」を参照してください。

ビューのスナップショットを取る: HP Universal CMDBでは、ビューのステータスを別の時点で取得したステータスと比較して、1つのスナップショットに表示できます。スナップショットを取る方法の詳細については、「ビューのスナップショットを取る」を参照してください。

### IT ユニバース・モデルの作成

CMDB内のITユニバース・モデルには、HP Universal CMDB内で動作するCI生成ツールによって 生成されたCIと関係が含まれています。ほとんどのCIと関係は、次のいずれかのソースから発生し ます。

- データ・フロー管理(DFM): 社内のインフラストラクチャ内で検出された IT リソースやトポロジに基づいて、CIと関係を自動的に作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「データ・フロー管理の概要」を参照してください。
- IT ユニバース・マネージャ:ビジネスの論理要素や物理要素を表す CI と関係を手動で作成できます。詳細については、「CI での作業」を参照してください。
- エンリッチメント・マネージャ:エンリッチメント TQL クエリに定義されているエンリッチメント・クエリ・ ノードの属性からデータを受け取ることで、CIと関係をCMDBに追加できます。詳細については、「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

## IT ユニバース・マネージャでの作業

IT ユニバース・マネージャでは, ビュー・レベルでデータを分析します。ビューは, IT ユニバースのサブセットで, 特定の対象領域に関連する CI だけが含まれています。 すべてのビューは, ビューの内容を決定するパターンに基づいています。

- パターン・ビューとテンプレート・ベース・ビューは、ビューの構造を定義する TQL(トポロジ・クエリ言語) クエリから構築されます。ビューには、クエリ定義に適合する CIと関係 だけが表示されます。
- パースペクティブ・ベース・ビューは、 CI のグループを選択し、パースペクティブを適用することによって 手作業で構築します。パースペクティブとは、ビューに含まれる関連 CI の定義に使用するパターンです。

ビューの各タイプに応じたエディタを使うことによって, すべてのビューはモデリング・スタジオで構築します。 異なる種類のビューと, それぞれの機能については, 「ビュー形式」(238ページ)を参照してください。

**注:** ビューを編集するには、ビューの更新権限が必要です。必要な権限がない場合は、HP Universal CMDBの管理者にお問い合わせください。

DFM で作成した CI は, CI(およびその関係)がビューの TQL 定義に適合するように, 各ビューに自動的に追加されます。[CI の選択]でビューを開くと, そのビューの TQL クエリにより, 定義されている パターンにー致する CI が存在するかどうか, CMDB にクエリされます。 一致する CI が見 つからない場合(プロセスがまだ実行されていない DFM プロセスのビューのときなど), ビューは空の状態のままになります。 フェデレート・データ・ソースの統合ポイント全体で実行するようにクエリを定義することにより,外部 データ・ソース(フェデレート CI)からの CI をビューに含めることもできます。 フェデレート CI は,フェデレー ト・ソースから取られたことを示す矢印アイコンと一緒にビュー内に表示されます。



フェデレート・データ・ソースの詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』 のIntegration Studioの概要を参照してください。

**注:** 定義済みの統合ポイントを持つ事前定義済みのクエリの場合は、データ・ソースが UCMDB として設定されます。

IT ユニバース・マネージャのビューで作 業しているときに新しい CI を定義すると, CI(およびすべての関連付けられた関係)が CMDB に作成されます。 CI は, 現在のビューの TQL 仕様を満たしている場合のみビューに追加されます。

作成した CIと関係が TQL の要件を満たしていない場合,その CIと関係は CMDB 内に作成されますが,ビューには表示されません。同様に,既存の CIをビュー内の CIに関連付け,新しいパターンが TQL の要件を満たしていない場合,関連付けた CIはビューに表示されませんが,その関係は作成されています。

### テンプレートとテンプレート・ベース・ビュー

テンプレートを IT ユニバース・マネージャで開くと、パターン・ビューのようにトポロジ・マップでテンプレート が表示されます。[CI の選択]ツールバーの[テンプレート パラメータを表示] (*) ボタンをクリックする と、[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・パラメータの値を変更してトポ ロジ・マップ内の表示結果を変更できます。さまざまなパラメータ値を試してトポロジ・マップがどう変わ るのかをご覧ください。なお、変更はテンプレート 自体に保存することはできません。選択したパラメー タとともにテンプレート・ベース・ビューに表示結果を保存するには、[テンプレート パラメータ値]ダイアロ グ・ボックスで[ビューに名前を付けて保存]ボタンをクリックします。

ITトポロジ・マネージャ内のテンプレートへのダイレクト・リンクを作成して、 パラメータ値を直接 URL に 挿入することもできます。詳細については、「パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作 成方法」(102ページ)を参照してください。

### ビューのライフサイクル

ー 定期間, [CI の選択]からビューへのアクセスがなければ, システムのメモリを節約するためにビュー はクリアされます。ただし, ビューは CMDB からは削除されていないので, そのビューをクリックすると再 び取得できます。未使用のビューをクリアする標準設定の期間は1時間です。

注:永続として定義されているビューはクリアされることはなく、常にメモリに保持されます。

### 非表示ビュー

非表示ビューのバンドルを定義してそのバンドルにビューを割り当てると, IT ユニバース・マネージャに 表示されない非表示ビューとしてビューを指定できます。

### ビューを非表示ビューとして指定するには、次の手順を実行します。

- 1. インフラストラクチャ設定マネージャで、[CIの選択に含まれる非表示のパンドル名]を選択します。
- 2. 標準設定値として新規バンドル名を入力し,設定を保存します。
- 3. 関連するビューをモデリング・スタジオで開き、ツールバーの[定義プロパティの表示] 1 ボタンをクリックします。
- 4. [定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスで,非表示ビューのバンドルを選択しそのバンドルに ビューを割り当てます。

## ツリー構造を表示

ビューは, IT ユニバース・マネージャの左表 示枠に階層ツリー形式で表示されます。これをビュー・エク スプローラ(または CI の選択)と呼びます。これをビュー・エクスプローラ(または CI の選択)と呼びま す。ビューの名前は、ツリー上部の[ビュー]ボックスに表示され、ビュー内の CI を格納するフォルダとし て機能します。

[CI の選択] ツリーの最初のレベルは, ルート CI のクエリ・ノードから構成されています。 ルート CI は, ビューのサブツリーの起点です。 ビューには, 任意の数のサブツリーが含まれます。 ルート CI の下には 分岐 CI があり, 各分岐の末端の最終クエリ・ノードであるリーフ CI まで展開されます。

サブツリー内の各レベルの CI は、そのすぐ上の分岐上にある CI に関連付けられているとみなされます。この関係付けは、一般に依存関係を表しています。したがって、上位の(ルート CI に近い)分岐 はビジネス・プロセス内の1つ下の(リーフ CI に近い)分岐上にある CI に依存するビジネスのコンポー ネントを表します。たとえば、アプリケーションはそのアプリケーションを実行するサーバに依存します。

上位クエリ・ノードと下位クエリ・ノードの関係付けは、親子関係と呼ばれます。親 CI は多くの関係 付けられた子 CI を持つことができ、子 CI は親に動作ステータスを渡します。

ツリーのトポロジは、そのビューに定義された階層によって決定されます。パターン・ビューでは、これら は特定のビューに対して定義されます。テンプレート・ベース・ビューやパースペクティブ・ベース・ビューの 階層は、テンプレートまたはパースペクティブの一部として定義されます。 階層定義の詳細について は、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。

# CI での作業

IT ユニバース・マネージャでは、 関連 CI および非関連 CI の作成, CI の削除, CI プロパティの編集, エイジング・メカニズムを使用した古い CI の削除を行うことができます。

本項の内容

- •「非関連 CI の作成」(180ページ)
- •「関連 CI の作成」(180ページ)
- •「CIの削除」(180ページ)

- 「CI プロパティ」(181ページ)
- 「エイジング・メカニズムを使った期限切れ CI の削除」(181ページ)

### 非関連 CIの作成

IT ユニバース・マネージャで新規 CI を定義するには、ツールバーで[新規 CI] ¹ ボタンをクリックします。 [新規 CI]ダイアログ・ボックスが開き、新しい CI プロパティを定義できます。 CMDB に CI が作成されます。 詳細については、「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」(225ページ)を参照して ください。

**注**: CI は, ビューのパターン, テンプレート, またはパースペクティブの仕様に適合する場合にのみ ビューに追加されます。

この方法で作成された CIは, CMDBに存在するほかの CIと関係を持たない独立したエンティティとして追加されます。

### 関連 CIの作成

新しいCIが、既存のCIの親、子、または兄弟として追加されるように定義できます。

### 新しい関連 CIを定義するには、次の手順を実行します。

- 1. 新しい CI を 関連付ける CI を ビューで 選択します。
- 2. ツールバーの[新規関連 CI] ³ ボタンをクリックします。
- 3. [新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで、CI プロパティと関係を定義します。詳細については、 「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」(225ページ)を参照してください。

CIと関係がCMDBに作成されます。

**注**: CI と関係は、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

### CI の削除

CIを削除するには、IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニューで[CMDB から削除]を選択します。 CI が CMDB およびすべてのビューから削除されます。 CI に子 がある場合は、親 CI を削除して も子は自動的には削除されません。 ビュー内で親 CI と、親 CI とともに表示される子 CI の関係を削除せずに親 CI を削除すると、子 CI はビューに表示されなくなります。

子 CI がほかのビューに表示されていない場合,子 CI はビューに表示されませんが CMDB には残されています。それらの子 CI は, パターン要件を満たした場合にそのビューに表示されるようになります。

このルールの例外は,子 CIと親 CIの関係が Composition の場合です。この場合は,親 CIが削除されると,それに含まれている CIも CMDB から削除されます。たとえば,ノード CIが子 CPU CIのコンテナである場合,ノード CIが削除されると,CPUも CMDB から削除されます。
DFM プロセスによって作成された CI を削除すると、次に DFM が実行されるときに CI が復元され(CI がまだ有効であった場合), 関連するすべてのビューに再び表示されます。

注:場合によっては CI が CMDB から削除されますが、クエリはその優先度のためにまだ更新されていないので、TQL クエリは表示されます。クエリが IT ユニバース・マネージャで消費されると、UCMDB は CI のプロパティを見つけることができず、トポロジ・マップに [**ラベルなし**]の名前と表示されます。

### CIプロパティ

Cl プロパティは, IT ユニバース・マネージャで編集できます。 Cl プロパティは複数のカテゴリに分割され て[新規 Cl]ダイアログ・ボックスに表示されます。

- CI の一般プロパティは、すべての CI で共通です。一般プロパティには、 CI の作成中に自動的に 定義されるものと、[新規 CI]ダイアログ・ボックスで手動による定義が必要なものがあります。
- CIT 固有のプロパティは、CI タイプ・マネージャで CIT 定義の一部として作成されます。CIT 固有のプロパティの値は、DFM 中に検出された CI から取得されます。インフラストラクチャ内のエンティティを表すために CI を手動で作成する場合は、これらの値を手動で入力することもできます。詳細については、「CI タイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してください。
- キー・プロパティには一般プロパティとCIT 固有のプロパティがあり、CI タイプのインスタンスを作成するために値を割り当てる必要があります。

IT ユニバース・マネージャから[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスして CI プロパ ティを表示するには、CI を右 クリックして[**プロパティ**]を選択するか、詳細表示枠で[プロパティ]タブ をクリックします。CI の編集に必要な権限を持っている場合は、CI プロパティを編集することもできま す。CI プロパティの詳細については、「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)を 参照してください。

CIT 固有のプロパティは、[カテゴリ分け済み]ボタンを使用してプロパティを並べ替えると、[構成アイ テムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの特定のプロパティ・セクションに表示されます。自動的に作成さ れた CI プロパティには編集できるものもありますが、CI が[Allow CI Update](全般プロパティ)に設 定されている場合は、DFM が CI を更新するときに変更内容を上書きする場合があります。選択し たプロパティの説明は、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの下部にある詳細領域で確 認できます。

DFM CI の CIT 固有のプロパティには、変更を監視するように標準で設定されるものがあります。これらのプロパティが修正された場合は、変更に関する情報を CI 変更レポートで表示できます。詳細については、「CI 変更レポート」(348ページ)を参照してください。

### エイジング・メカニズムを使った期限切れ CIの削除

CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI が DFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていないときなど), エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジ ング・メカニズムを参照してください。

注: CIに適用される次の操作は、フェデレート CIでは実行できません。

- CI プロパティの編集
- CIの削除
- 別のCIとの関係の作成
- CI履歴の表示
- ディスカバリ・ジョブへの CI の追加
- ディスカバリ・ジョブからの CI の削除

## 関係での作業

CMDB における CI 間 の関係 の多くは、 DFM などによって自動的に作成されます。また、 IT ユニバー ス・マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、影響分析 マネージャ、モデリング・スタジオでは、手動で関係を作成 することもできます。

本項の内容

- 「関係の作成」(182ページ)
- •「階層関係の作成」(183ページ)
- 「既存のCIの関連付け」(184ページ)
- 「ビュー階層の設定」(184ページ)
- 「関係のプロパティ」(184ページ)
- 「関連 CI の表示」(184ページ)
- 「関係の削除」(185ページ)
- 「レイヤ間の関係」(185ページ)

### 関係の作成

関係を作成するには、[CIの選択]表示枠またはトポロジ・マップで1つまたは複数のCIを右クリック し、ショートカット・メニューで[CIに関連付け]を選択します。トポロジ・マップでは、ツールバーの[関係

を作成] 🚺 ボタンを使用してビュー内の2つのCIの間に線を引くことによって,2つのCIの関係を 定義できます。 いずれの操作でも[関係を挿入] ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細については, 「[関係の挿入] ダイアログ・ボックス」(209ページ)を参照してください。

CMDB内のCIとほかのCIとの間で必要な数の関係を作成できます。新しい各関係は、独自のエンティティとしてCMDB内に存在し、ITユニバース・マネージャで編集可能な独自のプロパティを持っています(「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)を参照してください)。各関係が異なる関係のタイプに基づいている場合は、2つの同じCIの間に複数の関係を作成することもできます。次の例では、host7はBackboneとTalkの2つの関係をswitch3に対して持っています。



**注:** 実行中のソフトウェア CI が Containment 関係のある別の CI に関連する場合は,実行中のソフトウェア CI から別の Containment 関係を作成できません。

### 階層関係の作成

CIをIT ユニバース・マネージャの別のCIに関連付けることにより、CI間に階層関係(親子関係)を 作成し、1つのCIがほかのCIの影響を受けるようにします。

この方法で定義された関係は、関係タイプ[Usage](関係が2つの非モニタリングCI間の場合)または関係タイプ[Monitored By](関係内の子 CI がモニタ・タイプ CI の場合)に制限されますが、特定のタイプの CI 間では、ほかの関係タイプが使用されます。たとえば、2つのノード CI 間で関係を定義する場合、複数の関係タイプが可能になります。



注:子 CIを親 CI に関連付ける場合, CMDB 内でその関係が作成されます。このため, 子は, 関係が存在するすべてのビューにおいて親 CI に影響を与えるとともに, 子と関係が TQL クエリに

一致するすべてのビューに表示されます。

#### 既存のCIの関連付け

[関係を挿入]ダイアログ・ボックスを使用すると、既存のCIを関連付けることができます。このダイアロ グ・ボックスには、次の2つのモードがあります。

- 関連付けるCIを選択する。
- 元のCIと関連付けるCIの関係を定義する。

関連付ける CI を選択する場合, 複数の CI をビューから選択して元の CI に関連付けることができます。ただし, 一度の操作で関連付ける CI はすべて, 同じ関係のタイプを持っている必要があります。 たとえば, [Usage]関係を使用する CI を, [Monitored By]関係を使用する CI と同じ操作で関連 付けることはできません。

#### ビュー階層の設定

ビューのクエリ・ノード定義と関係定義を設定した後は、そのビューに対して階層を設定できます。これにより、選択した CI が異なるレベルで表示されるようになり、ビュー内の CI の組織構造を定義できます。階層を定義しなかった場合、トポロジ・マップまたはテーブルは標準で、クエリ結果に含まれるすべての CI を1つのレベルで表示します。たとえば、クエリ結果にノードと IP Subnet が含まれる場合、トポロジ・マップまたはテーブルではどちらの CI タイプも同じレベルで表示されます。

注:トポロジ・マップで1つのレイヤに表示できるCIの最大数は900個です。ビューに900個を 超えるCIが存在するレイヤがある場合, 階層が変更されるまで, そのビューはトポロジ・マップに 表示されません。ただし, 900個を超えるCIが存在するレイヤは, テキスト・モードのテーブルに は表示できます。

階層設定の詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。

#### 関係のプロパティ

関係には CI に類似したプロパティがあります。IT ユニバース・マネージャから[構成アイテムのプロパ ティ]ダイアログ・ボックスにアクセスして関係プロパティを表示するには、関係を右クリックして[**プロパ ティ**]を選択するか、詳細表示枠で[プロパティ]タブをクリックします。CI の編集に必要な権限を持っ ている場合は、関係プロパティを編集することもできます。関係プロパティの詳細については、「[構成 アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)を参照してください。

**注**: ノード構成要素タイプのCIまたはその子孫のCIタイプに接続された**複合**タイプの関係の場合は、関係プロパティは保存されません。このような関係を持つTQLクエリが実行されると、プロパティを編集した場合でも、関係プロパティの標準設定値が使用されます。

#### 関連 CIの表示

選択した CI に関連する CI はすべて, トポロジ・マップで表示できます。ビューで CI を選択し, [関連 CI]タブを選択します。[関連 CI を取得]表示枠では, 表示範囲を選択できます。[表示]を選択 すると, トポロジ・マップには, 選択した CI とビュー内の関連 CI だけが表示されます(ビュー階層内の 位置は関係しません)。[CMDB]を選択すると, 選択された CI と CMDB 内の関連 CI すべてが表 示されます。[関連 CI を取得]表示枠の結果に CI タイプごとのフィルタを適用して, CI にパースペク ティブを適用することもできます。詳細については、「[関連 CI を取得]表示枠」(224ページ)を参照 してください。

[CMDB]ダイアログ・ボックスの[関連 CIを取得]を使用して, [関連 CI]を表示することもできます。 詳細については, 「[CMDB からの関連 CIの取得]ダイアログ・ボックス」(209ページ)を参照してください。

#### 関係の削除

トポロジ・マップには,現在のビューに含まれる CI の関係だけが表示されます。ただし,同じ関係がほかのビューにも含まれる場合があます。IT ユニバース・マネージャで関係を削除すると,その関係は CMDB とすべてのビューから削除されます。

関係を削除した場合、ビューのパターンに一致する場合には、関係の対極にある CI はビューに表示された状態になる場合があります。ただし、削除した関係が composition link である場合、ターゲット CI もともに削除されます。

パースペクティブ・ベース・ビューでは, モデリング・スタジオのパースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで ビューから非表示にすることによって, CI をビューから完全に削除できます(CMDB からは削除されま せん)。

DFM プロセスによって作成された関係を削除すると、次に DFM が実行されるときに関係が復元され (関係がまだ有効であった場合),関連するすべてのパターン・ビューに再び表示されます。

ビューからサブツリーまたは複数の CI と関係を削除するには、数分かかることがあります。

#### レイヤ間の関係

ー 定の状況において、IT ユニバース・マネージャはビューの1つのレイヤにある CI 間の関係を表示しますが、その関係には、そのレイヤにある CI 間の実際の関係ではなく、むしろビューのさらに深いレイヤにある CI 間の関係が反映されます。そのような関係をレイヤ間関係と呼びます。

たとえば次のビューでは、2 つのノード CI が依存関係でお互いに関連し合っています。また、それぞれがメンバシップ関係によって IP Subnet に関連付けられ、ノードが IP Subnet の下のレイヤになるよう にビュー階層が定義されます。



IT ユニバース・マネージャでビューを削除すると、実際の関係はビューの下層レイヤにある CI 間にのみ存在するとしても、異なる IP Subnet の下のノード CI 間の関係が、親 IP Subnet 間の関係としてビューの上層レイヤに表示されます。 IP Subnet 間のフル・パスを表示するには、関係をダブルクリックしてください。

別の形態のレイヤ間関係は、上層レイヤにある同タイプの複数の親 CI の下に同じ CI が表示され る場合に発生します。そのような場合は、階層定義に従って、子 CI とその関係がビュー内で複製さ れます。そのような子 CI の関係により、親 CI の間でレイヤ間関係が作成されます。このタイプのレイ ヤ間関係を重複メタリンクと呼びます。

たとえば次のビューでは、1つのノード CI が階層内の2つの IP Subnet CI の下に存在しています。そのためこのノードとその子は、各 IP Subnet の下に1回ずつ、ビュー内に2回表示されます。各ノードは他方の IP Subnet 以下のノードの子 CI に事実上関連付けられており、これにより、2つの IP Subnet 間でレイヤ間関係が生成されます。



レイヤ間関係と重複メタリンクは、トポロジ・マップにグレーで表示されます。(モデリング・スタジオの[定 義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスで定義された)レイヤ間関係を表示するために次のオプション を使用できます。

- **なし**:全レイヤ間関係を非表示
- 中間層:重複メタリンクではなく、最初のタイプのレイヤ間関係を表示します。
- フル: 重複メタリンクを含むすべてのレイヤ間関係を表示します。

レイヤ間関係のツールチップは、その関係が表す内部関係を示します。内部関係が1つだけの場合は、関係ラベルにその関係タイプが表示されます。複数の内部関係がある場合は、ラベルが[中間 層]となり、ツールチップにすべての内部関係が一覧表示されます。内部関係の数が10を超える場合は、最初の10件のみが表示され、さらに内部関係が存在することが注記に示されます。

## CIと関係の作成方法

このタスクでは、関連 CI と非関連 CI,および CI 間の関係を CMDB 内に作成する方法について説明します。

本項の内容

- 「新しい非関連 CI の定義」(187ページ)
- 「新しい関連 CI の定義」(188ページ)
- 「既存のCIの関係付け」(188ページ)

### 新しい非関連CIの定義

ツールバーの[新規 CI]

№ ボタンをクリックします。 [新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで、 CI タイプをツリーから選択し、新しい CI プロパティを定義します。 詳細については、「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」 (225ページ)を参照してください。

#### 新しい関連CIの定義

ツールバーの[新規関連 CI] 🕺 ボタンをクリックします。[新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで, CIタ イプをツリーから選択し, 新しい CI プロパティを定義します。ダイアログ・ボックスの[関係]ページで, 関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については,「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイ アログ・ボックス」(225ページ)を参照してください。

#### 既存のCIの関係付け

ビューで CI を選択します。 CI を右 クリックして[CI に関連付け]を選択します。 [関係を挿入]ダイア ログ・ボックスで、ターゲット CI を選択します。 ダイアログ・ボックスの[関係]ページで、関係のタイプを 選択してプロパティを定義します。 詳細については、「[関係の挿入]ダイアログ・ボックス」(209ペー ジ)を参照してください。

## 関連 CIの表示方法

次の手順で、IT ユニバース・マネージャで関連 CI を表示するオプションについて説明します。

- 「関連 CI の表示」(188ページ)
- •「表示範囲の選択」(188ページ)
- 「関連 CI のフィルタ処理」(188ページ)
- •「CI へのパースペクティブの適用」(189ページ)

#### 関連CIの表示

IT ユニバース・マネージャで、トポロジ・マップまたは CI の選択 で CI を選択して、 [関連 CI] タブを選

択します。 [**関連 CI の取得を有効化**] 🄤 ボタンをクリックします。 選択した CI とその関連 CI が表示されます。 [CI の選択] から別の CI または複数の CI を選択すると、 それに応じて表示 が変更されます。

注:関連 CI の内容は、マップ・モードまたはテキスト・モードで表示できます。

[関連 CIを取得]ユーザ・インタフェースの詳細については,「[関連 CIを取得]表示枠」(224ページ)を参照してください。

#### 表示範囲の選択

[関連 CIを取得]表示枠で、関連 CI の表示範囲を選択します。[関連 CI を常時]ボタンをクリックします。選択した範囲に応じて、表示内容が変更されます。

#### 関連 CI のフィルタ処理

[CI タイプで関連する CI をフィルタリング] セクションで, 関連 CI で表示する CI タイプを選択します。 [関連 CI をフィルタ]ボタンをクリックします。フィルタ処理の結果がタブに表示されます。上記で選択 した範囲は適用されたままで、選択したフィルタに応じて表示内容が削減されます。

#### CI へのパースペクティブの適用

[パースペクティブを CI に追加] セクションで,選択した CI に適用するパースペクティブを選択します。 [パースペクティブを適用] ボタンをクリックします。結果がタブに表示されます。

注:この機能は、範囲として[CMDB]が選択されている場合にのみ有効です。

## アプリケーション・ディスカバリのステータスをチェックする方 法(ビューの再検出)

アプリケーションの所有者または管理者として、アプリケーションに関する問題を常に把握している必要があります。たとえば、ディスカバリが正しく機能していて、現在の設定でアプリケーション・データベースに接続できることを知っておくことが重要です。本項では、アプリケーションのディスカバリの現在のステータスをチェックする再検出手順を実行する方法について説明します。

#### 注:

- セットアップと設定は、UCMDB管理者が実行します。詳細については、「前提条件」(189ページ)を参照してください。
- 再検出は、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。詳細については、「ビュー へのアクセス」(190ページ)を参照してください。
- この手順を実行するのに、データ・フロー管理(DFM)の知識は必要ありません。
- 標準設定では、10,000個より少ないCIを含むビューに対して再検出手順を実行できます。この数値を変更する方法の詳細については、「重要情報」(234ページ)を参照してください。

本項の内容

- •「前提条件」(189ページ)
- 「ビューへのアクセス」(190ページ)
- 「ビューに結果を表示」(190ページ)
- •「再検出のスケジュール設定」(191ページ)
- 1. 前提条件

注:この手順は、UCMDB管理者が実行します。

- a. DFM で, アプリケーションを検出する必要があるジョブを含むモジュールを作成します。詳細 については, 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』のモジュール/ジョブベースのディ スカバリの実行方法を参照してください。
- b. モジュールとすべてのジョブをアクティブにします。 ジョブは, アクティブな状態にしておく必要があ ります。
- c. モジュールがエラーなく実行されたことを確認します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』のエラー・メッセージの概要およびディスカバリモジュール/ジョブ-詳細を参照してください。
- d. アプリケーションのエラーを修正し,次の実行時にDFM でエラーが検出されないことを確認します。

**注意:** アプリケーションの所有者は、DFM によってエラーが報告されている場合は、 ビューを再検出できません。エラーのないベースラインを設定する必要があります。

- e. モデリング・スタジオで,再検出対象のアプリケーション Cl(1 つまたは複数)を含むビューを定義します。これらは,アプリケーションを検出するジョブをアクティブにするときに作成される Cl です。詳細については、「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)を参照してください。
- f. アプリケーションの所有者にビューの名前を通知します。
- 2. ビューへのアクセス

注:このステップは、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。

IT ユニバース・マネージャで,再検出対象のアプリケーション CI を含むビューにアクセスします。詳細については、「検索モードでの CI の検索方法」(127ページ)を参照してください。

#### 3. ビューに結果を表示

a. 完全なアプリケーションをチェックします。[CIの選択]ツールバーで[ディスカバリおよび変更の

サマリを表示] ⁽¹⁾ ボタンをクリックします。 [ディスカバリのステータスおよびビューの変更を表示] ダイアログ・ボックスが表示されます。 ダイアログ・ボックスには, DFM によってジョブのディスカバリが最後に実行されたときの, ビュー内で CIを検出したジョブと CI に関する情報が表示されます。 詳細については, 「[ディスカバリのステータスと変更の表示] ダイアログ・ボックス」 (234ページ)を参照してください。

ディスカバリを実行するには、 [検出を再実行]ボタンをクリックします。 ジョブとトリガ CI に関す る情報を表示するには、 リンクを使用してドリル・ダウンします。 詳細については、 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のエラー・メッセージの概要を参照してください。

b. **アプリケーションの特定のコンポーネントをチェックします**。コンポーネントの CI を[トポロジ マップ] 表示枠で選択し,詳細表示枠に[ディスカバリ]タブを表示します。詳細については,

「[ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス」(234ページ)を参照してください。

複数のCIを再検出するには、CTRLキーを押してCIを選択し、[ディスカバリ]タブを表示します。

ディスカバリを実行するには、[検出を再実行]ボタンをクリックします。

4. 再検出のスケジュール設定

再検出手順を実行する頻度について、スケジュールを設定できます。[ジョブ定義]ウィンドウで、[ビューでディスカバリを再実行]アクションを選択します。詳細については、「[ジョブ定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 影響分析結果の取得方法 - シナリオ

影響分析マネージャでは,特定のインフラストラクチャの変化がシステムに及ぼす影響をシミュレート できる影響ルールを作成できます。影響ルールの結果は,ITユニバース・マネージャに表示されます。 このタスクの影響分析結果は,接続されているノードに CPU 操作の変化がどのような影響を与える かを示してします。

本項の内容

- 「影響分析 TQL クエリの定義」(191ページ)
- •「影響ルールの定義」(192ページ)
- 「モデリング・スタジオでのビューの作成」(193ページ)
- 「影響分析結果の取得」(193ページ)
- 1. 影響分析 TQL クエリの定義

影響分析 TQL クエリを定義するには、影響ルールを作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ ノードと関係を追加する必要があります。

影響分析 TQL クエリを作成するには、 [マネージャ]>[モデリング]>[影響分析マネージャ]を選択します。 クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。

#### 影響分析 TQL クエリの例:

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを Composition 関係 でリンクします。



#### 2. 影響ルールの定義

影響 ルールを定義 するときは、 クエリ・ノード間 で必須の因果関係を指定 する必要 があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、[影響を受けるものを定義]を選択して、[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ ノードを選択して、[次へ]をクリックします。次に、[追加]ボタンをクリックして、[影響ルール定 義]ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響 ルールを定義する方法の詳細については、「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」(437ペー ジ)を参照してください。

**注**:影響ルール定義の[change]状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は[operation]のみです。

#### 影響ルールの例:

[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[条件]領域で,システムの変更シミュレーションが 起動される条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で,影響を受けるクエリ・ノードに 対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が100%に設定されているため、ノードの重大度はCPUの重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

影響ルーク	定義					×
洋細:						
条件						
状態:	operation					-
演算子:	等価					-
値の比較:	Normal					-
対象範囲						
◉ 任意						
○ † ~ て						
🔿 範囲	0	%	-	100	%	
○固定された重大度:						
◉ 重大度はトリガの重大度との相対値 (%): 100						
				ок )	キャン・	セル

結果のTQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。

+
Node
Composition
· T
+
Cpu

### 3. モデリング・スタジオでのビューの作成

モデリング・スタジオに移動し, 定義した影響 ルールの TQL クエリとー 致するビューを作成します。 詳細については、「パターン・ビュー・エディタ」(296ページ)を参照してください。

### 4. 影響分析結果の取得

[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバースマネージャ]を選択し、[CIの選択]から必要なビュー

を選択します。影響分析結果を取得するには、トポロジ・マップ内のトリガとなるCIインスタンス に対して影響ルールを実行します。トリガCIを右クリックし、[影響分析を実行]を選択して[影響分析を実行]ダイアログ・ボックスを開きます。ダイアログ・ボックスで、実行する影響ルールを選 択します。指定したバンドルにある影響ルールのみを選択する場合は、必ず選択した影響ルー ルのプロパティ・オプションを使用して影響ルールを必要なバンドルに追加してください。詳細につ いては、「[影響ルールグループ]ページ」(441ページ)を参照してください。

影響 ルールを実行する方法の詳細については、「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」(231 ページ)を参照してください。

#### 影響分析結果の取得例:

Composition の関係によって接続されている CPU とノードを含む,影響分析 TQL クエリが 作成されています。 CPU クエリ・ノード はトリガ・クエリ・ノード として定義され,タイプ・ノード のクエリ・ノード は影響を受けるクエリ・ノード として定義されています。

≗影響ル∽♪	● 定義			
詳細:				
条件				
状態:	operation			
演算子:	等価			
値の比較:	Normal			
対象範囲				
◉ 任意				
○ ★ ~ ₹				
〇範囲	0 % - 100 %			
○ 固定きれた重大度:				
<ul> <li>● 重大度は</li> </ul>	トリガの重大度との相対値 (%): 100			
	OK キャンセル			

このクエリには、次の影響ルールが定義されています。

ビューから CPU CI を右 クリックし, [影響分析を実行]を選択して[影響分析を実行]ダイ アログ・ボックスを開きます。トリガの重大度を, [Normal]以外の値に設定します。

トリガの重	討定								
Normal	Warning(1)	Warning(2)	Minor(3)	Minor(4)	Minor(5)	Minor(6)	Major(7)	Major(8)	Critical
相関ルール ・ すべての	の影響ルール								
○特定の/	バンドル内の影	響ルールのみ							

結果を表示するには、次のいずれかをクリックします。

ビューで表示:この場合は、ビュー内のすべてのCIにステータスが割り当てられます。CPU CI(重大度が変更されたもの)に接続しているノード CI だけが影響を受けます。[影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで、トリガの重大度がオレンジ色を割り当てた[重大(7)]に設定されているため、トリガ CI と影響を受けた CI がオレンジ色に変わります。



ストを表示する影響分析レポートを生成します詳細については、「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してください。

## ビューのスナップショットを取る方法

IT ユニバース・マネージャでビューのスナップショットを取って保存し、スナップショット比較レポートを使っ て、異なる時間に取られた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。ビューのスナップショットを 取る方法の詳細については、「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」(233ページ)を参照 してください。比較したビューの実際の差異を表示する方法の詳細については、「スナップショット比 較レポート」(362ページ)を参照してください。

## トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法

トポロジ・マップの内容を印刷し、それをファイルに保存できます。印刷する前に、要件に従って印刷 設定を定義し、トポロジ・マップの内容を整列することをお勧めします。印刷設定を定義する方法の 詳細については、「[印刷設定]ダイアログ・ボックス」(162ページ)を参照してください。印刷の前にト ポロジ・マップの内容をプレビューする方法の詳細については、「[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス」 (162ページ)を参照してください。トポロジ・マップの内容を印刷する方法の詳細については、「[印 刷]ダイアログ・ボックス」(161ページ)を参照してください。トポロジ・マップをファイルに保存する方法の 詳細については、「画像にマップをエクスポート」(145ページ)を参照してください。

## IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース

#### 本項の内容

[CI をモデルに追加]ダイアログ・ボックス	198
[CIをビューに追加]ダイアログ・ボックス	
[時間枠の変更]ダイアログ・ボックス	
[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス	
[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス	
[サブレポートの生成]ダイアログ・ボックス	
[CMDB からの関連 CI の取得]ダイアログ・ボックス	
[関係の挿入]ダイアログ・ボックス	
[IT ユニバース マネージャ] ページ	213
[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス	225
[最近のディスカバリ元]ダイアログ・ボックス	
[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス	
[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス	233
[ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス	

## [CI をモデルに追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI をモデルに追加できます。

利用方法	[ <b>マネージャ</b> ]>[ <b>モデリング</b> ]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。 CI の選択で CI を右 クリックし, [CI をモデルに追加]を選択します。
重要情報	この機能は, インスタンス・ベース・モデルにのみ関連します。 パターン・ベース・モデル に選択した CI を追加することはできません。
関連情報	• 「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)
	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<モデル・ツリー>	[既存のモデル]が選択されている場合, ツリーからモデルを選択します。
新規 CI プロパティの定 義	[新規モデル]が選択されている場合, モデルの名前とプロパティを定義 します。
既存の <del>モ</del> デル	選択した CI を既存のモデルに追加するには、 [既存のモデル]を選択し ます。
新規モデル	選択した CI を新規モデルに追加するには, [新規モデル]を選択しま す。
CI タイプの選択	[新規モデル]が選択されている場合,モデルのCIタイプを選択します。

## [CIをビューに追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CIをパースペクティブ・ベース・ビューに追加できます。

利用 方法	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。 CI の選択で CI を 右 クリックし, [CI をビューに追加]を選択します。
関連	• 「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)
11頁 爭反	• 「IT ユニバース・マネージャでの作 業」(177ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ビューのツ リー>	[既存のビュー]が選択されている場合, ツリーからビューを選択します。
既存の ビュー	選択した CI を既存のパースペクティブ・ベース・ビューに追加するには, [ <b>既存の</b> ビュー]を選択します。
新規ビュー	選択した CI を新しいパースペクティブ・ベース・ビューに追加するには, [ <b>新規</b> <b>ビュー</b> ]を選択します。
ビュー名	[新規ビュー]が選択されている場合,ビューの名前を編集します。

## [時間枠の変更]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの変更を表示するとともに、表示する変更の時間枠を設定できます。

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。 メイン・ツール バーまたは IT ユニバースのステータス・バーで, [変更時間枠の設定] パレます。
重要情報	トポロジ・マップに変更インジケータが表示されている場合, IT ユニバースのステータ ス・バーには[変更時間枠はアクティブです]というメッセージが表示されます。 インジケータを非表示にするには、ダイアログ・ボックスを開き[変更を表示しない]を 選択するか, IT ユニバースのステータス・バーから[変更時間枠のリセット] の ボタン を選択します。
関連情報	<ul> <li>「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)</li> <li>「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
選択した時 間枠に応じ た変更の表 示	このオプションを選択すると、選択した期間中に追加または変更された各 CIの横に、次のインジケータを表示します。
	<ul> <li>■ 追加された CI のインジケータ</li> </ul>
	<ul> <li>▲変更された CI のインジケータ</li> </ul>
	ドロップダウン・リストから期間を選択します。 [カスタム]を選択する場合は、省略
	記号 🚥 ボタンをクリックして[開始日付]および[終了日付]フィールドを選択しま す。ビューの CI に対する選択期間中の変更がマップに表示されます。
	インジケータが表示されているときにそのインジケータをクリックすると、選択した期間 中のその CI の履歴を表示する[CI 履歴]ダイアログ・ボックスが開きます。
変更を表示 しない	このオプションを選択すると、変更インジケータを非表示にできます。

## [CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、変更があった CI または関係の属性、および2つの構成ファイルの違いが表示されます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャの CI の選択またはトポロジ・マップで,選択した CI または 関係を右 クリックし, [ <b>CI 履歴</b> ]を選択します。
	<b>注</b> : CI および関 係 の履 歴 データは, IT ユニバース・マネージャの詳 細 表 示 枠 の [履 歴] タブにも表 示 されます。
重要情報	すべての CI および関係属性は、CI タイプ・マネージャで[ <b>履歴用の追跡ではありません</b> ]修飾子でマーキングされている属性を除き、履歴に含まれています。詳細については、「[属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(452ページ)を参照してください。
	注: マルチテナンシー環境では, [CI履歴]ダイアログ・ボックスにビュー CI権限 に関連付けられたテナントに関連する履歴イベントのみが表示されます。ただ し, UCMDB バージョン 10.01 にアップグレードする前に発生した[CI/関係の削 除]イベントは, [ビュー CI]権限に関連付けられたテナントと無関係に表示さ れます。
関連情報	• 「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
G	更新:テーブルのデータを更新します。
9	相違を表示:構成ファイルの内容の2つの履歴エントリの相違を表示できます。この機能は、次の状況で使用します。
	<ul> <li>タイプが[Configuration Document]である CI の [Document Content] 属性の2つの履歴エントリを選択して、相互に比較する。</li> </ul>
	<ul> <li>タイプが[Configuration Document]である CI の [Document Content]属性の1つの履歴エントリを選択して、その CI の現在の内容と比較する。</li> </ul>
	[相違を表示]ボタンをクリックするとVisualdiff レポートが開きま す。このレポートには、2つのエントリの比較が表示されます。2 つ目のエントリに追加したテキストは、黄色で強調表示されま す。1つ目のエントリから削除したテキストは、赤色で強調表示 されます。エントリ間の違いは、緑色で強調表示されます。

UI要素	詳細
<b>E</b>	<b>データをファイルにエクスポート</b> :履歴データをエクスポートできま す。次のオプションからエクスポート形式を選択します。
	• XLS: テーブルのデータは,スプレッドシートに表示できる.xls (Excel)ファイル形式に整形されます。
	• <b>PDF :</b> テーブルのデータは, PDF 形式 でエクスポートされま す。
	<b>注:</b> PDF にエクスポートする場合,レポートが読みやすく なるよう表示列の適切な数を選択します。
	• RTF : テーブルのデータは、 リッチ・テキスト 形 式 でエクスポート されます。
	<ul> <li>CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。</li> </ul>
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するに は、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要がありま す。Windows では、区切り文字の値を確認または変 更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を 開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の値として定 義されていることを確認します。Linux では、区切り文字 は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは, テキスト・エディタまたは XML エ ディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	<b>ヒント:</b> レポートから HTML コードを抽出するには、次の手順を実行します。
	• ファイルを HTML エディタで開きます。
	• 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。
属性	属性の名前です。
日付の変更	最後に変更が行われた日付です。

UI要素	詳細
適用フィルタ	次のフィルタの1つまたは複数を使って, テーブル内のデータが フィルタ処理されます。
	• 時間範囲でフィルタ: [CI履歴]を表示する期間を選択しま す。
	• 変更タイプ:テーブルに表示する変更のタイプを選択します。
	• 属性:テーブルに表示する属性のタイプを選択します。
変更元	変更理由が示されます。たとえば, このフィールドにはユーザまた は DFM ジョブの名前が含まれます。
新規値	属性の新しい値です。
古い値	属性の古い値です。

# [構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のCIまたは関係の基本情報を表示、編集できます。

利用方法	[ <b>マネージャ</b> ]>[ <b>モデリング</b> ]>[ <b>IT ユニバース マネージャ</b> ]を選択し, 次のいずれかを 使用します。
	<ul> <li>トポロジ・マップまたは[CIの選択]でCIまたは関係を選択します。詳細表示 枠で、[プロパティ]タブを選択し[編集]をクリックします。</li> </ul>
	<ul> <li>トポロジ・マップまたは[CIの選択]でCIまたは関係を選択し、[CIプロパティの 表示] ボタンをクリックします。</li> </ul>
	<ul> <li>トポロジ・マップまたは[CIの選択]でCIまたは関係を右クリックし、[プロパティ] を選択します。</li> </ul>

重要情報	[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスには、次の2種類のプロパティがあります。
	<ul> <li>一般プロパティ: CI または関係に関する一般情報が含まれています。これらの プロパティは、すべての CIT に共通しており、後述のようにドキュメント化されてい ます。</li> </ul>
	<ul> <li>CIT 固有のプロパティ:特定のCIに固有のプロパティが含まれています。これらのプロパティは、CIまたは関係のタイプによって異なるため、ドキュメント化されていません。</li> </ul>
	プロパティをカテゴリごとに並べ替える場合, CIT 固有のプロパティはリストの上部に 表示され,一般プロパティは下部に表示されます。
	選択したプロパティの説明は、ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域に表示されます。説明領域を表示するには、[詳細領域を表示 / 非表示]ボタンをクリック します。
	必須フィールドにはアスタリスクが示されています。
	<b>注:</b> HP Universal CMDB では, サロゲート・ペアおよび結合文字は完全には サポートされていません。
関連情報	• 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジング・メカニズム
	• 「CI での作 業 」( 179ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	カテゴリ分け済み: プロパティがカテゴリごとに表示されます。
₽J	アルファベット:プロパティがアルファベット順に表示されます。
i	<b>詳細領域を表示/非表示</b> :[Cl プロパティ]ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域の表示と非表示が切り替わります。
*	<b>展開:</b> プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーが展開 されます。
*	<b>折りたたみ</b> :プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーを 折りたたみます。

UI要素	詳細
🔁 エクスポート 🔹	<b>データをファイルにエクスポート</b> :テーブル・データをエクスポートできます。 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
	• Excel:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF: テーブルのデータは、 PDF 形式 でエクスポートされます。
	<b>注:</b> PDF にエクスポートする場合,レポートが読みやすくなるよう表 示列の適切な数を選択します。
	• RTF: テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。
	<ul> <li>CSV:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。</li> </ul>
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区 切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の 値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文 字はCSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開く ことができる XML ファイルとして整形されます。
	<b>ヒント:</b> レポートから HTML コードを抽出するには,次の手順を実行します。
	■ ファイルを HTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。

UI要素	詳細
<クイック・フィルタ>	[クイックフィルタ]ボックスに文字列を入力して、プロパティ名および値をフィ ルタ処理します。 左端のボックスをクリックして、フィルタ・オプションのドロップ ダウン・メニューを開きます。
	• [ <b>すべて</b> ]を選択すると、プロパティ名およびプロパティ値内のフィルタ文字列が検索されます。[名前]を選択すると、プロパティ名内のフィルタ文字列のみが検索されます。[値]を選択すると、プロパティ値内のフィルタ文字列のみが検索されます。
	• [大文字小文字を区別する]を選択すると、入力されたとおりのフィル タ文字列が検索されます。[大文字小文字を区別]を選択すると、 フィルタ文字列の大文字小文字は考慮されません。
	• [ワイルドカードを使用する]を選択すると、フィルタ文字列内でワイルド カード記号 *を使用できます。
	• [はじめがマッチする]を選択すると、プロパティ名またはプロパティ値の 先頭のフィルタ文字列が検索されます。[正確にマッチ]を選択すると、 完全に一致するフィルタ文字列が検索されます。[いずれかがマッチする]を選択すると、プロパティ内のすべてのフィルタ文字列が検索されま す。
Actual Deletion Period	CI または関係が削除されるまでの日数です。
Allow CI Update	このオプションを選択すると、DFM プロセスが検出した情報を使用して、CIまたは関係のプロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合、値は検出された値によって上書きされます。
	このオプションをオフにすると, CI または関係のプロパティは, DFM プロセス によって上 書きされません。
適用	[ <b>適用</b> ]をクリックすると、CI または関係のプロパティに加えた変更内容が 保存されます。
Cl タイプ	CIまたは関係のタイプ(読み取り専用の値)。HP Universal CMDBの CITの詳細については、「CIタイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してく ださい。
作成者	CIまたは関係を手動で作成した管理者のユーザ名です(該当する場合)(読み取り専用の値)。
Create Time	CIまたは関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	エージング・メカニズムが有効なときに CI が削除の候補になってからの期間です。
Description	CI または関係の簡単な説明です。

UI要素	詳細
表示ラベル	CIの選択に表示される CI または関係の名前です。
編集	詳細表示枠の[プロパティ]タブではCI プロパティを表示できますが, 編集 することはできません。 [編集]をクリックして [構成アイテムのプロパティ]ダイ アログ・ボックスを開き, そこでプロパティを編集できます。
エイジングの有 効 化	CIまたは関係が一定期間,更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFMによって再検出されておらず,かつ手動更新が実施されていない ときなど),エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。 詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のエイジング・メカニ ズムの概要を参照してください。 True の場合:この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になって います。 False の場合:この CI または関係のエイジング・メカニズムは無効になりま す。
	<ul> <li>注:</li> <li>エージング・メカニズムが[エイジングステータス]で無効の場合,このフィールドは無視されます。</li> <li>このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。</li> <li>標準設定値は、選択したCIのCIタイプの[エイジングの有効化]属性の標準設定値によって決定されます。</li> </ul>
Global Id	CMDB内のCIまたは関係の内部 ID(読み取り専用の値)です。
最終アクセス日 時	DFM による更新または検出時に、CIまたは関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定のCIまたは関係に対してのみ表示されます。 このパラメータは、エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCIライフサイクルとエイジング・メカニズムを参照してください。 <b>注</b> :標準設定では、このプロパティはディスカバリ・ジョブまたはインテグレーションの実行によって CI が検出されるたびに更新されます。この プロパティがディスカバリ・ジョブまたはインテグレーションによって更新されないようにするには、データ・フロー管理モジュールの[ <b>アダプタ管理</b> ] >[ <b>アダプタ構成</b> ]タブで、[「最終 <b>アクセス日時」の更新を有効化</b> ]オ プションをクリアします。詳細については、『HP Universal CMDB デー タ・フロー管理ガイド』の「[アダプタ構成]タブ」を参照してください。
Last Modified Time	CIまたは関係のプロパティが最後に更新された日時です。

UI要素	詳細
Name	CI または関係の名前です。
Note	CIまたは関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI または関係を自動的に作成したソース、あるいは CI または関係が作成されたアプリケーションの ID(読み取り専用の値)です。
リセット	[ <b>リセット</b> ]ボタンをクリックすると、CI または関係の元のプロパティ設定が復 元されます。
更新者	CIまたは関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ユーザ・ラベル	CI または関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合, CI名が標準設定ラベルとして表示されます。

### ショートカット・メニュー

メニュー項目	詳細
プロパティ名 と値をコ ピー	選択したプロパティの名前と値がメモリにコピーされます。

# [サブ レポートの生成]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI のサブ・レポートを生成できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右 クリックして, [ <b>サブ レポートを生成</b> ]を選択します。
重要情報	サブ・レポートでは、選択した CI にパースペクティブを適用し、結果をレポート形式 で表示できます。 リストからパースペクティブを選択し、 [OK]をクリックします。 サブ・レ ポートが別のウィンドウに表示されます。
関連情報	<ul> <li>「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)</li> <li>「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<利用可能なパースペクティブのリ スト>	リストには, レポートのプロパティでサブ・レポートのパースペク ティブとして指定されているパースペクティブのみが表示されま す。 選択した CI タイプにー 致するパースペクティブのみが表示されます。
詳細	選択したパースペクティブの説明です。

## [CMDB からの関連 CI の取得]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, CMDB で指定した CI に関連する CI を, マップ形式またはテーブル形式で表示できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで,対象のCIを右クリックして[ <b>関連 CIを取得</b> ]を選択し ます。
重要情報	[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスは, IT ユニバース・マネージャの [関連 CI]タブのスタンドアロン・バージョンです。 [関連 CIを取得]表示枠内の機 能を使用して,表示内容を制御できます。詳細については,「[関連 CIを取得] 表示枠」(224ページ)を参照してください。
	択できません。範囲はCMDB全体となります。
	注: テキスト・モード形式には、 [CI インスタンス]ダイアログ・ボックスで使われているアイコンが使用されます。詳細については、 「CI インスタンス・ダイアログ・ ボックス」(63ページ)を参照してください。
関連タスク	「関連 CI の表示方法」(188ページ)
関連情報	<ul> <li>「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)</li> </ul>
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

## [関係の挿入]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIの選択で選択したCIに、CIを関係付けることができます。

**利用方法** IT ユニバース・マネージャで,トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右 クリックして, [CI に関連付け]を選択します。

重要情報	<ul> <li>2つの CI の間に関係を作成するには、CI の選択またはトポロジ・マップでソース CI を選択し、ショートカット・メニューで[CI に関連付け]を選択します。ダイアログ・ボックスの最初のページ([CI の選択]ページ)で、ターゲット CI (1つまたは複数)を 選択します。次に、[関係]をクリックし、ダイアログ・ボックスの2ページ目で関係の タイプを選択します。</li> <li>また、ツールバーの[関係を作成] エメタンをクリックし、2つの CI の間に線を引く ことによって、2つの CI の間に関係を視覚的に作成することもできます。この場合、[関係を挿入]ダイアログ・ボックスの小型版が開き、次のタブが表示されます。</li> <li>関係の選択:利用可能な関係のタイプを含むツリーが表示されます。必要な 関係を選択してください。</li> </ul>	
	<b>注:</b> 選択した関係をダブルクリックすると、標準設定のプロパティを使用して保存できます。	
	• 関係のプロパティ:選択した関係のプロパティが表示されます。「[関係のプロパティの定義]表示枠」(211ページ)に説明されている方法で、プロパティを編集できます。	
関連タスク	「CIと関係の作成方法」(187ページ)	
関連情報	• 「CI セレクタ」( 131ページ)	
	• 「[関係]ページ」(210ページ)	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
⇒	左側の表示枠で選択した CI が[ターゲット CI]表示枠に追加されます。
¢	選択した CI が[ターゲット CI]表示枠から削除されます(CI は CMDB からは削除されません)。
ターゲット CI の 選択	ビュー・ツリーに表示するビューを選択し, [ターゲット CI]表示枠に移動する CI を選択します。
	[ターゲット CI の選択]表示枠の詳細については、「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。
ソース CI	ソース CI として選択した CI です。
ターゲット CI	選択したCIが関係のターゲットCIとして表示されます。

### [関係]ページ

このページでは, 元の CI と, ダイアログ・ボックスの[CI の選択]ページで選択した CI の間に作成する 関係を定義できます。

モデリング・ガイド 第7章: IT ユニバース・マネージャ

利用方法	[関係を挿入]ダイアログ・ボックスで[関係]ボタンをクリックします。
重要情報	複数の関係を定義するときは、関係ごとに異なる説明とプロパティ値を定義できます。その場合は、ここではプロパティの定義は省略して、関係の作成後に各関係 を個別に編集します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

### [関係の選択]表示枠

UI要素	詳細
方向	関係の方向を選択します。
	ー部の関係タイプ(Composition,またはグループ CI とモニタ CI の間など)については、1 方向しか利用できません。
関係	元の CI と関係付け先の CI の間に作成する関係のタイプを定義します。リ ストからオプションを選択してください。
ソ—ス CI	関係の1つ目のCIの名前が表示されます。これはビューで選択したCIです。
ターゲット CI	元のCIに関連付けられる、関係の2つ目のCIの名前が表示されます。

### [関係のプロパティの定義]表示枠

UI要素	詳細
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、関係を削除するまでの期間です。
Allow CI Update	値がtrueに設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更 新されます。
作成者	関係を手動で作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	関係が削除の候補になった後の日数です。
Description	関係の詳細な説明です。
Destination Network Address	ルート・リンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先の ネットワーク・アドレスを示します。

UI要素	詳細
エイジングの有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていない ときなど), エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。 詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルと エイジング・メカニズムを参照してください。
	<b>True の場合</b> :この CI または関係 のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	<b>標準設定値</b> :False。DFM CIの標準設定値は True です。
	注:
	<ul> <li>エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> </ul>
	<ul> <li>このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。</li> </ul>
最終アクセス日時	DFMによる更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻で す。このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細につい ては,『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジング・ メカニズムを参照してください。
Last Modified Time	関係のプロパティが最後に更新された日時です。
Must	値を true に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルール を使用するときに子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親 は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計 算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便 利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内の ほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に[ <b>Must</b> ]を定義して、 サブツリーの上位までステータスを[ <b>致命的</b> ]にする必要がある場合がありま す。
	関係に定義した must ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。このフィールドは、HP Business Service Management を使用している場合にのみ関連します。
Name	関係の簡単な説明です。値を入力しなければ、名前の代わりに関係のタ イプが使用されます。
Note	関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	関係を自動的に作成したソース, または関係が作成されたアプリケーショ ンの ID です。

UI要素	詳細
更新者	CI プロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ユーザ・ラベル	関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合,関係名 が標準設定ラベルとして表示されます。
Weight	重み付けの値を入力すると,親 CIのステータスの計算にパーセンテージ・ ルールを使用するときに,パーセンテージの計算で子 CIに重みが付けられ ます。たとえば,子 CIに3の重みを付けると,重み付けのない兄弟と比べ て,親のステータスの計算に3倍の影響があります。
	関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI が持っている、ほかの関係では使用されません。このフィールドは、HP Business Service Managementを使用している場合にのみ関連します。

## [IT ユニバース マネージャ]ページ

このページでは、CIと関係をビューで定義、管理できます。

利用方法	[ナビゲーション メニュー]から[IT ユニバース マネージャ]を選択するか, [マネージャ] >[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。
重要情報	[IT ユニバース マネージャ]ページには次 の表 示 枠 があります。
	<ul> <li>CI セレクタ:選択したビューの CI が表示されます。ドロップダウン・リストからビューを選択するか、特定の CI を検索できます。詳細については、「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• トポロジ・マップ:選択したビューの CI がマップ・モードまたはテキスト・モードで表示されます。
	• 詳細表示枠: 選択した CI またはビューのプロパティ,履歴,およびディスカバリが表示されます。
	• 関連 CI を取得 :この表示枠は、 [トポロジ マップ]の[関連 CI]タブからアクセス できます。 タブ内の表示内容を制御します。
	IT ユニバース・マネージャでは、新しい CI の作成、既存の CI の変更、または CI の 削除を行えます。これらのアクションはすべて、IT ユニバース・モデル全体に直接影響します。たとえば、ビューで CI を削除すると、その CI は IT ユニバース・モデルから 削除され、いずれのビューにも表示されなくなります。

関連タスク	•「CIと関係の作成方法」(187ページ)
	• 「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存する方法」(197ページ)
	• 「アプリケーション・ディスカバリのステータスをチェックする方法(ビューの再検出)」 (189ページ)
	•「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)
	• 「ビューのスナップショットを取る方法」(197ページ)
	●「関連 CI の表示方法」(188ページ)
関連情報	<ul> <li>「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)</li> </ul>
	• 「IT ユニバース・マネージャでの作 業」(177ページ)
	•「CI セレクタ」(131ページ)
	<ul> <li>「トポロジ・マップの概要」(144ページ)</li> </ul>
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

### トポロジ・マップ

この領域には,現在選択しているビューのCIがグラフィック形式またはテーブル形式で表示されます。標準設定では,CIはグラフィック形式で表示されます。

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。
重要情報	[トポロジ マップ]ショートカット・メニューをカスタマイズすると、ほかのコマンド(ping、プログラムの実行、URLの表示など)を CIタイプ・マネージャ内から追加できます。詳細については、「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」(460ページ)を参照してください。
	注: グループ化されている CI およびその関係については、ショートカット・メニュー の全オプションがアクティブになるわけではありません。グループ化されている CI は、CI の選択 およびトポロジ・マップで括弧内に表示されます。グループ化され ている CI へのリンクをダブルクリックすると、リンク・マップを開いて個々の CI と関 係を表示することができます。リンク・マップで CI または関係を右 クリックすると、 通常のショートカット・メニューを表示できます。グループ化されている CI の詳細 については、「[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス」(308ページ)を参 照してください。
関連情報	「トポロジ・マップの作 業」(144ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します):

UI要素	詳細
	マップ:CIの選択したレイヤがトポロジ・マップ形式で表示されます。
	<b>注</b> : ビューで選択したレイヤが大きすぎてトポロジ・マップ形式で 表示できない場合は、テキスト形式でレイヤを表示するための リンクとともにメッセージが表示されます。
^{「いっち」} テキスト・モード	テキスト:選択したレイヤにある CI の属性プロパティがテーブル形式 で表示されます。
	テキスト・モードのツールバー・アイコンの詳細については、「CIインス タンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。
次の CIインスタンスを表示: Network (5) 💌	テーブルに表示するCITを指定します。テーブルには、選択した CIT の子も含まれます。
	<b>注:</b> このオプションは,テキスト・モードでのみ表示されます。
<現在位置表示リスト>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤ へのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示 します。パス内の最初の項目は最上位レイヤです。また、下のレイ ヤから CIを選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項 目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・ マップ内のそのレイヤが表示されます。
<ci タイプ属性=""></ci>	テキスト・モードで表示されるカラムは、選択した CI の CIT 属性を 表しています。

UI要素	詳細
<グル—プ化>	トポロジ・マップ内のCIは、ビュー定義で選択したデフォルト・グルー プ化に従って表示されます。IT ユニバース・マネージャでビューを消費 するときは、別のグループ化方法を手動で選択します。次のオプショ ンを使用できます。
	<ul> <li>レイヤでグループ化: Cl タイプの[レイヤ] 属性の値に従って Cl をグループ化します。</li> </ul>
	• CI タイプでグループ化: CI タイプに従って CI をグループ化しま す。
	• 分類でグループ化: CI タイプの[分類] 属性の値に従って CI を グループ化します。
	• グループ化なし: CI をグループ化しません。
	注:
	<ul> <li>このオプションはマップ・モードのみで使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>グループ化オプションを選択すると、各グループには、グループ 内のCIの数を表示するインジケータが含まれます。グループ に多数のCIが含まれている場合、形式が破損して表示され、グループ名とカウント・インジケータしか表示されません。</li> <li>[+]記号ボタンをクリックしてグループを展開し、すべてのCI を表示します。インフラストラクチャ設定マネージャの「初めに グループ最大 CI しきい値を展開します]設定を修正するこ とで、自動グループ折りたたみのCI しきい値を設定できま す。</li> </ul>
<it ス<del="" ユニバース="">テータス・ バー&gt;</it>	トポロジ・マップ下のステータス・バーには、次のプロセスのステータスが 表示されます。
	• 影響分析がアクティブかどうか
	<ul> <li>変更時間枠がアクティブかどうか</li> </ul>
	• 削除の候補が表示されているかどうか
	• データが最後に更新された時刻
UI要素	詳細
------------	---------------------------------------------------------
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が追加されたことを表します。
	• 削除の候補:CIが削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が変更されたことを表します。
	• レイヤを1つドリル・ダウン:仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。
	• 外部: CI がフェデレート CI であることを表します。
	• 影響を受ける:影響分析がアクティブなとき、影響を受けた CIを 示します。
	• 影響を受けてトリガする:影響分析がアクティブなとき,影響を 受けたトリガ CI を示します。
	• メモ: CI にメモが追加されたことを表します。
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき,トリガ CI を示します。
<メイン・メニュー>	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。
<クエリ・ノード>	トポロジ・マップ内のクエリ・ノードは, CIを表します。
	ポインタをクエリ・ノード の上 に置くと, CI のタイプを説 明 するツール チップが表 示されます。
<関係>	トポロジ・マップ内のリンクは、関係を表します。
	ポインタを関係の上に置くと,関係のタイプを説明するツールチップが 表示されます。
	注:計算された関係を選択すると、ツールバーの[削除] 遂 が 無効になります。

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については,「ツールバー・オプション」(163ページ)を参照してく ださい。
	注: ダイレクト・リンクを通じてトポロジ・マップにアクセスするとき は、関連 CI マップからのオプションがツールバーに表示されま す。詳細については、「[CMDB からの関連 CI の取得]ダイア ログ・ボックス」(209ページ)を参照してください。
<ツールチップ>	ポインタを CI に合わせると、CI データを示すツールチップが表示されます。 ツールチップは、次のいずれかの修飾子よってマークされる CI について、すべての属性を表示します。
	• 比較可能
	<ul> <li>アセット・データ</li> </ul>
	• 管理対象
	カウント・インジケータを保持した場合は、ツールチップは、その下に ある CI タイプ別 CI のブレークダウンを表示します。 グループ化オプ ションを選択した場合は、 グループ上にポインタを保持して、 グルー プ内の CI タイプ別 CI ブレークダウンをツールチップで表示します。
<[トポロジ マップ]サイド バー>	詳細については、「[トポロジマップ]サイドバー」(172ページ)を参照 してください。
関連 CI	[ <b>関連 CI</b> ]タブをクリックすると、ビュー内または CMDB 全体に対し て、選択された CI の相互依存関係が表示されます。[関連 CI を 取得]表示枠で、表示範囲を制御できます。
結果の表示	[結果の表示]タブをクリックすると、ビュー内の全レイヤが表示されます。

### IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー

[IT ユニバース マネージャ]ページには次の要素 があり、 [CIの選択]表示枠または[トポロジマップ] で、 CI または関係を右 クリックすると表示されます。

メニュー項目	詳細
アクション	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ディスカバリ・ジョブへの CI の追加:[ディスカバリジョブへの CI の追加]ダイ アログ・ボックスが表示され,選択した CI の DFM ジョブを手動で呼び出す ことができます。このオプションを使用すると、利用可能な DFM ジョブの 1 つを通じて, CI に関する追加の情報を検出できます。
	<ul> <li>ディスカバリ・ジョブからの CI の削除:[ディスカバリジョブからの CI の削除]</li> <li>ダイアログ・ボックスが表示され, CIを DFM ジョブから手動で削除できます。</li> </ul>
	• ディスカバリの進行状況を表示:選択した CIの[ディスカバリの進行状況]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• 最近のディスカバリ元:選択した CIの[最近のディスカバリ元]ダイアログ・ ボックスが開きます。
	• CI 資格情報を開く:[プロトコルパラメータ]ダイアログ・ボックスが表示され,該当 CI に対して以前に定義した資格情報の詳細を表示できます。変更を行うことはできません。このオプションは,資格情報プロパティを持つ CI のみに関係しています。
	詳細については, 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[プ ロトコルパラメータ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	• CI 資格情報を編集:[資格情報の選択]ダイアログ・ボックスが表示され,別の資格情報セットを選択したり既存の資格情報を編集したりできます。このオプションは,資格情報プロパティを持つ CI のみに関係しています。
	詳 細 については, 『HP UCMDB ディスカバリ/ インテグレーション・コンテン ツ・ガイド』に記 載 のサポートされているプロトコルを参 照してください。
	• スキャン・ファイルの再処理選択したノードのスキャン・ファイルが再処理されます。
	<b>注:</b> このオプションは, [ <b>ノード</b> ]タイプまたはそのサブタイプの CI にのみ 使用できます。
CI をモデルに追加	選択した CIを新規または既存のモデルに追加します。
CI をビューに追加	選択した CI を新規または既存のパースペクティブ・ベース・ビューに追加します。

メニュー項目	詳細
テナントを割り当て	[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き, テナントを CI に割り当てるこ とができます。
	<b>注:</b> このオプションは, マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利 用できます。
CI関係履歴	[CI履歴]ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス」(200ページ)を参照してください。
CI 比較レポート	選択した CI に対して CI 比較レポートを実行します。詳細については、「CI 比較レポート」(357ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> このオプションは、1つまたは2つのCIが選択されている場合にのみ 有効です。
CMDB から削除	選択した CI または関係をビューおよび CMDB から削除 できます。
	注: 親 CI を削除すると, 選択した CI およびその子 はビューから削除されますが, データベースからは選択した CI のみが削除されます。
サブ レポートを生 成	[サブレポートを生成]ダイアログ・ボックスを開きます。 ここで, CI のパースペク ティブを選択して, サブレポートを作成 できます。 詳細については,「 [サブレ ポートの生成]ダイアログ・ボックス」(208ページ)を参照してください。
関連 CI を取得	[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細について は、「[CMDB からの関連 CIの取得]ダイアログ・ボックス」(209ページ)を参 照してください。
ラベル	次のオプションのいずれかを選択します。
	• <b>ラベルを編集</b> :[ラベルを編集]ダイアログ・ボックスが開き, CI の名前を編 集できます。
	<ul> <li>標準設定ラベルに戻す:CI名がCMDBの標準設定値にリセットされます。</li> </ul>

メニュー項目	詳細
CI を結合	[CIを結合]ダイアログ・ボックスを開きます。ここで, 実行中ソフトウェア, ノード, ビジネス要素 CIを手動で結合できます。
	[ <b>CI を結合</b> ]ダイアログ・ボックスで, メイン CI とする CI を 1 つ選択 する。 その 他の CI ( <b>結合 CI</b> ) は, メイン CI に結合されます。 CI は次のように結合され ます。
	<ul> <li>メイン CI に存在しない結合 CI プロパティがメイン CI にコピーされます。</li> </ul>
	<ul> <li>メイン CI と結合 CI の両方に存在するプロパティは、定義済みの調整プロパティに従って結合されます。</li> </ul>
	<ul> <li>すべての CI が同じプロパティを持つ場合は、メイン CI プロパティが保持 されます。</li> </ul>
	<ul> <li>各 CI が異なるプロパティを持つ場合は、高いプロパティを持つ CI プロ パティが使用されます。</li> </ul>
	結合の後, メイン CI のグローバル ID が保持され, 結合 CI が削除されます。
	注:
	<ul> <li>このオプションは、タイプ「実行中ソフトウェア」、「ノード」、または「ビジネス要素」の少なくとも2つのCIを選択した場合にのみ関連します。CIが結合されるのは、そのCIタイプが[クラスモデル]内で同じブランチにある場合のみです。</li> </ul>
	• CI 結合すると, 該当 CI を含むビューのトポロジが更新されます。
	例:
	Node Cl IP 1.1.1.1 Node Cl Merge Cls IP 1.1.1.1 IP 1.1.1.1 IP 1.1.1.1 IP 2.2.2.2

メニュー項目	詳細
Note	次のオプションのいずれかを選択します。
	• メモを追加:編集ボックスが開き、メモを CI に追加できます。
	• メモを削除:選択した CI のメモに保存されているテキストがすべて削除されます。
UCMDB Browser を聞く	UCMDB Browser を開きます。
2 111 1	<b>注:このオプション</b> は、単一のCIが選択された場合にのみ使用できます。これは関係には関連しません。
プロパティ	選択した CI または関係の[プロパティ]ページが表示されます。詳細については、「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)を参照してください。
CIに関連付け	[関係を挿入]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[関係の挿入]ダイアログ・ボックス」(209ページ)を参照してください。
影響分析を実行	影響分析マネージャで定義した影響ルールを実行できます。[影響分析を 実行]ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「影響分析マ ネージャ」(425ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> 影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当する ビューに影響ルールを定義した場合のみです。
複合パスを表示	複合関係に対してのみ表示されます。選択した関係のリンク・マップが表示 され,複合関係に含まれる CI が表示されます。

メニュー項目	詳細
影響を表示	影響ルールで根本原因 CI として定義された CI を選択し, その影響を受けたすべての CI とそのステータスを別のウィンドウに表示できます。
	このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。
	<ul> <li>影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後(詳細については、「影響分析マネージャ」(425ページ)を参照してください)。</li> </ul>
	• [影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[ビューで表示]をクリックした後。
	• 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。
	たとえば( <b>IP アドレス</b> CI に対して)影響 ルールが定義され、その IP アドレスに リンクされたノード、ポート、およびクライアント・サーバ・システムがそのルールか ら影響を受けるように指定されたとします。
	この場合は, [ <b>影響を表示</b> ]オプションを使用すると, IP アドレス CI の影響を 受けるすべての CI を表示できます。
根本原因を表示	このオプションを使用すると、一連の影響ルールから影響を受ける CI に関す る根本原因情報を取得できます。 [根本原因を表示]の出力には、 CI に 影響を与える一連のトリガ CIT または影響を受ける CIT を示す論理マップ が表示されます。
	根本原因 CI は,別のウィンドウに表示されます。この CI に影響ルールが1 つだけ定義されている場合は、[影響分析]ウィンドウが直接表示されます。
	このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。
	<ul> <li>影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後(詳細については、「影響分析マネージャ」(425ページ)を参照してください)。</li> </ul>
	• [影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[ビューで表示]をクリックした後。
	• 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。
	表示されるウィンドウには,根本原因 CI と影響ルール・チェーン内のほかの すべての CIT が含まれます。
	影響 ルールによってトリガまたは影響を受ける,特定のCIに関する情報を 表示するには,CIに接続している関係をダブルクリックします。 マップが表示さ れます。

### 詳細表示枠

UI要素	詳細
[ディスカバリ]タブ	選択した CI のディスカバリ進行状況を表示します。詳細については,『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリの進行状況] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
[履歴]タブ	選択した CI の履歴が表示されます。詳細については、「[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス」(200ページ)を参照してください。
[プロパティ]タブ	選択した CI プロパティ([構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスに表示されるのと同じプロパティ)を表示します。 プロパティは[プロパティ]タブで表示できますが、 プロパティを編集するにはこのダイアログ・ボックスを開く必要があります。 詳細については、 「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203ページ)を参照してください。

### [関連 CIを取得]表示枠

この表示枠では、選択した CIの関連 CIを表示するさまざまなオプションを制御できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャの[関連 CI]タブに表示されます。非表示の場合は, [関 連 CIを取得]表示枠を表示
重要情報	次のコントロールを使用して, [関連 CI]タブ内の表示を制御できます。 • 表示範囲の設定
	● CI タイプ別の関連 CI のフィルタ処理
	<ul> <li>選択した Cl へのパースペクティブの適用</li> </ul>
	複数のCIの関連 CIを同時に表示できます。 <b>CTRL キー</b> を押したまま, [CIの選 択]またはトポロジ・マップで複数のCIを同時に選択します。
	注: 統合 CI に対する[関連 CI を取得]検索の実行も選択できます。フェデ レート・データ・ソースの CI が検索結果に含まれる場合, これらは, 矢印ととも にトポロジに表示され, フェデレート CI であることが示されます。ただし, フェデ レート CI の関連 CI を表示することはできません。
関連タスク	「関連 CI の表示方法」(188ページ)

UI要素	詳細
$\Diamond$	<b>戻る:</b> 前の検索結果を表示します。
$\diamond$	進む:次の検索結果を表示します。

UI要素	詳細
٢	現在の表示をクリア:このボタンが選択されている場合, 関連 CI が現在の結果に追加されます。選択されていない場合は, 現在の表示内容がクリアされ, 新しい関連 CI のみが表示されます。
Ē	グループ化して検索結果を表示/グループ化せずに検索結果を表示:この ボタンが選択されている場合,適用されたパースペクティブの階層グループ 化により関連 CI が表示されます。選択されていない場合には、関連する CI がグループ化なしで表示されます。
2	ターゲット統合ポイントを選択:統合された CIを検索結果に含めることができます。ポップアップ・ダイアログ・ボックスから必要な統合ポイントを選択します。
	注: 切断されに統合ホイントを検索に選択すると、検索の美行時に エラー・メッセージが表示され、ローカルの検索結果を表示するどうかを 質問してきます。
パースペクティブを CI に追加	選択した CI に適用するパースペクティブをリストから選択します。 リストには,選択した CI に関連するパースペクティブのみが表示されます。 選択した CI は,選択したパースペクティブの内容として使用され,ビューの結果が表示されます。
	<b>注:</b> パースペクティブの適用は, 範囲として CMDB が選択されている 場合にのみ有効です。範囲に[ビュー]が選択されている場合, この 機能は非アクティブです。
CI タイプで関連する CI をフィルタリング	関連 CI の結果に表示する CI タイプをリストから選択します。 選択した CI タイプのみが結果に表示されます。
範囲の選択	関連 CIの表示範囲を選択します。
	• ビュー:選択したビュー内のすべての関連 CI。
	• CMDB: CMDB内のすべての関連 CI。
	<b>注:</b> この機能は、ショートカット・メニューから開いた[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスでは使用できません。
関連 CI を表示	クリックすると,選択した範囲に応じて関連 CI が表示されます。

## [新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,新しい CI または新しい関連 CI を定義できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, ツールバーの[新規 CI] ⁵ ボタンをクリックして非関連 CI を作成します。トポロジ・マップで CI を選択し, [新規関連 CI] ⁵ ボタンをク リックして関連 CI を作成します。
重要情報	新しい CI を定義するには、ダイアログ・ボックスの上部のツリーで CI タイプを選択します。インスタンスを作成できるツリーの CI タイプは、黒色に表示されます。淡い色のテキストで表示されている CI タイプは、インスタンスを作成できません。
	[新規 CI プロパティの定義]領域でプロパティを編集します。 下のテーブルには,す べての CI に共通するプロパティが表示されます。 また,各 CI に固有のプロパティも あります。
	関連 CI を作成する場合は, [ <b>関係</b> ]をクリックしてダイアログ・ボックスの関係モード に移動します。関係を選択してプロパティを編集します。
関連タスク	「CMDBRTSM での CI と関係 の作 成」
関連情報	•「CI セレクタ」
	<ul> <li>「[関係]ダイアログ・ボックス」(228ページ)</li> </ul>
	● 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジング・メカニズム

UI要素	詳細
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、 CI を削除してからの期間です。
Allow CI Update	値がtrueに設定されている場合,このオプションは,DFM プロセスが検出 した情報を使用して CI プロパティを自動的に更新できます。DFM プロセス によって提供されたプロパティの値を変更した場合,値は検出された値に よって上書きされます。 値がfalseに設定されていると、CI プロパティは DFM プロセスによって上書 きされません。
作成者	手動でCIを作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	CIが作成された日時です。
Deletion Candidate Period	エージング・メカニズムが有効なときに CI が削除の候補になってからの期間 です。
Description	CIの説明です。
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI のラベルです。

UI要素	詳細
エイジングの有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていない ときなど), エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。 詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のエイジング・メカニズ ムの概要を参照してください。
	<b>True の場合</b> :この CI のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	False の場合:このCIのエイジング・メカニズムは無効になっています。
	標準設定値は, CI タイプの[ <b>エイジングの有効化</b> ]属性の標準設定値に よって決定されます。
	注:
	<ul> <li>エージング・メカニズムが[エイジングステータス]で無効の場合、この フィールドは無視されます。</li> </ul>
	<ul> <li>このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>この CI タイプの[エイジングの有効化] 属性の標準設定値を編集 することにより、このタイプのすべての新規 CI の標準設定値を変更 できます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の エイジング・メカニズムの有効化と実行方法を参照してください。</li> </ul>
Is Candidate For Deletion	CI が削除の候補かどうかを表します。
Last update date	DFMによる更新または検出時に、CIが最後にアクセスされた時刻です。 このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジング・ メカニズムを参照してください。
Last Modified Time	Cl プロパティが最後に更新された日時です。
Name	CI の名前です。
Note	CIに関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI を自動的に作成したソース, または CI が作成されたアプリケーションの ID です。
関係	関連 CI については、 [ <b>関係</b> ]をクリックしてダイアログ・ボックスの関係 モード に移動します。

UI要素	詳細
CI タイプの選択	新しい CI の CI タイプをツリーから選択 できます。 選択した CI またはビュー に利用できる CI タイプが, CI タイプ・ツリーでアクティブになります。 ほかの CI タイプは, 淡い色 のテキストで表示 されて選択 できません。
	CI タイプ・ツリーを現在のビューからの CI タイプに制限するには,右側の [ <b>現在のビューからの CI タイプ</b> ]を選択します。 すべての CI タイプをツリーに 表示するには, [ <b>すべての CI タイプ</b> ]を選択します。
更新者	CI プロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ユーザ・ラベル	CIの表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合, CI名が標準設定ラベルとして表示されます。

## [関係]ダイアログ・ボックス

このページでは,新しい CI とビューで選択した CI 間の関係,および関係のプロパティを定義できます。

利用方法	[新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで[関係]をクリックします。
重要情報	このページは,新しい関連 CI でのみ表示されます。

UI要素	詳細
Allow CI Update	値がtrueに設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更 新されます。
CI の定義	<b>CI の定義</b> :ダイアログ・ボックスの CI プロパティ・モードに戻ります。
作成者	関係を手動で作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Description	関係の説明です。
方向	ドロップダウン・リストで関係の方向を選択します。

UI要素	詳細
エイジングの有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていない ときなど), エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。 詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』のエイジング・メカニズ ムの概要を参照してください。
	<b>True の場合</b> :この関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	False の場合:この関係のエイジング・メカニズムは無効になっています。
	標準設定値は, CI タイプの[ <b>エイジングの有効化</b> ]属性の標準設定値に よって決定されます。
	注:
	<ul> <li>エージング・メカニズムが[エイジングステータス]で無効の場合、この フィールドは無視されます。</li> </ul>
	<ul> <li>このフィールドは、特定の関係に対してのみ表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>この関係タイプの[エイジングの有効化]属性の標準設定値を編集することにより、このタイプのすべての新規関係の標準設定値を変更できます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のエイジング・メカニズムの有効化と実行方法を参照してください。</li> </ul>
最終アクセス日時	DFMによる更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻で す。このフィールドは、特定の関係に対してのみ表示されます。
	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細につい ては,『HP Universal CMDB 管理ガイド』のCI ライフサイクルとエイジング・ メカニズムを参照してください。
Must	値を true に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルール を使用するときに子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親 は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計 算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便 利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内の ほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に[ <b>Must</b> ]を定義して、 サブツリーの上位までステータスを致命的にする必要がある場合がありま す。 関係に定義した Must ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほ かの関係では使用されません。このフィールドは HP Business Service
	Managementを操作するときのみ関連します。
名前	CI の名 前 です。

UI要素	詳細
Network Address	ルート・リンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先の ネットワーク・アドレスを示します。
Note	CIに関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	関係を自動的に作成したソース, または関係が作成されたアプリケーションのID です。
関係	2 つの CI の間に作成する関係のタイプを定義できます。
ソ <b>—</b> ス CI	関係の1つ目のCIの名前です。これはビューで選択した CIです。
ターゲット Cl	関係の2つ目のCIの名前です。これは作成中の新しいCIです。
更新者	関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
Update Time	CIプロパティが最後に更新された日時です。
ユーザ・ラベル	関係の表示ラベルを定義できます。
加重	重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ ルールを使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられ ます。たとえば、子 CI に3の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べ て、親のステータスの計算に3倍の影響があります。
	関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの 関係では使用されません。このフィールドは HP Business Service Managementを操作するときのみ関連します。

# [最近のディスカバリ元]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、指定した期間内で選択した CI を検出したディスカバリ・ジョブが表示されます。

利用 IT ユニバース・マネージャで、CI を右クリックしてショートカット・メニューから[アクション]> 方法 [最近のディスカバリ元]を選択します。

UI要素	詳細
S	<b>更新:</b> データを更新します。
検出日	CI がディスカバリ・ジョブで検出された日付。
開始日付	選択した CI を検出したジョブをチェックする期間を選択します。[カスタム]を 選択し,特定の日付を選択すると、その日付から現在までのすべてのディス カバリ・ジョブを検索できます。

UI要素	詳細
ジョブ名	選択したCIを検出したジョブ名。
プローブ	CI が検出されたプローブ。
トリガ CI	ディスカバリ・ジョブのトリガ Cl。

# [影響分析を実行]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響分析マネージャで該当のビューに定義した影響ルールを実行できます。

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバースマネージャ]を選択します。トポロジ・マップでトリガ・クエリ・ノードを右クリックして[影響分析を実行]を選択するか、IT ユニ
	バース・ステータス・バーで [直ちに影響分析を実行] 🔛 ボタンをクリックします。
重要情報	次のことが行えます。
	<ul> <li>トリガ CI の影響を受けるすべての CI を新しいウィンドウに表示できます。マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。詳細については、「マップを表示」(233ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• 影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできま す。詳細については、「ビューで表示」(232ページ)を参照してください。
	<ul> <li>シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCIのリストを表示するレポートを生成できます。詳細については、「レポートを生成」(232ページ)を参照してください。</li> </ul>
	注: このダイアログ・ボックスは, 該当のビューに影響ルールが定義されている場合にのみ表示されます。詳細については,「影響分析マネージャ」(425ページ)を参照してください。
関連タスク	「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)
関連情報	<ul> <li>「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)</li> </ul>
	• 「影響分析マネージャの概要」(425ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

UI要素	詳細
すべての影響ルール	選択すると、影響分析のすべての影響ルールを実行します。

UI要素	詳細
レポートを生成	影響分析レポートを生成します。このレポートに表示される情報は、次のように分かれています。
	• CIT 別のグループ化:影響を受けるすべてのCI(シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCI)。CIT で並べ替えられます。
	• 影響を受けるアプリケーション:影響を受けるすべてのCIのうち,特定のビジネス・サービスに属するもの。
	• トリガ CI:システムに加える変化を表す CI。
	影響分析レポートの詳細については、「影響分析レポート」(380ページ) を参照してください。
影響ルールのバンドル	影響分析で必要な影響ルールを含むバンドルを選択します。
特定のバンドル内の 影響ルールのみ	影響分析の指定されたバンドルから影響ルールを実行する場合に選択 します。
ビューで表示	選択した状態に関して,影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。トポロジ・マップには,トリガ CI のステータスに加えて,その影響を受ける CI の全 ステータスが表示されます。
	トポロジ・マップには、次の影響分析インジケータも表示されます。
	<ul> <li>トリガ CI は、このインジケータでマークされます。</li> </ul>
	<ul> <li>影響を受け、トリガにもなる CI は、このインジケータでマークされます。</li> <li>1.</li> </ul>
	<ul> <li>● 影響を受けた CI はこのインジケータでマークされます。</li> </ul>
	注: ここに表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・ タイプ・マネージャでその状態の重大度リストに定義されたものです。 詳細については、「[リスト/一覧定義の作成/更新]ダイアログ・ ボックス」(477ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
マップを表 示	影響ルールを選択して,選択した状態に関してトリガ CI の影響を受け るすべての CI のシミュレーションを,新しいウィンド ウに表示できます。この CI に影響ルールが1つだけ定義されている場合は,[影響ルール]ウィン ドウが直接表示されます。詳細については,「[影響を表示]表示枠」 (235ページ)を参照してください。
	マップ内の関係は、影響ルールを表します。また関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。
	<b>注: [マップを表示</b> ]では, 複数のトリガの結果を表示できます。
トリガの重大度	スケールから必要な重大度を選択します。
	<b>注:</b> 状態の重大度スケールは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、「システム・タイプ・マネージャ」(445ページ) を参照してください。
	たとえば影響分析マネージャでは、トリガ・クエリ・ノードの重大度を[注 意域(1)]以外に定義する影響ルールを作成できます。この場合、[注 意域(1)]以外の重大度(たとえば[ <b>警戒域(3)</b> ])を選択すると、条件が 一致し、シミュレートされたシステム内の変化が起動されます。
	詳細については、「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」(437ページ)を 参照してください。

## [スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューのスナップショットを取り、保存できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, [CI の選択]の[スナップショット] ቬ ボタンをクリック し, [スナップショットを保存する]を選択します。
重要情報	スナップショット比較レポートを使うと、異なる時間に取られた同じビューのスナップ ショットどうしを比較できます。詳細については、「スナップショット比較レポート」(362 ページ)を参照してください。
関連タスク	• 「ビューのスナップショットを取る方法」(197ページ)
	• 「スナップショットを比較する方法」(333ページ)
関連情報	• 「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

UI要素	詳細
詳細	スナップショットの説明です(任意指定)。
注	スナップショットに関するメモです(任意指定)。
ビュー名	CI の選択に表示されるビューの名前です。このフィールドは編集できません。

## [ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI およびジョブをビューで再検出することによって、 アプリケーションなどに対する最近の変更を調べることができます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャの場合
	<ul> <li>ビューのすべての CI を再検出するには、[CI の選択]の[ビューの参</li> </ul>
	照]タブのツールバーから[ <b>ディスカバリおよび変 更 のサマリを表 示</b> ] ⁽⁶⁾ ボタンをクリックします。[ <b>ディスカバリのステータスと変 更 の表 示</b> ]ダイアロ グ・ボックスが表 示 されます。
	<ul> <li>1つまたは複数のCIをビューで再検出するには、CIを選択して、詳細表示枠の[ディスカバリ]タブを表示します。</li> </ul>
重要情報	標準設定では, 10,000個より少ない CI を含むビューに対して再検出手 順を実行できます。
	ビューで再検出できる CI の数を増やすには、次の手順を実行します。
	<ol> <li>インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします([管理]&gt;[インフラ ストラクチャ設定マネージャ])。</li> </ol>
	2. インフラストラクチャ設定テーブルで, [ <b>再検出をサポートするビュー内</b> の最大 CI 数]設定を選択します。
	3. [値]カラムをクリックして数値を変更します。
	4. サーバを再起動して変更内容を反映させます。
	インフラストラクチャ設定マネージャの操作の詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定マネージャ」を参 照してください。
関連タスク	「アプリケーション・ディスカバリのステータスをチェックする方法(ビューの再検出)」(189ページ)
関連情報	• 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリコント ロールパネル] - [詳細]タブ」
	• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

UI要素	詳細
G	更新:選択した CI のステータスが更新されます。
	このボタンは、再ロードするデータがないときには無効になっています。
	<b>検出の再実行</b> :検出を再実行します。
ビュー上のディスカバリ 進行ステータス	詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の 「[ディスカバリコントロールパネル] - [詳細]タブ」
ビューに関する変更 履歴	詳細については、「[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス」(200ページ)を参照してください。

### [影響を表示]表示枠

このページでは、トリガ CI のステータスと、その影響を受ける CI のすべてのステータスを表示 するウィンドウが開きます。

影響分析がすで[こアクティブになっている場合は、[ITユニバース]ステータス・バーか ら[影響分析]はアクティブです]リンクをクリックします。           重要情報         次のタブを利用できます。           ・影響の結果:選択したCIIに影響を受けるすべてのCIのマップを表示します。           ・トリガ CI:選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。           影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定のCI に関する情報を表示す るには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。 マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。           関連有報         ・「ITユニバース・マネージャの概要」(176ページ) ・「影響分析マネージャの概要」(425ページ) ・「ITユニバース・マネージャののコーザ・インタフェース」(197ページ)	利用方法	[影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[マップを表示]をクリックします。
重要情報         次のタブを利用できます。           ・影響の結果:選択したCIに影響を受けるすべてのCIのマップを表示します。           ・トリガCI:選択したトリガCIの情報をテーブルで表示します。           ・トリガCI:選択したトリガCIの情報をテーブルで表示します。           影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールと定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールと表しまず。関係の名前は、影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           関連内和         「影響分析結果の取得方法 -シナリオ」(191ページ)           関連情報         ・「「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ) ・「「影響分析マネージャの概要」(425ページ) ・「「IT ユニバース・マネージャののモーザ・インタフェース」(197ページ)		影響分析がすでにアクティブになっている場合は, [IT ユニバース]ステータス・バーから[影響分析はアクティブです]リンクをクリックします。
・影響の結果:選択した CI に影響を受けるすべての CI のマップを表示します。           ・トリガ CI:選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。           影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示す るには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。           マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。           関連 f和           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャのの概要」(425ページ)	重要情報	次のタブを利用できます。
・トリガ CI:選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。           影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示す るには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。 マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。           関連タスク         「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)           関連情報         ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ) ・「影響分析マネージャの概要」(425ページ) ・「IT ユニバース・マネージャののモーザ・インタフェース」(197ページ)		• 影響の結果:選択した CI に影響を受けるすべての CI のマップを表示します。
影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については、「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。           影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定のCIに関する情報を表示す るには、CIに接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。           マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。           関連f和           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)		• トリガ CI: 選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。
影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定のCIに関する情報を表示す るには、CIに接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。         マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。         関連タスク       「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)         関連情報       ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)         ・「影響分析マネージャの概要」(425ページ)         ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)		影響分析結果を表示できるのは,影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。詳細については,「影響分析マネージャ」(425 ページ)を参照してください。
マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。         関連タスク       「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)         関連情報       ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)         ・「影響分析マネージャの概要」(425ページ)         ・「IT ユニバース・マネージャの一ザ・インタフェース」(197ページ)		影響ルールによってトリガまたは影響を受ける,特定のCIに関する情報を表示するには,CIに接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。
関連タスク         「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)           関連情報         ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)           ・「影響分析マネージャの概要」(425ページ)           ・「IT ユニバース・マネージャの概要」(425ページ)		マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャ で定義された影響ルールの名前です。
関連情報       •「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)         •「影響分析マネージャの概要」(425ページ)         •「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)	関連タスク	「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191ページ)
<ul> <li>「影響分析マネージャの概要」(425ページ)</li> <li>「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)</li> </ul>	関連情報	• 「IT ユニバース・マネージャの概要」(176ページ)
• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)		• 「影響分析マネージャの概要」(425ページ)
		• 「IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース」(197ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が追加されたことを表し ます。
	• 削除の候補: CI が削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が変更されたことを表し ます。
	• レイヤを1つドリル・ダウン:仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。
	• 外部: CI がフェデレート CI であることを表します。
	• 影響を受ける:影響分析がアクティブなとき,影響を受けた CI を示します。
	• 影響を受けてトリガする:影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガ CIを示します。
	• メモ: CI にメモが追加されたことを表します。
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。
<関係>	これらの関係は、影響分析マネージャで定義した影響ルールを表します。 詳細については、「「影響ルール定義」ダイアログ・ボックス」(437ページ)を 参照してください。
<ステータスと各ス テータスを表す色>	表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネー ジャでその状態の重要度リストに定義されたものです。詳細については、 「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ボックス」(477ページ)を参 照してください。
<ツールバー>	[影響を表示]表示枠のツールバーには, [IT ユニバースマネージャ]ツール バーのボタンのほとんどがあります。
<[トポロジ マップ]サ イドバー>	詳細については、「[トポロジマップ]サイドバー」(172ページ)を参照してください。

# 第8章:モデリング・スタジオ

本章の内容

モデリング・スタジオ概要	237
ビュー形式	
ビジネス・ビューの構 築	
テンプレートとパースペクティブ	
定義済みのフォルダとビュー	242
テンプレート・ベース・ビューの作成	243
ビジネス Cl モデル	243
パースペクティブ・ベース・ビューの作成	245
隣接検索 CI とウォッチポイント	247
パターン・ビューの作成方法	251
テンプレートの作成方法	
パースペクティブの作成方法	254
動的ウィジェットの作成方法	255
テンプレート・ベース・ビューの作成方法	
複数のテンプレート・ベース・ビューの作成方法	
レポート設定の定義方法	
インスタンス・ベース・モデルの作成方法	
新規パターン・ベース・モデルの作成方法	261
モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法	
CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法	
モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース	

## モデリング・スタジオ概要

モデリング・スタジオは、ビューを作成、管理するためのツールです。 独自のビューを作成することも、 HP Universal CMDBに付属する定義済みのビュー(ファクトリ・ビュー)を利用することもできます。

構成管理データベースのIT ユニバース・モデルは非常に大きくなり、数千の構成アイテム(CI)を保持できます。ビューでは、IT ユニバース・モデル全体のサブセットを構築して、特定の関心領域に関連するCI のみを保持できます。独自のビューを定義することにより、組織のビジネス・ニーズに関連する情報だけを表示できます。

HP Universal CMDB は 3 つのビュー形 式をサポートしています。これらのビューは,異なるプロセスを 介してポピュレートされます。詳細については,「ビュー形式」(238ページ)を参照してください。

# ビュー形式

HP Universal CMDBでは、ビューを設定するための形式として次の3つのビュー形式がサポートされます。

- パターン・ビューは、ビューの構造を定義する TQL(Topology Query Language) クエリから構築され ます。ビューを構築するときに新しい TQL クエリを作成することも、既存のクエリに基づいてビューを 構築することもできます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。ビュー を表示または更新すると、モデリング・スタジオはクエリに適合するすべての要素を CMDB から検 索し、それらの要素でビューを自動的に更新します。
- テンプレート・ベース・ビューは、TQL クエリに基づいて作成され、さらにテンプレートが適用されます。テンプレートは、パラメータを含む再利用可能なビューです。これらの設定は、テンプレートのー部として保存されます。これにより、パラメータ情報を入力し直すことなく、同じ設定を持つビューを複数構築できます。ビューには、クエリ定義とテンプレートの条件に適合する CI と関係だけが表示されます。テンプレートの詳細については、「テンプレートとパースペクティブ」(241ページ)を参照してください。
- パースペクティブ・ベース・ビューは、個々のCIのコレクションを選択し、それにパースペクティブと呼ばれる特殊なテンプレートを適用することによって構築されます。インスタンス・ビューは廃止され、パースペクティブ・ベース・ビューに置き換えられました。パースペクティブの詳細については、「テンプレートとパースペクティブ」(241ページ)を参照してください。

左表示枠のビュー・ツリーから編集するビューを選択すると、ビューが対応するエディタの編集表示枠で開きます。

## ビジネス・ビューの構築

モデリング・スタジオでは, 独自のビューを定義して, ビジネス環境をモデル化できます。

本項の内容

- 「ビューの構造」(238ページ)
- 「ビュー階層の設定」(239ページ)
- 「トポロジ・レポート」(240ページ)

### ビューの構造

作成したビューは、ビジネス・ユーザに自社の構造、プロセス、および目標の論理的な表現を提供します。これらの要件を満たすには、通常、ビジネスのさまざまな側面を表現する複数のビューを構築します。たとえば、次の側面を中心とするビジネス・ビューを構築できます。

- 企業の構造:支店の地理的な位置やデータ・センターなどを基準にしてデータが分類されます。
- ビジネス・プロセス:ビジネス・ラインやアプリケーションを基準にしてデータが分類されます。

• ビジネスの目標:売り上げや主要顧客を基準にしてデータが分類されます。

ビューは組織の個々の要求によって異なり、ビューの実際の階層構造にはそれらの要求が反映されます。

ビューの通常の階層形式は次のとおりです。

- 最上位レベル:ビューの最上位レベルは、ルート CI とその下の分岐で構成され、通常は場所、 ビジネス・ライン、顧客、アプリケーションなどの論理的なビジネス CI タイプから構築されます。
- 中間レベル:ビューの中間の分岐は、通常、実際のハードウェアやソフトウェアを表すシステムCl タイプ、またはモニタを含むグループを表すモニタ・グループClタイプ、あるいはその両方で構成され ます。
- 最下位レベル:ビューの最下位レベルは、サブツリーの末端にあるリーフ CI で構成され、モニタ CI タイプから構築されます。

**注:** 最下位レベルは, HP Business Service Management などの監視ソリュー・ションがCMDB に接続され, モデル化されている場合にのみ関連します。

#### ビュー階層の設定

パターン・ビュー・エディタでは, 画面右側の[階層]表示枠を使用してビュー階層を設定できます。 階層を設定するには, **手動とルール・ベース**の2つの方法を使用できます。標準設定では, 手動メ ソッドが選択されています。

手動の階層メソッド

手動の階層メソッドでは、ビューのクエリ・ノードはツリー形式で表示されます。階層を作成するには、選択したクエリ・ノードを手動で別のクエリ・ノードの下にドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。クエリ・ノードを別のクエリ・ノードの下に移動できるのは、作成後の階層が有効な場合のみです。詳細については、「[階層]表示枠」(298ページ)を参照してください。

ビューから階層に1つのクエリ・ノードを複数回配置することができます。配置したら、必要なレイ アウトに応じて、クエリ・ノードが異なるレイヤに表示されるように階層を調整できます。作成された ビューは、別のクエリ・ノードをTQL クエリに追加した場合と同じになります。階層で同じクエリ・ ノードを2回使用すると、より簡単なTQL クエリを使用して必要なビューを作成できます。

#### クエリ・ノードのグループ化

ビュー階層を手動で設定する場合,表示が見やすくなるようにサブグループを作成して異なる基

準で CI をグループ化できます。[次の項目別でグループを追加] 🔄 ボタンをクリックして、オプションのいずれかを選択します。トポロジ・マップ内に同じタイプの CI のサブグループを作成するには、 [タイプ別でグループを追加]オプションを使用します。特定のクエリ・ノードのサブグループを作成するには、 [ビューノードでグループを追加]オプションを選択します。共通の属性で CI をグループ化 するには、[属性別でグループを追加]ボタンを使用し、「[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ ボックス」(308ページ)で説明されている方法で正規表現を入力します。正規表現の詳細につい ては、「正規表現の例」(526ページ)を参照してください。 ネストされたグループ(内部に別のクエリ・ノード・グループを含むクエリ・ノード・グループ)を作成する ことにより,トポロジ・マップに表示される TQL クエリの結果を微調整することもできます。

たとえば、ノード・タイプのクエリ・ノードを CIT でグループ化した後, operation state 属性を使用してより焦点を絞ったグループを作成できます。

ルール・ベースの階層メソッド

ルール・ベースの階層メソッドでは、 [階層ルール]ダイアログ・ボックスを使用して階層ルールを定 義します。ソース CIT, ターゲット CIT, 関係タイプ, 関係の方向を選択して, 階層ルールの条件 を定義します。定義した条件を満たす CI がビュー内にあった場合, その CI はルールの対象となり ます。 つまり, ターゲット CI がソース CI の配下 のレイヤに配置されます。 階層 ルールの定義の詳 細については、 「[階層ルール]ダイアログ・ボックス」(273ページ)を参照してください。

#### ビュー結果でのクエリ・ノードの表示と非表示

ビュー結果に表示されないように,特定のクエリ・ノードを非表示として選択できます。次のオプションを利用できます。

- クエリ結果に要素を表示/非表示:これらのオプションは[クエリ定義]表示枠のクエリ・ノードを 右クリックすると使用できます。クエリ・ノードと一致する CI が非表示に設定されると、クエリ結果から除外されます。クエリ・ノードをすべて非表示にすることはできません。クエリ定義を有効にするため、少なくとも1つのクエリ・ノードを表示する必要があります。
- ・ビュー・ノードを表示/非表示に設定:これらのオプションは[階層]表示枠のクエリ・ノードを右クリックすると使用できます。クエリ・ノードと一致する CI が非表示に設定されると、ビュー結果から除外されます。ただし、関数が[レポートレイアウト]表示枠で定義されている場合は、非表示のクエリ・ノードを考慮します。たとえば、合計カウントで Count 関数を非表示クエリ・ノードに対応する CI に含めます。

クエリ・ノードが階層で非表示として設定されると、その子孫はすべて自動的に非表示に設定されます。これにより、ビュー結果の分岐全体を非表示にできます。クエリ定義は、可視クエリ・ノードを非表示クエリ・ノードで持つことはできません。非表示クエリ・ノードが表示として設定されると、その子孫は自動的に変更されません。

有効な階層定義は、ルート・クエリ・ノード以外に、少なくとも1つの表示クエリ・ノードを持つ必要 があります。ルート・クエリ・ノードは非表示に設定することはできません。

TQL クエリが計算される場合, UCMDB は初めに[クエリ結果に要素を表示/非表示]設定によりク エリ結果をフィルタします。次に、クエリ結果は[クエリノードを非表示/表示に設定]設定により再び フィルタされます。最終のビュー結果は、両方のフィルタの組み合わせを反映し、IT ユニバース・マネー ジャ、モデリング・スタジオの結果プレビュー、およびレポートのビューのトポロジ・レポートに表示されま す。

#### トポロジ・レポート

レポート・モジュールでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。このようなレポートは、ビューのトポロジ・レポートと呼ばれます。トポロジ・レポート設定は、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタの[レポート]タブで定義します。トポロジ・レポートの詳細については、「トポロジ・レポートの概要」(330ページ)を参照してください。

# テンプレートとパースペクティブ

テンプレートは, 定義されたパラメータを持つ再利用可能なパターンです。 テンプレートを使用してテン プレート・ベース・ビューを構築し, 個々のビューのパラメータ値を設定します。 テンプレートに対して 行った変更は, そのテンプレートに基づいて作成された既存のすべてのビューに影響します。

テンプレート・ベース・ビューは、パターン・ビューと同様にIT ユニバース・マネージャで開くことができま す。IT ユニバース・マネージャでは、テンプレート自体を開いてさまざまなパラメータ値の結果を表示す ることもできます。結果を保存する場合は、テンプレート・ベース・ビューとして保存する必要がありま す。テンプレート、テンプレート・ベース・ビューはパターン・ビュー・エディタで定義しま す。

パースペクティブは、特定の CI のコレクションに適用 するために設計されたテンプレートの一種で、パ ターン・ビューのパターンと似ています。たとえば、パースペクティブを IP アドレスが含まれるノードで構成 できます。その場合、作成されたパースペクティブ・ベース・ビューには、ノード CI に含まれる IP アドレス と一緒に CI の選択にある CI のすべてのノード CI が表示されます。

最も基本的なパースペクティブは Content Only パースペクティブと呼ばれるもので, クエリ・ノード そのものだけで構成されます。 Content Only パースペクティブを CI のコレクションに適用した場合, 結果の ビューに含まれるのは選択された CI のみです。

パースペクティブは, パターン・ビュー・エディタでも作成, 編集されます。 パターン・ビュー・エディタでは, 複数のビュー, テンプレート, パースペクティブを同時に開くことができます。 それぞれ別個のタブに表示 されます。

パースペクティブは, IT ユニバース・マネージャのビューのリストには表示されませんが, パースペクティブ・ ベース・ビューは, ほかのビューと同様にIT ユニバース・マネージャで開くことができます。 詳細について は,「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」(245ページ)を参照してください。

このように, モデリング・スタジオの CI の選択 にある[リソース] タブのビュー・ツリーには, 次の個別のエンティティを含めることができます。

- パターン・ビュー
- テンプレート
- テンプレート・ベース・ビュー
- パースペクティブ
- パースペクティブ・ベース・ビュー

ツリーにフィルタを設定して,表示するビューまたはテンプレートのタイプを選択できます。 次の表には,ビューのタイプと,作成および表示する場所がまとめられています。

ビューのタイプ	作成場所	IT ユニバース・マネージャで開け るか
パターン・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい

ビューのタイプ	作成場所	IT ユニバース・マネージャで開け るか
テンプレート	パターン・ビュー・エディタ	はい(現在のセッションでのみ)
テンプレート・ベース・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
パースペクティブ	パターン・ビュー・エディタ	なし
パースペクティブ・ベース・ ビュー	パースペクティブ・ベース・ビュー・エ ディタ	はい

# 定義済みのフォルダとビュー

モデリング・スタジオの CI の選択にある[リソース]タブのビュー・ツリーには,以降のセクションで説明するように,定義済みのフォルダとビューが含まれています。

- 「定義済みのフォルダ」(242ページ)
- 「ファクトリ・ビュー」(242ページ)
- •「定義済みのパースペクティブ」(242ページ)

#### 定義済みのフォルダ

CI の選択の階層ファイル・フォルダ・システムは、ビューの整理に役立ちます。 定義済みのフォルダは、 定義済みのビューのために提供されています。 これらのフォルダを変更したり、組織の要件に応じて 別のフォルダを追加したりできます。

#### ファクトリ・ビュー

HP Universal CMDB のインストールには、定義済みのパターン・ビュー、テンプレート、およびパース ペクティブが含まれています。これらのビューにより、CMDB の操作を即座に開始できます。

定義済みのビューは,初期状態では空です。各パターン・ビューに組み込まれた TQL クエリは,いず れかの CI ジェネレータによって CI が CMDB に追加された直後から,パターンの要件に適合する CI を認識し,それらをビューに追加できるようになります。

CIのビューは、検出プロセスが実行されたときに作成されます。付属する定義済みのビューは、関連 するデータ・フロー管理アクション(Universal Discovery) パッケージに対応しています。たとえ ば、Oracle ビュー([Root]>[Database]>[Oracle]>[Oracle]) には、DFM で Database - Oracle モ ジュールがアクティブ化されたときに作成された CI が設定されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「モジュール/ジョブベースのディスカバリ・ワークフロー」を参照してく ださい。

定義済みビューの一部は、システムにとって基本的とみなされ、フォルダから削除できません。

### 定義済みのパースペクティブ

HP Universal CMDBには、定義済みのパースペクティブも用意されています。その一例として、追加の CI がなく、ビュー・コンテンツ自体の要素だけが含まれている Content Only パースペクティブがあります。

# テンプレート・ベース・ビューの作成

同じテンプレートに基づくテンプレート・ベース・ビューには、同じクエリ・ノードと関係が含まれています。 異なるのはパラメータ値のみです。テンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベースビュー]ウィザー ドを使用して作成します。このウィザードでは、同じテンプレートを使用して一度に複数のビューを作 成できます。複数のビューを作成するときは、パラメータ値を手動で入力するか、CSV ファイルからイ ンポートするかを選択できます。値をインポートするには、ウィザードで CSV ファイルを正しく整形する 必要があります。最初の行に少なくとも1つのテンプレート・パラメータの名前を含める必要がありま す。また、そのパラメータに少なくとも1つのレコードを含める必要があります。レコードは個別の行に 含める必要があり、各レコードのパラメータ値はコンマで区切って、同じ行内に含める必要がありま す。

また, ウィザードではパラメータ値に基づいてビュー名の式を定義できる[Advanced Naming]機能を 提供します。たとえば, ベース・テンプレートがServer_Templateという名前で, テンプレートのパラメー タの1つがシリアル番号である場合, ビュー名をServer <シリアル番号>と定義できます。このように, ウィザードではパラメータのシリアル番号の各値を各ビューの名前に自動的に挿入します。

CSV ファイルから値をインポートするときにビューに名前を割り当てる別の方法では、template_ based_view_nameというファイルにカラムを含めます。このカラムに対応するファイル・エントリは、ウィ ザードでビュー名として自動的に入力されます。なお、この命名方法は[Advanced Naming]機能よ りも優先されます。つまり、[Advanced Naming]が選択されている場合でも、ファイルのtemplate_ based_view_name カラムのエントリにビュー名が割り当てられます。

テンプレート・ベース・ビューの作成の詳細については、「[テンプレート ベースビュー]ウィザード」(317 ページ)を参照してください。

また, エディタでビューが開いているときは, [テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスからテンプ レート・ベース・ビューのパラメータを編集することもできます。 詳細については, 「[テンプレート パラメー タ値]ダイアログ・ボックス」(321ページ)を参照してください。

テンプレート・ベース・ビューのレポート・レイアウトは編集できません。 レポート・レイアウトを変更するには、ビューのベース・テンプレートを変更する必要があります。

# ビジネス CI モデル

本項の内容

- 「インスタンス・ベース・モデル」(244ページ)
- 「パターン・ベース・モデル」(244ページ)
- 「インスタンス・ベース・モデル上でのパターン・ベース・モデルの定義」(245ページ)

パースペクティブ・ベース・ビューのビュー・コンテンツを構成する CI のコレクションの選択方法は2つあり ます。1つは、CI の選択から CI を選択し、それを編集表示枠にドラッグするという方法です。この場 合、パースペクティブをコレクションに適用することによってビューを作成できます。このコレクションをほか のビューで再利用するには、選択プロセスを繰り返す必要があります。ビューに表示する CI を選択す るもう1つの方法は、モデルを作成するというものです。

モデルとは, ビジネス・サービスやビジネス内容などのビジネス・エンティティを定義する CI インスタンスの 再利用可能コレクションです。 モデルを作成することで, 異なるビューを作成するほかのパースペクティ ブで再利用可能な CI のコレクションが作成されます。 その後にモデルに加えた変更は、 そのモデルを ベースとしているすべてのビューに反映されます。 モデルにはインスタンス・ベース・モデルとパターン・ベー ス・モデルの2つのタイプがあります。

#### インスタンス・ベース・モデル

インスタンス・ベース・モデルの作成では、まずベースとなるビジネス CI を選択します。 利用可能なビジネス CI は、 グループ、 アプリケーション、 ビジネス・サービス、 ビジネス単位、 ビジネス内容などです。 そして、 次の方法で CI をモデルに追加します。

- CIの選択からモデル・エディタに手動で CI をドラッグします。
- 隣接検索パスを使用して関連 CIを隣接検索して選択し、モデルに追加します。
- 選択した CI に監視を定義して、自動的に CI をモデルに追加します。

また, CI を空のキャンバスにドラッグし, [新規モデルの作成]を選択するという方法でもモデルの作成 を開始できます。

作成したモデルは CI そのものであり、モデル内の CI は**Contains**関係によってそのモデルに関連付け られます。ビューの作成のためにパースペクティブをモデルに適用する前に、モデルを保存しておく必要 があります。

**注意:** モデルに加えた変更は、そのモデルに基づいているビューだけでなくユニバース全体に影響 します。したがって、モデルから CI を削除すると、CI 間に存在していた関係が CMDB から削除 されることになります。

IT ユニバース・マネージャでの作業時には、選択した CI を新規または既存のモデルに直接追加できます。詳細については、「[CI をモデルに追加]ダイアログ・ボックス」(198ページ)を参照してください。

#### パターン・ベース・モデル

もう1 つの構 築 可 能 な モデルは, パターン・ベース・モデルです。 パターン・ベース・モデルでは, 含 まれる CI を手 動 で選 択 するのではなく, それらを判 別 する TQL クエリを定 義 します。 パターン・ベース・モデル を既 存 の TQL クエリに基 づいて構 築 することも, 新しい TQL クエリを作 成 することもできます。

モデルの TQL クエリには少なくとも 1 つのクエリ・ノードをモデルの出力として指定する必要があります。 そのタイプの CI が TQL クエリのパターンに一致すれば、その CI がモデル出力に含まれます。

通常のモデルと同様,作成したパターン・ベース・モデルは,CIとして保存されます。また,パースペク ティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成するために使用されます。作成された新しい TQL クエリは通 常のクエリとして保存され,パターン・ビューのベースとして使用されます。

パターン・ベース・モデルは連続して更新されません。各モデルは、それが保存され、モデル更新の特定の間隔で TQL クエリが実行されるときに計算されます。既存のパターン・ベース・モデルは、すべて同時に更新されます。パターン・ベース・モデル更新の頻度を設定するには、左側のペインの[リソー

ス] タブで 🅒 ボタンをクリックして, [パターン ベース モデル スケジューラ] ダイアログ・ボックスを開きま す。 選択した設定は, 順次作成されるすべてのパターン・ベース・モデルにも適用されます。 詳細につ いては, 「[パターン ベース モデル スケジューラ] ダイアログ・ボックス」(293ページ) を参照してください。

注:

- [パッケージマネージャ]でパターン・ベース・モデルをエクスポートすると、モデル・コンテンツ更新用のエンリッチメントだけでなく、モデルの基本 TQL クエリがパッケージに追加されます。パッケージ・リソースを表示すると、またはパッケージのデプロイまたはアンデプロイを実行すると、リソースのみが表示されます。モデル名は表示されません。UCMDB 10.0 からエクスポートされたパターン・ベース・モデルは、UCMDB バージョン 10.00 より前のバージョンにインポートすることはできません。
- モデリング・スタジオまたは IT ユニバースからパターン・ベース・モデルを削除 すると, ビジネス・エンリッチメント, ジョブ・スケジューラ, およびパターン・ベース・モデル CI も削除されます。

#### インスタンス・ベース・モデル上でのパターン・ベース・モデルの定義

パターン・ベース・モデルを定義すると、既存のインスタンス・ベース・モデルを最上部で構築することが可能です。この場合、構築するモデルのパターンは、新規のパターン・ベース・モデルと同様にキャンバス上で可視となります。ただし、モデルを使用してパースペクティブ・ベース・ビューを構築したときには、インスタンス・ベース・モデル内のCIも新規モデルに残り、ビュー結果に表示されます。同様に、ITユニバース・マネージャ内のモデルにアクセスするときは、インスタンス・ベース・モデル内のCIとパターン・ベース・モデルによって取得されたCIの両方が可視となります。モデルは、元のインスタンス・ベース・モデルの名前で保存され、実質的に、インスタンス・ベース・コンポーネントとパターン・ベース・コンポーネントの両方によってハイブリッド・モデルが作成されます。

モデルを削除する場合,モデルの追加パターン・ベース部のみが削除されます。モデルは、インスタンス・ベース・モデルに戻り、モデルに含まれる CI は、[モデルエディタ]上で可視となります。

## パースペクティブ・ベース・ビューの作成

パースペクティブ・ベース・ビューは, モデルまたは Cl のコレクションに適用されるパースペクティブによって 構成されます。 パースペクティブは, IT ユニバース・モデルのサブセットに適用されるように設計された特別なタイプのテンプレートです。

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタの[コンテンツ] 表示枠には、ビューのベースとするために選択し たモデルまたは CI が表示されます。[パースペクティブ] 表示枠には選択したパースペクティブが表示さ れます。[結果の表示] 表示枠には、選択したコンテンツとパースペクティブに基づいた結果のビューが 表示されます。コンテンツまたはパースペクティブの選択を変更すると、それに応じて[結果の表示] 表 示枠のビューが更新されます。詳細については、「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」(302ペー ジ)を参照してください。

本項の内容

- 「コンテンツ」(245ページ)
- 「パースペクティブ」(246ページ)
- •「複数のパースペクティブに基づいたビュー」(247ページ)
- •「子 CI の包含と除外」(247ページ)

コンテンツ

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツは、次の2つの方法で選択できます。

- CI の選択を使用して, 個々のCI を手動でビューに追加できます。コレクションのCI は互いに独立しています。この場合, CI のコレクションはモデルとして定義されず, ほかのビューで再利用できません。
- CI の選択を使用して、1つ以上のモデルをビューに追加できます。あるいは、モデル・エディタでモデルを扱うところから始めて、[選択したモデルのビューを生成]を選択し、そのモデルに基づいたビューを作成することもできます。この場合、同じモデルを選択することによって、同一のコンテンツで別のビューを作成できます。

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成する際,個々のCIとモデルの両方を選択できます。ただし、その場合、モデルは普通のCIとして扱われます。モデル自体は、子 CIの階層なしでビューに含まれます。

IT ユニバース・マネージャでの作業時には,選択した CI を新規または既存のパースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツに直接追加できます。詳細については,「[CI をビューに追加]ダイアログ・ボックス」(198ページ)を参照してください。

#### パースペクティブ

ビューに対して選択したパースペクティブによって、ビューに含まれる CI が決まります。パースペクティブ は、テンプレートに似た再利用可能なパターンです。パースペクティブと正規のテンプレートの違いは、 パースペクティブには、コンタクト・クエリ・ノードと指定された1つ以上のノードが含まれていることです。 コンタクト・クエリ・ノードとは、パターン内のクエリ・ノードで、特定のコンテンツにパターンを適用するのに 使用され、クエリ・ノードの横に表示される小さいアイコン 3 で示されます。

たとえば、次のパースペクティブでは、Windows タイプのクエリ・ノードがコンタクト・クエリ・ノードとして指定されており、IP アドレスが Containment 関係によって関連付けられています。



このパースペクティブを CI コレクションに適用 すると、その結果表示されるビューには、元のコレクションの中のすべての CI と、コレクション内の各 Windows CI(パースペクティブを適用 することで追加された 各 CI)に接続された IP アドレスが表示されます。

パースペクティブには複数のコンタクト・クエリ・ノードを含めることができますが、パースペクティブ内の切断されたグラフごとに少なくとも1つのコンタクト・クエリ・ノードが必要です。

パースペクティブに変更を加えると、そのパースペクティブに基づいているすべてのビューが影響を受けます。

### 複数のパースペクティブに基づいたビュー

複数のパースペクティブを選択してビューのコンテンツに適用できます。 複数のパースペクティブを選択 するには、次の2つの方法があります。

- パースペクティブ・グループ
- パースペクティブ・チェーン

パースペクティブ・グループでは、複数のパースペクティブを選択して同じ入力コンテンツに同時に適用 します。

パースペクティブ・チェーンでは、複数のパースペクティブをビュー作成の異なるレベルで選択します。第 1レベルのパースペクティブは元のビュー・コンテンツに適用され、CI コレクションの形式で結果を生成 します。この CI コレクションが次のレベルの入力コンテンツになります。第2レベルのパースペクティブは このコンテンツに適用され、ビューの結果を生成します。複数レベルのパースペクティブに基づいて ビューを構築し、各レベルで次のレベルの入力コンテンツを生成することができます。

パースペクティブ・グループとパースペクティブ・チェーンの両方を同時に適用することもできます。この場合,パースペクティブ適用対象のレベルごとに複数のパースペクティブを選択します。

たとえば、**IpSubnet** CI のコレクションを入力コンテンツとして選択し、IP サブネットに関連する**ノード** CI を追加するパースペクティブを第1レベルのパースペクティブとして選択します。この段階の結果は、 元の IP Subnet とそれに関連するノードで構成されます。次に、第2パースペクティブ・レベルを追加 し、それに対して2つのパースペクティブを選択します。一方はノードに関連する **CPU** CI を追加し、 もう一方はノードに関連する**ファイル・システム** CI を追加します。最終結果には、元の IP Subnet と それに関連するノード、それらのノードに関連する CPU およびファイル・システムが含まれます。

このようなオプションによって, パースペクティブの機能が各構成部分に分解されるため, パースペクティ ブ・ベース・ビューを作成するプロセスが簡略化されます。必要なビューごとに別個の大きく複雑なパー スペクティブを構築するのではなく, 小さく基本的なパースペクティブから特定のケースの要件に合わせ てカスタム・パースペクティブ結合を構築できます。

#### 子CIの包含と除外

子が存在するCIをビューに追加するとき、選択したCIタイプの子がパースペクティブのパターンに含ま れている場合にのみ、CIとその子がビューに含まれるようになります。この場合、そのタイプのすべての CIの子が含まれます。ビューの作成後、ビュー上で特定のCIを非表示にできます。それには、[結 果の表示]表示枠でCIを選択し、ショートカット・メニューから[ビューから CIを非表示]を選択する か、ツールバーの[ビューから CIを非表示]ボタンをクリックします。このオプションは、パースペクティブを 介してビューに追加され、ビューの基礎となっている元のコンテンツの一部ではない CIに対してのみ 有効です。したがって、ビューがCIのコレクションに基づいている場合、そのコレクションの CIはビュー で非表示にできません。ビューがモデルに基づいている場合、そのモデルはビューで非表示にできません

使用中のパースペクティブに関わらず、両方のビューのCIに同じ状態結果が示されています。

## 隣接検索 CI とウォッチポイント

モデリング・スタジオでは、2つの高度な方法、すなわち関連 CI の公開および監視の定義という方法 で既存のモデルに CI を追加できます。

#### 本項の内容

- 「CIの隣接検索」(248ページ)
- 「ウォッチポイント」(250ページ)

#### CIの隣接検索

モデルを作成する方法の1つは、モデル内でCIに関連するCIを追加することです。モデリング・スタジオには、そのようなCIを公開するのに役立つツールが用意されています。関連CIを公開するプロセスには、公開パスの作成が含まれます。公開パスは、互いに関連するCIタイプのチェーンです。公開パスの最初のアイテムは、CIの公開を開始したCIのCIタイプです。モデリング・スタジオは、関連CIをすべて探し出し、そのCIタイプを一覧表示します。いずれかのタイプを選択して、パスの次のステップを作成します。ダイアログ・ボックス下部の表示枠に、そのタイプの関連CIがすべて表示されます。ここで、モデルに含めるCIを選択できます。パスの次のステップを作成するには、このプロセスを繰り返します。

たとえば、Windows タイプの CI から CI の公 開を開始 する場 合, インタフェース, ネット ワーク, IP といったタイプの関連 CI が公開 されるかもしれません。ネット ワークを選択 すると, 下部の表示枠にネットワーク・タイプの関連 CI が表示されます。その関連 CI を CI バスケットにドラッグするか, CI バスケット・アイコンをクリックすれば, モデルに追加 することができます。

CI を公開 検査 (I) を公開しています… (2) 公開パスの各ステップで、モデルに追加	nする公開 CI を選択します。			×
パスを公開: 🧟 <u>Windows</u> <b>⇒ </b> <u>野</u> Network				パスの保存
×	CIタイブ Network Share CPU Service Address Windows User Network Interface 認 Network Memory 検索(E):	条件 	CI数	8 2 24 7 3 3 1 •
④ モデルに追加された順番で CI を削除	名前 デ 192.168.119.0 デ 16.152.236.0 デ 192.168.112.0 検索(E):	Network Network Network	CI タイプ 〇 〇	
	<戻る	次へ>> 完了	キャンセル	「ヘルプ」

[次へ]をクリックすると、選択したネットワークを使用してパスの次のステップが作成されます。Windows, UNIX, IP といったタイプの関連 CI が公開されます。UNIX を選択すると、下部の表示枠にUNIXのCI が表示されます。選択した CI を[CI バスケット] 表示枠にドラッグすれば、モデルに追加することができます。

CI を公開					×
20 関連 CI を公開しています… (2) 公開バスの各ステップで、モデルに追	加する公開 CI を選択します。				
バスを公開: 🏼 🛃 <u>Windows</u> Þ 💕 Unix				(	バスの保存
×					
	CIタイプ	Í	条件	CI数	
	S NTCMD				1 🔺
	🍄 Process				9
	🔄 Installed Software				143
	🕸 VVMI				1
	🔄 🧐 Service				132
	🚇 SQL Server				1
	💕 Unix				1 💌
	検索(E):			$\bigcirc$	$\bigcirc$
① モデルに追加された順番で CI を削除…	名前			CIタイプ	
	💕 sun-001-002-node-13		Unix		
	検索(E):				
🕋 CIバスケット					
	<<戻る	】 (次へ>>	完了	キャンセル	ヘルプ

[次へ]をクリックすると、選択した UNIX を使用してパスの次のステップが作成されます。

CI を公開				X
<b>関連 CI を公開しています… (3</b> 公開パスの各ステップで、モデルに追	) 加する公開 CI を選択します。			
パスを公開: 🥵 <u>Windows</u> 🔿 聲 <u>Unix</u> ⇒				バスの保存
×		يدر جر	0.175	
④ モデルに追加された順番で CI を削除		余仟	CI觐	4
	SNMP			1
	Stranger Stranger			1
	File System			14
	Network later			5
	Network Interface			2
				1 -
	夜索(上):		$\bigcirc$	0
	E9			
	名前		CIタイプ	
🌰 CIバスケット				
			(+ L ) +- IL - )	
			++720	

この場合, Windows > Network > Unix の公開パスが作成されます。各ステップで、公開されている 関連 CI をモデルに追加するというオプションもあります。CI の隣接検索の詳細については、「[CI を 隣接検索]ダイアログ・ボックス」(311ページ)を参照してください。

CIを公開せずに公開パスを作成することも可能です。詳細については、「[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス」(269ページ)を参照してください。

#### ウォッチポイント

モデルに追加する関連 CI を探し出すもう一つの方法は、モデル内の選択した CI に監視を定義す るというものです。監視は、指定されたタイプの関連 CI が新しく作成されたときに起動されるメカニズ ムです。どの監視も公開パスと関連付けて定義されます。公開パスに含まれる CI タイプの関連 CI が新しく作成されると、監視が起動され、モデルの横にインジケータが表示されます。ウォッチポイント の定義の詳細については、「[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス」(292ページ)を参照してくだ さい。

注:新しいモデルは、CIに監視を定義する前に保存しておく必要があります。

ウォッチポイントによって検出された関連 CI はすべて, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスに 表示されます。このダイアログ・ボックスでは、モデルに追加する関連 CI を選択したり、抑制する、つま りモデルから除外する関連 CI を選択したりできます。詳細については, 「[ウォッチポイントの更新]ダ イアログ・ボックス」(327ページ)を参照してください。 また,検出された CI を自動的にモデルに含めるというオプションもあります。それには、 [新規ウォッチ ポイント]ダイアログ・ボックスのチェック・ボックスを選択します。 この場合, 監視で検出されたすべての CI がモデルに追加されます。

監視は、モデルに関連しなくなったモデル内のCIを検出するのにも使用できます。このようなCIは、 ウォッチポイントに関連付けられている隣接検索パスをたどって探し出された場合、[ウォッチポイント の更新]ダイアログ・ボックスにも表示されます。モデルからCIを削除するという提案を受け入れること ができます。また、その提案を受け入れず、モデルにCIを残しておくこともできます。

注:

- 監視は個々のCIに定義されますが, 監視の結果, モデル内のすべてのCIの公開パスに含まれているCIタイプの関連 CIが表示されます。
- マルチテナンシー環境でウォッチポイントまたは隣接検索 CIを使用して CI をモデルに追加する場合は、オーナー・テナントまたはモデルのコンシューマ・テナントと一致するコンシューマ・テナントを持った CI のみが追加されます。

# パターン・ビューの作成方法

このタスクでは, パターン・ビューを作成してその TQL クエリを定義する方法について説明します。 本項の内容

- 「パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く」(251ページ)
- •「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(251ページ)
- 「ビュー階層の設定」(252ページ)
- 「ビュー・プロパティの設定」(252ページ)
- 「レポート設定の定義-任意指定」(252ページ)
- 「権限の設定」(252ページ)
- 1. パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く

[新規作成] (新規作成] (パターンビュー)を選択します。[新規パターンビュー]ダイアロ グ・ボックスで、新しいビューの基にするベース TQL クエリを選択するか、[新規クエリの作成]を選 択して新しい TQL クエリを作成します。パターン・ビュー・エディタが開きます。詳細については、 [[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス」(291 ページ)を参照してください。

2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照し てください。 **注:** 空のビューで開始する場合, ビューを保存するには, クエリ・ノードを少なくとも1つ追加 する必要があります。

### 3. ビュー階層の設定

ビューの階層を設定するには、[階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。

完了したら、 [保存] 2 をクリックしてビューを保存します。

4. ビュー・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内の表示での優先度や標準設定のレイアウトなどのビュー・プロパティを設定します。詳細については、「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」(309ページ)を参照してください。

#### 5. レポート設定の定義-任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、「レポート設定の定義方法」(259ページ)を参照してください。

#### 6. 権限の設定

新しいビューのユーザやユーザ・グループにビュー権限と編集権限を適用します。[マネージャ]> [セキュリティ] > [ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管 理ガイド』の[ロールマネージャ]ページを参照してください。

## テンプレートの作成方法

このタスクでは、新しいテンプレートを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 「パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く」(253ページ)
- •「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(253ページ)
- 「パラメータ値の設定」(253ページ)
- 「テンプレート階層の設定」(253ページ)
- •「テンプレート・プロパティの設定」(253ページ)
- 「レポート設定の定義-任意指定」(253ページ)
- 「権限の設定」(253ページ)
#### 1. パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く

[新規作成] ⁽¹⁾ をクリックして, [テンプレート]を選択します。[新規テンプレート]ダイアログ・ ボックスで, 新しいテンプレートの基にするベース TQL クエリを選択するか, [新規クエリの作成]を 選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については, 「[新規パターンビュー]/[新規テン プレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス」(291ページ)を参照してください

#### 2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照し てください。

**注:**空のテンプレートで開始する場合,テンプレートを保存するには,クエリ・ノードを少なくとも1つ追加する必要があります。

#### 3. パラメータ値の設定

TQL クエリ内のノードまたは関係を右クリックして、 [クエリノードのプロパティ]を選択します。 [属性] タブで、パラメータ化された値を持つ属性を追加します。詳細については、「 [クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

**注:** パラメータを設定しない場合, テンプレートを保存するときにパターン・ビューとして保存 する必要があります。

#### 4. テンプレート階層の設定

テンプレートの階層を設定するには、[階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細 については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。

完了したら、 [保存] 🛅 をクリックしてテンプレートを保存します。

#### 5. テンプレート・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内のテンプレートでの優先度や標準設定のレイアウトなどのテンプレート・プロパティを設定します。詳細については,「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」(309ページ)を参照してください。

#### 6. レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、「レポート設定の定義方法」(259ページ)を参照してください。

#### 7. **権限の設定**

新しいテンプレートのユーザやユーザ・グループにビュー権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [セキュリティ] > [ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal

CMDB 管理ガイド』の[ロールマネージャ]ページを参照してください。

# パースペクティブの作成方法

このタスクでは、新しいパースペクティブを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 「パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く」(254ページ)
- 「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(254ページ)
- 「コンタクト・クエリ・ノードの選択」(254ページ)
- 「パースペクティブ階層の設定」(254ページ)
- 「パースペクティブ・プロパティの設定」(255ページ)
- 「レポート設定の定義-任意指定」(255ページ)
- •「権限の設定」(255ページ)
- 1. パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く

[新規作成] ⁽¹⁾ をクリックして、[パースペクティブ]を選択します。[新規パースペクティブ] ダイア ログ・ボックスで、新しいパースペクティブの基にするベース TQL クエリを選択するか、[新規クエリ の作成]を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、「[新規パターンビュー]/ [新規テンプレート]/[新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」(291ページ)を参照してください。

2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照し てください。

3. コンタクト・クエリ・ノードの選択

TQL クエリでコンタクト・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを少なくとも1つ選択します。クエリ・ノード を右クリックし, [コンタクトクエリノードとして設定]を選択します。

**注:** コンタクト・クエリ・ノードを選択しない場合,パースペクティブを保存するときにパターン・ ビューとして保存する必要があります。

#### 4. パースペクティブ階層の設定

パースペクティブの階層を設定するには、 [階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。 詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。 完了したら、 [保存] 🛅 をクリックしてパースペクティブを保存します。

#### 5. パースペクティブ・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内のパースペクティブでの優先度や標準設定のレイ アウトなどのパースペクティブ・プロパティを設定します。詳細については、「[クエリ/ビュー定義プロ パティ]ダイアログ・ボックス」(309ページ)を参照してください。

#### 6. レポート設定の定義-任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、「レポート設定の定義方法」(259ページ)を参照してください。

#### 7. 権限の設定

新しいパースペクティブのユーザやユーザ・グループにビュー権限と編集権限を適用します。[マ ネージャ] > [セキュリティ] > [ロール マネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の[ロールマネージャ]ページを参照してください。

# 動的ウィジェットの作成方法

このタスクでは、UCMDB Browserの新しい動的ウィジェットを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 「パターン・ビュー・エディタで新しい動的ウィジェットを作成する」(255ページ)
- •「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(255ページ)
- 「ウィジェットの属性の選択」(256ページ)
- 「ウィジェットの属性に対する値の設定」(256ページ)
- 1. パターン・ビュー・エディタで新しい動的ウィジェットを作成する

[新規作成] 🚵 ボタンをクリックして, [動的ウィジェット]を選択します。[新規動的ウィジェット] ダイアログ・ボックスで,新しいウィジェットの基にするベース TQL クエリを選択するか, [新規クエリ の作成]を選択して新しい TQL クエリを作成します。

#### 2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

[ビュー]タブで, クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。詳細については,「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。

注:動的ウィジェットがUCMDB Browserのそのノードについてのデータを表示するため、TQL クエリには折りたたみ定義のルート(ルートのみ)をコンタクト・クエリ・ノードとして指定する必要があります。コンタクト・クエリ・ノードが指定されていないと、TQL クエリはパター

ン・ビューとして保存され、動的ウィジェットとして保存されません。

a. TQL クエリを定義する際に、手動(標準設定)とルート・ベース階層のどちらを使うか指定します。詳細については、「ビュー階層の設定」(239ページ)を参照してください。

**注**: 空のウィジェットで開始する場合, ウィジェットを保存するために, クエリ・ノードを少な くとも1つ追加する必要があります。

- b. 動的ウィジェットで通知にデータを表示させる各プロパティについて,次を実行します。
  - i. トポロジ・マップのノードを右クリックし, [**クエリノードのプロパティ**]を選択します。
  - ii. [要素レイアウト]タブをクリックします。
  - iii. [レイアウトの属性を選択]ラジオ・ボタンを選択します。
  - iv. [条件]表示枠から, [**すべて**](選択したノードのすべての属性を表示する場合)また は[**特定の属性**](選択する属性のみを表示する場合)を選択します。
  - v. [利用可能な属性]表示枠で属性を選択し, 🔊 をクリックして選択した属性を[特定の属性]表示枠に追加します。
  - vi. 完了したら[**OK**]をクリックします。

#### 3. ウィジェットの属性の選択

[レポート]タブで, [階層]表示枠からノードを選択し, ウィジェットにデータを表示するためにその ノードの属性を選択します。

**注**: [レポート]タブまたは[表示]タブのいずれかの[階層]表示枠では,任意のノードのグ ループ化オプションを指定できます。異なるグループ化オプションから選択できます が,UCMDB Browserでウィジェット詳細モードで動的ウィジェットを表示する場合,CIの属 性は常にCIタイプ別にグループ化されて表示されます。グループ化オプションを設定するに は,階層ッリーで任意のノードを右クリックし、グループ化オプション(属性,CIタイプまたは 表示ノード)のいずれかを選択します。

#### 4. ウィジェットの属性に対する値の設定

[ウィジェット]タブで, ノードを選択し, 選択した属性をウィジェットに表示する方法と場所を指定します。詳細については, 「パターン・ビュー・エディタ」(296ページ)を参照してください。

[パスを表示] チェック・ボックスを選択して、ビュー定義の特定のノードからノードのすべての子へのルートを UCMDB Browser が動的ウィジェットに表示するようにします。

[ブラウザ Cl アクセス制御] チェック・ボックスを選択して,動的ウィジェットで,ロール・マネージャの [ブラウザ Cl アクセス制御] タブで指定した権限のみに基づいて,動的ウィジェットにデータを表 示するように指定します。このチェック・ボックスを選択しない場合,動的ウィジェットには権限の 強制なしですべてのデータが表示されます。

完了したら、 [保存] 🛅 をクリックします。

# テンプレート・ベース・ビューの作成方法

このタスクでは、1つのテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。

本項の内容

- •「前提条件」(257ページ)
- 「新しいテンプレート・ベース・ビューの定義」(257ページ)
- 「テンプレートの選択」(257ページ)
- •「パラメータ値の追加方法を選択する」(257ページ)
- 「パラメータの設定」(257ページ)
- 「権限の設定」(258ページ)
- 1. 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、「テンプレートの作成方法」(252ページ)を参照してください。

2. 新しいテンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは, [テンプレート ベースビュー]ウィザードを使って定義します。 [**新規作成**] 🐸 をクリックして, [**テンプレート ベースビュー**]を選択します。

3. テンプレートの選択

ウィザードの[テンプレートの選択]ページで、ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細については、「[テンプレートの選択]ページ」(317ページ)を参照してください。

4. パラメータ値の追加方法を選択する

ウィザードの[パラメータ値をインポート]ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。詳細については、「[パラメータ値をインポート]ページ」(318ページ)を参照してください。

5. パラメータの設定

[パラメータを入力]ページで、ビューのパラメータ値を入力します。詳細については、「[パラメータを入力]ページ」(319ページ)を参照してください。

注:ビューの作成後,エディタのツールバーまたはショートカット・メニューから[パラメータを表

示] 🍄 を選択します。

終了したら、 [**完了**]をクリックしてエディタでビューを開きます。 [保存 🛅]をクリックしてビューを 保存します。

#### 6. 権限の設定

ビューのユーザやユーザ・グループにビュー権限と編集権限を適用します。[マネージャ]>[セキュリティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の[ロールマネージャ]ページを参照してください。

# 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成方法

このタスクでは、複数のテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 「前提条件」(258ページ)
- •「新規テンプレート・ベース・ビューの定義」(258ページ)
- 「テンプレートの選択」(258ページ)
- 「パラメータ値の追加方法とビューの命名方法の選択」(259ページ)
- 「パラメータの設定」(259ページ)
- •「ビューを保存する場所を選択する」(259ページ)
- •「ビューの保存」(259ページ)
- 「権限の設定」(259ページ)
- 1. 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、「テンプレートの作成方法」(252ページ)を参照してください。

2. 新規テンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは, [テンプレート ベースビュー]ウィザードを使用して定義します。[新規作成] 💹 をクリックして, [テンプレート ベース ビュー]を選択します。

3. テンプレートの選択

ウィザードの[テンプレートの選択]ページで、ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細については、「[テンプレートの選択]ページ」(317ページ)を参照してください。

#### 4. パラメータ値の追加方法とビューの命名方法の選択

ウィザードの[パラメータ値をインポート]ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。また、 [詳細な名前付け]機能を使用する場合は、このページのチェック・ボックスを選択します。詳細 については、「[パラメータ値をインポート]ページ」(318ページ)を参照してください。

#### 5. パラメータの設定

[パラメータを入力]ページで、ビューのパラメータ値を入力します。CSV ファイルからのパラメータ 値のインポートを選択した場合は、パラメータ値がテーブルに自動的に入力されます。このペー ジでは、ビュー名とパラメータ値を手動で編集できます。また、テーブルに新しいビューを追加した り、テーブルからビューを削除したりすることもできます。詳細については、「[パラメータを入力] ページ」(319ページ)を参照してください。

#### 6. ビューを保存する場所を選択する

[場所の選択]ページで、新しいビューを保存するビュー・ツリーの場所を選択します。詳細については、「[ビューの場所を選択]ページ」(320ページ)を参照してください。

#### 7. ビューの保存

[サマリ]ページで,作成したビューの詳細を確認します。これ以上変更しない場合は,[保存] をクリックして選択した場所にビューを保存します。

#### 8. 権限の設定

作成した各ビューのユーザやユーザ・グループにビュー権限と編集権限を適用します。[マネー ジャ] > [セキュリティ] > [ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の[ロールマネージャ]ページを参照してください。

### レポート設定の定義方法

このタスクでは, ビュー, テンプレート, またはパースペクティブのレポート設定を定義する方法について 説明します。

- •「前提条件」(260ページ)
- 「レポートのカラムとして表示する属性の選択」(260ページ)
- 「レポートへの関数カラムの追加-任意指定」(260ページ)
- 「カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定」(260ページ)
- 「レポートへのグラフの追加 任意指定」(260ページ)
- •「レポート・プロパティの設定」(260ページ)

#### 1. 前提条件

ビュー, テンプレート, またはパースペクティブのコンテンツと階層を定義したら, レポート設定を定義できます。パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。

#### 2. レポートのカラムとして表示する属性の選択

ビューのクエリ・ノードごとに、 [階層] 表示枠で該当するクエリ・ノードを選択し、そのクエリ・ノード のレポートにカラムとして表示する属性を選択します。 [クエリノード定義] 表示枠で属性を選択 するには、属性を[属性] リストから[レポートのレイアウト] リストに移動します。 [レポートのレイア ウト] リストの矢印ボタンを使用してカラムの順序を設定します。詳細については、「パターン・ ビュー・エディタ」(296ページ)を参照します。

#### 3. レポート への関数 カラムの追加 - 任意 指定

選択したクエリ・ノードを構成するデータが、子クエリ・ノードのいずれかで実行される関数から派生する場合、任意でそのクエリ・ノードにカラムを追加することができます。[**関数の追加**] 4 ボタンをクリックして[関数の追加]ダイアログ・ボックスを開き、そこから関連する設定を選択できます。詳細については、「[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(265ページ)を参照してください。

#### 4. カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定

[並べ替え順を設定] → ボタンをクリックして、[カラム コンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス を開きます。レポートの並べ替えに使用するカラムを決定するには、カラムを[利用可能なカラム] リストから[並べ替えられたカラム]リストに移動します。矢印ボタンを使用してカラムの並べ替え 順序を設定します。各カラムの並べ替え方向を設定するには、[昇順ソート]ボタンまたは[降 順ソート]ボタンを使用します。詳細については、「[カラム コンテンツの並べ替え]ダイアログ・ ボックス」(316ページ)を参照してください。

#### 5. レポートへのグラフの追加 - 任意指定

任意でレポートにグラフを追加できます。グラフは、ビューの選択したレイヤに対してテーブルの代わりに追加します。グラフの追加に必要な条件が満たされると、[クエリノード定義]表示枠の [グラフのプロパティ]セクションで[**グラフを定義**]リンクがアクティブになります。リンクをクリックしてグラフ設定を入力します。詳細については、「グラフのプロパティ」(301ページ)を参照してください。

#### 6. レポート・プロパティの設定

パターン・ビュー・エディタで[ビュー]タブを選択します。[レポートのプロパティ] 

「 ボタンを選択して、レポートにタイトルとサブタイトルを割り当て、レポート形式を選択します。詳細については、
 「[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(396ページ)を参照してください。

# インスタンス・ベース・モデルの作成方法

このタスクでは、インスタンス・ベース・ビューのベースとして使用できるビジネス CI モデルの作成方法について説明します。

- •「新規モデルの作成」(261ページ)
- •「手動でのCIへのモデルの追加」(261ページ)
- •「CIを隣接検索する」(261ページ)
- 「モデルの CI にウォッチポイントを定義 する」(261ページ)

#### 1. 新規モデルの作成

モデリング・スタジオで, [新規作成] 🚵 をクリックして, [インスタンス ベース モデル]を選択して [新規モデル] ダイアログ・ボックスを開きます。 CI タイプを選択し, プロパティの値を入力します。 詳細については, 「[新規モデル] ダイアログ・ボックス」(290ページ)を参照してください。

注:既存の名前ではインスタンス・ベース・モデルを作成できません。

#### 2. 手動でのCIへのモデルの追加

CIの選択で、モデルに含めるCIを検索します。CIを選択してモデルにドラッグします。

ヒント: 複数のCIを選択するには、CTRL キーを押しながらCIを選択します。

#### 3. CIを隣接検索する

モデルの CI を選択し、公開パスをたどって関連 CI を公開します。公開 CI の中から選択した CI をモデルに追加します。完了したらモデルを保存します。詳細については、「[CI を隣接検 索]ダイアログ・ボックス」(311ページ)を参照してください。

#### 4. モデルの CI にウォッチポイントを定義する

モデルの CI を右 クリックし, [ウォッチポイント]>[新規 ウォッチポイント]を選択します。[新規 ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスが開きます。公開パスを選択し, [OK]をクリックします。CI の 横に, ウォッチポイントが定義されていることを示す小さいアイコンが表示されます。詳細について は, [[新規 ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス」(292ページ)を参照してください。

### 新規パターン・ベース・モデルの作成方法

このタスクでは、新規パースペクティブ・ベース・ビューのベースとして使用できるパターン・ベース・モデルの作成方法について説明します。

- •「新規モデルの定義」(262ページ)
- 「モデルの詳細の入力」(262ページ)
- •「TQL クエリの選択」(262ページ)

- •「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」(262ページ)
- 「出 カクエリ・ノードの設 定」(262ページ)
- 「モデルの保存」(262ページ)
- 1. 新規モデルの定義

新規パターン・ベース・モデルは、[パラメータベースモデル]ウィザードを使って定義します。[新規 作成] 🕙 をクリックして、[パターンベースモデル]を選択します。

注:既存の名前ではパターン・ベース・モデルを作成できません。

#### 2. モデルの詳細の入力

ウィザードの先頭ページで[新規モデル]を選択します。続いて、モデルの CI タイプを選択し、プロパティを入力します。詳細については、「[CI タイプの選択]ページ」(295ページ)を参照してください。

3. TQL クエリの選択

次のウィザード・ページで, モデルの TQL クエリを選択します。新しい TQL クエリを作成 することも、 ツリーから既存 のクエリを選択 することもできます。 TQL クエリ・エディタが開き, 選択したクエリ が表示されます。詳細については, 「[クエリの選択]ページ」(295ページ)を参照してください。

#### 4. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照し てください。

5. 出力クエリ・ノードの設定

TQL クエリで,モデルの出力として使用するクエリ・ノードを1つ以上選択します。該当するクエリ・ノードを右クリックし, [モデル出力に追加]を選択します。 クエリ・ノードは,横にある小さいアイコンで示されます。

#### 6. モデルの保存

終了したら、モデルに一意の名前を付けて保存します。新しい TQL クエリを作成した場合、クエリもモデルとは別に保存され、通常の TQL クエリとして再利用できます。

# モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法

本タスクでは、モデリング・スタジオでモデルおよびパースペクティブに基づいたビューを作成する方法について説明します。

- 「モデルを開く」(263ページ)
- 「パースペクティブの選択」(263ページ)
- 「ビューを保存する」(263ページ)
- 1. モデルを開く

モデリング・スタジオの左表示枠で[リソースタイプ]として[モデル]を選択し, 関連するモデルを選択してから, 左表示枠のツールバーで[モデルを開く] 印をクリックします。

#### 2. パースペクティブの選択

モデル・エディタでモデルを右クリックし, [選択したモデルのビューを生成]を選択します。[新規 ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。モデルに適用するパースペクティブを選択します。 詳細については, 「[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス」(270ページ)を参照してください。

#### 3. ビューを保存する

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタが開いて新しいビューが表示されます。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成します。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」(302ページ)を参照してください。

# CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビュー の作成方法

本タスクでは, モデリング・スタジオで CI のコレクションおよびパースペクティブに基 づいたビューを作成す る方法について説明します。

本項の内容

- •「新規ビューの作成」(263ページ)
- •「CIのビューへの追加」(263ページ)
- 「パースペクティブの選択とビューの保存」(264ページ)
- 1. 新規ビューの作成

モデリング・スタジオで、 [新規作成] 🚵 をクリックし、 [パースペクティブ ベース ビュー]を選択して パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタを開きます。 詳細については、「パースペクティブ・ベース・ ビュー・エディタ」(302ページ)を参照してください。

2. CI のビューへの追加

CIの選択で、ビューに含めるCIを検索します。CIを選択してビューにドラッグします。[CIの選択]の詳細については、「CIセレクタ」(131ページ)を参照してください。

**ヒント:** 複数のCIを選択するには, CTRL キーを押しながらCIを選択します。

#### 3. パースペクティブの選択とビューの保存

[パースペクティブ] 表示枠で、CI コレクションに適用するパースペクティブを選択します。任意で、 作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作 成できます。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、「パース ペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」(302ページ)を参照してください。

# モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース

[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス	265
[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス	266
[選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス	268
[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス	268
[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス	
[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス	
[サイクル定 義]ダイアログ・ボックス	271
[非表示 CI]ダイアログ・ボックス	272
[階層ルール]ダイアログ・ボックス	273
左側の表示枠	273
[Cl ウォッチポイントの管 理]ダイアログ・ボックス	
モデル・エディタ	
[モデリング スタジオ]ページ	
[選択済みのClを含むモデル]ダイアログ・ボックス	
[新規モデル]ダイアログ・ボックス	290
[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス	291
[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス	292
[隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス	292
[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス	293
[パターン ベース モデル]ウィザード	294
パターン・ビュー・エディタ	296
パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ	
[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス	

[クエリ/ビュー定 義 プロパティ]ダイアログ・ボックス	309
[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス	311
[クエリを保存]ダイアログ・ボックス	313
[ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス	314
[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス	315
[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス	316
[テンプレート ベースビュー]ウィザード	317
[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックス	321
TQL クエリ・エディタ	322
[選択した CI を含むビュー]ダイアログ・ボックス	326
[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス	327
[<クエリ/ テンプレート / パースペクティブ名 > の依存関係]ダイアログ・ボックス	328

### [関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートに含めるクエリ・ノードの関数およびパラメータを定義できます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタで, [クエリノード定義]表示枠の[レポートのレイアウト] ボックスの下にある[ <b>関数の追加</b> ] 🍒 ボタンをクリックします。
重要情報	ビュー, テンプレート, またはパースペクティブの選択したクエリ・ノードに対してレポート・カラムを定義する場合, いずれかの子クエリ・ノードに定義された関数から派生するデータで構成されるカラムを定義できます。定義対象とする関連の子クエリ・ノード, 属性, 関数を選択します。 最初に, 必要なクエリ・ノードと関数を選択します。属性リストが調整され, 選択した組み合わせについて関連属性が表示されます。必要な属性を選択します。
関連タスク	「レポート設定の定義方法」(259ページ)
関連情報	<ul> <li>「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)</li> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
属性	リストから属性を選択します。

UI要素	詳細	
関数	[関数]リストから、カラムに関する結果の計算に使用する関数を選択します。	
	次のオプションを使用できます。	
	• 平均: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした, 選択した 属性の平均値です。	
	• 連結リスト:選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした,選択した属性の値のリストを表示します。	
	• カウント : 選択したクエリ・ノードの Cl インスタンス数を計算します。	
	• 明確なリスト:選択したクエリ・ノードのすべてのCIインスタンスを対象とした,選択した属性の一意の値のリストを表示します。	
	• 最大:選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした,選択した属性の最大値です。	
	• 最小:選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした,選択した属性の最小値です。	
	• 合計:選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした,選択した属性の値の合計です。	
関連クエ リ・ノード	関数を実行する子クエリ・ノードです。	
タイトル	レポートに表示されている関数属性の名前です。	

### [ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, TQL クエリの作 成後に TQL クエリ・ノード または関係の CI タイプを変更できます。

利用方法	TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで, 必要なクエリ・ノードを右ク リックし, [ <b>クエリノード タイプの変更</b> ]を選択します。 関係の場合は, 必要な関係 を右クリックし, [ <b>関係タイプを変更</b> ]を選択します。
重要情報	選択したクエリ・ノードのCIタイプは, そのクエリ・ノードの既存の関係および条件に 基づいてほかの有効なタイプに変更できます。
関連タスク	<ul> <li>「TQL クエリの定義方法」(23ページ)</li> <li>『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のディスカバリ・アダプタの 実装</li> <li>「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)</li> </ul>

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

関連情報	• 「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
	すべてを展開:ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
85	すべてを折りたたみ:ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
ツリー・ビュー 🔒	CI タイプ/関係 ツリーの表示形式を選択するには、 [ツリービュー]をクリック します。 次のオプションを利用できます。
	<ul> <li>表示ラベル別</li> </ul>
	<ul> <li>クラス名別</li> </ul>
	<ul> <li>旧 クラス名 別</li> </ul>
<ci タイプ="" 関係ツ<br="">リー&gt;</ci>	必要な CI タイプまたは関係を選択します。
関係の方向	関係の方向を選択します。
	注:関係にのみ関連します。
関係の名前	関係の名前です。
	注:関係にのみ関連します。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理 する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは, あるクエリ・ ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	• 全関係を許可します:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可します:自己関係(自身へとつながる関係)のみ が、クエリ結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。
	注:関係にのみ関連します。

# [選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI からモデルおよびビューを作成できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [Cl の選択]で検索した Cl を空のキャンバスにドラッグします。
重要情報	個々のCI または複数のCI をキャンバスにドラッグできます。また,通常のCI または モデル,あるいはその両方を選択してキャンバスにドラッグできます。 複数のCI を選 択するには, CTRL キーを押しながら CI を選択します。
関連情報	• 「ビジネス・ビューの構 築」(238ページ)
	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
新規モデルの作成	選択した CI から成るモデルを作成するときに選択します。キャンバスにド ラッグした CI の中に、モデル CI タイプへの有効なリンクを持たない CI が少 なくとも1つ含まれている場合、このオプションは無効になります。
新規ビューの作成	選択によって形成された CI のコレクションに基づいたビューを作成するとき に選択します。
選択した CI の <del>モ</del> デ ルの編集	選択したモデルをモデル・エディタで編集するときに選択します。
/////////////////////////////////////	<b>注:</b> このオプションは、キャンバスに単一のモデルがドラッグされている場合にのみ表示されます。

### [関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、隣接検索パスのCIタイプに条件を定義することができます。

利用 方法	[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスの条件カラムにある[条件の追加]ボタンまたは[定 義を編集]ボタンをクリックします。
関連	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
1月 书区	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
+	定義した属性条件を追加します。
×	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
U.	選択した行を下へ移動します。
Q	条件定義を表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR]フィールド内をクリックし、 [AND] または [OR]を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
()大括弧	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられてい ない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3つの ノードがあり, ノード 1 には値 A が割り当てられ, ノード 2 には値 B が割り 当てられ, ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値 を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場 合, ノード 3 には値が割り当てられていないため, クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、「属性演算子の定義」(37 ページ)を参照してください。
值	属性の値を入力または選択します。 [値]オプションは,選択した属性タイプ に応じて変わります。

### [隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規隣接検索パスの定義または既存パスの編集を行うことができます。

利用 方法	新しい隣接検索パスを定義するには、モデル・エディタで[隣接検索] 💫 ボタンをク リックし、 [隣接検索パスの作成]を選択します。
	既存の隣接検索パスを編集するには、 [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスで隣接 検索パスを選択し、 [ <b>編集</b> ]をクリックします。
	隣接検索パスを保存するには、 [Clを隣接検索]ダイアログ・ボックスの[パスの保存]をク リックします。
関連	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
1月 千仅	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
詳細	パスの説明を入力します。
名前	パスの名前を入力します。
プレビュー	[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開き、パスの関連 CI が表示されます。
	<b>注:このボタンは</b> [隣接検索パスの保存]ダイアログ・ボックスには表示 されません。
隣接検索パス	
	公開パス・アイテムの上にポインタを置くと,次のオプションが有効になります。
	• 選択した項目の削除:隣接検索パスから選択したアイテムを削除します。
	<ul> <li>条件の追加:[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックスが開きます。ここで 公開パス・アイテムの条件を設定できます。</li> </ul>
	<ul> <li>クエリ・ノード・タイプの再設定: Cl タイプのツリーが開きます。 ここで公開 パス・アイテムの Cl タイプを変更できます。</li> </ul>

# [新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルからビューを作成するためのパースペクティブを選択できます。

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタ、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ、また は CI の選択でモデルを右 クリックして[選択したモデルのビューを生成]を選択する か、モデル・エディタから[選択したモデルのビューを生成] 😡 ボタンをクリックします。
重要情報	左表示枠でパースペクティブを選択し, 矢印ボタンを使用して右表示枠に移動し ます。
関連タスク	「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法」(262ページ)
関連情報	•「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
利用可能なパースペクティ ブ	モデルへの適用対象として選択可能なパースペクティブのリストです。
選択したパースペクティブ	モデルへの適用対象として選択したパースペクティブです。

### [サイクル定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューにサイクル階層を定義できます。

利用方法	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで, [階層]表示枠のクエリ・ノードを 右クリックし, [ <b>サイクルの定義</b> ]を選択します。
重要情報	ビュー階層にサイクルを定義することで、ビューの TQL クエリ定義を拡張できます。 [階層]表示枠でソース・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを選択します。[サイクル 定義]ダイアログ・ボックスにそのソースに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表 示されます。サイクル内のターゲット・クエリ・ノードとその階層は、ソース・クエリ・ノー ドの子または兄弟(選択した折りたたみルールに応じて異なる)として扱われます。
関連タスク	「パターン・ビューの作成方法」(251ページ),「テンプレートの作成方法」(252ペー ジ),「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	<ul> <li>「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)</li> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
折りたたみルール	次のオプションのいずれかを選択します。
	<ul> <li>ソースの下で折りたたまれたサイクル:ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの子になります。</li> </ul>
	• 親の下で平均化されたサイクル:ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエ リ・ノードの兄弟になります。
ターゲット	選択したソース・クエリ・ノードに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。この場合の有効なターゲット・クエリ・ノードとは、次の条件すべてを満たすクエリ・ノードです。
	• ソース・クエリ・ノードに関連付けられている
	<ul> <li>ソース・クエリ・ノードの祖先(またはソース・クエリ・ノード自体)である</li> </ul>
	• クエリ・ベース・ノードである(グループ化ノードではない)

### [非表示 CI]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 非表示 CI をビューに戻すことができます。

利用 方法	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで, [結果の表示]表示枠のツールバーにある[ <b>非</b> 表示 CI を表示]ボタンをクリックします。
関連	• 「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」(245ページ)
1有 致	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI 要素	詳細
<チェック・ボック ス>	元に戻す CI のチェック・ボックスを選択します。
CI タイプ	除外された CI の CI タイプです。
名前	除外された CI の名前です。
復元	選択した CI をビューに含めるときに、 [復元]をクリックします。
すべて選択	ビューに含めるためにリスト内のすべての CI を選択するときに、 [ <b>すべて選択</b> ]をクリックします。
すべて選択解 除	リスト内のすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 [すべて選択解除] をクリックします。

### [階層ルール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、階層ルールを定義してビューの階層を設定できます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタの[階層]表示枠で階層メソッドとして[ルールベース]を選択している場合,ツールバーから[階層ルールを追加] 👎 ボタンをクリックします。
重要情報	定義する階層ルールごとに、ソース CI タイプ、ターゲット CI タイプ、関係、方向を 選択します。
関連タスク	「パターン・ビューの作成方法」(251ページ),「テンプレートの作成方法」(252ページ),「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	• 「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
4	追加:階層ルールを追加します。
×	削除:選択した階層ルールを削除します。
関係	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから関係を選択します。
関係の 方向	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから方向を選択します。
ソース	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからソース CI タイプの CI タイプを選択します。
ターゲット	選択した階層 ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからターゲット CI タイプの CI タイプを選択します。

### 左側の表示枠

この領域では、ビュー(動的ウィジェットを含む)とTQL クエリの参照、エディタ表示枠で開くCI または モデルの検索, TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで使用する CI タイプの選択ができ ます。

利用方	モデリング・スタジオのエディタ表示枠の左側にあります。
法	

重要情 報	次のタブを利用できます。
	• リソース:エディタ表示枠で開くモデル,ビュー,または TQL クエリを選択できます。
	• CIの選択:詳細については、「CIセレクタ」(131ページ)を参照してください。
	• CI タイプ: TQL クエリにクエリ・ノードとして追加する CI タイプをツリーから選択できます。
関連情	• 「テンプレートとパースペクティブ」(241ページ)
判	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

### [リソース]タブ

重要情報	リソース・タイプとして <b>ビュー</b> または <b>クエリ</b> を選択した場合, ビュー, クエリ, またはフォ
	ルダをドラッグしてフォルダ間で移動できます。

UI要素	詳細
	新規フォルダ:リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
	<b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして[ <b>クエリ</b> ]または[ <b>ビュー</b> ]を選択し ている場合にのみ表示されます。
×	削除:CMDBから選択したリソースを削除します。
	<b>注:</b> 依存リソースを持ったリソースを削除すると,依存リソースも削除されます。依存リソースにはクエリ,ビュー,またはカスタム・レポートが含まれます。
G	更新:リソース・ツリーを更新します。
1	すべてを展開:リソース・ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	<b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして[ <b>クエリ</b> ]または[ <b>ビュー</b> ]を選択し ている場合にのみ表示されます。
*	<b>すべてを折りたたみ</b> :リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
	<b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして[ <b>クエリ</b> ]または[ <b>ビュー</b> ]を選択し ている場合にのみ表示されます。

UI要素	詳細
53 1	[ <b>クエリ</b> ]または[ <b>ビュー</b> ]をリソース・タイプとして選択した場合は, [空のフォ ルダを非表示]をクリックして, ビューまたは TQL クエリを含むフォルダのみを 表示します。
	[モデル]をリソース・タイプとして選択した場合は、 [コンテンツがあるモデル のみを表示]をクリックして、 CIを含むモデルのみを表示します。
Y	フィルタ・ツリー/フィルタ・テーブル :
	リソース・タイプとして[ビュー]を選択している場合, ツリーに表示される ビュー, テンプレート, および動的ウィジェットのタイプを絞り込むには, [フィル タッリー]をクリックします。
	[ <b>クエリ</b> ]をリソース・タイプとして選択した場合は, [ <b>フィルタ テーブル</b> ]をク リックして, TQL クエリをフィルタし, クエリ別 ツリーに表示します。
	リソース・タイプとして[ <b>モデル</b> ]を選択している場合, テーブル内のモデルを CIタイプで絞り込むには, [ <b>フィルタテーブル</b> ]をクリックします。
<b>F</b>	<b>バンド ルビこよるツリーのフィルタ</b> :事前定義済みのバンドルでクエリやビューを フィルタできます。
	使用可能リストから複数のバンドルを選択する場合は、少なくとも1つのバンドルに属する各リソースが表示されます。
	注:このボタンは、フィルタ可能なバンドル・リスト設定がインフラストラク チャ設定マネージャで設定されている場合にのみアクティブになります。 詳細については、「[インフラストラクチャ設定マネージャ]ページ」を参 照してください。
B	クエリを開く: 選択した TQL クエリを新しいタブに開きます。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[クエリ]を選択している場合にのみ表示されます。
ції Т	<b>ビューを開く:</b> 選択したビューを新しいタブに開きます。
	<b>注:このボタンは、リソース・タイプとして</b> [ビュー]を選択している場合にのみ表示されます。
<b>F</b>	<b>CI プロパティ</b> :選択したモデルのプロパティを表示できます。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。

UI要素	詳細
ц <u>а</u>	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択した CI やモデルを含んだ ビューのリストが表示されます。
	<b>注:</b> このボタンは、 リソース・タイプとして [ <b>モデル</b> ]を選択している場合に のみ表示されます。
	<b>モデルを開く</b> :選択したモデルをモデル・エディタで開きます。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合に のみ表示されます。
٩	<b>パターン・ベース・モデル・スケジューラ</b> :すべてのパターン・ベース・モデルの開 始時間や繰り返し間隔を変更できます。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。
£5.	テナントを割り当て:[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き,テナントをモデルに割り当てることができます。
	注:
	<ul> <li>このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>このボタンは、マルチテナンシーが有効な場合にのみ利用できます。</li> </ul>
	<b>XML からインポート</b> :保存したビューまたはクエリを含んだXML ファイルをモ デリング・スタジオにインポートできます。
	<b>注:このボタンは、リソース・タイプとして[クエリ]</b> または[ <b>ビュー</b> ]を選択し ている場合にのみ表示されます。
<b>EXAMPLE</b>	XML ヘエクスポート :ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートで きます。 このオプションは,ビューまたはクエリをあるワークステーションから別 の ワークステーションへ移動するときに使用できます。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択し ている場合にのみ表示されます。

UI要素	詳細
<リソース>	リソース・タイプとしてビューまたはクエリが選択されている場合,利用可能 なビューまたは TQL クエリがそれぞれのフォルダの下にツリー形式で表示さ れます。リソース・タイプとして [モデル]を選択している場合は,利用可能 なモデルがテーブルに表示されます。
	ビューの場合は、次のビュー・タイプが含まれます。
	• 🗍 パターン・ビューを表します。
	• 🖺 テンプレートを表します。
	<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>
	• 🗓 パースペクティブを表します。
	• 症 パースペクティブ・ベース・ビューを表します。
	• ^{III} 自動フロー・マッピングを表します。自動フロー・アダプタ使用時のみ 該当。詳細については, UCMDB Browserのドキュメントを参照してく ださい。
	• 💱 動的 ウィジェットを表します。
リソース・タイプ	表示枠に表示するリソース・タイプを選択します。 選択できるオプションは, [モデル], [ビュー], [クエリ]です。

### [リソース]タブのショートカット・メニュー

[リソース]タブでは、リソースを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
テナントを割り当て	[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き, テナントをリソースに割り当 てることができます。
新規ビュー / テンプ レート / パースペク ティブの作成	新規ビュー, テンプレート, パースペクティブを作成します。
削除	CMDB から選択したリソースを削除します。
	<b>注</b> :依存リソースを持ったリソースを削除すると、依存リソースも削除されます。依存リソースにはクエリ、ビュー、またはカスタム・レポートが含まれます。

メニュー項目	詳細
XML ヘエクスポート	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートします。 このオプション は, ビューまたはクエリをあるワークステーションから別 のワークステーションへ 移動するときに使用できます。
セキュリティを管理	選択したリソースを特定のロールまたはリソース・グループに割り当てます。
	注:このオプションはモデルには関連しません。
新規フォルダ	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
新規テンプレート・ ベース・ビュー	選択したテンプレートのパラメータを編集して,新しいテンプレート・ベース・ ビューを定義します。
	<b>注:</b> このオプションは, ビュー・ツリーでテンプレートを選 択している場 合 にのみアクティブになります。
クエリ / ビュー / モデ ルを開く	新しいタブで選択したビュー, TQL クエリ, またはモデルを開きます。
プロパティ	選択したモデルの[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	注: このオプションはモデルにのみ関連します。
更新	リソース・ツリーを更新します。
削除	選択したモデルを削除します。
	注: このオプションはモデルにのみ関連します。
フォルダの名前の変 更	選択したフォルダの名前を変更します。
名前を付けて保存	選択した TQL クエリに新しい名前を付けて保存します。
含まれるビューを表 示	希望のモデル用に選択した CI ダイアログ・ボックスを含む[ビュー]を開きま す。
	注: このオプションはモデルにのみ関連します。

### [CIタイプ]タブ

UI 要素	詳細
1	<b>すべてを展開</b> : Cl タイプ・ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	<b>すべてを折りたたみ</b> : CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
ツリー・ビュー 🔒	CI タイプ・ツリーの形式を表示します。次のオプションを利用できます。     ・ 表示ラベル別
	<ul> <li>クラス名別</li> </ul>
	<ul> <li>旧 クラス名 別</li> </ul>
⇒	<b>選択した CIT をクエリに追加</b> :選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加します。
	<b>注:</b> このボタンは, エディタ表 示 枠 でビューまたは TQL クエリを開 いている場 合 にのみアクティブになります。
C	更新:CIタイプ・ツリーを更新します。
<cl タイプ・ツ<br="">リー&gt;</cl>	利用可能な CI タイプがツリー形式で表示されます。

[CI タイプ]タブのショートカット・メニュー

[CI タイプ]タブでは、CI タイプを右 クリックして次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
選択した CIT をクエリ に追加	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときに選択 します。
CI タイプの 定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
要素 インスタ ンスの表示	[CI インスタンス] ウィンド ウが開き,選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。

# [CI ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを追加または削除できます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、 [ウォッチポイント] 🖗 ボタンをクリックし、 [CI ウォッ チポイントの管理]を選択するか、 モデルの CI を右 クリックして [ウォッチポイント] > [CI ウォッチポイントの管理]を選択します。
関連情報	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
🔁 追加	新しいウォッチポイントの追加が行える[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス を開きます。
🔀 削除	選択したウォッチポイントを削除します。
自動	チェック・マークは、 監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加される ことを示します。
ソース CI	公開パスの開始部分となる CI が表示されます。
ウォッチポイント 名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
ウォッチポイント パス	ウォッチポイントの公開パスが表示されます。

### モデル・エディタ

この機能では、モデルを作成および編集できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [新規作成] 膨 ボタンをクリックし, [インスタンス ベース モ デル]を選択して新しいモデルを作成するか, リソース・タイプとして[モデル]を選択 し, 既存のモデルを開きます。
重要情報	モデル・エディタには次の表示枠があります。
	• [内容]表示枠:モデルに含まれている CI およびモデルが一覧表示されます。
	• [情報]表示枠:選択した CI またはモデルのプロパティ, 関連 CI, 監視が表示 されます。
	モデルに CI を追加するには, CI の選択から既存モデルの内容表示枠に CI をド ラッグします。ただし, すでにモデルに含まれている CI はドラッグできません。
	選択したソース CI とターゲット CI を <b>Usage</b> 関係で関連付けることができるのであ れば, CI の選択から[情報]表示枠の[関連 CI]タブに CI をドラッグできます。

関連タスク	「インスタンス・ベース・モデルの作成方法」(260ページ)
関連情報	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

### [内容]表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
田 マップ	マップ:図のアイコンとして CI が表示されます。
122 テキスト	<b>テキスト</b> : CI がリストに表示されます。
	<b>CI プロパティ</b> :選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ ボックスが開きます。
₿	選択した CI を含むモデルを表示:選択した CI を含むモデルのリストが 表示されます。
Г.	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択した CI やモデルを含む ビューのリストが表示されます。
60	選択したモデルを新しいタブで開く:選択したモデルが別のモデル・エディ・ タブで開きます。
714	選択したモデルのビューを生成:現在のモデルに基づいてビューを作成で きます。適用するパースペクティブを選択できる[新規ビューの作成]ダイア ログ・ボックスが開きます。
×	選択した CI をモデルから削除:選択した CI をモデルから削除します(CI は CMDB に残ります)。
€®	<b>新規モデルの挿入</b> :[新規モデル]ダイアログ・ボックスが開き,既存モデ ル内に新規モデルを定義できます。
	<b>すべてを展開</b> :モデルの階層を展開します。
	<b>すべてを折りたたみ</b> :モデルの階層を折りたたみます。

UI要素	詳細
îq	隣接検索:次のオプションが含まれます。
	<ul> <li>隣接検索を開始: [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>詳細については、 [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	• 隣接検索パスの作成: [隣接検索パスの作成] ダイアログ・ボックスが 開きます。詳細については、 [隣接検索パスの作成] ダイアログ・ボック スを参照してください。
	• 隣接検索パスを開く: [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。
<b>M</b>	<b>ウォッチポイント</b> : 次のオプションが含まれます。
	<ul> <li>ウォッチポイントの更新:ウォッチポイント結果を表示し、モデルに追加する CI を選択できます。詳細については、「ウォッチポイントの更新」ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	• 新規ウォッチポイント:選択した CI に新しい監視を定義できます。詳細については、[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスを参照してください。
	<ul> <li>CI ウォッチポイントの管理:新しいウォッチポイントを CI に追加したり,既存のウォッチポイントを削除できます。詳細については、[CI ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	<b>CI コレクション</b> :CI をモデルの下 のコレクションにグループ化 できます。 次の オプションのいずれかを選択します。
	<ul> <li>新規 CI コレクションの挿入:空の新しい CI コレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、[関連 CI]タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> </ul>
	• Cl コレクションに結合:モデルのClを1つまたはいくつか選択し、その Clを既存のClコレクションに結合するか、新しいコレクションを作成し ます。
	• Cl コレクションの解除: Cl コレクションを選択して解除します。 Cl は, メイン・モデルの直下に存在するようになります。
Q	検索:検索ボックスと矢印コントロールの表示/非表示が切り替わります。
	注:このボタンはテキスト・モードの場合にのみ表示されます。

UI要素	詳細
	更新:マップを更新し、レイアウトを最適化します。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
	<b>ウィンドウに合わせる</b> :表示枠のサイズに合わせてマップのサイズが変更されます。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
▶ 選択 ▼	[モード]ドロップダウン・リストからカーソルの機能を選択します。 次のオプ ションを利用できます。
	• 選択
	<ul> <li>マップをドラッグ</li> </ul>
	• ズーム・イン
	注:この機能はマップ・モードの場合にのみ表示されます。
@ 印刷	<b>印刷:</b> [印刷], [印刷プレビュー], [印刷設定]を選択できます。
8	<b>外部関係を表示</b> :選択した CI の関連 CI を表示します。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
8	外部関係を非表示:選択した CIの関連 CI を非表示にします。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
0	現在のCIにウォッチポイントが定義されていることを示します。
٩	監視が, 現在のモデルに関連付けられた新しい CI を検出したことを示 します。 クリックすると, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスが開き ます。
[CI タイプ]カラム	モデルの各 CI のタイプが表示されます。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, モデル内の CI を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、モデル内の次の項目を検索するとき にクリックします。

UI要素	詳細
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、モデル内の前の項目を検索するとき にクリックします。
強調表示	検索フレーズに一致する、モデル内のすべての項目を強調表示するとき にクリックします。
[名前]カラム	モデルの各 CI の名前が表示されます。

#### ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
CI コレクション	モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は, [ <b>CI コレクショ</b> ン]をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。
	<ul> <li>新規 CI コレクションの挿入:空の新しいコレクションが作成されます。</li> <li>コレクションの作成後は、CIの選択、[関連 CI]タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> </ul>
	• CI コレクションに結合:モデルのCIを1つまたはいくつか選択し,その CIを既存のCIコレクションに結合するか,新しいグループを作成しま す。
	• CI コレクションの解除: CI コレクションを選択して解除します。 CI は, メイン・モデルの直下に存在するようになります。
ウィンドウに合わせる	表示枠のサイズに合わせてマップのサイズが変更されます。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
選択した <del>モ</del> デルの ビューを生成	現在のモデルに基づいてビューを作成します。[新規ビューの作成]ダイア ログ・ボックスが開き, 適用するパースペクティブを選択できます。
外部関係を非表示	マップ上の関連 CI が非表示になります。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
新規モデルの挿入	既存モデル内に新規モデルを作成できる[新規モデル]ダイアログ・ボック スが開きます。
選択したモデルを新し いタブで開く	選択したモデルが別のモデル・エディタタブで開きます。

メニュー項目	詳細
印刷	次のオプションのいずれかを選択します。
	• 印刷
	• 印刷プレビュー
	• 印刷設定
プロパティ	選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
レイアウト更新	マップが更新され、マップのレイアウトが最適化されます。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
選択した CI を <del>モ</del> デル から削除	選択した CI がモデルから削除されます(CI はCMDBに残ります)。
隣接検索	次のオプションを利用できます。
	<ul> <li>隣接検索を開始: [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>詳細については、 [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>隣接検索パスを開く: [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [隣接検索パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
選択	カーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。
	• 選択
	<ul> <li>マップをドラッグ</li> </ul>
	• ズーム・イン
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
含まれるモデルを表示	選択したCIを含むモデルのリストが表示されます。
含まれるビューを表示	選択した CI やモデルを含むビューのリストが表示されます。
外部関係を表示	選択した CI の関連 CI を表示します。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。

メニュー項目	詳細
ウォッチポイント	次のオプションを利用できます。
	• ウォッチポイントの更新: 監視結果を表示し, モデルに追加する CI を選択します。詳細については, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ ボックスを参照してください。
	• 新規ウォッチポイント:選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスを参照してください。
	• CI ウォッチポイントの管理:新しいウォッチポイントを CI に追加しま す。または、既存のウォッチポイントを削除します。詳細については、 [CI ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックスを参照してください。
ズーム	パーセントのリストからマップのサイズを選択します。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。

### [情報]表示枠 -[プロパティ]タブ

この領域には、選択したCIプロパティが表示されます。

**重要情報** この表示枠は、IT ユニバース・マネージャの情報表示枠の[プロパティ]タブとまったく 同じです。詳細については、「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(203 ページ)を参照してください。

### [情報]表示枠 -[関連 CI]タブ

この領域には、Impacted By(Potentially)関係が含まれるいずれかのトリプレットによって、モデルに関連付けられている CI が表示されます。

UI 要素	詳細
×	選択したCIへの関係を削除するときにクリックします。
<b>1</b>	[反転方向]をクリックすると、選択した CIの関係の方向が切り替わります。
	<b>注:このオプションは、CI が usage</b> 関係によって関連付けられている場合に のみアクティブになります。
<ci リスト=""></ci>	Usage 関係によってモデルに関連付けられている CI の名前と CI タイプのリストが,関係の方向とともに表示されます。
適用フィルタ	結果をフィルタする際の基準となるフィールドを選択し、 [適用]ボックスに値を入 力します。

### [情報]表示枠 -[ウォッチポイント]タブ

この領域には、選択したCIに対して定義されているウォッチポイントが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	ウォッチポイントを編集できる[Cl ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックスを開 くときにクリックします。
自動	監視で見つかった新しいCIが自動的にビューに追加されるかどうかを示します。
ソ <b>—</b> ス CI	公開パスの開始部分となるCIが表示されます。
ウォッチポイン ト名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
ウォッチポイン トパス	監視の公開パスが表示されます。

### [モデリング スタジオ]ページ

このページでは、モデルとビューを作成および編集できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューから[モデリング スタジオ]を選択するか, [マネージャ]> [モデ リング]>[モデリング スタジオ]を選択します。
重要情報	[モデリングスタジオ]ページには次の表示枠があります。
	• 左表示枠: CIを検索したり、開くビュー、モデル、または TQL クエリを選択したりできます。詳細については、「左側の表示枠」(273ページ)を参照してください。
	• エディタ表示枠:選択したビュー, モデル, または TQL クエリのトポロジ・マップが 表示されます。
	ビューまたはモデルを開くまで, エディタ表示枠は空のキャンバスになっています。 ビュー, モデル, または TQL クエリを開くと, それぞれに関連するエディタが表示され ます。 エディタ表示枠では同時に複数のビュー, モデル, クエリを開くことができます。 それぞれ別のタブに表示されます。

関連タスク	●「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
	• 「動的ウィジェットの作成方法」(255ページ)
	• 「テンプレート・ベース・ビューの作成方法」(257ページ)
	• 「複数のテンプレート・ベース・ビューの作成方法」(258ページ)
	• 「インスタンス・ベース・モデルの作成方法」(260ページ)
	•「新規パターン・ベース・モデルの作成方法」(261ページ)
	<ul> <li>「レポート設定の定義方法」(259ページ)</li> </ul>
	•「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法」(263 ページ)
	• 「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法」(262ページ)
関連情報	● 「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」(245ページ)
	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
	• 「テンプレート・ベース・ビューの作成」(243ページ)
	• 「テンプレートとパースペクティブ」(241ページ)
	• 「ビュー形 式」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>
UI要素	詳細
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------
迷 新規作成	新規作成:次のオプションのいずれかを選択します。
	• インスタンス・ベース・モデル:新しいインスタンス・ベース・モデルを作成す る場合。
	• パターン・ベース・モデル:新しいパターン・ベース・モデルを作成する場合。
	• パターン・ビュー:新しいパターン・ビューを作成する場合。
	• <b>テンプレート・ベース・ビュー</b> :新しいテンプレート・ベース・ビューを作成す る場合。
	• パースペクティブ・ベース・ビュー:新しいパースペクティブ・ベース・ビューを 作成する場合。
	• テンプレート:新しいテンプレートを作成する場合。
	• パースペクティブ:新しいパースペクティブを作成する場合。
	<ul> <li>動的ウィジェット: UCMDB Browser の新しい動的ウィジェットを作成します。</li> </ul>
	• <b>クエリ</b> :新しい TQL クエリを作成する場合。
	• 自動フロー・マッピング。自動フロー・マッピングを作成します。自動フロー・アダプタ使用時のみ該当。詳細については, UCMDB Browserの ドキュメントを参照してください。
	保存:ビュー,モデル,またはクエリに加えた変更を保存します。
	ビューの場合は, ビューの名前を変更し, そのビューを適切なフォルダに保存できるダイアログ・ボックスが開きます。
	名前を付けて保存:ビュー, モデル, または TQL クエリに新しい名前を付けて保存できます。
5	<b>取り消す</b> :最後に行った変更を元に戻します。
2	やり直す:最後に行った操作を繰り返します。
	ワークスペースの最大化:エディタの通常表示とフル画面表示を切り替えます。
<メニュ <del>ー</del> >	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。

# [選択済みの CI を含むモデル]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。

利用 方法	モデル・エディタで[ <b>選択した CI を含むモデルを表示</b> ] 🔀 ボタンをクリックするか, ショート カット・メニューから[ <b>含まれるモデルを表示</b> ]を選択します。
関連	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
1頁 戰	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
F	<b>Cl プロパティ</b> :選択したモデルの[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開き ます。
<b>L</b>	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択したモデルを含むビューのリストが表示されます。
×	<b>モデルの削除</b> :選択したモデルを削除します。
CI タイプ	選択した CI を含むモデルの CI タイプが表示されます。
検索	[検索]ボックスにモデル名またはモデル名の一部を入力して, リスト内でモデルを検索 します。
次を検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前を検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
名前	選択したCIを含むモデルの名前が表示されます。
	注:現在のモデルの名前は淡い色のテキストで表示されます。

### [新規モデル]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIのコレクションを含む再利用可能なモデルを定義できます。

利用方法	[新規作成 ➡]ボタンをクリックして[インスタンス ベース モデル]を選択 するか, [CIの選択]のツリーから編集表示枠にCIをドラッグして, [新 規モデルの作成]を選択します。
関連タスク	「インスタンス・ベース・モデルの作成方法」(260ページ)
関連情報	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
	<ul> <li>「モナリンク・スタンオのユーサ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
新規 CI プロパティの定 義	Cl プロパティの値を入力します。必須プロパティの値を入力する必要が あります。必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
CI タイプの選択	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

# [新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、パターン・ビュー・エディタを使用して新しいパターン・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを定義できます。

利用方法	モデリング・スタジオで[新規作成] 述 ボタンをクリックし, ドロップダウン・メニューから [パターン ビュー], [テンプレート], または[パースペクティブ]を選択します。
重要情報	選択して[OK]をクリックしたら, 直接パターン・ビュー・エディタに移動してビューの作成を開始します。詳細については,「パターン・ビュー・エディタ」(296ページ)を参照 してください。
関連タスク	「パターン・ビューの作成方法」(251ページ),「テンプレートの作成方法」(252ページ),「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	• 「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	• 「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)

UI要素	詳細
$\bigcirc$	<b>次を検索</b> :選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の次の項目に移動します。
	前を検索:選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の前の項目に移動します。
	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内のすべ ての項目を強調表示します。
<tql クエリ・ツリー=""></tql>	既存のTQLクエリがソリー形式で表示されます。
ベース・クエリの選択	既存の TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合, このオプション を選択し, ツリーから TQL クエリを選択します。 パターン・ビュー・エディタが開 き, 選択した TQL クエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作成	新しい TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合, このオプションを 選択します。 パターン・ビュー・エディタが開き, 空のキャンバスが表示されます。
検索	[検索]ボックスに TQL クエリ名 または TQL クエリ名の一部を入力して, リスト内の TQL クエリを検索します。

# [新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, モデルの CI に対 するウォッチポイントを定義 できます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から, [ウォッチポイント] 💁 ボタンをクリックして[新規 ウォッチポイント]を選択するか, モデルで CI を右 クリックして [ウォッチポイント] > [新規 ウォッチポイント]を選択します。
重要情報	選択した CI の公開パスが見つからなかった場合は、監視を定義できません。 新規モデルの場合、モデルを保存しないうちは CI に監視を定義できません。
関連タスク	「インスタンス・ベース・モデルの作成方法」(260ページ)
関連情報	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<del>モデ</del> ルを自動的に 更新	選択したパスで公開された CI をすべて自動的にモデルに追加するときに選択します。
	<b>注:</b> マルチテナンシー環境では、このアクションには、モデルのすべてのテ ナントとの接続にデータ更新権限が必要です。
更新を手動で制 御	隣接検索された CIを選択したパスからモデルに手動で追加するときに選択 します。
ウォッチポイント隣 接検索パスを選 択	ドロップダウン・リストから公開パスを選択します。
CI タイプに対する 公開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。 下部のドロップダウン・ボック スのリストに, この CI タイプで始まるすべての公開パスが表示されます。

### [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のパスを開くことができます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、 [隣接検索] へ ボタンをクリックして [隣接検索 パスを開く]を選択するか、 モデルの CI を右クリックして [隣接検索] > [隣接検索 パスを開く]を選択します。

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

重要情報	使用する公開パスを選択したら、 [実行]をクリックします。 選択したパスで CI が見つかった場合, そのパスの[CI を隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。 CI が見つからなかった場合は, 当該パスで CI が見つからなかったことを伝えるメッセージが表示されます。
関連情報	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
詳細カラム	既存パスの説明が表示されます。
編集	選択したパスを編集できる[隣接検索パスの編集]ダイアログ・ボックスが開 きます。
実行	選択した隣接検索パスの[Clを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。
検索	[検索]ボックスにパス名またはパス名の一部を入力して、 リスト内のパスを 検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の次の項目を検索する ときにクリックします。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の前の項目を検索する ときにクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、パスのリスト内のすべての項目を強調表示する ときにクリックします。
[名前]カラム	既存パスの名前が表示されます。
削除	選択したパスが削除されます。
CI タイプに対する公 開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。 下部のテーブルに, 選択 した CI で始まるすべてのパスが表示されます。

# [パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、開始日と終了日、および、パターン・ベース・モデルの繰り返し間隔を設定できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, 左表示枠の[リソース]タブにある[パターンベースモデルス
	ケジューラ] 🅒 ボタンをクリックします。

重要情報	パターン・ベース・モデルは、すべて同時に更新されます。選択した設定は、順次 作成されるものだけでなく、すべての既存のパターン・ベース・モデルにも適用されま す。モデル更新のデフォルト開始時間は、最初のモデルが作成される時点のサー バ時間です。ダイアログ・ボックスを開いたときは、デフォルト開始時間がその時点の 現在のサーバ時間となります。デフォルト繰り返し間隔は12時間です。
関連タスク	「新規パターン・ベース・モデルの作成方法」(261ページ)
関連情報	• 「ビジネス CI モデル」(243ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
詳細パターン・ベース・モデル・スケ ジューラの更新	Cron 式を使用してパターン・ベース・モデルの更新をスケ ジュールするときは, このオプションを選択します。
Cron 式	[ <b>詳細パターン ベース モデル スケジューラの更新</b> ]を選択し た場合は, Cron 式を入力します。
	cron 式 で使用されるフィールド とそのユース・ケースについては、「Cron 式」(335ページ)を参照してください。
日 次 パターン・ベース・モデル・スケ ジューラの更 新	開始日時と繰り返し間隔を使用してパターン・ベース・モデ ルの更新をスケジュールするときは、このオプションを選択し ます。
繰り返し間隔	[ <b>日次パターンベースモデルスケジュールの更新</b> ]を選択した場合は、繰り返し間隔(時間単位)のオプションを選択します。これにより、パターン・ベース・モデルの更新の頻度が決まります。
	注:毎日同じ時間帯に更新を実行するために、繰り返し間隔は、24時間周期で均等に割り切れる値に します。
サーバ時間	サーバ上の時間を表示します。
開始時刻	パターン・ベース・モデルの更新の開始日時を選択します。
式を検証	Cron 式を入力した後, [式を検証]ボタンをクリックして, 式 が有効なことを確認します。

### [パターン ベース モデル] ウィザード

このウィザードでは、パターン・ベース・モデルを作成できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [新規作成] 🚵 ボタンをクリックし, ドロップダウン・メニューから[ <b>パターン ベース モデル</b> ]を選択します。
重要情報	パターン・ベース・モデルを作成すると、インスタンス・ベース・モデルと同様に、モデル は CI として保存されます。新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、ク エリも保存され、TQL クエリ・ツリーに表示されます。
	既存のインスタンス・ベース・モデル上でパターン・ベース・モデルを構築すると、 モデル は、インスタンス・ベース・モデルの名前で保存されます。
	以前削除したパターン・ベース・モデルと同じ名前で新規のパターン・ベース・モデル を作成する場合,新規パターン・ベース・モデルが基づく対象とする旧クエリを選択 するか,新規クエリを作成できます。
関連タスク	「新規パターン・ベース・モデルの作成方法」(261ページ)
ウィザード・	[パターン ベース モデル] ウィザード には次 のページが含 まれています。
マッフ	「[Clタイプの選択]ページ」>「[クエリの選択]ページ」
関連情報	• 「パターン・ベース・モデル」(244ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

#### [CI タイプの選択]ページ

このウィザードでは、モデルのCIタイプを選択し、詳細を定義できます。

ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザード には次 のページが含 まれています。
	「[CI タイプの選択]ページ」>「[クエリの選択]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
既存の <del>モ</del> デル	[既存のモデル]を選択して,既存のインスタンス・ベース・モデル上でパター ン・ベース・モデルを構築します。 ツリーから既存のモデルを選択します。
新規モデル	[新規モデル]を選択して,新規のパターン・ベース・モデル(他のモデルに関連しない)を作成します。 [CI タイプの選択] セクションで,モデルのベースとする CI タイプをリストから選択します。 続いて, [新規 CI プロパティの定義] セクションに CI プロパティの値を入力します。

#### [クエリの選択]ページ

このウィザード・ページでは、モデルのベースとなる TQL クエリを選択できます。

ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザード には次 のページが含 まれています。
	「[Cl タイプの選択]ページ」 <b>&gt;「[クエリの選択]ページ」</b>

UI要素	詳細
$\bigcirc$	<b>次を検索:</b> 選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の次の項目に移動します。
	<b>前を検索:</b> 選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の前 の項目に移動します。
	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内のすべ ての項目を強調表示します。
<tql クエリ・ツリー=""></tql>	既存のTQL クエリがツリー形式で表示されます。
ベース・クエリの選択	既存のTQL クエリに基づいてモデルを作成する場合, このオプションを選択し, ツリーからクエリを選択します。 TQL クエリ・エディタが開いて, 選択したクエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作成	新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合, このオプションを選択 します。 TQL クエリ・エディタが開き, 空のキャンバスが表示されます。
	<b>注:</b> 新規クエリに基づいてパターンベース・モデルを作成する場合,クエ リの優先順位は自動的に[ <b>非アクティブ</b> ]に設定されます。
検索	[検索]ボックスに TQL クエリ名 または TQL クエリ名 の一 部を入 力して, リス ト内 のクエリを検索します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

# パターン・ビュー・エディタ

この機能では、パターン・ビュー、テンプレート、パースペクティブを作成できます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタで新しいビューを開くには,モデリング・スタジオに移動し,
	[新規作成] 🏝 ボタンをクリックして,必要なビューのタイプを選択します。
	パターン・ビュー・エディタで既存のビューを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠 にある[リソース]タブに移動し、[リソースタイプ]として[ビュー]を選択します。ツリー でビューを右クリックして[ビューを開く]を選択します。または、ビューをダブルクリックす るか、ビューをエディタ表示枠にドラッグします。エディタ表示枠にビューのトポロジ・ マップが開きます。

重要情報	次のいずれかのモードで、エディタを利用できます。
	• ビュー・モードでは,次の表示枠が表示されます。
	■ [クエリ定義]表示枠:詳細については、「TQL クエリ・エディタ」(322ページ) を参照してください。
	<ul> <li>詳細表示枠:詳細については、1ページの「詳細表示枠」を参照してください。</li> </ul>
	■ [階層]表示枠 :ビューの階層を設定できます(エディタ・ページの右側部分 にあります)。
	<ul> <li>レポート・モードでは、次の表示枠が表示されます。</li> </ul>
	■ [階層]表示枠 :ビューの階層を設定できます(エディタ・ページの左側部分 にあります)。
	■ <b>クエリ・ノード 定義</b> :レポートに含める属性を選択し, その順序を設定できます。
	• <b>ウィジェット・モー</b> ドでは、次の表示枠が表示されます。
	■ [階層]表示枠 :ビューの階層を設定できます(エディタ・ページの左側部分 にあります)。
	<ul> <li>ウィジェット・ノード 定義: CI の属性にオプションを指定して動的ウィジェットに含めることができます。</li> </ul>
	<b>注:</b> ウィジェット・モードは,動的ウィジェットを作成または編集する場合にのみ使用できます。
	<b>注:</b> ビュー, テンプレート, パースペクティブ, または動的ウィジェットを保存するには, モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある[ <b>保存</b> ]ボタンを使用します。
関連タスク	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
	• 「動的ウィジェットの作成方法」(255ページ)
関連情報	• 「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」(245ページ)
	• 「テンプレートとパースペクティブ」(241ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

#### [階層]表示枠

UI要素	詳細
ř.	<b>次の項目別でグループを追加</b> :階層内にサブグループを作成できます。次のオプションを利用できます。
	• 属性別でグループを追加:[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボック スが開き, 階層内のサブグループの属性を選択できます。
	• タイプ別でグループを追加 :選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して 階層内にサブグループが作成されます。
	• ビュー・ノードでグループを追加:選択したクエリ・ノードのみに対して階層内にサブグループが作成されます。
	<b>注:</b> パースペクティブのコンタクト・クエリ・ノード上にサブグループを定義 することはできません。
Ø	属性別でグループを編集:[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス が開き, 階層内のサブグループの属性を編集できます。
R	名前の変更:選択したクエリ・ノードの名前を変更できます。
×	ビュー・ノードの削除 選択したクエリ・ノードを階層ツリーから削除します。
¢	<b>ビュー・ノード・レイヤを上 へ移動</b> :選択したクエリ・ノードを階層で1レイヤ 上に移動します。
\$	<b>ビュー・ノード・レイヤを下 へ移 動</b> :選択したクエリ・ノードを階層 でその上に あるクエリ・ノードの下に移動します。
	注: 選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合, [ビュー ノード レイヤを下へ移動]をクリックすると, 階層でそのすぐ下にあるクエ リ・ノードの配下に移動します。
	<b>ビュー・ノードを上に移動</b> :階層ツリーで選択したクエリ・ノードを上に移動 します。階層内のクエリ・ノードの順序によって, [レポート]でビューに対して 生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。
<b>V</b>	<b>ビュー・ノードを下に移動</b> :階層ツリーで選択したクエリ・ノードを下に移動 します。階層内のクエリ・ノードの順序によって, [レポート]でビューに対して 生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。

UI要素	詳細
Q	<b>プレビュー</b> : トポロジ・レポートのプレビューを表示します。
	<b>注:</b> このオプションは, レポート・モードが選択されている場合にのみ[階 層]表示枠に表示されます。
di	レポート・プロパティ[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, ビューのトポロジ・レポートのタイトル, サブタイトル, 形式を設定できます。詳細については,「[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(396ページ)を参照してください。
<階層ツリー>	階層ツリー内での TQL クエリのクエリ・ノードの配置には, ビューに対して定義された階層が反映されます。
	クエリ・ノードをクリックしてドラッグすると,階層を変更できます。 クエリ・ノード をクリックしてドラッグを開始すると,そのクエリ・ノードを配下に配置できるク エリ・ノードが緑で強調表示されます。
階層 メソッド	階層を設定するメソッドを選択します。
	• 手動:階層を手動で設定します。 クエリ・ノードをドラッグするか, ツール バー・ボタンを使用します。
	<ul> <li>ルール・ベース:[階層ルール]ダイアログ・ボックスが開き, 階層のルール を設定できます。</li> </ul>

#### ショートカット・メニュー

[階層]表示枠では、階層ツリーでクエリ・ノードを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
属性別でグ ループを追加	[ <b>属性別でグループを追加</b> ]を選択すると、[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ ボックスが開き、 階層内のサブグループの属性を編集できます。
タイプ別 でグ ループを追加	[ <b>タイプ別でグループを追加</b> ]を選択すると,選択したクエリ・ノードのCIタイプに対して階層内にサブグループを作成できます。
ビュー・ノード でグループを 追加	[ <b>ビュー ノードでグループを追加</b> ]を選択すると,選択したクエリ・ノードに対しての み階層内にサブグループを作成できます。
サイクルの定 義	[ <b>サイクルの定義</b> ]を選択すると、サイクル階層を定義できます。詳細については、 「[サイクル定義]ダイアログ・ボックス」(271ページ)を参照してください。
ビュー・ノ <i>ー</i> ド を削除	階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するときに選択します。

メニュー項目	詳細
ビュー・ノード を下に移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを下に移動するときに選択します。
ビュー・ノード・ レイヤを下に 移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーでその上にあるクエリ・ノードの配下に配置す るときに、 [ <b>ビュー ノード レイヤを下に移動</b> ]を選択します。
	注:選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合, [ビュー ノード レイヤを下に移動]を選択すると, 階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配 下に配置します。
ビュー・ノード・ レイヤを上に 移動	選択したクエリ・ノードを階層の1つ上のレイヤに配置するときに[ビューノードレイヤを上に移動]を選択します。
ビュー・ノード を上に移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを上に移動するときに選択します。
名前の変更	選択したクエリ・ノードの名前を変更するときに選択します。
ビュー・ノード を非表示に 設定	選択したクエリ・ノードを非表示に設定するときに選択します。 このタイプの CI は ビュー結果に表示されません。
	このオプションを選択すると、階層ツリーで選択したクエリ・ノードの隅に[ <b>クエリ結</b> <b>果で非表示</b> ]のインジケータ ₪ が表示されます。
ビュー・ノード を表示に設 定	選択したクエリ・ノードを表示に設定するときに選択します。 このタイプの CI は ビュー結果に表示されます。
サブグラフ階 層	選択したクエリ・ノードに対して定義したサブグラフをフラット表示するか, クエリ・ ノードの下に折りたたんで表示するかを定義できます。
	<b>注:</b> このオプションは, サブグラフが定 義 されているクエリ・ノード にのみ適 用さ れます。

#### [クエリノード定義]表示枠

重要情報	[クエリノード定義]ペインは, テンプレート・ベース・ビューに無効です。 レポート・レイ
	アウトを変更するには、 ビューのベース・テンプレートを編集します。 エディタでテンプ
	レート・ベース・ビューを開き、[レポート]タブを開くときに、ビューのベース・テンプレー
	トへのリンクを示す警告メッセージが表示されます。

UI要素	詳細
	上 選択した属性をレポートのレイアウト順で上へ移動します。
V	下へ:選択した属性をレポートのレイアウト順で下へ移動します。
Ø	編集:選択した属性の関数を編集できます。
×	削除:選択した属性をレポートのレイアウトから削除します。
⇒	選択した属性を[レポートのレイアウト]リストに移動します。
関数の追加	[ <b>関数の追加</b> ]をクリックすると、[関数の追加]ダイアログ・ボックスが開き、 選択したクエリ・ノードについて、レポートに含める関数を定義できます。追 加した各関数は属性として扱われ、レポートのカラムになります。
	<b>注:</b> このボタンは,ビュー階層で選択したクエリ・ノードの配下にクエリ・ ノードがある場合にのみアクティブになります。
属性	選択したクエリ・ノードに使用できる属性のリストです。
グラフを定義	ビューの現在のレイヤのデータをグラフ形式で表示するには、 [ <b>グラフを定</b> 義]をクリックします。 [グラフのプロパティ]フィールドが表示されます。
	[グラフを定義]オプションは、次の条件を満たすクエリ・ノードまたはグループ 化ノードに対してのみアクティブになります。
	• ビューの最上位層であり、かつ、ビュー階層内で下に層がある。
	• 属するビューのレイヤで唯一のクエリ・ノードである
	<ul> <li>レポート・レイアウトに対して数値属性が少なくとも1つ選択されている</li> </ul>
レポートのレイアウト	レポートの表示対象として選択された属性のリストが表示されます。 レポートでの属性の順序を変更する場合や, 関数を追加する場合は, ツールバー・ボタンを使用します。
並べ替え順を設定	クリックすると、 [カラムの並べ替え順序の設定]ダイアログ・ボックスが開き、 レポート・カラムの順序を設定できます。

#### グラフのプロパティ

表示枠の[グラフのプロパティ]部分には、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細
*	<b>グラフを削除:</b> レポートからグラフを削除します。 レポートはテーブル形式で 生成されます。

UI要素	詳細
次でブレークダウン	グラフは, CI またはグループ化ノードの表示 ラベル別 にブレークダウンされます。 すべてのレポート についてこの設定 が適用されます。
グラフのタイプ	円グラフを作成するには[円]を,棒グラフを作成するには[棒]を選択します。
値	ドロップダウン・リストから値を選択します。

#### ウィジェット定義表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ブラウザ CI アクセ ス制 御 の強 化 >	このチェック・ボックスを選択して、動的ウィジェットで、ロール・マネージャの [ブラウザCl アクセス制御]タブで指定した権限のみに基づいて、動的ウィ ジェットにデータを表示するように指定します。このチェック・ボックスを選択し ない場合、動的ウィジェットには権限の強制なしですべてのデータが表示さ れます。
<パスを表示>	このチェック・ボックスを選択して, ビュー定義の特定のノードからノードのす べての子 へのルートを UCMDB Browser が動的ウィジェットに表示するよう にします。
属性名	動的ウィジェットに表示される選択したノードの属性。
詳細	この属性がウィジェット詳細モードで表示されるかどうかを指定します。
グループ名	属性がウィジェット詳細モードでグループ化される名前を指定します。
概要	この属性が CI 概要 モードで表示されるかどうかを指定します。
再フォーカス可能	この属性がハイパーリンクとして表示され,属性が定義された CI に再 フォーカスできるかどうかを指定します。

### パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ

この機能では、パースペクティブ・ベース・ビューを作成および編集できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [新規作成] 🚵 ボタンをクリックし, [パースペクティブベース ビュー]を選択して新しいビューを作成するか, [CIの選択]から空白のキャンバスに CIをドラッグして[新規ビューの作成]を選択します。
	エディタで既存のビューを開くには, [リソース] 表示枠でリソース・タイプとして [ビュー]を選択し, ツリーから必要なパースペクティブ・ベース・ビューを選択して [ <b>ビューを開く</b> ] 💭 をクリックするか, ビューをダブルクリックします。

重要情報	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタには次の表 示枠があります。
	• [内容]表示枠: CI またはモデル, あるいはその両方をビューに含めるには, それらをこの表示枠にドラッグします。
	• [パースペクティブ]表示枠:ビューの作成のためにコンテンツに適用するパースペクティブを選択します。
	• [結果の表示]表示枠:現在のビューのプレビューが示されたトポロジ・マップが 表示されます。この表示枠には、IT ユニバース・マネージャ・マネージャの機能の ほとんどが含まれています。
関連タスク	• 「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法」(262ページ)
	•「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成方法」(263 ページ)
関連情報	• 「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」(245ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

#### [コンテンツ]表示枠

UI要素	詳細
•	<b>ビュー結果をIT ユニバースに表示</b> :IT ユニバース・マネージャの現在の ビューに直接移動します。
<b>F</b>	<b>プロパティ</b> :選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが 開きます。
₿	選択した CI を含むモデルを表示:選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	選択した CI/モデルを含むビューを表示:選択した CI やモデルを含むビューのリストが表示されます。
69	<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b> :選択したモデルが別のモデル・エディ・タ ブで開きます。
<b>1</b>	選択したモデルのビューを生成:選択したモデルに基づいてビューを作成で きます。 [新規ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開き, 適用するパース ペクティブを選択できます。
×	ベース CI の削除: 選択した CI をビュー内容から削除します。
<b>1</b>	<b>ビュー定義プロパティ:</b> [ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, ビューのプロパティを設定できます。

UI要素	詳細
	検索:検索ボックスと矢印コントロールの表示/非表示が切り替わります。
[CI タイプ]カラム	ビューの各 CI のタイプが表示されます。
検索	[検索]ボックスに CI名または CI名の一部を入力して, ビュー内の CIを 検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の次の項目を検索するとき にクリックします。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の前の項目を検索するとき にクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、ビュー内のすべての項目を強調表示するとき にクリックします。
[名前]カラム	ビューの各 CI の名 前 が表 示されます。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
選択したモデルのビュー を生成	選択したモデルに基づいてビューを作成するときに選択します。 [新規 ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開き,適用するパースペクティブを選 択できます。
選択した <del>モ</del> デルを新し いタブで開く	選択したモデルが別のモデル・エディタタブで開きます。
プロパティ	選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
ベース CI の削 除	選択した CI またはモデルがビュー・コンテンツから削除されます。
含まれるモデルを表示	選択したCIを含むモデルのリストを表示するときにクリックします。
含まれるビューを表示	選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。

#### [パースペクティブ]表示枠

UI要素	詳細
*	<b>パースペクティブ・ステップを削除</b> :選択したパースペクティブの選択したレベ ルを削除します。

UI要素	詳細
	ステップを上げる:選択したパースペクティブを現在のレベルから前のレベル に移動します。
45	ステップを下げる: 選択したパースペクティブを現在のレベルから次のレベル に移動します。
+	パースペクティブ・ステップを追加:選択したパースペクティブに新しいレベル を追加します。前のパースペクティブ・レベルの結果は,新しいレベルの入力 コンテンツとして使用されます。
	パースペクティブを選択:ダイアログ・ボックスを開き、利用可能なパースペク ティブが表示されます。矢印ボタンを使用して、必要なパースペクティブを利 用可能なカラムから選択済みカラムに移動します。
	パースペクティブ定 義を表示するには, どちらかのカラムでパースペクティブを 選択し, [ <b>定義を開く</b> ]リンクをクリックします。 別 のタブでパースペクティブ定 義が開きます。
<del>モデ</del> ル階層の上に 適用	モデルに基づくビューの場合, [モデル階層の上に適用] チェック・ボックスを 選択すると, ビューにモデル階層が組み込まれ, モデルに含まれている CI およびモデル自体にパースペクティブが適用されます。 このチェック・ボックス をクリアすると, モデル階層がビューから除外され, モデル自体にのみパース ペクティブが適用されるようになります。 この場合, モデルは通常の CI として 扱われます。
	<b>注:</b> CI コレクション, またはモデルとCI コレクションに基 づくビューの場合, このオプションは無効です。
パースペクティブ	選択したパースペクティブのリストが表示されます。
	選択する前に,標準設定のパースペクティブがウィンドウに表示されます。 [ <b>新しいパースペクティブ ベース ビューに選択したパースペクティブ</b> ]インフラス トラクチャ設定を使用して,標準設定のパースペクティブの値を設定できま す。

#### [結果の表示]表示枠

UI要素	詳細
マップ	ビューの結果をマップ・モードで表示します。
テキスト	ビューの結果をテキスト・モードで表示します。

UI要素	詳細
グループ化	トポロジ・マップの CI にグループ化 メソッドを選 択します。 次 のオプションを使 用 できます。
	• レイヤでグループ化: CIタイプの[レイヤ]属性の値に従って CIをグループ化します。
	• CI タイプでグループ化: CI タイプに従って CI をグループ化します。
	• 分類でグループ化: CI タイプの[分類] 属性の値に従って CI をグループ 化します。
	• グループ化なし: CI をグループ化しません。
	注:
	<ul> <li>このオプションはマップ・モードのみで使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>グループ化オプションを選択すると、各グループには、グループ内の CIの数を表示するインジケータが含まれます。グループに多数のCI が含まれている場合、形式が破損して表示され、グループ名とカウ ント・インジケータしか表示されません。[+]記号ボタンをクリックして グループを展開し、すべてのCIを表示します。インフラストラクチャ 設定マネージャの「初めにグループ最大 CI しきい値を展開します」 設定を修正することで、自動グループ折りたたみのCI しきい値を 設定できます。</li> </ul>
1 k	関係を作成:ビューの2つのCI間に関係を作成します。
٢	レイヤを1つ上げる:トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。
F	<b>レイヤを1つドリル・ダウン</b> :トポロジ・マップ内の1つ下のレベルに移動します。
×	CMDB から削除:選択した CI が CMDB から削除されます。
	<b>CI プロパティを表示</b> :選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアロ グ・ボックスが開きます。
C	更新:ビューの結果を更新します。

UI 要素	詳細
Ŭ	<b>ビューから CI を非表示</b> :選択した CI をビューで非表示にします。このオプ ションは, パースペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係しま す。 元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。
	注: 非表示になっている CI は[非表示 CI]ダイアログ・ボックスで復元 できます。
162	<b>非表示 CIを表示</b> :[非表示 CI]ダイアログ・ボックスが開き, ビューで非表示になっている CIを手動で復元できます。
5.₽	選択された CI に基づいてビューを作成: [結果の表示]表示枠から選択 した CI に基づいた新しいビューを作成できます。
	プレビュー表示の展開:別の表示枠でプレビューを表示します。
<現在位置表示リ スト>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は最上位レイヤです。また、下のレイヤからCIを選択するとき、親CIが現在位置表示パス内の次の項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが表示されます。
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が追加されたことを表します。
	• 削除の候補: CI が削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が変更されたことを表します。
	<ul> <li>レイヤを1つドリル・ダウン:仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。</li> </ul>
	• 外部: CI がフェデレート CI であることを表します。
	• 影響を受ける:影響分析がアクティブなとき,影響を受けた CI を示します。
	• 影響を受けてトリガする:影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガ CIを示します。
	• メモ: CI にメモが追加されたことを表します。
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。

UI要素	詳細
<トポロジ・マップ>	[結果の表示]表示枠のトポロジ・マップは, IT ユニバース・マネージャのトポ ロジ・マップのレイアウトに従います。詳細については, 「トポロジ・マップ」 (214ページ)を参照してください。
<[トポロジ マップ]サ イドバー>	詳細については、「[トポロジマップ]サイドバー」(172ページ)を参照してください。

#### ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
<it ユニバース・マネー<br="">ジャのショートカット・メ ニュー・オプション&gt;</it>	IT ユニバース・マネージャでは、ショートカット・メニュー・オプションを使用で きます。詳細については、「[IT ユニバースマネージャ]ページ」(213ペー ジ)を参照してください。
選択された CI に基づ いてビューを作成	[選択された CI に基づいてビューを作成]を選択すると、[結果の表示] 表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。
ビューから CI を非表 示	選択した CI をビューで非表示にするときにクリックします。 このオプション は、パースペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係します。 元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。 モ デルに基づくビューの場合、モデルは非表示にできませんが、 その CI は 非表示にできます。
非表示 CI を表示	非表示のCI をビューに復元します。

# [クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI のグループを定義したり、既存のグループを編集したりできます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタの[階層]表示枠で[ <b>次の項目別でグループを追加</b> ] 「ボタンをクリックして[ <b>属性別でグループを追加</b> ]を選択するか, 必要なクエリ・ノード を右クリックしてショートカット・メニューから[ <b>属性別でグループを追加</b> ]を選択しま す。
関連タスク	「パターン・ビューの作成方法」(251ページ),「テンプレートの作成方法」(252ペー ジ),「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
関連情報	•「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
式 キャプチャグループのイ ンデックス	正規表現の関連部分の番号を入力します。表現全体が関連する 場合は「0」を入力します。
グループ化	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
グループ化のマスク	選択した属性の構造を表す正規表現パターンを入力します。
	詳細については、「クエリ・ノードのグループ化」(239ページ)を参照して ください。

# [クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 TQL クエリまたはビューのプロパティを設定できます。

利用方法	モデリング・スタジオの TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで, [ <b>クエリ</b> 定義プロパティ]/[定義プロパティの表示] 「「ボタンをクリックします。
重要情報	[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスでビューの標準設定のレイアウトを選択 できます。[マップレイアウト]または[グループ化]でオプションを選択できます(1つだ け選択できます)。
関連タスク	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
関連情報	• 「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
ベース・クエリ	新しいクエリの基にする既存の TQL クエリを選択します。 [ベース クエリ をクリア] 😡 をクリックすると選択したベース・クエリが削除されます。
	注: ・ このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。 ・ このフィールドは省略可能です。

UI要素	詳細
<b>バ</b> ンドル	TQL クエリまたはビューをカテゴリ別 にグループ化 する方 法 です。 現在 のクエリまたはビューに関 連付 けられたパンド ルを選択 するか, 現在 のクエリまたはビュー用 に新しいバンド ルを作成します。
	注:このフィールドは省略可能です。
説明	TQL クエリまたはビューの説明です。
グループ化	IT ユニバース・マネージャまたはビュー・プレビューでの消費時に, ビュー に標準設定のレイアウトを選択します。使用できるオプションは,「トポ ロジ・マップ」(214ページ)の「グループ化」で説明されているオプションで す。
	注:
	• このフィールドはビューにのみ関連します。
	<ul> <li>このドロップダウンから標準設定のレイアウト([グループ化なし] 以外)を選択すると、[マップレイアウト]が無効になります。</li> </ul>
レイヤ間リンク	トポロジ結果に表示される中間層関係の範囲を設定します。詳細に ついては、「レイヤ間の関係」(185ページ)を参照してください。
	注: このフィールドはビューにのみ関連します。
Configuration Manager による管 理	チェック・ボックスを選択して、ビューがHP Universal CMDB Configuration Manager で管理されていることを示します。
	<b>注:</b> このフィールドはビューにのみ該当し, HP Universal CMDB Configuration Manager が設定され実行している場合にのみ適 用されます。
マップ レイアウト	IT ユニバース・マネージャまたはビュー・プレビューでの消費時に, ビュー に標準設定のレイアウトを選択します。使用できるオプションは, [メイ ンメニュー]の[レイアウト]で表示されているオプションです。
	注:
	• このフィールドはビューにのみ関連します。
	• このフィールドは、 [グループ化]で[グループ化なし]を選択した ときにのみ関連します。

UI要素	詳細
永続	TQL クエリを永続として定義する場合に選択します。永続クエリは, 常にメモリに保持されます。
優先度	TQL クエリまたはビューの優先度をドロップダウン・リストから選択します (低,中,高,至急,非アクティブ)。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行 する頻度が決定します。
	<b>注:</b> ビューの優先度を変更すると、ビューの基になる TQL クエリの 優先度も変更されます。
スコープ	TQL クエリの対象範囲をドロップダウン・リストから選択します。
	<b>注:</b> このフィールドは統合 TQL クエリにのみ関連します。
タイプ	TQL クエリのタイプをドロップダウン・リストから選択します。
	注: このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。
Configuration Manager で更新タイミングを表示	ビューが Configuration Manager による管理に設定されている場合は、ドロップダウン・リストから更新頻度を選択します。
	<b>注:</b> このフィールドはビューにのみ該当し, HP Universal CMDB Configuration Manager が設定され実行している場合にのみ適 用されます。
Configuration Manager でタイプを表 示	ビューが Configuration Manager による管理に設定されている場合は、ドロップダウン・リストからビューのタイプを選択します。
	<b>注:</b> このフィールドはビューにのみ該当し, HP Universal CMDB Configuration Manager が設定され実行している場合にのみ適 用されます。

### [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に関連する CI を検索し、モデルに追加することができます。

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタで、CIを選択し、[隣接検索] へ ボタンをク リックして[隣接検索を開始]を選択するか、モデルのCIを右クリックして[隣接検
	<b>索]&gt;[隣接検索を開始]</b> を選択します。

重要情報	上部の表示枠には,選択した CI に関連する CI の CI タイプが表示されます。下 部の表示枠には,上部の表示枠で選択したタイプの CI が表示されます。
	公開の始点にした CI の CI タイプが公開の最初ステップとなります。上部の表示 枠のリストから CI タイプを選択すると、その CI タイプがパスの2番目のステップになり ます。 [次へ]をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示され ます。
	ボックスの上部に表示される括弧で囲まれた数字は、それまでに作成されたパスの 長さを表します。
関連タスク	「インスタンス・ベース・モデルの作成方法」(260ページ)
関連情報	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
×	選択した項目の削除:選択した項目をCIバスケットから削除します。
	<b>Cl プロパティ</b> :選択した Cl の[Cl プロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	<b>CI をバスケットに追加</b> :下部の表示枠で選択した CI を CI バスケットに追加します。
$\bigcirc$	<b>次を検索</b> :選択した検索フレーズに一致する、CIのリスト内の次の項目 に移動します。
	前を検索:選択した検索フレーズに一致する、CIのリスト内の前の項目 に移動します。
<下部の表示枠>	上部の表示枠で選択したタイプの関連 CI のリストが表示されます。
CI 数	各タイプの関連 CI がいくつ見つかったかを示します。
CI バスケット	モデルに含めるために選択した関連 CI が表示されます。
CI タイプ	選択した CI に関連する CI の, CI タイプのリストが表示されます。
条件	チェック・マークは, 選択した CI タイプに条件が定義されていることを示しま す。選択する CI タイプの[条件] カラムをクリックし, [ <b>条件の追加</b> ] ボタンま たは[ <b>定義を編集</b> ] ボタンをクリックすると, [関連 CI の条件] ダイアログ・ ボックスが開きます。ここで, CI タイプに条件を定義したり, CI タイプの条件 を編集したりできます。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, CI のリストで CI を 検索します。

UI要素	詳細
完了	CI バスケットへの CI の追加が完了したときに[完了]をクリックします。
次へ	[ <b>次へ</b> ]をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。
隣接検索パス	作成中の公開パスが表示されます。 パス内の青い矢印 ⇒ をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプのドロップダウン・リストが表示されます。 パス内の CI タイプをクリックすると、次のオプションが表示されます。 ・ページへ移動:パス内の選択したステップで使用できる CI タイプでテー ブルが更新されます。 ・ 定義を編集:[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックスが開きます。 ・選択した項目の削除:選択した CI タイプが公開パスから削除されま
	す(パスは前のCIタイプで終了します)。
パスの保存	パスを保存できる[隣接検索パスの保存]ダイアログ・ボックスが開きます。このオプションは、一意の公開パスが作成された場合にかぎり有効になります。

### [クエリを保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,新しい TQL クエリを保存できます。

利用方法	モデリング・スタジオで,新しい TQL クエリの定義時に[保存] 🛅 をクリックします。
関連タスク	「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
関連情報	•「TQL クエリ結果の表示」(17ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI 要素	詳細
	新規フォルダ:リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
×	<b>削除:</b> CMDB から選択したリソースを削除します。
ø	更新:リソース・ツリーを更新します。
1	すべてを展開:リソース・ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。

UI 要素	詳細
	すべてを折りたたみ:リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
$\bigcirc$	<b>次を検索</b> :選択した検索フレーズに一致するツリー内の次の項目に移動します。
$\bigcirc$	前を検索:選択した検索フレーズに一致するツリー内の前の項目に移動します。
	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致するツリー内のすべての項目を強調表示します。
<リソース・ツ リー>	クエリの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
検索	[検索]ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して, リスト内のビュー を検索します。
クエリ名	新しい TQL クエリの名前を入力します。

### [ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティ ブの定義時に、 [保存] 🛅 ボタンをクリックします。
関連情報	•「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
	新規フォルダ:リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
×	<b>削除:</b> CMDB から選択したリソースを削除します。
S	更新:リソース・ツリーを更新します。
	すべてを展開:リソース・ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
1	<b>すべてを折りたたみ</b> :リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。

UI要素	詳細
$\bigcirc$	<b>次を検索</b> :選択した検索フレーズに一致するツリー内の次の項目に移動 します。
	前を検索:選択した検索フレーズに一致するツリー内の前の項目に移動 します。
<b>—</b>	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致するツリー内のすべての項目を 強調表示します。
<リソース・ツリー>	ビュー, テンプレート, またはパースペクティブの保存先とするツリー内のフォ ルダを選択します。
検索	[検索]ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して, リスト内のビューを検索します。
新規クエリ	新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する場合, [ <b>新規クエリ</b> ]を選択 します。
	<b>注</b> :このフィールドはテンプレート・ベース・ビューおよびパースペクティブ・ ベース・ビューには適用されません。
ビュー名	新しいビュー, テンプレート, またはパースペクティブの名前を入力します。

### [統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, 統合ポイントを選択して, TQL クエリ・ノードに必要なデータ・ソースに アクセスできます。

利用方法	モデリング・スタジオで, TQL クエリ・ノードを右 クリックし, [統合ポイントの選択]を選択します。
重要情報	TQL クエリが各 クエリ・ノード の結果を生成 するために使用 するデータ・ソースを選択 できます。 データ・ソースの詳細については、 『HP Universal CMDB データ・フロー 管理ガイド 』のIntegration Studio の概要を参照してください。

UI要素	詳細
<[統合ポイント]リス ト>	利用可能なデータ・ソースの統合ポイントのリストです。

UI要素	詳細
すべての統 合 ポイン ト	TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのすべてのUCMDBと外部 ソース・データから CIを取り込むことができます。
	<b>注</b> :選択したクエリ・ノードのCIタイプがフェデレートとマークされている 統合ポイントのみを取り込みます。
ローカル・データ・ソー ス	TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのみの UCMDB から CI を 取り込みます。
統合ポイントの選択	統合ポイントを選択して, TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのみの必要なデータ・ソースから CIを取り込みます。

### [カラム コンテンツの並 ベ替 え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートでのカラム・コンテンツの順序を設定できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、パターン・ビュー・エディタ(レポート・モード)の[クエリノード定 義]表示枠から[ <b>並べ替え順を設定</b> ]をクリックします。
重要情報	レポートは[並べ替えられたカラム]表示枠の属性の順序に従って各カラムで並べ 替えられます。選択した各カラムは、指定に従って昇順または降順に並べ替えら れます。
関連タスク	「レポート設定の定義方法」(259ページ)
関連情報	●「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
	<b>並べ替えられたカラムへ移動</b> :選択した属性を[並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。
	利用可能なカラムへ移動:選択した属性を[利用可能なカラム]表示 枠に移動します。
	すべての属性を[並べ替えられたカラム]表示枠に移動します。
<b>E</b>	すべての属性を[利用可能なカラム]表示枠に移動します。
U.	選択した属性を[並べ替えられたカラム]リストの中で下に移動します。
	選択した属性を[並べ替えられたカラム]リストの中で上に移動します。

UI要素	詳細
<b>≜</b> ↑	昇順ソート:選択したカラムを昇順で並べ替えます。
₹↓	降順ソート:選択したカラムを降順で並べ替えます。
利用可能なカラム	レポートの表示対象カラムとして選択した属性です。
並べ替えられたカラム	並べ替え対象として選択したカラムです。

### [テンプレート ベース ビュー] ウィザード

このウィザードでは, 手動で, または CSV ファイルからパラメータ・データをインポート することで, テンプ レート・ベース・ビューを定義 できます。

利用方法	[新規作成] 🐱 ボタンをクリックして,[ <b>テンプレート ベース ビュー</b> ]を選択します。
重要情報	このウィザードでは、同じテンプレートを使用して複数のテンプレート・ベース・ビュー を作成できます。複数のビューを作成すると、ウィザードに最終ページとして[ビュー を保存]ページが含まれます。単一のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合、 ウィザードが[パラメータ]ページを終了したら、エディタで新しいビューが開きます。新 しいビューはエディタで保存できます。
関連タスク	<ul> <li>「テンプレート・ベース・ビューの作成方法」(257ページ)</li> <li>「複数のテンプレート・ベース・ビューの作成方法」(258ページ)</li> </ul>
ウィザード・ マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメー タを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビュー を保存]ページ」
関連情報	<ul> <li>「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)</li> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

#### [テンプレートの選択]ページ

このウィザード・ページでは、ビューの基にするテンプレートを選択できます。

重要情報	ツリー内のテンプレートを使用しない場合,最初に新しいテンプレートを作成し,そ れに基づいてビューを作成できます。テンプレートの作成の詳細については、「テンプ レートの作成方法」(252ページ)を参照してください。
ウィザード・ マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメー タを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビュー を保存]ページ」

UI 要素	詳細
S	更新:テンプレート・ツリーが更新されます。
1	すべてを展開:テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダを展開します。
145	すべてを折りたたみ:テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
$\bigcirc$	<b>次を検索</b> :選択した検索フレーズに一致するツリー内の次の項目に移動します。
$\bigcirc$	前を検索:選択した検索フレーズに一致するツリー内の前の項目に移動します。
	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致するツリー内のすべての項目を強調表示します。
<テンプレート・ ツリー>	既存のテンプレートがソリー形式で表示されます。
検索	[検索]ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して, リスト 内のテンプレートを検索します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

#### [パラメータ値をインポート]ページ

このウィザード・ページでは、CSV ファイルからパラメータ値をインポートできます。

重要情報	同じテンプレートに基づくビューを多く作成する場合は, CSV ファイルでパラメータ値 を保存し, ウィザードにパラメータ値を直接インポートできます。
	注: CSV ファイルに、英語以外の文字が含まれている場合、文字の適切な 表示を確保するために UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。
ウィザード・	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
マッフ	「[テンプレートの選択]ページ」> <b>「[パラメータ値をインポート]ページ」</b> >「[パラメー タを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビュー を保存]ページ」

UI要素	詳細
パラメータ値を手動	単一ビューまたは複数ビューのどちらの場合でも、パラメータ値を手動で入
で追加	カする場合、このオプションを選択します。

UI要素	詳細
パラメータ値を CSV ファイルからインポー ト	CSV ファイルからパラメータ値をインポートする場合, このオプションを選択します。 省略記号
詳細な名前付けを 使用	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、 [詳細な名前付けを使用]オプションを選択します。このボックスでは、少な くとも1つのパラメータ名を含む式を山括弧で囲んで入力します。選択した パラメータの値に基づいてビューに名前が付きます。

#### [パラメータを入力]ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成した各ビューのテンプレート・パラメータの値を設定できます。

重要情報	複数のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 [ <b>次へ</b> ]をクリックして、 [ビューを保存]ページに進みます。単一のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 [ <b>完了</b> ]をクリックすると、エディタで新しいビューが開きます。
ウィザード・ マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメー タを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビュー を保存]ページ」

UI 要素	詳細
+	<b>ビュー・インスタンスを追加</b> :新しいビュー・インスタンスを追加します。
×	<b>ビュー・インスタンスを削除</b> :選択したビューを削除します。
<パラメ―タ・カラム>	各パラメータ・カラムで, 各ビューに必要なパラメータ値を入力または選択します。
リセット	クリックすると、選択したパラメータが元の値にリセットされます。
詳細な名前付けを 使用	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、 [詳細な名前付けを使用]オプションを選択します。このボックスでは、少な くとも1つのパラメータ名を含む式を山括弧で囲んで入力します。選択した パラメータの値に基づいてビューに名前が付きます。
	注: すべてのビュー名は一意である必要があります。
ビュー名	新しいビューそれぞれに名前を入力するか、割り当てられた標準設定の名前を使用します。

#### [ビューの場所を選択]ページ

このウィザード・ページでは、作成したビューを保存する場所を選択できます。

重要情報	作成したすべてのビューは同じ場所に保存する必要があります。
ウィザード・ マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
	「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメー タを入力]ページ」> <b>「[ビューの場所を選択]ページ」</b> >「[サマリ]ページ」>「[ビュー を保存]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	新規フォルダ:ビュー・ツリーに新しいフォルダを作成します。
S	更新:ビュー・ツリーが更新されます。
<b>1</b>	すべてを展開:ビュー・ツリー内のすべてのフォルダを展開します。
1	すべてを折りたたみ:ビュー・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたみます。
$\bigcirc$	次を検索:選択した検索フレーズに一致するツリー内の次の項目に移動します。
$\bigcirc$	前を検索:選択した検索フレーズに一致するツリー内の前の項目に移動します。
	<b>すべてを強調表示</b> :検索フレーズに一致するツリー内のすべての項目を強調表示 します。
<ビューのツ リー>	ビューのツリーからフォルダ(またはルート)を選択します。
検索	[検索]ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して、 ツリー内の テンプレートを検索します。

#### [サマリ]ページ

このウィザード・ページでは保存する前に作成したビューの詳細が表示されます。

ウィザード・マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
	「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パ ラメータを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「 <b>[サマリ]ペー</b> ジ」>「[ビューを保存]ページ」

UI 要素	詳細
ビューのサマリ	ベース・テンプレートの名前,作成したビューの数,ビューの保存に選択した場所
を保存	を含む,作成したビューのサマリ。

#### [ビューを保存]ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成したビューを保存できます。

重要情報	このウィザード・ページは, 複数のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合にのみ 関連します。
ウィザード・ マップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメー タを入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「 <b>[ビュー</b> を保存]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
結果を保存	新規ビューの各名前,および,各ビューが正常に保存されたかどうかを示 すメッセージがテーブルに表示されます。

# [テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テンプレート・ベース・ビューのパラメータを編集できます。

利用方法	モデリング・スタジオのテンプレート・ベース・ビューで,定義されたパラメータを含むクエ リ・ノードを右クリックし, [ノード パラメータの表示]を選択するか,ツールバーの[パラ メータを表示] 《》 ボタンをクリックします。
重要情報	定義されたパラメータを含むクエリ・ノードを右クリックして, ショートカット・メニューから ダイアログ・ボックスを開くと, 選択したクエリ・ノードのパラメータのみがダイアログ・ ボックスに表示されます。 ツールバーからダイアログ・ボックスを開くと, ビュー内にあ るクエリ・ノードに定義されているすべてのパラメータが表示されます。
関連タスク	「テンプレート・ベース・ビューの作成方法」(257ページ)
関連情報	• 「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
<パラメ―タ>	パラメータの値を編集します。

### TQL クエリ・エディタ

この機能では、TQL クエリを作成および編集できます。

利用方法	TQL クエリ・エディタで新しい TQL クエリを開くには,モデリング・スタジオに移動し, [ <b>新規作成] \sin</b> ボタンをクリックし,[ <b>クエリ</b> ]を選択します。
	TQL クエリ・エディタで既存の TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠 にある[リソース]タブに移動し、[リソースタイプ]として[クエリ]を選択します。 ツリー で TQL クエリを右 クリックして[ <b>クエリを開く</b> ]を選択します。 または、TQL クエリをダブ ルクリックするか、TQL クエリを空のキャンバスにドラッグします。 新しいタブで TQL クエ リが開きます。
重要情報	TQL クエリを保存するには, モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある[保存]ボ タンを使用します。
関連タスク	「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
関連情報	•「TQL クエリ結果の表示」(17ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI 要素	詳細
•	<b>ビュー結果を IT ユニバースに表示</b> :IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直 接移動します。
	<b>注:</b> このボタンは,ビュー,テンプレート,またはパースペクティブの場合にのみ適 用されます。
1×	<b>関係を作成</b> :クエリ・ノード間に関係を設定できます。
	クエリ結果数を計算する:各 TQL クエリ・ノードまたは関係について,見つかったイン スタンスの数を計算します。
Q	<b>プレビュー</b> : IT ユニバース・マネージャに表 示されるときの TQL クエリの結果をプレ ビュー表 示します。
×	削除:選択したクエリ・ノードまたは関係がクエリから削除されます。
	クエリ定義プロパティ/定義プロパティの表示:
	クエリの場合, [クエリ定 義 プロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, TQL クエリのタイプ, 範囲,および優先度を編集できます。
	ビューの場合, [定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素	詳細
at.	レポート・プロパティ[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, ビューのトポロ ジ・レポートのタイトル, サブタイトル, 形式を設定できます。詳細については,「[レ ポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス」(396ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> このボタンは,ビュー,テンプレート,またはパースペクティブの場合にのみ適 用されます。
<b>2</b> 6,	<b>テナントを割り当て:</b> [テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き, テナントをリ ソースに割り当てることができます。
	注:このボタンは、マルチテナンシーが有効な場合にのみ利用できます。
2	セキュリティを管理:選択したリソースを特定のロールまたはリソース・グループに割り 当てることができます。
<p></p>	<b>パラメータを表示:</b> [テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスが開き, テンプレート・ベース・ビューでクエリ・ノードのパラメータを編集できます。
	注:このボタンは、テンプレート・ベース・ビューの場合にのみ表示されます。
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンが次の特殊な意味を持つことを示します。
	<ul> <li>パースペクティブ内のコンタクト・クエリ・ノードとして定義されている</li> </ul>
	• フェデレート CI です。
	• 属性が定義されている
	<ul> <li>選択した ID が定義されている</li> </ul>
	• クエリの結果では非表示です。
	<ul> <li>パターン・ベース・モデルの出力クエリ・ノードとして定義されている</li> </ul>
	<ul> <li>サブグラフが定義されている</li> </ul>
<メイン・メ ニュー>	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。
<ショート カット・メ ニュー・オプ ション>	詳細については、「ショートカット・メニュー・オプション」(32ページ)を参照してください。
<[トポロジ マップ] サイ ド <i>バー</i> >	詳細については、「[トポロジマップ]サイドバー」(172ページ)を参照してください。

#### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	詳細表示枠は, モデリング・スタジオ, 影響分析マネージャ, エンリッチメント・マネージャ, 入力クエリエディタ, DFM のトリガ・クエリ・エディタの各マネージャとユーザ・インタフェースで, ウィンドウ下部に表示されます。 データを含んでいるタブの横には, 小さな緑色のインジケータ*が表示されます。
関連タスク	• 「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	• 「パターン・ビューの作 成 方 法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は, 左矢印または 右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[ <b>リストを表示する</b> ]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリ ストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。 詳細については,「[属性]タブ」(73ページ)を参照してください。
カーディナリティ	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合,TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については、「[カーディナリティ]タブ」(75ページ)を参照してください。
データ・ソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。
	注: このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
UI要素	詳細
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------
詳細	次の情報が表示されます。
	• CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。
	• 要素名 :クエリ・ノード/関係の名前です。 モデリング・スタジオにのみ表示されます。
	• クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は,選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは,表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは,[はい]または[いいえ] という語によって示されます。
	<ul> <li>サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは表示されません。</li> </ul>
編集	[ <b>編集</b> ]をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。
要素レイアウト	選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に 含めるために選択された属性が一覧表示されます([特定の属性]が属 性条件として選択されている場合)。また,除外された属性と,属性で選 択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については,「[要素 レイアウト]タブ」(81ページ)を参照してください。
	注:このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
要素タイプ	クエリ・ノードまたは関係に対して定義されたサブタイプ条件が表示されます。詳細については、「[要素タイプ]タブ」(79ページ)を参照してください。
	注: このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
エンリッチメント・ルー ル	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが 表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合 は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイア ログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、「[クエリノード / 関係の定義]ダイアログ・ボックス」(508ページ)を参照してください。
	注:このタフはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。

UI要素	詳細
影響を受けるクエリ・ ノード	選択したトリガ・クエリ・ノードで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノード が表示されます。必要な場合は、 [編集]をクリックして、 [影響を受けるク エリノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、 「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」(436ページ)を参照してく ださい。
	注:このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されま す。詳細については、「[修飾子]タブ」(83ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> このタブは,エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにの み表示されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素 インスタンスが表示されます。詳細については,「[ID]タブ」(84ページ)を参 照してください。

# [選択した CI を含むビュー]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むビューのリストを表示できます。

利用 方法	モデル・エディタで[ <b>選択した CI/モデルを含むビューを表示</b> ] <u> </u> ボタンをクリックするか, ショートカット・メニューから[ <b>含まれるビューを表示</b> ]を選択します。
関連	●「ビジネス・ビューの構築」(238ページ)
1月 书区	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
•	<b>ビュー結果をIT ユニバースに表示</b> :IT ユニバース・マネージャの選択した ビューに直接移動します。
×	選択した項目の削除:選択したビューを削除します。
2ª	ビューをパースペクティブから切断:選択したビューをそのパースペクティブから 切断します。ビューは、パターン・ビューになります。
検索	[検索]ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して、 リスト内の ビューを検索します。

UI要素	詳細
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するとき にクリックします。
前を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するとき にクリックします。
強調表示	検索フレーズにー 致する、 リスト内のすべての項目を強調表示するときにク リックします。
ビュー名	選 択したテンプレートまたはパースペクティブに依存するビューのリストが表 示されます。
	注:現在のビューの名前は淡い色のテキストで表示されます。

# [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには, モデルに定義されたウォッチポイントにより, 関連 CI で見つかった変更が 表示されます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から, [ウォッチポイント] ⁽ ) ボタンをクリックして [ウォッチ ポイントの更新]を選択するか, モデルで CI を右 クリックして [ウォッチポイント]> [ウォッチポイントの更新]を選択します。
重要情報	[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスには、関連付けられた隣接検索パスを 介し、モデルに関連するCIについて見つかった変更が表示されます。モデルに含ま れていない新しい関連 CI が見つかった場合、推奨更新はCI の追加となります。 モデルのCI がパスを介して関連しなくなったことがわかった場合、推奨更新はCI の削除となります。
	このオプションは, モデルに監視が定義されていて, CI が見つかっている場合にのみ 有効 <i>と</i> なります。
関連情報	•「隣接検索 CI とウォッチポイント」(247ページ)
	<ul> <li>「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」(264ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
承認	モデルに追加する CI のチェック・ボックス, またはモデルから削除する CI の チェック・ボックスを選択します。
すべて承認	推奨された変更をすべてモデルに適用するときに、 [ <b>すべて承認</b> ]をクリック します。

UI要素	詳細
CI	監視により見つかったCIの名前です。
CI タイプ	監視により見つかった CI のタイプです。
すべてクリア	見 つかったすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 [ <b>すべてクリア</b> ] をクリックします。
復元	[抑制された CI]表示枠で, モデルに含めることを検討する CI のチェック・ ボックスを選択します。
抑制の表示/非表 示	ダイアログ・ボックスの[抑制された CI]表示枠の表示と非表示を切り替え ます。
推奨更新	推奨された変更がCIの追加かCIの削除かを示します。
抑制	モデルから除外する CI のチェック・ボックス, またはモデルに残す CI の チェック・ボックスを選択します。
すべて抑制	モデルに対する推奨された変更をすべて受け入れないときに、 [ <b>すべて抑</b> 制]をクリックします。

### [<クエリ/テンプレート/パースペクティブ名>の依存関係]ダイア ログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クエリ、テンプレート、またはパースペクティブへの変更を保存するときに依存リソースのステータスを確認できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、依存リソースを含むクエリ、テンプレート、またはパースペクティ ブを変更します。 [保存]をクリックすると、ダイアログ・ボックスが開きます。
重要情報	リソースに対して行った変更はすべて、そのリソースに基づくビューまたはカスタム・レ ポートに影響します。変更を保存する前に、依存リソースで希望する結果を指定 する必要があります。各依存リソースに対して、次のいずれかの選択できるオプショ ンを選択します。を削除または再適用。
	依存リソースにはクエリ, テンプレート, またはパースペクティブに基づいたビュー, ビューに基づいたカスタム・レポート(ビュー変更レポートなど)があります。

UI要素	詳細
削除	選択した依存リソースを削除するには、このオプションを選択します。

UI要素	詳細
再適用	修正したクエリ, テンプレート, またはパースペクティブを, 選択した依存 ビューに適用するには, このオプションを選択します。 ビュー・タイプは以前の タイプ(パターン・ビュー, テンプレート・ベース・ビュー, パースペクティブ・ベー ス・ビュー)のままです。 カスタム・レポートの場合は, レポートは改訂された ビューに応じて更新されます。
リソース	依存リソースがツリー形式で表示されます。

# 第9章:レポート

本章の内容

トポロジ・レポートの概要	
カスタム・レポートの概要	
トポロジ・レポートの表示方法	
カスタム・レポートの生成方法	
CIを比較する方法	
スナップショットを比較する方法	
Cron 式	
レポートのユーザー・インタフェース	
英語以外のロケールでのレポート - 注意事項および制限事項	

### トポロジ・レポートの概要

トポロジ・レポートでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオで定義されているすべてのビューの[レポートモジュール]には、対応するトポロジ・レポートがあります。レポート設定は、パターン・ビュー・エディタのレポート・モードでビュー定義を使用して定義します。詳細については、「パターン・ビュー・エディタ」(296ページ)を参照してください。

ビューに表示される CI の選択の詳細については、「CI セレクタでの作業」(126ページ)を参照してください。

また, パースペクティブ, パースペクティブ・ベース・ビュー, およびテンプレート・ベース・ビューにも, トポロ ジ・レポートがあります。 このようなビューのレポート 設定は, ベース・テンプレートまたはパースペクティブ で定義 される設定に基づいています。

レポート・モジュールでテンプレートを開き, テンプレートのパラメータを編集できます。その後, [ビューに 名前を付けて保存]をクリックして, テンプレート・ベース・ビューとしてテンプレートのインスタンスを保存 できます。

#### レポートのプロパティ

トポロジ・レポート・テーブルには, 2 つの形 式 があります。

- フラット:フラット・レポートでは、レポートの最上位レイヤがCIとともに表示され、子CIがリンクとして表示されています。CIをクリックしてドリルダウンし、子CIを表示できます。レイヤの最上部に表示されている現在位置表示リストを使用してレベルの上位レイヤに戻ることができます。
- 階層構造: 階層構造レポートでは、レポートの各 CI は、ツリー形式で同じテーブルに表示されます。子 CI を持つ CI は、それ自体の下に子 CI が表示されるように展開可能です。

フラット・レポートと階層構造レポートの別の重要な違いは、レポート用チャートの定義に関係しています。フラット・レポートでは、上位レポートがテーブル形式の場合でも、レポートの任意のレイヤ用に

チャートを定義できます。 階層構造レポートでは、 それ自体の上にあるレイヤがテーブル形式の場合、 レイヤ用のチャートは定義できません。

レポート形式は、モデリング・スタジオとレポート・モジュールの両方で使用できる[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックスで設定できます。詳細については、「[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス」 (396ページ)を参照してください。

# カスタム・レポートの概要

カスタム・レポートは, 監視対象環境の状況を追跡/分析できるグラフとテーブルで構成されています。カスタム・レポートでは, HP Universal CMDB によって収集され, CMDB に保管されたパフォーマンス・データを表示/評価できます。レポートを作成するときに, 時間範囲や位置など, さまざまなレポート設定を指定できるだけでなく, ドリル・ダウンして詳細情報を確認できます。

# トポロジ・レポートの表示方法

このタスクでは、以前に保存したビューまたはパターンに基づいてレポートを作成する方法について説明します。

本項の内容

- •「前提条件」(331ページ)
- 「レポートの選択」(331ページ)
- 「テンプレート・パラメータの編集」(331ページ)
- 1. 前提条件

(任意指定)モデリング・スタジオを使用して新規ビューを定義します。詳細については、「モデリング・スタジオ」(237ページ)を参照してください。

2. レポートの選択

レポート・モジュールで,同じ名前のビューに対応する既存のトポロジ・レポートを選択します。そのレポートをダブルクリックまたは右クリックして,[レポートを開く]を選択します。右の表示枠でレポートが開きます。詳細については,「トポロジ・レポート」(411ページ)を参照してください。

3. テンプレート・パラメータの編集

テンプレートに対応するレポートを選択した場合は、テンプレートのパラメータを編集して、レポートを生成します。[ビューに名前を付けて保存]をクリックして、テンプレート・ベース・ビューとして保存します。

# カスタム・レポートの生成方法

このタスクでは、カスタム・レイアウトに基づいてレポートを定義および生成する方法について説明します。

本項の内容

- 「レポート・タイプの選択」(332ページ)
- 「必須パラメータを指定する」(332ページ)
- 「レポートの生成」(332ページ)
- 1. レポート・タイプの選択

[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。

- レポート名を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
- [新規レポートの作成] (注) ボタンをクリックし,必要なレポートを選択する。
- レポート名をダブルクリックする。
- 2. 必須パラメータを指定する

選択したレポート・タイプの必須パラメータを指定します。各レポート・タイプの必須パラメータの 詳細については、「レポートのユーザー・インタフェース」(335ページ)に記載されている関連するレ ポートを参照してください。

3. レポートの生成

[**生成**]をクリックして、レポートを作成します。必要であれば、パラメータを再設定して[**生成**]を 再度クリックし、更新されたレポートを表示できます。

#### CIを比較する方法

このタスクでは、2つの複合 CI の階層を比較し、CI の構成ドキュメントを表示して、2つの構成ドキュメント間の相違を示す方法について説明します。

本項の内容

- •「必要な CI を選択する」(332ページ)
- •「CIの構成ドキュメントを表示する」(333ページ)
- 「2つの構成ドキュメントの相違を表示する」(333ページ)
- 1. 必要な CI を選択する

IT ユニバース・マネージャで,比較する2つのCIを選択します。2つの複合 CI の階層がCI比較レポートで比較されます(詳細については、「CI比較レポート」(357ページ)を参照してください)。選択したビューまたは CMDB に表示される2つのCIを比較できます。詳細については、「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。

一致しない CI の例:

この例では、他方に一致するCI がないためCI LABM3QCRNDDB03の横に[一致する CI なし]アイコンが表示されます。

CI LABM3QCRNDDB02とLABM3ASTDB01の MemorySize の値が異なるため, MemorySize プロパティの横に[Show Different Attribute Values]アイコンが表示されます。



2. CIの構成ドキュメントを表示する

CIT[**構成ドキュメント**]のCIを選択して、構成ドキュメントを表示します。詳細については、「CI 比較レポート」(357ページ)を参照してください。

#### 3. 2つの構成ドキュメントの相違を表示する

CIT[**構成ドキュメント**]のCIを選択して、2つの構成ドキュメントの相違を表示します。詳細については、「CI比較レポート」(357ページ)を参照してください。

## スナップショットを比較する方法

このタスクでは、ビューのスナップショットを取り、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショット を比較する方法について説明します。

#### 本項の内容

- •「ビューのスナップショットを取る」(334ページ)
- •「スナップショットを定期的に保存する」(334ページ)
- •「スナップショットを比較する」(334ページ)

- 1. ビューのスナップショットを取る
  - a. IT ユニバース・マネージャまたは[レポート]モジュールの[トポロジ]レポートでビューを選択しま す。
  - b. [**スナップショット**] 📠 ボタンをクリックして[**スナップショットを保存する**]を選択し, ビューのス ナップショットを撮って保存します。詳細については, 「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ ボックス」(233ページ)を参照してください。

#### 2. スナップショットを定期的に保存する

オプションで, タスクを定義 することによって, 指定の時刻に特定ビューのスナップショットを取るよう スケジュールできます。詳細については、「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」 (404ページ)を参照してください。

3. スナップショットを比較する

異なる時刻に取ったビューのスナップショットを比較します。 [モデリング] > [レポート] を選択し, スナップショット比較レポートを作成します。詳細については,「スナップショット比較レポート」(362 ページ)を参照してください。

異なる時刻に取ったビューのスナップショットの例:

次の例では、右表示枠のvmamqa278 CIの横にある[削除された項目] アイコンが、新しいビューで CIが削除されたことを示しています。

凡例: 🗙 削除された項目 🔺 新規項目	↓更新された項目 @ 更新された項目を行
現在	before deleteing (12/08/23
現在 	before deleteing (12/08/23         □-♥ □       16.55.244.0/22         □-∅       labm3am284         □-∅       labm3am288         □-∅       labm3rdei01         □-∅       WMAMQA269         □-∅       VMAMQA279         □-∅       vmamqa309         □-∅       VMAMQA380
the with the second seco	vmamrnd219 vmcmdb9 vmddm25 vmpcoe07 vmpcoe21 vmrtsmgw02 vmrtsmpcs02

# Cron 式

cron 式は, 6~7個のフィールドを空白文字で区切った文字列です。これらのフィールドのうち, 6個 は必須であり, 1個は任意です。

次の表は、cron 式に使用されるフィールドを示します。

フィールド名	使用できる値	使用できる特殊文字
秒	0-59	,-*/
分	0-59	,-*/
時間	0-23	,-*/
日付	1-31	,-*?/LWC
月	1-12 または JAN-DEC	,-*/
曜日	1-7 または SUN-SAT	,-*?/LC#
年(任意指定)	空,1970-2099	,-*/

次の表は, cron 式のユース・ケースを示します。

Cron 式	意味
0 0 12 * * ?	このタスクは,毎日午後12:00に実行されます。
0 15 10 ? * *	このタスクは,毎日午前10:15に実行されます。
0 15 10 * * ? 2011	このタスクは, 2011年中の毎日午前 10:15に実行されます。
0 0/5 14 * * ?	このタスクは, 毎日午後2時から午後2:55までの間, 5分間隔で実行されます。
0 15 10 15 * ?	このタスクは, 毎月 15日の午前 10:15に実行されます。
0 15 10 ? * 6L	このタスクは、毎月最後の金曜日の午前10:15に実行されます。
0 15 10 ? * 6#3	このタスクは,毎月第3金曜日の午前10:15に実行されます。

# レポートのユーザー・インタフェース

本項の内容

エージェント・ステータス・レポート	.337
アプリケーション・ブレークダウン・レポート	.338
アプリケーション・ライセンス・レポート	.341
アセット・レポート	. 342

変更済みアプリケーション・レポート	
変更されたビューのレポート	
CI変更レポート	
CMDB 使 用 率 レポート	
アーカイブ・レポートを比較	
CI 比較レポート	
スナップショット比較レポート	
データベース・ブレークダウン・レポート	
削除候補レポート	
依存関係レポート	
ディスカバリ・エラー・レポート	
汎用ブレークダウン・レポート	
ゴールド・マスタ・レポート	
ハード ウェア・コンポーネント・サマリ・レポート	
影響分析レポート	
[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス [レポート]ページ	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス [レポート]ページ スキャン・ファイル・ステータス・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート         ノード OS のブレークダウン・レポート         ノード・サマリ・レポート         ソLAN によるノード・サマリ・レポート         変更数         認識されたアプリケーション・レポート         [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス         [レポート]ページ         スキャン・ファイル・ステータス・レポート         スキャナ実行詳細レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート         ノード OS のブレークダウン・レポート         ノード・サマリ・レポート         ソード・サマリ・レポート         変更数         認識されたアプリケーション・レポート         [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス         [レポート]ページ         スキャン・ファイル・ステータス・レポート         [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート         ノード OS のブレークダウン・レポート         ノード・サマリ・レポート         ソード・サマリ・レポート         変更数         認識されたアプリケーション・レポート         [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス         [レポート]ページ         スキャン・ファイル・ステータス・レポート         スキャナ実行詳細レポート         [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]         ソフトウェア使用率レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス [レポート]ページ スキャン・ファイル・ステータス・レポート スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート] ソフトウエア使用率レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ソード・サマリ・レポート VLAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス [レポート]ページ スキャン・ファイル・ステータス・レポート スキャン・ファイル・ステータス・レポート [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート] ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート	
ネットワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ノード OS のブレークダウン・レポート ソレAN によるノード・サマリ・レポート 変更数 認識されたアプリケーション・レポート [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス [レポート]ページ スキャン・ファイル・ステータス・レポート スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート] ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート	

VMware 仮想 センター・レポート	416
ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート	417
ツールバー・オプションのレポート	419

# エージェント・ステータス・レポート

このレポートには、Upgrade UD Agent ディスカバリ・ジョブによって更新されたすべてのインストール済 みディスカバリ・エージェントの状態が示されます。

Ĩi スキャン ファイル ステータス レポート1* ×			
📴 レポートのパラメータ 💾 🖥	🐻 🔤 🗐 🖙 🔸 🚰 🔸 🔄 次の Cl インスタンスを表示 Node	(42) 💽 🗙 📑 💋 📖 🗎	٩
時間範囲: 直近の1日 🔻 開始日	1付: 12/07/08 15:19 💌 終了日付: 12/07/09 15:19 💌		
( ##			
ホスト	実行日	スキャナ設定	-
😰 dktest5	2012年7月8日(日曜日)15:23 KST	_default.cxz	2012年7月8日(日曜
利用方法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を	選択します。 [カスタム	レポート」
	表示枠で、次のいずれかを行います。		
	_		
	• [新規レポートの作成] 🏙 ボタンをク	リックして、 [ <b>エージェン</b> ]	トステータス
	レポート]を選択します。		
	• [ <b>ディスカバリ ステータス</b> ]で:		
	■ [ <b>エージェント ステータス レポート</b> ]を	ダブルクリックする	
	■ [エージェント ステータス レポート]を	右クリックし、「新規レ	ポートの作
	<b>成</b> ]を選択する。		
	■ [エージェント ステータス レポート]を -	選択し、石表示枠に	ドラックす
	る。		
重更情報	このレポートにけ 表示ラベル エージェン	トのバージョン ポート	プロ—ブタ
主女旧私	たど冬ディスカバリェージェントの詳細情	おがった されます	10 10
	なと日ブイベルベット・シェントの計加消		
			ᄮᆇᅆᇗᅭᆡ
	[ <b>フフームい)悪 伏</b> ] 準型 ホタンを使用して、 レ	マホートに 衣 不 9 る馬 !!	±を選 択し
	<u></u>		
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ペー	-ジ)	
		- /	

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして[IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャの ショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
グループ化	データを表示するためのグループ化方法を選択します。 次のオプションを使 用できます。
	<ul> <li>なし</li> </ul>
	<ul> <li>ジョブのステータス</li> </ul>
	<ul> <li>エージェントのバージョン</li> </ul>
ジョブのステータス	ド ロップダウン・リストから, エージェントのディスカバリ・ジョブのジョブ・ステータ ス別 に結 果をフィルタリングするオプションを選 択します。

# アプリケーション・ブレークダウン・レポート

このレポートには、メジャー・アプリケーションのブレークダウンとそのバージョンが表示されます。メジャー・ アプリケーションは、MAJOR_APP クラス修飾子を割り当てられた実行中のソフトウェア CIT です。詳細については、「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照してください。

国または地域: すべて	▼ 状態: すべて	▼ 市町村: すべて	•
▶ 生成			
アプリケーション ブレークダウン			

#### アプリケーション ブレークダウン

次でブレークダウンカウント

グラフ セクションをクリックしてドリル ダウンします



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します	(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。
-------------------------	-------------------------

UI要素	詳細
<棒 グラフ/ 円 グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるアプリケーションを示 します。
	スライス/棒をクリックするとバージョンごとに並 ベ替 えられたアプリケーションが 表示され, ドリルダウンするとアプリケーション・インスタンスとその属性が表示されます。
	各 セグメント / 棒の上にマウスを置くと、アプリケーション名、各アプリケーショ ンで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合(円グラ フ形式で情報を表示している場合)、およびスライス/棒で表される CI タ イプがツールチップに表示されます。
	円 グラフの下 にある凡例には、各 CI の名 前とその下 のレベルにバージョン が表 示されます。
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	個々のCIのレベルまでドリル・ダウンして、レポートでCIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メニューにアクセスします。詳細につい ては、「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参 照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
市町村	アプリケーション・ブレークダウン・データを表示する対象の都市を選択する か, [ <b>すべて</b> ]を選択して, すべての都市のブレークダウンを表示します。
	注: [市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国または地域	アプリケーション・ブレークダウン・データを表示する対象の国または地域を 選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択して, すべての国または地域のブレークダウン を表示します。
	注: [国または地域]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
すべての統 合 ポイン トを含 める	このチェック・ボックスを選択すると,フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 このチェックボックスがオフになっていると,ローカル CI のみがレポートに含まれます。

UI要素	詳細
ł₩	アプリケーション・ブレークダウン・データを表示する対象の州を選択するか、 [ <b>すべて</b> ]を選択して、すべての州のブレークダウンを表示します。
	注: [州]属性にデータを含むCITのみに関連します。

# アプリケーション・ライセンス・レポート

このレポートには、ライセンスを必要とするシステムで検出されたすべてのアプリケーションのインスタンスを表示します。

グループ化: アプリケーション名 💌

😞 生成 📄		
アプリケーション名	インストールの合計	必要なライセンス
7Zip	1	0
Active Perl	2	0
Administration Assistant for Windows	2	0
Chrome Frame	1	0
CommTax Communcations Tax L	1	0
FileZilla Client	2	0
FineReader Engine	1	0
Firefox	2	0
Google Chrome Browser	1	0
HP Application Lifecycle Management Client	1	0
HP Application Lifecycle Management Platform	1	0
HP Asset Manager	2	2
HP Asset Manager API	1	0

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ] 表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [アプリケーション ライセンス レポート]を選択します。
	• [インベントリ]で:
	■ [アプリケーション ライセンス レポート]をダブルクリックする
	■ [アプリケーション ライセンス レポート]を右 クリックし, [新規レポートの 作成]を選択する。
	■ [ <b>アプリケーション ライセンス レポート</b> ]を選択し、 右表示枠にドラッグ する。

重要情報	[,] ポートの最上部には,選択されたグループ化オプションに応じて,各アプ rーション,ベンダ,または関連ノードのアプリケーション・インスタンスの数が §示されます。これは,SAI ファイルで定義された各アプリケーションのライ- ,ス・タイプに基づきます。	
	任意のレイヤで, [カラムの選択] 🔐 ボタンを使用して, レポートに表示す る属性を選択します。	
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)	

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ] ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。 次のオプションを使用できます。
	• アプリケーション名
	<ul> <li>ベンダ名</li> </ul>
	• 関連ノード
必要なライセンス	各アプリケーション, ベンダ, または関連ノードには, ライセンスを必要とする アプリケーションの数が表示されます。 この数をクリックすると, ドリル・ダウンし てアプリケーションのインスタンスを表示できます。
	ドリル・ダウン画面で, [コンポーネント]列の数値が1より大きい場合, 選択したアプリケーションにはライセンス元のコンポーネントがあります。

#### アセット・レポート

このレポートには、指定したビューのすべての CI、その属性値、および CMDB におけるその子 CI のリ ストが表示されます。アセット・レポートは、ビューの内容を表示/分析して、関心のあるデータに重点 的に取り組むのに使います。たとえば、アセット・レポートでは、ビューに含まれている特定アプリケー ションの一部であるすべてのサーバのリストを表示できます。

ビュー: SAN Topology 💌 🔜 次に基づく情報を検索 💿 CMDB 🔘 ビュー						
😞 生成						
Display Label				. PrimaryDnsName	 	 
🖃 📇 000E7FFD99F1				LABM3MAM11.devlab.ad		
🗕 🎩 16.59.56.213						

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。</b> [カスタムレポート]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ジボタンをクリックして, [アセットレポート]を選択します。
	• [ <b>全般</b> ]から次を行います。
	■ [ <b>アセット レポート</b> ]をダブルクリックする。
	■ [アセット レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ <b>アセット レポート</b> ]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートには、CIタイプ・マネージャの[ <b>属性</b> ]タブの[ <b>アセット データ</b> ]修飾子でマーク されている属性のみが含まれます。詳細については、「[属性の追加/編集]ダイア ログ・ボックス」(452ページ)を参照してください。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218 ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

UI要素	詳細
次に基づく情報を検	次のいずれかを選択します。
*	• CMDB: 選択したビューからの情報に加えて, CMDB における子 CI と その属性値に関する情報も含めます。
	レポートには、 [ <b>コンテナ</b> ]修飾子との関係によって、選択したビューの中の CI に接続している CI が含まれます。 たとえば、 ビューに含まれている サーバの CPU とメモリがレポートに含まれます。
	• ビュー: 選択したビューに含まれている CI とその属性に関する情報のみが含まれます。
ビュー	ビュー・セレクタを開いてビューを選択できます。詳細については、「CIセレク タ」(131ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> 特定のビューからアセット・レポートを生成すると、レポートにはトポロジ・マップの関連ビューと同じ階層構造が保持されます。

## 変更済みアプリケーション・レポート

このレポートには、定義した期間内にアプリケーションで検出された変更件数を示す棒グラフが表示 されます。





次でブレークダウン: 追加済み

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ※ ボタンをクリックして, [変更済みアプリケーションレポート]を選択します。
	• [変更]から次を行います。
	■ [変更済みアプリケーション レポート]をダブルクリックする
	■ [変更済みアプリケーションレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選 択する。
	■ [変更済みアプリケーション レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<棒 グラフ>	それぞれの棒が異なるアプリケーション・タイプを示します。 各棒の色は, ア プリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。
	凡例の各色は, 異なるタイプの変更を示します。各アプリケーションの CI タ イプは関連する棒の下に表示されます。
	各棒の上にマウスを置くと,棒が表す CI タイプだけでなく,発生した変更の数(色に応じて CI の追加,削除,更新など)がツールチップに表示されます。
	棒の必要な色をクリックすると, ドリルダウンして, 変更された CI のリストが 表示されます。
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。

UI要素	詳細
時間範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日 付は、システムによって[ <b>開始日付</b> ]および[終了日付]ボックスに自動的に 表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

# 変更されたビューのレポート

このレポートには、定義した期間内に特定ビューで発生した変更件数が表示されます。



ビュー別にグループ化

次でブレークダウン追加済み と 削除された と 更新済み グラフ セクションをクリックしてドリル ダウンします

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [変更されたビューのレポート]を選択します。
	• [変更]から次を行います。
	■ [変更されたビューのレポート]をダブルクリックする
	■ [変更されたビューのレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [変更されたビューのレポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<棒 グラフ>	それぞれの棒は異なるビューを示します。各ビューの名前は関連する棒の 下に表示されます。各棒の色は、ビューで発生したさまざまなタイプの変更 (追加,削除,更新)を示します。
	各棒の関連する色の上にマウスを置くと、ビュー名、変更タイプ、および ビューで変更された CI インスタンスの数がツールチップに表示されます。
	各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。
	ビューのスナップショットが異なる時刻に取られた場合,棒をクリックして [ビューをスナップショットで比較する]ダイアログ・ボックスを開き,ビューの相 違点を表示できます。詳細については、「スナップショット比較レポート」 (362ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> 変更されたビューのレポートの[ <b>開始日付</b> ]の日付前に取られたス ナップショット(利用できない場合は[ <b>開始日付</b> ]の日付後)と[終了日 付]の日付前に取られた別のスナップショット,2つのスナップショットの 相違を示す変更のあるビューだけがレポートに表示されます。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。

UI要素	詳細
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[ <b>開始日付</b> ]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックス の開始日付と終了日付を手動で設定できます。

### CI変更レポート

CI変更レポートでは、特定のCIとその子に加えられた実際の変更を表示 / 分析できます。変更レ ポートは、該当のCIに関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CIの変更にまで わたって、問題の原因を追跡できることもあります。また、トラブルシューティング問題の原因が、期待 されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。このレポートでは、CI属性の 変更や、CIとその子の追加または削除された CIを表示できます。

40.7.0			
選択された CI: 172.16.7.0 … 次に基づく情報を検索: 〇 CMDB ④ ピュー			
ן <u>ת</u> בו   פ			CI変更関係の変更
	Class Name	Attribute Name	New Valu
	Windows	MemorySize	8,192
	Windows	SwapMemorySize	4,092
	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003
	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003 R2
	lpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2am175.devlab.ad
	lpAddress	IP Network Mask	255.255.254.0
	lpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2hp2-rm.devlab.ad
	lpAddress	IP Network Mask	255.255.255.0
	Windows	PrimaryDnsName	labm3am255.devlab.ad
	Windows	MemorySize	8,192
[マネージャ で、次のい ・[新規L す。 ・[変更] ・[Cl ] ・[Cl ]	<ul> <li>?[モデリング]&gt;[L ずれかを行います。</li> <li>パートの作成]</li> <li>から次を行います。</li> <li>変更レポート]をダス</li> <li>変更レポート]を存れ</li> <li>変更レポート]を存れ</li> </ul>	レポート]を選択します。[カ. ボタンをクリックして、 [CI 変 ブルクリックする。 クリックし、 [新規レポートの 訳し、 右表示枠 にドラッグす	スタムレポート]表示枠 を選択しま 作成]を選択する。
	○ (マネージャで、次のい) <ul> <li>● [新規L す。</li> <li>● [変更]</li> <li>● [CI =</li> <li>● [CI =</li> <li>● [CI =</li> </ul>	Class Name     Windows     Windows     Windows     Windows     Windows     Windows     Windows     IpAddress     IpAd	Implify       Class Name       Attribute Name         Windows       MemorySize         Windows       SwapMemorySize         Windows       DiscoveredOsName         IpAddress       DiscoveredOsName         IpAddress       AuthoritativeDnsName         IpAddress       IP Network Mask         Windows       PrimaryDns Name         Windows       MemorySize         [TorkViva] > [EFデリング]> [レポート]を選択します。[力.         で、次のいずれかを行います。       .         [ 変更] から次を行います。         .       [ ci 変更レポート]をダブルクリックして、[ fl 親レポートの         .       [ ci 変更レポート]を右クリックし、[ 新親レポートの         .       [ ci 変更レポート]を右クリックし、[ 新規レポートの

重要情報	CI プロパティが「 <b>管理</b> 」または「 <b>比較可能</b> 」とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については、「「属性の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス」(452 ページ)を参照してください。
	CI変更レポートの表示内容:
	<ul> <li>選択した CI,および、[変更レポートのリンク名]インフラストラクチャ設定で指定した関係によって関連付けられている CI のすべての子 CI で発生した変更。この設定の標準設定値は、空の値(managed_relationship)であり、[履歴要の追跡ではありません]としてマーキングされていないすべての関係属性の変更を追跡できます。</li> <li>生成したレポートに表示される CI を変更するには、[マネージャ]&gt;[管理]&gt;[インフラストラクチャ設定マネージャ]に移動し、次の設定を編集します。</li> </ul>
	<ul> <li>[変更レポートのリンク名]を選択し、選択した計算済みの関係によってリンクされる CI を取得します。関係の名前の設定値を、CI タイプ・マネージャで選択した関係の[詳細]ページにある[名前]ボックス([表示名]ボックスではない)に表示されるとおりに変更します。詳細については、「[詳細]ページ」(461ページ)を参照してください。空の場合、クラス名は、managed_relationshipとみなされます。</li> </ul>
	■ [変更レポートのリンク修飾子]を選択し,修飾子で定義されている CI を取得します。設定の値を必要な修飾子の名前に変更します。修飾子の詳細については,「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照してください。空の場合,修飾子は、コンテナ とみなされます。
	<ul> <li>CI に追加または削除された Composition 関係のある CI。</li> </ul>
	<b>注:</b> マルチテナンシー環境では、 ビュー CI 権限に関連付けられたテナントに関連する変更は、 CI 変更レポートにのみ表示されます。 ただし、 UCMDB バージョン 10.01 にアップグレードする前に発生した[CI/関係の削除] イベントは、 [ビュー CI]権限に関連付けられたテナントと無関係に表示されます。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
次に基づく情報を検 索	次のいずれかを選択します。 <ul> <li>CMDB 全体で CI とその子に発生した変更が表示されます。</li> </ul>
	• ビュー:選択したビューで CI とその子に発生した変更が表示されます。

UI要素	詳細
選択された CI	必要な CIを選択します。 [CI / ビューの選択]ダイアログ・ボックスを開きま す。詳細については、「CI セレクタでの作業」(126ページ)を参照してくださ い。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

#### [CI変更]タブ

重要情 CIの変更履歴を表示するには、必要なCIの行の任意の部分を右クリックし、[CI履 報 歴]を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218 ページ)を参照してください。
属性名	変更されたCI属性の名前です。
日付の変更	変更の発生した日付です。
変更者	CI プロパティを手動で変更したユーザの名前, または CI プロパティに対す る変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。
クラス名	変更された CI の CI タイプです。
表示ラベル	ルートから CI へのパスのラベルです。 CI 名 のバックスラッシュ(\)は、親子関係を <parent_ci>\<child_ci> という 形式で示します。たとえば、エントリ16.59.63.0\Windows は、Windows CI の子である 16.59.63.0CI に関する変更情報を提供します。</child_ci></parent_ci>
新規値	CI属性の新しい値です。
旧值	CI属性の以前の値です(変更前)。

#### [関係の変更]タブ

報

重要情 CIの変更履歴を表示するには、必要な CIの行の任意の部分を右クリックし、[CI履 歴]を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で	で囲んで示します)。
---------------------------------------	------------

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218 ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
日付の変更	更新が実行された日付です。
変更者	CI プロパティを手動で変更したユーザの名前,または CI プロパティに対す る変更を自動検出した Data Flow Probeの名前です。
コンテナ・ラベル	ルートからコンテナ CI へのパスのラベルです。
	CI名のバックスラッシュ(\)は、親子関係を <parent_ci>\<child_ci> という 形式で示します。たとえば、エントリ16.59.63.0\Windowsは、Windows CI の子である dancer.hp.comCI に関する変更情報を提供します。</child_ci></parent_ci>
イベント・タイプ	次の値のいずれかを設定できます。
	• 関連 CI を追加: Composition 関係を使用して, 含まれている CI が コンテナ CI に追加されます。
	• 関連 CI を削除 : Composition 関係を使用してコンテナ CI にリンクさ れていた含まれている CI が削除されます。
リンク・タイプ	関係のタイプです。
新規値	関係属性の新しい値です。
旧值	関係属性の以前の値です(変更前)。
関連するラベル	ルートから包含 CI へのパスのラベルです。
関係の属性	変更された関係属性の名前です。

# CMDB 使用率レポート

このレポートには,一般的な CMDB 統計 データが表示されます。たとえば,統計 データには,作成された影響 ルールの数, CMDB にある CI の数,または取られたスナップショットの数が含まれます。

名前	値
Cls and Relationships	11
<ul> <li>Views and Reports</li> </ul>	0
— Enrichment Rules	26
<ul> <li>Correlation Rules</li> </ul>	13
— Snapshots	0
<ul> <li>Connected users</li> </ul>	4
Running Discovery Jobs	0

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [CMDB 使用率レポート]を選択します。
	• [ <b>全般</b> ]から次を行います。
	■ [CMDB 使用率レポート]をダブルクリックする。
	■ [CMDB 使用率レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [CMDB 使用率レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<ツール バー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してください。
名前	CMDB 統計の名前です。
値	システムで検出された CMDB 統計 のインスタンス数 です。

### アーカイブ・レポートを比較

このレポートでは、2つのアーカイブ・レポート間で、または、あるアーカイブ・レポートとその最新版との間で比較ができます。

🞯 スナップショット比較レポ	<u>- 卜1'</u>	* ×					
🚰 レボートのバラメータ	8	10 🖂 🖷	ə • 🚰 • 🛽	왕왕 4 -	1 🛛 4.		
スナップショットを持つビュー	All M	ly Windows Serv	/ers				•
利用可能なスナップショット		時間	詳細	所有者	サイズ	•	メモ
		現在	現在			0	
		2012年8月2	before delet			1	
		2012年8月2	current			1	
◆ 生成							
□ 例・ ★ 削除さわた項目 ★ 新井	自宿日	() 再新さわた頃	「日 ◎ 亜新さわた」	値日本今ま _り			
	7. A C			RACAO			~
before deleteing (12/0	18/23	3 13:49)					現住
					-	-	labm3amdb39
						<u>–</u> <u>×</u>	LABM3AMDB40
							LABM3AMDB41
							LABM3FTRND17
LABM3MAMDB03							LADIVISE TOU
LABM3PCOEDB06							LABM3PCOEDB06
-X 🛛 LABM3PCOEDB17						- 24	LABM3PCOEDB18
──▲ LABM3PCOEDB18						<u> </u>	LABM3PCOEDB19
- 💹 LABM3PCOEDB19						<u> </u>	LABM3QC52
⊢₩ LABM3QC52						-24	m3-cnb-fl1
- 🚾 m3-cnb-fl1							mydvm0071
mydvm0071							mydvm0073
mydvm0073							mydvm0074
mydvm0074					Þ	-	mydvm0077
mydvm0077						-#	mydvm0078
mydvm0078						-	sis11f920
					_		ucmdb903f9201
□ ucmdb903f9201					=	-	vmamqa360
Vmamqa354							vmamqa361
├──📇 vmamqa360							vmamda362

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ³³ ボタンをクリックして, [アーカイブレポートを比較]を 選択します。
	• [コンプライアンス]から次を行います。
	■ [アーカイブレポートを比較]をダブルクリックする。
	■ [アーカイブレポートを比較]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ <b>アーカイブレポートを比較</b> ]を選択し、右表示枠にドラッグする。
	あるいは, [ <b>トポロジ レポート</b> ]表示枠で同じレポートの2つのアーカイブを選択し,
	[レポート アーカイブを比較] 📴 ボタンをクリックします。
重要情報	• [アーカイブを比較]レポートは、トポロジ・レポートにのみ使用できます。
	<ul> <li>あるレポートの最新バージョンを、そのレポートのアーカイブとの間で、または、同じレポートの2つのアーカイブ間で比較できますが、異なるレポートのアーカイブ間の比較はできません。</li> </ul>
	• [アーカイブを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式 は, Excel 形式のみです。
関連タスク	• 「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<b>1</b>	すべてを展開:選択した CI の階層ツリー構造全体を展開します。
5	すべてを折りたたみ:選択した CIの階層ツリー構造を折りたたみます。
4	前の相違:「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
$\rightarrow$	次の相違:「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
8	構成ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し, [相違を表示] ボタンをクリックします。 ウィンドウが開いて,構成ファイルの相違が(青で マークされて)表示されます。



UI要素	詳細			
G	更新された項目:	: CI の属性値が変	更されたことを示し	ます。
	たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に[更新された項]アイコン 示されています。これは、CI LABM3MAM16 が[異なる属性値のみを 示] アイコンで示されるように新しい[Version] 値で更新されたたの す(ツリー構造の下にある表示枠の[名前]カラムと[値]カラムを参照 sanity rep 4月11日(日曜日)10:5 「「」」」」、LABM3LTDB01 「」」」」、LABM3LTDB01 「」」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB01 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDB02 「」」」、LABM3LTDD03 「」」」、LABM3LTD03 「」」」、LABM3LTD03 「」」」、LABM3LTD03			と項]アイコンが表 属性値のみを表 更新されたためで カラムを参昭)
				曜日) 10:55
				LABM3LTDB01) LABM3LTDB02) 01 (LABM3LTDDB0 02 (LABM3LTDDB0 (LABM3MAM16)
	検索(E):	$\bigcirc$	検索(E):	$\odot$
	名前	値	名前	値
	DiscoveredProduc Application Category Application Versio	MSSQL DB Database	DiscoveredProduc Application Category Application Versio	MSSQL DB Database
	ProductName Version	sql_server_datab	ProductName Version	sql_server_databa 2005
<左右表示枠>	各アーカイブのビュ 左側の表示枠に	ーにあるすべての C は, 2 つのアーカイブ	I の階層ッリー構造 のうち必ず古いほ	きが表 示されます。 うが表 示されます。
<[プロパティ]表示 枠>	選択した CI の属	性を表示します。 やには次のフィール	ドがあります。	
	• 名前 :CI のラ^ す。	ベルに定義されてい	る選択した CI の名	前が表示されま
	● <b>値</b> :現在選択	している CI の属性	値を表示します。	
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 ニューにアクセスし トカット・メニュー」(	クリックして[IT ユニ ます。詳細について 218ページ)を参照	バースマネージャ]: [は,「IT ユニバース してください。	ンヨートカット・メ ・マネージャのショー
<ツールバー>	詳細については, てください。	「ツールバー・オプシ	ョンのレポート」(41	9ページ)を参照し
利用可能なア <del>ー</del> カ イブ	[ <b>アーカイブを含む</b> カイブを表 示します	<b>レポート</b> ]フィールド [.] け。比較する2つの	で選択したレポート アーカイブを選択し	の使用できるアー ます。
	<b>注</b> : [レポートの/ す。	・ <b>パラメータ</b> ]ボタンがす	甲された場合にのみ	法示されま

UI要素	詳細
アーカイブを含むレ ポート	比較するアーカイブのレポートの名前を表示します。 アーカイブのあるレポー トのみが表示されます。
	<b>注: [レポートのパラメータ</b> ]ボタンが押された場合にのみ表示されます。

### CI比較レポート

このレポートでは、2つの複合 CI の階層を比較できます。 複合 CI は、 CONTAINER 修飾子のある 関係によって別の CI にリンクされている CI です。 選択したビューまたは CMDB に表示される複合 CI とその子 CI を表示できます。



利用方法	<b>[マネージャ]</b> [モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。トポロジ・マップ 内のCIを右クリックし, [CI 比較レポート]を選択します。
	または,
	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [CI比較レポート]を選択します。
	• [コンプライアンス]から次を行います。
	■ [CI 比較レポート]をダブルクリックする。
	■ [CI 比較レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [CI 比較レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	• [CIを比較]ページは2つの表示枠に分かれています。各表示枠に、選択した CIの階層ツリー構造が表示されます。[選択を同期化]を押していれば、一方 の表示枠でCIを選択すると、他方の表示枠で対応するCIが自動的に選択 されます。
	<ul> <li>比較できるのは、同じ CI タイプの2つの CI,または階層内にある同じ CI タイプの子のいずれかです。</li> </ul>
	• [CIを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式は, Excel 形式のみです。
関連タスク	<ul> <li>「CIを比較する方法」(332ページ)</li> </ul>
	• 「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
4	前の相違:「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
4	次の相違:「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
A	構成ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し, [相違を表示] ボタンをクリックします。 ウィンドウが開いて,構成ファイルの相違が(青で マークされて)表示されます。


UI要素	詳細				
G	更新された項目:	: CI の属性値が	定了	更されたことを示し	ます。
	たとえば、次の図-	では CI <b>10.0.0.2</b> と	<b>±1</b> (	6.59.124.1 に[更詳	新された項目]アイ
	コンが表示されています。これは、 [異なる属性値のみを表示] で示されるように新しい IP ネットワーク・マスク値で更新されたためです(ツ リー構造の下にある表示枠の[名前]カラムと[値]カラムを参照)。				
	10.0.0.0			16.59.124.0	
			⊲⊳	E - ♥ 🕮 16.59.124. - ♥ ♥ IpAddr - ♥ ♥ IpAddr - ♥ ♥ In 16 - ♥ New Noc - ♥ New Noc - ♥ Switch - ♥ Switch - ♥ Switch - ♥ Switch - ♥ Switch	0 ess .59.124.1 .59.124.2 de 9.124.0 3-cnb-01 3-cnb-02
	検索(E):	$\odot$		検索( <u>F</u> ):	$\bigcirc$
	名前值		Î	✓名前	値
	RoutingDomain	DefaultDomain		RoutingDomain	DefaultDomain
	IP Network Mask	255.255.255.0		P Network Mask	255.255.252.0
	[ <b>検索</b> ]フィールド1 きます。	こ入力した文字の	īi] ()	の次または前の検	索結果に移動で
<ツールバー>	詳細については, てください。	「ツールバー・オプ	<b>シ</b> ョ	eンのレポート」(41	9ページ)を参 照し
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については, ページ)を参照して	「IT ユニバース・マ てください。	'ネ·	ージャのショートカッ	ル・メニュー」(218
<[プロパティ]表示	選択した CI の属 [,]	性を表示します。			
枠>	[プロパティ]表示材	やには次のフィー	ルド	があります。	
	● 名前 :Cl タイフ Cl の属性名を	パ・マネージャで[ <b>出</b> 表示します。	;較	を <b>可能</b> ]とマークされ	いて選択されていた
	• <b>値</b> :現在選択	している CI の属	生伯	直を表 示します。	
<左右表示枠>	[ <b>ビュー</b> ]または[ <b>CI</b> たは CMDBに表示 す。	MDB]のどちらを選 示される比較され	選打たの	尺したかに応じて, CI とその子 CI の:	選択したビューま ソリーを表示しま

UI要素	詳細
比較対象	次のいずれかを選択します。
	• CMDB : CMDB 全体に表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。
	• ビュー:特定のビューにのみ表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。
比較 CI	比較する2つのCIを選択できます。 をクリックして[CIの選択]ダイアロ グ・ボックスを開きます。詳細については、「CIセレクタ」(131ページ)を参照 してください。上のボックスで選択したCIは左表示枠に表示され、下の ボックスで選択したCIは右表示枠に表示されます。
検索	<b>検索:[検索</b> ]フィールドに検索名または検索名の一部を入力して, リスト 内のCIを検索します。
相互ビュー	比較する CI が同じビュー内に両方とも存在している場合, ビューの名前 がこのフィールドに表示されます。両方とも存在していない場合, このフィー ルドには[相互ビューがありません]と表示されます。

## スナップショット 比較レポート

このレポートを使用すると、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショットを比較できます。これにより、スナップショットを取った時刻におけるビューのステータスを比較して、ビューの相違を視覚化できます。

🞯 スナップミ	ショット比較レポ、							
🔡 レポート	・のバラメータ	B 🕲 🛙	<u>a</u> (j	e • 🕈	• 🗟 🗄	\$ 4 A	🖉 🗛 »	
スナップショ	ットを持つビュー	Network	Topolo	ogy			-	
利用可能なス	ナップショット	84	間	詳細	所有者	サイズ	хт	
		☑ 現右	Ē	現在		0		
		200	9			13		
●生成								
凡例: ×削約	徐された項目 * 新規 ・	現日 いり	更新され	nた項目 ⊄	・更新され :	た項目を含	む	
Network	Fopology			Sat Ju	in 27 19	5:24:36	GMT	
₽	6.7.0 68.111.0 68.196.0		$\nabla \Delta$	₽-월 1 ₽-월 1 ₽-월 1	72.16.7.0 92.168.11 92.168.19	1.0 6.0		
利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[</b> - で, 次のいずれか	<b>Eデリング</b> 」 かを行いま	]>[レ <del>፣</del> す。	ポ─ト]を選	選択します	。[カスタム	<b>、レポート</b> ]∄	<b></b> 長示枠
• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックして, [スナップショット比較レポート] を選択します。								
	・「コンプライアン	<b>ノス</b> ]からり	々を行	います。				
	■ [スナップシ	ョット比較	とレポー	<b>-ト</b> ]をダブ	いクリックす	F3		
	■ [ <b>スナップシ</b> する。	ョット比較	をレポー	<b>-ト</b> ]を右ぐ	フリックし, [	新規レポ	ートの作成]	を選折
	■ [スナップシ	ョット比較	をレポー	<b>-ト</b> ]を選打	尺し, 右表	示枠にド	ラッグする。	
	<b>注:</b> IT ユニバー (詳細について ジ)を参照して	ス・マネー は、「[ス:	・ジャで ナップシ	スナップシ ノョットを保	ヨットを取っ 存する]ダ	って比較す イアログ・7	ることもでき ドックス」(233	ます 3ペー

重要情報	<ul> <li>現在のスナップショットと以前のスナップショット、または過去に取得した2つのスナップショットを比較できます。</li> <li>定期的に特定ビューのスナップショットを取って保存するスケジュールを定義でき</li> </ul>				
	ます。詳細については、「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」 (404ページ)を参照してください。				
	• [スナップショットを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式 は, Excel 形式のみです。				
	<b>注:</b> UCMDB 10.00 より前のバージョンで作成したスナップショットは、UCMDB 10.00 以上で作成したスナップショットと比較できません。				
関連タスク	• 「スナップショットを比較する方法」(333ページ)				
	• 「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)				
関連情報	• 「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」(233ページ)				
	• 「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)				

UI要素	詳細
1	<b>すべてを展開</b> :選択した CI の階層ツリー構造全体を展開します。
1	すべてを折りたたみ:選択した CIの階層ツリー構造を折りたたみます。
4	前の相違:「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
4	次の相違:「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
	構成ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し, [相違を表示] ボタンをクリックします。 ウィンド ウが開いて,構成ファイルの相違が(青で マークされて)表示されます。
A.,	<b>ツリー内の異なる CI のみを表示:</b> <[プロパティ]表示枠>に、一致していない CI を含むツリー構造部分のみが表示されます。
	異なる属性値のみを表示:<[プロパティ]表示枠>で、選択した CI のすべての属性値が表示されている状態と、変更された属性値のみが表示されている状態が切り替わります。

UI要素	詳細			
	<b>選択を同期化:一</b> 方の表示枠でCIを選択すると、他方の表示枠で対応するCIを自動的に選択できます。			
	標準設定の状態では、 [ <b>選択を同期化</b> ]ボタンが選択されています。 この ボタンの選択を解除すると、 2 つの各ツリーで異なる CI を選択できます。 こ れで、 2 つの異なる CI を比較して、異なるプロパティを確認できます。			
0	更新された項目を含む: CI の属性値が変更されていることを示します。た とえば,次の図では10.0.0 CI の横に[更新された項目を含む]アイコン が表示されています。これは,子である CI[10.168.100.3]アイコンの属性が 変更されたためです。			
	10.0.0.0			
	E ↓ 2 10.0.0.0			
	検索(E):			
	Name Value			
	RoutingDomain DefaultDom			
×	削除された項目:CI がビューから削除されたことを示します。			
*	新規項目:CI がビューに追加されたことを示します。			
	E ↓			

UI要素	詳細				
U	更新された項目:CIの属性値が変更されたことを示します。				
	たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に[更新された項]アイコンが表示されています。これは、CI LABM3MAM16 が[異なる属性値のみを表示] アイコンで示されるように新しい[Version]値で更新されたためです(ツリー構造の下にある表示枠の[名前]カラムと[値]カラムを参照)。				
	sanity rep		2	4月11日 (日間	翟日) 10:55
	LABM3LTDB01 CABM3LTDB02 CABM3LTDB02 CABM3LTDDB01 CABM3LTDDB01 CABM3LTDDB02 CABM3MAM16			LABM3LTDB01 (LABM3LTDB01)     LABM3LTDB02 (LABM3LTDB02)     LABM3LTDD02 (LABM3LTDD02)     LABM3LTDD001 (LABM3LTDD00     LABM3LTDD002 (LABM3LTDD00     LABM3MAM16 (LABM3MAM16)	
	検索(E):			_検索(E):	
	名前	値		名前	値
	DiscoveredProduc	MSSQL DB		DiscoveredProduc	MSSQL DB
	Application Category	Database		Application Category	Database
	Application Versio			Application Versio	
	ProductName	sql_server_datab		ProductName	sql_server_databa
	1 Version			1 Version	2005
<左右表示枠>	該当のスナップショ されます。左側の されます。	ットのビューにある 表示枠には,2つ	すの	べての CI の階 層ッ バージョンのうち必う	川一構造が表示 ず古いほうが表示
<[プロパティ]表示	選択した CI の属 [,]	性を表 示します。			
枠>	[プロパティ]表示材	やには次のフィール	レド	があります。	
	• 名前 :Cl のラ^ す。	ジルに定義されてい	いる	」選択した CI の名	前が表示されま
	● <b>値</b> :現在選択	しているCIの属性	ŧű	直を表 示します。	
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 ニューにアクセスし トカット・メニュー」(	クリックして[IT ユニ ます。詳細につい 218ページ)を参照	ニノ て1 ミし	ヾースマネージャ]シ よ,「IT ユニバース・ .てください。	៸ョ─トカット・メ ・マネージャのショー
<ツールバー>	詳細については, てください。	「ツールバー・オプシ	E	ンのレポート」(419	ページ)を参照し

UI要素	詳細		
利用可能なスナップ ショット	[スナップショットを持つビュー]フィールドで選択したビューの現在のステータ スと以前に保存したスナップショットが表示されます。比較する2つのスナッ プショットを選択します。		
	標準設定では、3ヵ月間空のスナップショットは非表示になります。		
	<b>注: [レポートのパラメータ</b> ]ボタンが押された場合にのみ表示されます。		
スナップショットを持 つビュー	比較 するスナップショット のビューの名 前を表 示します。 スナップショットを取っ たビューだけが表 示されます。		
	<b>注: [レポートのパラメータ</b> ]ボタンが押された場合にのみ表示されます。		

## データベース・ブレークダウン・レポート

このレポートには, データベース・タイプとバージョンのブレークダウンが表示されます。 システムにデプロイ されているすべてのデータベース, または特定の場所にデプロイされているデータベースを表示できま す。

国または地	1域: すべて ▼ 状態: すべて ▼ 市町村: すべて ▼
😞 生成	
データベー	ス・ブレークダウン
次でブレー	データベース・ブレークダウン かがつンカウント グラフェッションタクリックレエドリル ダウンレオオ
	MySQL 数量: 100 割合: 25%
	SQL Server 教量: 228 割合: 56% 이racle 教量: 76 割合: 19%
利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 🖄 ボタンをクリックして, [データベース ブレークダウン レポート]を選択します。
	• [ブレークダウン]から次を行います。
	■ [データベース ブレークダウン レポート]をダブルクリックする
	■ [データベース ブレークダウン レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選 択する。
	■ [ <b>データベースブレークダウンレポート</b> ]を選択し、右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるデータベースを示します。
	スライス/棒をクリックするとバージョンごとに並べ替えられたデータベースが表示され,再度クリックするとドリルダウンしてテーブル形式でバージョン情報が 表示されます。
	各 セグメント / 棒の上にマウスを置くと、データベース名、各 データベースで 検出される CI インスタンス数,全体に対するセグメントの割合(円グラフ形 式で情報を表示している場合),およびスライス/棒で表される CI タイプが ツールチップに表示されます。
	円 グラフの下 にある凡例には,各 CI の名 前とその下 のレベルにバージョン が表 示されます。
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注:</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ショートカット・メ ニュー>	個々のCIのレベルまでドリル・ダウンして、レポートでCIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メニューにアクセスします。詳細につい ては、「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参 照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
市町村	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の都市を選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択して, すべての都市のブレークダウンを表示します。
	注: [市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国または地域	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の国または地域を選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択して, すべての国または地域のブレークダウンを 表示します。
	注: [国または地域] 属性内のデータを含む CIT にのみ関連します。
すべての統 合 ポイン トを含 める	このチェック・ボックスを選択すると,フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 このチェックボックスがオフになっていると,ローカル CI のみがレポートに含まれます。

UI要素	詳細
₩	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の州を選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択して, すべての州のブレークダウンを表示します。
	注: [州]属性にデータを含むCITのみに関連します。

### 削除候補レポート

このレポートには、定義した期間内に削除された CITと関係、および削除される予定の CITと関係 が表示されます。



利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [削除候補レポート]を選択します。
	• [ <b>全般</b> ]から次を行います。
	■ [削除候補レポート]をダブルクリックする。
	■ [削除候補レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ <b>削除候補レポート</b> ]を選択し、右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI 要 素	詳細
<棒グ ラフ>	棒 グラフのカラムの各 セグメントは, CI または関係の CIT を示します。
	バーをクリックすると, ドリルダウンして削除された CIT と関係, および削除される予定の CIT と関係が表形式で表示されます。
	各棒の関連する色の上にマウスを置くと、削除された CIと関係の数または削除される予 定の CIと関係の数,および棒で表される CIタイプがツールチップに表示されます。
	凡例には,削除された CIと関係を示す色,削除される予定の CIと関係を示す色が表示されます。各 CIまたは関係の CIT は下に表示されます。
<ツ— ル バ—>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了 日付	レポートの終了日時を設定します。
時間 範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システム によって[ <b>開始日付</b> ]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスの開始日付と 終了日付を手動で設定できます。

### 依存関係レポート

このレポートでは、選択したビューのサーバ同士、または CMDB のサーバと選択したビューのサーバを 接続するすべてのタイプの**依存関係**のリストを生成できます。

このレポートには次の関係が含まれます。

- データベースとクライアント間に存在する関係
- クライアントとサーバ間に存在する関係
- MQ 接続の結果として作成される関係

ビュー: Weblogic_To 💌 🔐 次に基づく情報を検索 🔿 CMDB 💿 ビュー			
Node	Relationship	Counter	Clients
DR3	Talk	2	[DR3, DR3]
ilo⊣abm3amrnddb06.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrnddb06.devlab.ad, ilo-labm3amrnddb06.devla
VMAMRND91	Talk	2	[VMAMRND91, VMAMRND91]
LABM3AM202	Talk	2	[LABM3AM202, LABM3AM202]
LABM2AM31	Talk	2	[LABM2AM31, LABM2AM31]
ilo-illabesx23.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabesx23.devlab.ad, ilo-illabesx23.devlab.ad]
📄 ilo-labm3erp01.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3erp01.devlab.ad, ilo-labm3erp01.devlab.ad]
VMFTRND27	Talk	2	[VMFTRND27, VMFTRND27]
lio-labm3ccm29.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3ccm29.devlab.ad, ilo-labm3ccm29.devlab.ad]
ilogb8920rfc6.devlab.ad	Talk	2	[ilogb8920rfc6.devlab.ad, ilogb8920rfc6.devlab.ad]
📄 ilo-illabbac011.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabbac011.devlab.ad, ilo-illabbac011.devlab.ad]
📄 ilo-labm3amrnd57.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrnd57.devlab.ad, ilo-labm3amrnd57.devlab.ad
📄 ilo-labm3am235.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am235.devlab.ad, ilo-labm3am235.devlab.ad]
illabesx60.devlab.ad	Talk	2	[illabesx60.devlab.ad, illabesx60.devlab.ad]
IMPULSE	Talk	2	[IMPULSE, IMPULSE]
📄 ilo-labm3am241.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am241.devlab.ad, ilo-labm3am241.devlab.ad]
📄 ilo-labm1rac02.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm1rac02.devlab.ad, ilo-labm1rac02.devlab.ad]
LABM3AMRNDDB03	Talk	2	[LABM3AMRNDDB03, LABM3AMRNDDB03]
📄 ilo-labm3am224.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am224.devlab.ad, ilo-labm3am224.devlab.ad]
VMAMQA70	Talk	2	[VMAMQA70, VMAMQA70]
Hards 000 Million and and and	Tells	2	File at 802 Miles a deviate and Reads 802 Miles a deviate and

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ジボタンをクリックして, [依存関係レポート]を選択します。
	• [ <b>全般</b> ]から次を行います。
	■ [依存関係レポート]をダブルクリックする
	■ [依存関係レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [依存関係レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	エンリッチメント・マネージャで新しい TQL クエリを作成するには、 <b>Dependency</b> 関係 を使ってノード間の接続を記述します。新しい <b>依存関係</b> が使用されるたびに,依 存関係レポートに表示されます。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI 要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してく ださい。
次に基づく情報を 検索	次のいずれかを選択します。 <ul> <li>CMDB:選択したビューのサーバに依存しているCMDB内のサーバをすべて表示します。</li> <li>ビュー:選択したビューのサーバ間の依存関係がすべて表示されます。</li> </ul>
ビュー	必要なビューを選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細
クライアント	サーバにリンクされているクライアントのリストです。
カウンタ	サーバが接続されているクライアントの数です。
Node	選択したビューのサーバです。
関係	トポロジ・マップにおける関係の表示ラベルです。

### ディスカバリ・エラー・レポート

このレポートでは、不正な資格情報など、実行時にデータ・フロー管理で発生する特定の問題を検出できます。

利用方法	<b>[マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]</b> を選択します。[ <b>カスタム レポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成]
	• [ディスカバリ ステータス]で:
	■ [ディスカバリ エラー レポート]をダブルクリックする。
	■ [ディスカバリ エラー レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択す る。
	■ [ディスカバリ エラー レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	• 表示するカラムを選択には、 [カラムの選択]ボタンをクリックします。
	<ul> <li>カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。</li> </ul>
	• 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。
	<ul> <li>カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。</li> </ul>
	<b>注:</b> ディスカバリ・エラー・レポートは,現在アクティブなジョブのエラーのみに関連 します。
関連情報	• 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の[ディスカバリの進行状況] ダイアログ・ボックス
	• 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のエラー・メッセージの概 要

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ] ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
ディスカバリ・モジュー ル	エラーを表示するモジュールを選択します。 すべてのモジュールまたは特定 のモジュールを選択できます。
生成	クリックするとエラーのリストを生成できます。
重大度	表示するエラーのタイプを選択します。エラーの定義については、『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のエラーの重大度レベル を参照してください。 注:複数のエラー・タイプを選択できます。
時間範囲	エラーを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックス の開始日付と終了日付を手動で設定できます。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細
CI タイプ	トリガ CI の CIT です。
エラー・メッセージ	詳細なエラー・メッセージ。
エラーサマリ	エラーの要約。
ジョブ	エラーがレポートされているジョブ。
プローブ	エラーをレポートした Data Flow Probe。
関連 IP	トリガCIに関連することが認識されているIP。
関連ノード	トリガCIに関連するノード。
重大度	エラーの重大度のレベル(警告, エラー, 致命的エラー)。
エラー報告時間	エラーがレポートされた時間。
トリガ CI	エラーがレポートされたトリガ Cl。

## 汎用ブレークダウン・レポート

このレポートには、次の情報による CI タイプのブレークダウンが表示されます。

モデリング・ガイド 第9章:レポート

- CIT ツリーの選択した CIT でグループ化される CIT
- CIT 属性

CIタイプの詳細については、「CIタイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してください。

□ すべての統合ポイントを含める			
ブレークダウンする CIT:	Node		
次でブレークダウン:	СІ Туре 💌	]	
続いて次でブレークダウン:	Created By	]	
続いて次でブレークダウン:	Allow CI Update 🗸 🗸	]	
汎用ブレークダウン レポート			



[🔲] Net Device 📓 Node

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。		
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [汎用ブレークダウン レポート]を選択します。		
	• [ブレークダウン]から次を行います。		
	■ [汎用ブレークダウンレポート]をダブルクリックする。		
	■ [汎用ブレークダウンレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。		
	■ [汎用ブレークダウン レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。		
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)		

UI要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは, CIT または CIT 属性を示します。 これは, ブレークダウンしたレベルによって異なります。
	スライス/棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします(定義されている場合)。最大3つの異なるレベルがあるレポートを生成できます。情報を テーブル形式で表示することもできます。
	関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと, CIT または CIT 属性で検出 される CI インスタンス数, 全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で 情報を表示している場合), およびスライス/棒で表される CIT または CIT 属性がソールチップに表示されます。
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	個々のCIのレベルまでドリル・ダウンして、レポートでCIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メニューにアクセスします。詳細につい ては、「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参 照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
次でブレークダウン	最初のレベルに必要なブレークダウンを選択します。
ブレークダウンする CIT	選択した属性でブレークダウンされているインスタンスを持つCIT。
すべての統 合 ポイン トを含 める	このチェック・ボックスを選択すると,フェデレート CI がレポートに組み込まれ ます。このチェックボックスがオフになっていると,ローカル CI のみがレポートに 含まれます。
<b>続いて次で並べ替</b> え	(任意指定)2番目および3番目のレベルに必要なブレークダウンを選択 します。

## ゴールド・マスタ・レポート

このレポートは、1つ以上のCIとゴールド・マスタとして指定されている別のCIを比較し、比較CIの どの設定がゴールド・マスタCIと異なるのかを示します。

このレポートは、ゴールド・マスタCIの属性値を同じCITの比較CIの属性値と比較します。

注:

- ゴールド・マスタ・レポートでは、値が異なる場合にのみ CI 属性の比較結果が表示されます。
- ゴールド・マスタ・レポートは、フェデレート CI には使用できません。

セクションが空の場合は、ゴールド・マスタ CI とその CIT の比較 CI のすべての属性値が同一であることを意味します。このような場合は、サブグラフの次のレイヤの属性が比較され、その後も同様に繰り返されます。

あるレイヤの比較 CI に異なる属性が見つかると、ゴールド・マスタ・レポートはサブグラフ内のほかのレイヤを比較して相違点を見つける処理を中止します。

マスタ <b>C</b> I: 比較 CI:	10.12.37.31 pactserver ✔ 同一の属性値を表示	β	徐外 Cl タイプ:	
•				•
😞 生成				
	Display Label	属性名	Goldmaster CI内の値	比較 CI の値
🖻 📇 pactserver				
– 🚞 Interface		CIインスタンス カウン	1	1
IpAddress		CIインスタンス カウン	1	1

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	[ <b>新規レポートの作成] </b> ボタンをクリックして,[ <b>ゴールド マスタ レポート</b> ]を選択します。
	[ <b>コンプライアンス</b> ]から次を行います。
	• [ゴールド マスタ レポート]をダブルクリックする
	• [ゴールドマスタレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	• [ゴールドマスタレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
重要情報	比較できるのは、CIT マネージャで比較可能な修飾子を割り当てられた属性だけです。詳細については、「CI タイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してください。
関連タスク	「スナップショットを比較する方法」(333ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<ショートカッ ト・メニュー>	詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を 参照してください。
<ツール バー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してください。
属性名	CI属性の名前です。
比較 CI	属性値をゴールド・マスタ CI と比較する CI を選択できます。 [CI の選択]が開きます。 詳細については、 「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。
同一の属性 値を表示	ゴールド・マスタ CIの設定と同じ設定の比較 CIを含む場合, このチェック・ボックスを選択します。
	注: このチェックボックスを選択しないと、同一属性値を持つ[Goldmaster Cl 内の値]と[比較 Cl の値]の両カラムは空になります。
表示ラベル	比較 CIの表示名です。
除外 CI タ イプ	レポートから除外する CI タイプを選択します。
マスタ CI	ゴールド・マスタ CI として使用する CI を選択できます。 [CI の選択]が開きます。 詳細については,「CI セレクタ」(131ページ)を参照してください。
比較 CI の 値	比較 CI の属性の値です。
Goldmaster CI内の値	ゴールド・マスタ CI の属 性 の値 です。

## ハードウェア・コンポーネント・サマリ・レポート

このレポートには、システム内で検出されたすべてのハードウェア・タイプのノード要素が示されます。

◎ <b>デバイス済程レホート1*</b> ×  ◎ ノードサマリレポート2* ×  ◎ デバイス携報レポート2* ×			
🛗 🗟 📷 🥃 📾 🔸 🔁 🔸 🐻 次の Cl インスタンスを表示: 🛛 anaged Object (0) 💙 🗶 📑 💋 眠 🔄 🔍			
Hardware Component Summary Report > Interface			
Display Label	InterfaceDescription	MacAddress	
iiii e1000g0		0050569B66C9	
iii e1000g0:1			
eth1	Advanced Micro Devices [AMD] 79c970 [PCnet32 LANCE]	005056AA0067	
🔲 lo			
iii lo0			
Local Area Connection 2	Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2	005056AA000A	
Local Area Connection* 11	Teredo Tunneling Pseudo-Interface	020054554E01	
Local Area Connection* 8	isatap.asiapacific.hpqcorp.net		
Local Area Connection* 9	6TO4 Adapter		
Loopback Pseudo-Interface 1	Software Loopback Interface 1		
Microsoft Tun Miniport Adapter	Microsoft Tun Miniport Adapter	020054554E01	
iii virbr0		D6E8BA2AC73B	

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。</b> [カスタムレポート]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ジボタンをクリックして, [ハードウェア コンポーネント サマリレポート]を選択します。
	• [インベントリ]で:
	■ [ハードウェア コンポーネント サマリレポート]をダブルクリックする
	■ [ハードウェア コンポーネント サマリ レポート]を右 クリックし, [新規レポートの 作成]を選択する。
	■ [Hardware Component Summary Report]を選択し、右表示枠にドラッ グする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには, 各 デバイス・タイプについて, 要素の数が表示されます。番号をクリックすると次のレイヤにドリルダウンし, 個別 ハードウェア・コンポーネントと詳細 データの一覧が表示されます。
	レポートに表示されるハードウェア・コンポーネントには, CPU, ディスク・デバイス, ファン, ハードウェア・ボード, I/O スロット, インターフェース, メモリ・ユニット, 物理 ポート, 電源, プリンタ, SCSI アダプタがあります。
	[カラムの選択] 🛄 ボタンを使用して、 レポートに表示 する属性を選択します。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注:</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

### 影響分析レポート

このレポートには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCIのリストが表示されます。詳細については、「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」(231ページ)を参照してくださ

い。

🚰 レポートのバラメータ 📋 🐚 🖂 🗐 📾 🔹 🎦 🔹
トリガ CI: 🚾 🔐 重大度: Major(7) 💌 ルール バンドル: UCMDB 🕶
😞 生成
トリガ CI CIT 別のグループ化 影響を受けるアプリケーション
次の CI インスタンスを表示: 🛛 Interface (1) 🔤 🗶 😭 🔐 😫 🂙
Display Label 👳
🔲 0013729B95D0

利用方 法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタム レポート</b> ]表示枠で,次 のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 🐱 ボタンをクリックして, [影響分析レポート]を選択します。
	• [ <b>全般</b> ]から次を行います。
	■ [影響分析レポート]をダブルクリックする
	■ [影響分析レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [影響分析レポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)
関連情 ^把	•「影響分析マネージャ」(425ページ)
ŦIX	• 「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」(231ページ)

UI要素	詳細
<ショ─ト <b>カット・メニュ</b> ─>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ] ショートカット・メニューにアクセスします。詳細について は、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」 (218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419 ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
ルール・バンドル	影響の分析ルールで使用するルール・グループを選択で きます。
重大度	トリガ CI をシミュレートする重大度レベルを設定します。
トリガ Cl	システムに加える変化を表す CI を選択します。 [CI の 選択]が開きます。

#### [影響を受けるアプリケーション]タブ

このタブには、トリガ CI の重大度の変更による影響を受けた特定のビジネス・アプリケーションに属するすべての CI が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。
トリガの重大度	[重大度]ボックスで選択された重大度です。

#### [CIT 別 のグループ化]タブ

このタブには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のトリガ CI に関連するす べての CI が CI タイプごとに並べ替えられた状態で表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。
トリガの重大度	[重大度]ボックスで選択された重大度です。

#### [トリガ CI]タブ

このタブには、システムに加える変化を表す CI がすべて表示されます。このタブの CI は、 [トリガ CI] ボックスで選択した CI です。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。

## [ジョブ リスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)で実行するようスケジュールされたレポート/スナップショットのリストが表示されます。

利用方法	•	実行するようスケジュールされたレポートのリストを表示するには、[マネージャ]>[モデリン グ]>[レポート]を選択します。[レポート]ページで、[スケジュールされたレポート ジョブを 表示] ③ ボタンをクリックします。 スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ]>[モデリング]>[レポー ト]を選択します。[トポロジレポート]表示枠で、必要なビューを選択して[スナップショッ ト] 🐻 ボタンをクリックし、[スケジュールされたスナップショット・ジョブを表示]を選択しま す。
関 連	•	「トポロジ・レポートの表示方法」(331ページ)
モタ スク	•	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
*	<b>新規のスケジュールされたレポートを挿入</b> :[定期レポート]ダイアログ・ ボックスを使用して新しいジョブを定義できます。
	<b>ジョブを編集</b> :[定期レポート]ダイアログ・ボックスを使用して選択したジョブ を編集できます。
Ð	<b>コピーを作成</b> :選択したジョブのコピーを作成できます。選択したジョブの詳 細を使用する[定期レポート]ダイアログ・ボックスで新しいジョブを開きます。
*	<b>ジョブの削除</b> :選択したジョブをスケジュールされたジョブのリストから削除します。
	<b>直ちにジョブを実行</b> :選択したジョブを実行します。
	ジョブの中断:選択したジョブを中断します。ジョブのステータスが[保留中] の場合にのみ有効になります。
G	ジョブの再開:選択したジョブを再開します。
	注: [ジョブの再開]ボタンは、ステータスが[中断]のジョブの場合にの み有効になります。
G	更新:スケジュールされたジョブのリストを更新します。
¥	フィルタのクリア:現在のフィルタをクリアします。
	表示カラムの変更:表示するカラムを選択できます。

UI要素	詳細		
現在のステータス	スケジュールされた各ジョブの現在のステータスです。		
	• 実行中 : このジョブは現在実行中です。		
	• 保留中:このジョブはスケジュールの要件が満たされるのを待機しています。		
	• 完了:このジョブは実行が完了しています。		
	• <b>中断</b> :このジョブは中断しています。		
	<b>注:</b> ステータスが[ <b>完了</b> ]になっているジョブの実行を再開する場合, [直ちにジョブを実行]をクリックするか, [ <b>次の実行時間</b> ]を現在時刻 に変更します。未来の時刻に変更すると, ステータスが[ <b>保留中</b> ]に変 わります。		
詳細	[定期レポート]ダイアログ・ボックスで定義された, スケジュールされたジョブの説明です。		
実行ステータス	ジョブの現在の実行ステータス:		
	• 成功: ジョブは正常に完了しました( 🛇 アイコンで示されます)。		
	<ul> <li>         ・ 失敗:ジョブの実行は失敗しました(         ^{SQ}アイコンで示されます)。         ^{SQ}アイコン上にポインタを置くと次の情報が表示されます。     </li> </ul>		
	■ エラーの詳細		
	■ 関連する HP Universal CMDB 内部例外		
	• なし:このジョブはまだ実行されていません。		
最終実行時間	レポートが最後に実行された時間です。		
名前	[定期レポート]ダイアログ・ボックスで定義された, スケジュールされたジョブ の名前です。		
次の実行時間	このレポートが次に実行される時間です。		
タイムゾーン	このジョブの実行がスケジュール設定されている時間帯です。		

# ネット ワーク・デバイス・ブレークダウン・レポート

このレポートには、ネットワーク・デバイスのブレークダウンが表示されます。次の条件を満たすネットワーク・デバイスのみがレポートに表示されます。

- ネットワーク・デバイスのCIT は修飾子 NETWORK_DEVICESを割り当てられています。詳細については、「「修飾子」タブ」(83ページ)を参照してください。
- ネットワーク・デバイスは, Host is complete = True という属性条件で定義されています。詳細については、「[属性]タブ」(73ページ)を参照してください。



利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ³⁰ ボタンをクリックして, [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート]を選択します。
	• [ <b>ブレークダウン</b> ]から次を行います。
	■ [ <b>ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート</b> ]をダブルクリックする
	■ [ <b>ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート</b> ]を右 クリックし, [新規レポートの作 成]を選択する。
	■ [ <b>ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート</b> ]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるネット ワーク・デバイス を示します。
	スライス/棒をクリックすると、ドリルダウンしてネットワーク・デバイスごとの CI イ ンスタンス数 が表示されます。
	各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、ネットワーク・デバイス名、各ネット ワーク・デバイスで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの 割合(円グラフ形式で情報を表示している場合)、およびスライス/棒で表 される CI タイプがソールチップに表示されます。
	セグメント/棒をクリックすると,メーカーで並べ替えられた特定のネットワーク・ デバイスが表示されます。セグメント/棒を再度クリックすると,そのメーカーの 当該ネットワーク・デバイスの CI インスタンスに関する詳細がテーブル形式 で表示されます。
	凡例の各色は異なるネットワーク・デバイスを示します。
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

UI要素	詳細
市町村	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する市町村を選択 するか, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての市町村のブレークダウンを表示しま す。
	注: [市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国または地域	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する国または地域を 選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての国または地域のブレークダウンを 表示します。
	注: [国または地域] 属性内のデータを含む CIT にのみ関連します。
すべての統合ポイン トを含める	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 このチェックボックスがオフになっていると、 ローカル CI のみがレポートに含まれます。
州	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する州を選択する か, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての州のブレークダウンを表示します。
	注: [州]属性にデータを含むCITのみに関連します。

### ノード OS のブレークダウン・レポート

このレポートには,オペレーティング・システムのブレークダウンが表示されます。 デプロイされたすべての オペレーティング・システムを表示したり,特定の場所にあるか,一定のサブネットで稼動しているオペ レーティング・システムのデータを表示できます。

すべての統合ポイントを含める	□ すべての続き
1 ルタ: ◎ 場所 ○ サブネット	フィルタ: 🖲 t
または地域、サペマ	国または地域:
<b>†</b> ∧₹	州:
町村: すべて 🗨	市町村:
	( that

① Clィンスタンスは存在しません

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 🚵 ボタンをクリックして, [ノード O/S ブレークダウン レポー ト]を選択します。
	• [ブレークダウン]から次を行います。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]をダブルクリックする。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選 択する。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI 要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるオペレーティング・シス テムを示します。
	スライス/棒をクリックすると, ドリルダウンしてオペレーティング・システムごとの CI インスタンス数 がテーブル形 式 で表 示されます。
	各 セグメント / 棒 の上にマウスを置くと、オペレーティング・システム名、各オペ レーティング・システムで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメ ントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合)、およびスライス/ 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	個々のCIのレベルまでドリル・ダウンして、レポートでCIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メニューにアクセスします。詳細につい ては、「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参 照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

UI要素	詳細
市町村	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する市町村を選択 するか, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての市町村のブレークダウンを表示しま す。
	注: [市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国または地域	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する国または地域を 選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての国または地域のブレークダウンを 表示します。
	注: [国または地域] 属性内のデータを含む CIT にのみ関連します。
フィルタ	次のいずれかを選択します。
	• <b>場所</b> :必要な場所を選択します。
	• サブネット:必要なサブネットを入力します。 ワイルドカード文字にアスタリスク(*)を使用して複数のサブネットを含めることができます。 たとえば、11*などです。
すべての統合ポイン トを含める	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 このチェックボックスがオフになっていると、 ローカル CI のみがレポートに含まれます。
州	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する州を選択するか, [ <b>すべて</b> ]を選択してすべての州のブレークダウンを表示します。
	注: [州]属性にデータを含む CIT のみに関連します。

### ノード・サマリ・レポート

このレポートには、システム内のすべての検出ノードおよびそれらにインストールされたハードウェアが示されます。

グループ化: なし *	•		
🖕 生成			
Disulary Labor			
Display Label	Memory Units	Create Time	CI Type
LABM3UCMDB08.devlab.ad	0	Mon Apr 16 2012 04:28 AM IDT	ci Type nt
LABM3UCMDB08.devlab.ad	0 0	Create Time           Mon Apr 16 2012 04:28 AM IDT           Mon Apr 16 2012 08:58 AM IDT	nt node
LABM3UCMDB08.devlab.ad     MTtest     newNode	0 0 0 0	Create Time           Mon Apr 16 2012 04:28 AM IDT           Mon Apr 16 2012 08:58 AM IDT           Tue Apr 17 2012 09:55 AM IDT	nt node

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ³³ ボタンをクリックして, [ノード サマリレポート]を選択 します。
	• [インベントリ]で:
	■ [ノード サマリレポート]をダブルクリックする
	■ [ノード サマリレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ノード サマリレポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	いずれかのグループ化オプションを選択すると、レポートのトップ・レベルに各グループ について、ノード数が表示されます。次のレイヤにドリルダウンし、これらノードのデー タを表示するには、ノード数をクリックします。グループ化オプションで[ <b>なし</b> ]を選択し た場合、最上位層にすべてのノードが表示されます。
	第 2 レイヤにもいくつかの番号付きサマリ・カラムがあり、リンクをクリックできます(たとえば、 [ <b>ディスク デバイス</b> ]には各ノードのディスク・デバイス数が表示されます)。次の レイヤにドリルダウンし、これらノードのデータを表示するには、番号をクリックします。
	任意のレイヤで, [カラムの選択] 🔐 ボタンを使用して, レポートに表示する属性を選択します。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注:</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細 については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	<ul> <li>なし</li> </ul>
	• 場所
	<ul> <li>OS ファミリ</li> </ul>

### VLAN によるノード・サマリ・レポート

このレポートには、VLAN によってグループ化されたシステム内のすべての検出ノードが示されます。

📔 VLAN によるノー I	ドサマリレボート3* ×	
🗎 🖬 🔞 🖂 🗐	🖴 🔹 🚰 🔹 🔄 次の CI インスタンスを表示: 🛛 anaged Object (0) 💌 🗶 👔	🕈 💋 🔣 🖬 🔍
	VLAN	Device Count
😰 trnet-default		1
😰 fddinet-default		1
VLAN0176		1
VLAN0177		1
🖻 default		1
😰 fddi-default		1
le token-ring-default		1
VLAN0178		1
利用方法	<ul> <li>[マネージャ]&gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</li> <li>[新規レポートの作成] → ボタンをクリックして、[VLAN によるノード サマリレポート]を選択します。</li> <li>[インベントリ]で:         <ul> <li>[VLAN によるノード サマリレポート]をダブルクリックする</li> <li>[VLAN によるノード サマリレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。</li> </ul> </li> </ul>	
	■ [VLAN によるノード サマリレポート]を選	択し,右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには、各 VLAN について、 号をクリックすれば、ドリルダウンして、インストーノ 細データを表示できます。[ <b>カラムの選択</b> ] する属性を選択します。	,デバイスの数が表示されます。番 レされている各 VLAN についての詳 ボタンを使用して,レポートに表示
	注: VLAN に接続しないノードはレポートに表:	示されません。
関連タスク	カスタム・レホートの生 成 万 法 」(331ページ)	

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

### 変更数

このレポートには、定義した期間内にCITで検出された変更(追加,削除,更新)の件数が表示されます。





利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 3 ボタンをクリックして, [変更数レポート]を選択します。
	• [変更]から次を行います。
	■ [変更数]をダブルクリックする
	■ [変更数]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [変更数]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	<b>注:</b> マルチテナンシー環境では、 ビュー CI 権限に関連付けられたテナントに関連する変更は、変更数レポートにのみ表示されます。ただし、 UCMDB バー ジョン 10.01 にアップグレードする前に発生した[CI/関係の削除]イベントは、 [ビュー CI]権限に関連付けられたテナントと無関係に表示されます。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	最初のレベルで,円グラフの各セグメント/棒グラフの各カラムは,変更が検出された CI または関係の CIT を示します。凡例には,各 CIT を表す色が 表示されます。
	各 セグメント/棒の関連する色の上にマウスを置くと,該当の CIT で発生した変更の数,全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合),およびスライス/棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。
	スライス/棒をクリックして2番目のレベルにドリルダウンすると、各 CIT とその 子 CIT で発生した変更のタイプが表示されます。各セグメント/棒の色は、 アプリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。
	必要な色をクリックすると, ドリルダウンして該当の変更タイプの CI または 関係の数がテーブル形式で表示されます。2回目のドリルダウンを行うと, 説明した変更を表すインスタンスが表示されます。
	変更タイプ[ <b>追加済み</b> ]または[ <b>更新済み</b> ]は CMDB から取得されます。 変更タイプ[ <b>削除済み</b> ]は CI または関係履歴から取得されます。
<ショートカット・メ ニュー>	個々のCIのレベルまでドリル・ダウンして、レポートでCIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メニューにアクセスします。詳細につい ては、「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218ページ)を参 照してください。

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

## 認識されたアプリケーション・レポート

このレポートには、Discovery Probeを実行しているノード上にインストールされたアプリケーションすべてが示されます。

グルーブ化: 関連ノード ▼			
認識されたアプリケーション・レポート 🌩 Installed Softw	認識されたアプリケーション・レポート 🧅 Installed Softwares On amdev02		
Display Label	DiscoveredVendor	Version	
巴 7Zip	Igor Pavlov	4.42	
🔁 Adobe Reader	Adobe	7.0.8	
🔁 AssetCenter	Hewlett-Packard (Peregrine Systems)	4.00	
BusinessObjects Enterprise Client Tools	SAP (Business Objects)	×I 3.1	
🖹 CollabNet Subversion Command-Line Client	CollabNet	1.6.12	
🖹 Crystal Report Runtime	SAP (Business Objects)	2008 sp3	
🖹 DB2 Data Server Client	IBM	9.7.300.291	
🔁 Firefox	Mozilla	3.6.17	
HP Asset Manager	Hewlett-Packard	5.12	
🐑 HP Asset Manager API	Hewlett-Packard	9.30	
HP Asset Manager Import Tool	Hewlett-Packard	5.11	
E HP Performance Manager	Hewlett-Packard	9.00	

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	<ul> <li>         ● [新規レポートの作成]^{●●} ボタンをクリックして, [認識されたアプリケーションレポート]を選択します。     </li> </ul>
	• [インベントリ]で:
	■ [認識されたアプリケーション レポート]をダブルクリックする
	■ [認識されたアプリケーション レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成] を選択する。
	■ [認識されたアプリケーションレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには,各 アプリケーションにインストールされたアプリケーション の数 が表 示 されます。 ドリルダウンして,インストールされている特 定 のアプリケーショ ンについての詳 細 データを表 示 できます。
	[カラムの選択] ボタンを使用して、レポートに表示する属性を選択します。レポートをアプリケーション名またはベンダ名でグループ化する場合、インストールされたアプリケーションのレベルで、[インストール先]という名前の列が利用できます。この列には、アプリケーションがインストールされる場所を表示し、ノードへのクリック可能なリンクが表示されます。
	レポートを関連ノードでグループ化する場合,そのノードにインストールされたアプリ ケーションの件数を表示する[ <b>インストール済みソフトウェア</b> ]という名前の列が利用 できます。この列には,ドリルダウンしてアプリケーションの詳細を表示する,クリック 可能なリンクも表示されます。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注:</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細 については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

UI要素	詳細
グループ化	データを表示する方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	<ul> <li>アプリケーション名</li> </ul>
	<ul> <li>ベンダ名</li> </ul>
	<ul> <li>関連ノード</li> </ul>

## [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートのタイトルとサブタイトルを設定できます。

利用	レポート・モジュールの[レポート]ツールバー, またはモデリング・スタジオの[TQL クエリエディ
方法	タ]ツールバーの[ <b>レポートのプロパティ</b> ] 🚵 ボタンをクリックします。
関連 情報	「トポロジ・レポートの概要」(330ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
形式	レポート形式を選択します。次のオプションを利用できます。
	• フラット構造トップ・レイヤの CI はリンクとして表示されます。 CI をクリックする と、ドリルダウンして子 CI を表示できます。
	• 階層構造 レポートのすべての CI はツリー形式で1つの表に表示されます。
サブ・レポート・ パースペクティ ブ	[ <b>サブレポート パースペクティブ</b> ]チェック・ボックスを選択すると, [サブレポートの生成]ダイアログ・ボックスのサブ・レポートの構築に利用できるようになります。
	<b>注:</b> このチェックボックスは、パースペクティブの[レポート]プロパティでのみ利用 できます。
サブタイトル	レポートのサブタイトルを入力します。
タイトル	レポートのタイトルを入力します。

# [レポート]ページ

このページでは, ビューのデータや事前定義されている多数のカスタム・レポート・タイプに基づいてトポロジ・レポートを作成できます。

利用方法	[マネージャ] >[モデリング] >[レポート]
------	--------------------------
関連タスク	• 「トポロジ・レポートの表示方法」(331ページ)
-------	------------------------------------------------
	• 「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)
	•「CIを比較する方法」(332ページ)
	• 「スナップショットを比較する方法」(333ページ)
関連情報	<ul> <li>「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)</li> </ul>
	• 「カスタム・レポートの概要」(331ページ)
	<ul> <li>「トポロジ・レポートの概要」(330ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
<左の表示枠>	含まれている表示枠は次のとおりです。
	<ul> <li>トポロジ・レポート:モデリング・スタジオを使用して作成されたビューおよびテンプレートのレポートが表示されます。詳細については、「トポロジ・レポート」(411ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>カスタム・レポート:あらかじめ設定されたさまざまなタイプのレポートがグラフ形式またはテーブル形式で表示されます。詳細については、「レポートのユーザー・インタフェース」(335ページ)を参照してください。</li> </ul>
<右の表示枠>	選択したレポートが表示されます。

#### 左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
*	新規レポートの作成:作成するレポートのタイプを選択できます。
	[トポロジレポート]表示枠で, [ <b>パターンビュー</b> ],[ <b>パースペクティブ</b> ]または[ <b>テンプ</b> レート]を選択し, 直接モデリング・スタジオに入って, 選択したリソース・タイプを 作成できます。
	[カスタムレポート]表示枠で,カスタム・レポートのリストからレポートを選択します。
	レポートを開く: [レポート]表示枠の既存のレポートが生成されます。

UI 要素	詳細
The second secon	ビュー定義の表示:モデリング・スタジオに選択したビューの定義が表示されます。 詳細については、「モデリング・スタジオ」(237ページ)を参照してください。
	注:このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
×	レポートの削除:
	• [カスタムレポート]表示枠では,選択したレポートが削除されます。
	• [トポロジレポート]表示枠では、アーカイブ・レポートが削除されます。
<b>.</b>	レポート・アーカイブを比較します。同じレポートの2つのアーカイブが選択されている場合,アーカイブ比較レポートを開きます。
	注:このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
۲	<b>定期レポート</b> :[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボックスを開くと,次のジョ ブを定義できます。
	• レポート生成のスケジュール
	<ul> <li>レポートを送信する1つ以上の形式と、レポートの受取人を指定します。</li> </ul>
	<ul> <li>ジョブの繰り返しの指定</li> </ul>
	[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボックスの詳細については、「[スナップ ショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> このオプションは,レポートを生成する前または保存したレポートを開くと きにのみ使用できます。
٩	スケジュールされたレポート・ジョブを表示:[ジョブリスト]ダイアログ・ボックスが開き,実行するようスケジュールされたレポートが表示されます。詳細については,「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」(382ページ)を参照してください。

UI 要素	詳細
	スナップショット :次の操作ができます。
	<ul> <li>アクティブなレポートのスナップショットを保存する。詳細については、「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」(233ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>以前に保存したスナップショットを、アクティブなレポートまたは別のスナップショットと比較する。詳細については、「スナップショット比較レポート」(362ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• 保存するスナップショットをスケジュールする。詳細については、「[スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)を参照してください。
	<ul> <li>現在スケジュールされているスナップショット・ジョブや詳細情報を表示する (「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」(382ページ)を参照)。</li> </ul>
	注:このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
	<b>メールを送信</b> : [メールを送信]ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形式で 生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを含む電子 メールを送信できます。さまざまな形式の詳細については、「ツールバー・オプショ ンのレポート」(419ページ)を参照してください。
	添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの形式を 1つ以上選択します。
	注:
	• 必須フィールドにはアスタリスク(*)が付いています。
	<ul> <li>電子メール・アドレスを入力する場合、電子メールのドメインが有効なものであることを確認してください。</li> </ul>
	• [メールを送信]ダイアログ・ボックスでは、 [ <b>差出人</b> ]フィールドに現在の ユーザのユーザ詳細で定義された電子メール・アドレスが分布されます。 現在のユーザに電子メールが指定されていない場合, カスタマの標準設 定の電子メール・アドレスが使用されます。
69	<b>ダイレクト・リンクの生成</b> :選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。

UI 要素	詳細
	<b>レポートのエクスポート</b> : レポートのエクスポートをプレビューする形 式を選 択 できま す。 次 のオプションを使 用 できます。
	• CSV:レポートのデータは,カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ファイル 形式に設定されます。これは,スプレッドシードで表示できます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。
	• <b>PDF</b> :レポートのデータは, PDF形式でエクスポートされます。
	<b>注:</b> PDF にエクスポートする場合,レポートが読みやすくなるよう表示列の 適切な数を選択します。
	• XLS:レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファイル 形式に整形されます。
	<b>注:</b> 大規模なレポートについては、インフラストラクチャ設定マネージャの [XLS エクスポートの列サイズ]設定で固定の列サイズを設定すること で、レポートのエクスポートに要する時間を削減できます。
	• XML:レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことがで きる XML ファイルとして整形されます。
	<b>ヒント:</b> レポートから HTML コードを抽出するには、次の手順を実行します。
	• ファイルを HTML エディタで開きます。
	注: 生成したレポートをエクスポートする場合,ダイアログ・ボックスが開き, エクスポートしたファイルを開くかどうかの確認が表示されます。「[ユーザプリ ファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を使用して,このメッセージを非表示にするか,表示するかを設定できます。
ø	更新:レポート・ツリーが更新されます。

UI 要素	詳細
1	<b>すべてを展開</b> :ツリー構造が展開されます。
145	<b>すべてを折りたたみ</b> :ツリー構造が折りたたまれます。
20-	テナントを割り当て:[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き,選択したカスタム・レポートにテナントを割り当てることができます。
	注:
	<ul> <li>このオプションは、保存されたカスタム・レポートが選択されている場合にのみ関連します。</li> </ul>
	<ul> <li>このオプションは、マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利用できます。</li> </ul>
2	<b>セキュリティを管理</b> :選択したカスタム・レポートの権限を特定のロールに割り当 てたり、レポートを選択したリソース・グループに追加できます。
	注:このオプションはカスタム・レポートでのみ使用できます。
	空のフォルダを非表示: すべてのフォルダが表示されている状態とレポートを含む フォルダのみが表示されている状態が切り替わります。
	フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索:[検索]フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
	<b>フレーズのすべての発生をハイライト表示:[検索</b> ]フィールドに入力した文字列 に一致する、CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。
検索	[ <b>検索</b> ]フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内のCIを検索します。

# スキャン・ファイル・ステータス・レポート

このレポートには、 [Inventory Discovery by Scanner] ディスカバリ・ジョブによって生成されたスキャン・ファイルが表示されます。

	🚰 レポートのバラメータ	💾 🗟 🐚 🔤 🖷 🔹 🎦 🗕 🐻 📩 汰の ロインス:	タンスを表示: Node (56) 💌	x   <b>2 0</b>   🔃 🗈   9.	
	時間範囲: 直近の1日 💌 🖡	鵝日付: 13/12/11 15:21 💌 終了日付: 13/12/12 15	:21 💌		
	◆ 生成				
日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	***	実行日	スキャナ設定	アップグレード日	ブローブ名
<ul> <li></li></ul>	itsamqavm02     Poopoundo	2013年12月12日 (木曜日) 14:42 CST	_default.cxz	2013年12月12日(木曜日)12:42 CST 2013年12月12日(大曜日)12:42 CST	DataFlowProbe
<ul> <li></li></ul>	PCOESHV22     BBDESMM2	2013年12月12日(木曜日)14:40 UST 2013年12日12日(太曜日)14:30 CST	_default.cxz	2013年12月12日(木曜日)12:40 CST 2013年12日12日(大曜日)12:30 CST	DataFlowProbe
副 (日本)         Differential (日本)         Di	itsamgavm59	2013年12月12日 (木曜日) 14:39 CST	default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:39 CST	DataFlowProbe
日本のののののであった。         日本のののののであった。         日本ののののののであった。         日本のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	WIN-B2FVLLC2080	2013年12月12日 (木曜日) 14:41 CST	default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:41 CST	DataFlowProbe
<ul> <li></li></ul>	ddmivm23	2013年12月12日 (木曜日) 14:38 CST	_default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:38 CST	DataFlowProbe
<ul> <li></li></ul>	BBPFSMM5	2013年12月12日 (木曜日) 14:37 CST	_default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:37 CST	DataFlowProbe
回動ののののである。         回りたいているである。         回したいているである。         回したいているである。         回したいているのである。         Image: State in the state	2 amdevjp	2013年12月12日 (木曜日) 14:47 CST	_default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:47 CST	DataFlowProbe
回動のないのでしていたします。         Distriction (1997)         Distriction (1997)         Distriction (1997)         Distriction (1997)         Distriction (1997)         Distriction (1997)           利用方法         [マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。         (カスージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。         (カスージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。         (カスージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。           *         [新規レポートの作成] ************************************	ucmdb0101	2013年12月12日 (木曜日) 14:59 CST 2013年12月12日 (大曜日) 14:44 CST	_default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:59 CST 2013年12月12日 (大曜日) 12:44 CST	DataFlowProbe
(************************************	sanqavm64     sanqavm64     sanqavm64	2013年12月12日(木曜日)14.44 UST 2013年12月12日(木曜日)14.39 CST	_default.cxz	2013年12月12日(木曜日)12:44 US1 2013年12月12日(木曜日)12:39 CST	DataFlowProbe
・ このため、 このた	QASERVER2	2013年12月12日 (木曜日) 14:38 CST	default.cxz	2013年12月12日(木曜日)12:38 CST	DataFlowProbe
● Intervented         Detervented         Detervented         Detervented         Detervented           利用方法         [マネージヤ] > [モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタム レポート] 表示枠 で、次のいずれかを行います。         「新規レポートの作成] ③ ボタンをクリックして、[スキャン ファイル ステータス レ ポート]を選択します。           • [新規レポートの作成] ③ ボタンをクリックして、[スキャン ファイル ステータス レ ポート]を選択します。         • [ティスカパリ ステータス]で:         • [ティスカパリ ステータス]で:           • [スキャン ファイル ステータス レポート]をダブルクリックする。         • [スキャン ファイル ステータス レポート]をダブルクリックする。         • [スキャン ファイル ステータス レポート]をダブルクリックする。           • [スキャン ファイル ステータス レポート]を支援択したるま を選択する。         • [スキャン ファイル ステータス レポート]を支援択したるま クリック/レ、[新規レポートの作成] を選択する。 <b>重要情報</b> [ホスト] カラムには、生成されたスキャン・ファイルの/ードが表示されます。[実行 日] および[アップグ/レード日] カラムには、スキャナの最新の実行日およびアップグ/ レード時間が表示されます。[スキャナ 構成] および[プローブ名] カラムには、スキャ ナが最後に使用した構成ファイルおよび Data Flow Probe に保存 されているスキャン・ファイルのスをネキンシンドがあ示 うちんます。このカラムを表示するには、 新規レポートが生成される度に[カラムの選択] ④ ボタンを使用して手動で可視 カラムに追加します。           スキャン・ファイルを告 クリックしてコンテキスト・メニューから[スキャン ファイルを分グン ロード]を選択することで、選択したスキャン・ファイルを同クにクローカル・マシンにダウンロー ドできます。インペントリ・ツールが知知くニュータにインストールされている場合は、ダウ ンロードしたスキャン・ファイルを開くとビューアのアプリケーションが短動してスキャン・ ファイルのコンテンジが表示されます。詳細については、「インペントリ・ツール」を参 照してください。           スキャンを右 クリックして[通信ログを表示]を選択すると、デいがグ情報のスキャナ・ ログが表示されます。このオブシンは、スキャンが正常に終了しなかった場合にの み利用できます。	@ g11nvm145	2013年12月12日 (木曜日) 14:42 CST	default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:42 CST	DataFlowProbe
(副) 2019 (2010) (1010) (2010) (2010) (2010) (2010) (2010) (2010) (2010)       (Derivative         利用方法       [マネージヤ] > [モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタム レポート]表示枠 で、次のいずれかを行います。       () [新規レポートの作成] (3) ボタンをクリックして、[スキャン ファイル ステータス レ ポート]を選択します。         ・       [ディスカパリステータス]で: ・       [マキャン ファイル ステータス レポート]をダブルクリックする。         ・       [スキャン ファイル ステータス レポート]を増加したり、[新規レポートの作成] を選択する。         ・       [スキャン ファイル ステータス レポート]を増加した。         ・       [スキャン ファイル ステータス レポート]を増加した。(新規レポートの作成] を選択する。         ・       [スキャン ファイル ステータス レポート]を増加した。() (5 1 月) を選択する。         ・       [スキャン ファイル ステータス レポート]を増加した。() () () () () () () () () () () () () (	ltsamqavm145	2013年12月12日 (木曜日) 14:40 CST	_default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:40 CST	DataFlowProbe
<ul> <li>利用方法         [マネージャ]&gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。         ・[新規レポートの作成] ポタンをクリックして、[スキャン ファイル ステータスレポート]を選択します。         ・[ディスカパリステータス]で:         ・[ティスカパリステータスレポート]をダブルクリックする。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]をダブルクリックする。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を増択した。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を増加した。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を増加した。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を増加した。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を選択した。         ・[スキャン ファイル ステータスレポート]を増加した。         ・[スキャンファイルステータスレポート]を増加した。         ・[スキャンファイルのクードがま。         ・[スキャンファイルのクードががま。         ・「ド時間が表示されます。[スキャナオの最新の実行日およびアッグゲレード時間が表示されます。[スキャナオの最新の実行日およびアッグゲレード時間が表示されます。「スキャナオの最新の実行日およびアッグゲック・         ・ド時間が表示されます。「スキャナオーののからした。         ・レード時間が表示されます。「スキャナオの最新の実行日およびアッグゲック・         ・レード時間が表示されます。「スキャナオーのよびの表示されます。このカラムを使用してきかされます。         ・「たきます。・シージャイルをおくレンテートの生成方法」(ジェーアのアブリケーションが起動してスキャナ・         ・ロードしたます・、         ・クパードの生成方法」(331ページ)</li></ul>	SMCI031	2013年12月12日 (木曜日) 14:39 CST	default.cxz	2013年12月12日 (木曜日) 12:39 CST	DataFlowProbe
<ul> <li>重要情報         [ホスト]カラムには、生成されたスキャン・ファイルのノードが表示されます。[実行 日]および[アップグレード日]カラムには、スキャナの最新の実行日およびアップグ レード時間が表示されます。[スキャナ構成]および[プローブ名]カラムには、スキャ ナが最後に使用した構成ファイルおよび Data Flow Probe ゲートウェイが表示され ます。[ファイルパスをスキャン]という非表示カラムがあり、Data Flow Probe に保存 されているスキャン・ファイルのフル・パスが表示されます。このカラムを表示するには、 新規レポートが生成される度に[カラムの選択] ポタンを使用して手動で可視 カラムに追加します。     </li> <li>スキャン・ファイルを右 クリックしてコンテキスト・メニューから[スキャン ファイルをダウン ロード]を選択することで、選択したスキャン・ファイルをローカル・マシンにダウンロー ドできます。インベントリ・ツールがコンピュータにインストールされている場合は、ダウ ンロードしたスキャン・ファイルを開くとビューアのアプリケーションが起動してスキャン・ ファイルのコンテンツが表示されます。詳細については、「インベントリ・ツール」を参照 低てください。     </li> <li>スキャンを右 クリックして[通信ログを表示]を選択すると、デバッグ情報のスキャナ・ ログが表示されます。このオプションは、スキャンが正常に終了しなかった場合にの み利用できます。</li> </ul>		で、次のいずれかを行い • [新規レポートの作り ポート]を選択します • [ディスカバリステーダ • [スキャンファイル • [スキャンファイル を選択する。 • [スキャンファイル	ヽます。 丸] [●] ボタンをク タス]で: ・ステータス レポー ・ステータス レポー ・ステータス レポー	リックして、 [スキャン ファイル ト]をダブルクリックする。 ト]を右クリックし、 [新規レオ ト]を選択し、 右表示枠(こト	<b>ステータスレ</b> ペートの作成] ^ミ ラッグする。
<b>関連タスク</b> 「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)	重要情報	[ホスト]カラムには、生、 日]および[アップグレー レード時間が表示され、 ナが最後に使用した構 ます。[ファイルパスをス されているスキャン・ファ・ 新規レポートが生成され カラムに追加します。 スキャン・ファイルを右ク ロード]を選択することで ドできます。インベントリ ンロードしたスキャン・フ ファイルのコンテンツが表 照してください。 スキャンを右クリックして ログが表示されます。こ み利用できます。	成されたスキャン・ 成されたスキャン・ ます。[スキャナオ ます。[スキャナオ ボファイルおよこ。 キャン]というパス キャン]というパス パープして コンテキス ・ツクしてコたスキャ ・ツクしてしたスキャ ・ツイルを開くとビュー でイルが開くとビュー ですたます。詳新 [通信ログを表示 のオプションは、ス	ファイルのノードが表示される スキャナの最新の実行日お <b>成</b> ]および[ <b>プローブ名</b> ]カラム Data Flow Probe ゲートウェ- 示カラムがあり, Data Flow I 表示されます。このカラムをま 選択] ボタンを使用して ペト・メニューから[スキャン ファ マン・ファイルをローカル・マシン ータにインストールされている ーアのアプリケーションが起動 町については、「インベントリ・ ]を選択すると、デバッグ情報 キャンが正常に終了しなか	ます。[ <b>実行</b> よびには、スキャイが つかした場合にの そのでする た場合にの その た場合にの
	関連タスク	「カスタム・レポートの生」	成方法」(331ペー	-ジ)	

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CIを右クリックして[IT ユニバースマネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャの ショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	スキャン・ファイルを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボック スの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

# スキャナ実行詳細レポート

このレポートには、すべてのインベントリ・ディスカバリ・ジョブのランタイム・データが示されます。

すべて	
なし	•
(i) Clィンスタンスは存在	しません
	すべて なレ ↓ CIインスタンスは存在

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [スキャナ実行詳細レポート]を 選択します。
	• [ディスカバリ ステータス]で:
	■ [スキャナ実行詳細レポート]をダブルクリックする
	■ [スキャナ実行詳細レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択す る。
	■ [スキャナ実行詳細レポート]を選択し、右側の表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートには, 各インベントリ・ディスカバリ・ジョブについて, スキャン対象ホストの表 示ラベル, スキャナのバージョン, 開始時間, 期間, ジョブのスケジュールおよびス テータス, プローブ名, エラーメッセージ, ジョブが最後に正常に実行された時間が 示されます。
	[カラムの選択] 🛄 ボタンを使用して, レポートに表示する属性を選択します。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして[IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャの ショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
グループ化	表示データのグループ化オプションを選択します。
ジョブのステータス	ドロップダウン・リストから, ディスカバリ・ジョブのジョブ・ステータス別 に結果を フィルタリングするオプションを選択します。

## [スナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]

このダイアログ・ボックスでは、レポートを実行するスケジュールの定義を行い、それらのレポートを指定 した受信者に電子メールで送信することができます。また、特定のビューのスナップショットを取得する スケジュールを設定できます。「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」(382ページ)で実行するようスケ ジュールされたスナップショットのreports/リストを確認できます。

•	ング]>[レポート]を選択します。[トポロジレポート]表示枠で,必要な
	ビューを選択して[スナップショット] 📠 ボタンをクリックし, [スナップショットをスケジュールする]を選択します。またはIT ユニバース・マネージャで, CI セレクタで[スナップショット]ボタンをクリックし, [スナップショットをスケジュールする]を選択します。
関連タスク •	「CIを比較する方法」(332ページ) 「スナップショットを比較する方法」(333ページ)

#### 含まれている要素は次のとおりです。

UI要素	詳細
検証	クリックすると, [cron 式]ボックスで入力した cron 式が検証されます。
Uter	([ <b>日付</b> ]を選択すると表示されます)。カレンダーの選択した日付をクリア します。
アクション	次のオプションを使用できます。
	• メール:[送信]ボックスのメール受信者にレポートが送信されます。
	• アーカイブ:レポート結果がデータベースにアーカイブされます。
	• ファイル・システムに保存 レポートを UCMDB サーバ・ファイル・システム に保存します(UCMDBServer/Runtime フォルダ内)。このオプション は,インフラストラクチャ設定マネージャで[レポート ルート フォルダ]設 定を使用してパスが設定されている場合にのみ利用できます。
	注:
	<ul> <li>この機能は、レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>複数のオプションを選択できます(たとえば、メールしてファイル・システムに保存など)。</li> </ul>
Cron 式	ジョブをスケジュールする cron 式を入力します。 cron 式で使用される フィールド とそのユース・ケースについては、「Cron 式」(335ページ)を参照 してください。
詳細	スケジュールされたジョブの説明です。

UI要素	詳細
終了	次のオプションのいずれかを選択します。
	• しない:終了日を指定しません。
	• 次まで: アクションの実行を停止する日時を選択します。
	<b>注:</b> 1回のみ実行するレポートを定義する場合,この要素は関係あ りません。
形式	<b>注:</b> レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使 用できます。
	レポートの形式を選択します。[アクション]で[メール]または[ファイル シス テムに保存]オプションを選択すると、利用できます。
	次のオプションを使用できます。
	• Excel:レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF:レポートのデータは, PDF形式でエクスポートされます。
	<b>注:</b> PDF にエクスポートする場合,レポートが読みやすくなるよう表示列の適切な数を選択します。
	• CSV : レポートのデータは, カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ ファイル形式に設定されます。これは, スプレッドシードで表示できます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,)を区切り文字として定義する必要があります。Windows で は、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・ パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区 切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux で は、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定でき ます。
	• XML:レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開く ことができる XML ファイルとして整形されます。
	<ul> <li>ダイレクト・リンク:レポート・データを含む電子メールがダイレクト・リンクとして送信されます。([メール]オプションにのみ該当)。</li> </ul>

UI要素	詳細
ロケール	レポートの言語を選択します。
名前	スケジュール設定されたジョブの名前です。
繰り返し	次のいずれかのアクションを選択します。
	• 1回:ジョブを1回だけアクティブ化します。
	<ul> <li>         ・間隔:一定の間隔でジョブを実行します。分,時間,日,週の間隔</li> <li>         を選択できます。     </li> </ul>
	• 日付:毎月指定の日にジョブを実行します。
	• <b>週ごと</b> : ジョブを毎週実行します。 アクションを実行する曜日を1つまたは複数選択します。
	• 月ごと:ジョブを毎月実行します。ジョブを実行する月を1つまたは複数選択します。
	• 年ごと:ジョブを毎年実行します。
	<ul> <li>Cron: cron 式を使ってジョブのスケジュールを設定します。 cron 式で使用されるフィールドとそのユース・ケースについては、「Cron 式」(335ページ)を参照してください。</li> </ul>
繰り返し間隔	([間隔]または[年ごと]を選択する場合のみ表示されます)。連続する 実行の間隔の値を選択します。
	たとえば、 [ <b>年ごと</b> ]と[2]を選択すると、ジョブは隔年で実行されます。
繰り返し	([ <b>日付], [週ごと</b> ], [ <b>月ごと</b> ]を選択する場合にのみ表示されます)。 ジョブを実行する曜日または日付を選択します。
	たとえば、 [ <b>月ごと</b> ]を選択し、 [ <b>1月</b> ]と[7月]を選択すると、 ジョブは1月 と7月の指定された日時に実行されます。
レポート	実行するトポロジ・レポートまたはカスタム・レポートを選択できます。 [レ ポートの選択]ダイアログ・ボックスが開きます。

UI要素	詳細
送信先	<b>注</b> : レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使 用できます。
	スケジュールされたレポートをメールで自動的に受信できる受信者を定 義します。[ <b>アドレス帳を開く]</b> ボタンをクリックして、[メッセージ受取 人]ダイアログ・ボックスを開き、メール受信者を選択します。 [メッセージの受信者]ダイアログ・ボックスの[追加]、[編集]、[削除]ボ タンを使用して、メール・リストを変更できます。
	<b>注:</b> [メッセージの受信者]ダイアログ・ボックスに表示される受信者 は,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[受信者マネージャ]ペー ジ」で定義された電子メール受信者で更新されます。
サーバ時間	クライアントのタイム・ゾーンに基づく、正確なサーバ時間。
開始	ジョブの実行を開始する日時を選択します。
タイムゾーン	必要なタイムゾーンを設定します。

## ソフトウェア使用率レポート

このレポートは、使用率データとともに、現在使用しているコンピュータにインストールされているすべてのソフトウェアを表示します。

I		
	グループ化:	アブリケーション名 💌
	スコープ:	直近の1ヶ月 🛛 💌
	😞 生成 📄	

<u>ソフトウェア使用率レポート</u> ⊅ インストール済みソフトウェ

表示ラベル	検出ペンダ	バージョン	ソフトウェアの			使用率
Active Perl	ActiveState Software	5.8.3	英語	0	0	37.81
🖱 FileZilla Client	GNU	3.3.1	英語	0	0	0
Firefox	Mozilla	3.6.6	英語	0	0	0
HP Asset Manager Application Designer	Hewlett-Packard	5.20	英語	0	0	0
じ HP Asset Manager client	Hewlett-Packard	5.20	英語	0	0	0
HP DDM Inventory Agent	Hewlett-Packard	9.30.000	英語	0	0	37.81
🕲 Internet Explorer	Microsoft	8.0	英語	0	0	0
Ӱ Java 2 Runtime Environment	Oracle (Sun Microsystems)	1.5.0_19 SE	英語	0	0	0
岂 Java 2 SDK	Oracle (Sun Microsystems)	1.4.2_14-b05 SE	英語	0	0	37.81
🖱 Java 2 SDK	Oracle (Sun Microsystems)	1.5.0_19 SE	英語	0	0	0
💟 Java SE Runtime Environment	Oracle	1.6.0_22	英語	0	0	12.88

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] 😻 ボタンをクリックして, [ソフトウェア使用率レポート]を 選択します。
	• [インベントリ]で:
	■ [ソフトウェア使用率レポート]をダブルクリックする。
	■ [ソフトウェア使用率レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択 する。
	■ [ソフトウェア使用率レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには,各ソフトウェア・タイプについて,インストールされたアプ リケーションの数 が表 示されます。ドリルダウンして,特 定 のソフトウェア・アプリケー ションについての使 用 率 データを表 示 できます。
	[カラムの選択] ボタンを使用して、レポートに表示する属性を選択します。レポートをアプリケーション名またはベンダ名でグループ化する場合、インストールされたアプリケーションのレベルで、[インストール先]という名前の列が利用できます。この列には、ソフトウェアがインストールされる場所を表示し、ノードへのクリック可能なリンクが表示されます。
	レポートを関連ノードでグループ化する場合,そのノードにインストールされたアプリ ケーションの件数を表示する[ <b>インストール済みソフトウェア</b> ]という名前の列が利用 できます。この列には、ドリルダウンしてアプリケーションの詳細を表示する、クリック 可能なリンクも表示されます。
	使用率データのないアプリケーションの場合はこのレポートは表示されません。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	• アプリケーション名
	• ベンダ名
	• 関連ノード
対象範囲	レポートの対象範囲を選択します。次のオプションを使用できます。
	• 直近の1ヶ月:前月の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• 直近の四半期:前四半期の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• 直近の1年:前年の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• <b>すべて</b> :使用率データを持つすべてのアプリケーションを表示します。
フ <del>ォー</del> カス対象の使 用率のみを表示	このチェック・ボックスを選択して、アプリケーションがフォーカスされていた(アプリケーションが前面にあった)ときにのみ使用率が表示されるようにレポートを設定します。
	チェック・ボックスが解除されている場合は、レポートはアプリケーションが実 行中だったときの使用率データ(背面にあった場合も含まれる)を表示しま す。

## Solaris ゾーン・レポート

このレポートには、Solaris ゾーンについての情報が示されます。Solaris ゾーンとは、物理ホスト・マシン上のアプリケーションで実行される分離仮想環境です。

10 🖂 🕶 - 🛃 - 🗷	Show Cl instances of: Unix (	2)	-   ×   🗗 🗲   眠	et Q
<u>solaris zones</u> ⇒ bld-solaris				
Device	Zone Name	Operatin	Status	Update Time
🐸 005056B85E7A_my-zone1	my-zone1		installed	Thu Apr 19 2012 10:16 AM IDT

利用方法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠 で、次のいずれかを行います。 • [Solaris ゾーンレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 • [新規レポートの作成] [※]]ボタンをクリックし、[Solaris ゾーンレポート]を選択 する。 • [Solaris ゾーンレポート]をダブルクリックする。
	• [Solaris ゾーンレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには、Solaris ゾーンについての情報が表示されます。[非グローバルゾーン数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、グローバル・ゾーン上でホストされている非グローバル・ゾーンについての情報が表示されます。第2レイヤでは、[ネットワークデバイス]カラムの数字をクリックして次のレイヤにドリルダウンし、このゾーンで利用可能なネットワーク・デバイスについての情報を表示することができます。
関連タスク	「カスタム・レホートの生 成 万 法」(331ペーシ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして[IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャの ショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

## トポロジ・レポート

このレポートには、ビューのトポロジがレポート形式で表示されます。

**利用方法** [モデリング]>[レポート]を選択します。[トポロジレポート]表示枠で、ツリーから必要なレポートを選択します。

モデリング・ガイド 第9章:レポート

重要情報	UCMDBのすべてのビューをレポート形式で表示できます。 モデリング・スタジオの ビューの [レポート]タブでレポートの設定を定義します。
	テンプレートは[レポート]でも開くことができます。 テンプレートのパラメータを編 集し, インスタンスをビューとして保存できます。
関連タスク	「トポロジ・レポートの表示方法」(331ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<棒グラフ/円グラフ>	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,選択したレベルのビューの Cl を示します。
	スライス/棒をクリックすると,次のレベルにドリルダウンします(存在する場合)。情報をテーブル形式で表示することもできます。
	関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと, CIT で検出されるインスタンス数, 全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合), およびスライス/棒で表される CIT または CIT 属性がソールチップに表示されます。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
リセット	テンプレートのパラメータを元の値に戻します。
	<b>注:</b> テンプレートの場合のみ関係します。
ビューに名前を付け て保存	クリックすると, 選択したパラメータ値を含むテンプレート・ベース・ビューとして インスタンスが保存されます。
	<b>注:</b> テンプレートの場合のみ関係します。

## ビュー変更レポート

このレポートは、選択したビューにおいて、CIまたは関係の変更を表示します。このレポートは、該当のCIに関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CIの変更で、それらの変更が問題の原因であると判断できることもあります。同様に、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。

時間範囲: 直近の1日 💌 開始日付: 2009年11月29日 (日曜日) 午後 03:06 PST 💌 終了日付: 2009年11月30日 (月曜日) 午後 03:06 PST 💌				
ビュー: NetworkTopology 👻 🛄 次に基づく情報を検索 💿 CMDB 🔿 ピュー				
● 生成				
			CI変更 関係の変更	
18 16 🗙 💣 💋 🔣 🖬	٩			
Display Label	Class Name	Attribute Name	New Va	
- 🖃 16.59.70.0\abm1lt21	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003	
- 🔲 16.59.70.0Vabm1lt21	Windows	DiscoveredOsVersion	5.2.3790	
- 🗐 16.59.70.0\abm1lt21	Windows	Host Operating System Installation type	Server Enterprise	
- 🗐 16.59.70.0\abm1lt21	Windows	Host Operating System Release	3790	
— 📃 16.59.70.0Vabm1lt21	Windows	Windows Service Pack	2.0	
- 📃 16.59.70.0Vabm1lt21	Windows	Host is Desktop	False	
- 🖃 16.59.60.0\vmbto16	Windows	Memory Size	2,048	
- 🖃 16.59.60.0\vmbto16	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003 R2	
Δ, [, Π, [].	<ul> <li>「新規レポートの作成」</li> <li>[新規レポートの作成]</li> <li>選択します。</li> <li>[変更]から次を行います。</li> </ul>	************************************	<b>東レポート</b> ]を	
	<ul> <li>[ビュー変更レポート]</li> <li>[ビュー変更レポート]</li> <li>する。</li> </ul>	をすりルクリックする を右クリックし、 [ <b>新規レポートの/</b>	<b>⊧成</b> ]を選択	

重要情報	CI プロパティが「管理対象」とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については、「[属性の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス」(452 ページ)を参照してください。 ビュー変更レポートの表示内容:		
<ul> <li>該当のビューに存在するCIのみの変更。</li> </ul>			
	<ul> <li>選択した CI,および、[変更レポートのリンク名]インフラストラクチャ設定で指定した関係によって関連付けられている CIのすべての子 CIで発生した変更。この設定の標準設定値は、空の値(managed_relationship)であり、[履歴要の追跡ではありません]としてマーキングされていないすべての関係属性の変更を追跡できます。</li> <li>生成されるレポートに表示される CIを変更するには、[マネージャ]&gt;[管理]&gt;[インフラストラクチャ設定]をクリックし、次の設定を編集します。</li> </ul>		
	<ul> <li>[変更レポートのリンク名]を選択し、選択した計算済みの関係によってリンクされる CIを取得します。関係の名前の設定値を、CIタイプ・マネージャで選択した関係の[詳細]ページにある[名前]ボックス([表示名]ボックスではない)に表示されるとおりに変更します。詳細については、「[詳細]ページ」(461ページ)を参照してください。</li> </ul>		
	<ul> <li>[変更レポートのリンク修飾子]を選択し、修飾子で定義されている CIを取得します。設定の値を必要な修飾子の名前に変更します。 修飾子の詳細については、「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照 してください。</li> </ul>		
	• CIに追加または削除された Composition 関係のある CI。		
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)		

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ショート カット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メニューにアクセ スします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」(218 ページ)を参照してください。
<ツ―ル バー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してください。
開始日 付	レポートの開始日時を設定します。
終了日 付	レポートの終了日時を設定します。

UI 要素	詳細
時間範 囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注: [カスタム</b> ]を選択すれば, [ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスの開始日 付と終了日付を手動で設定できます。
ビュー	変更を確認するビューを選択します。 [CI / ビューの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。 詳細については、 「CI セレクタでの作業」(126ページ)を参照してください。

#### [CI変更]タブ

[CI変更]タブの詳細については、「[CI変更]タブ」(350ページ)を参照してください。

#### [関係の変更]タブ

[関係の変更]タブの詳細については、「[関係の変更]タブ」(350ページ)を参照してください。

### VMware ホスト・レポート

このレポートには、VMware ホスト(VMware ESX サーバ)および ESX サーバ上 にホストされた VMware 仮想 マシンについての情報 が示されます。

<ul> <li>* P</li> <li>Show Clinstances of</li> </ul>			
	f: Mindows 6	4) 🔍 🗶 🖃 🖪 🔣 🖬 🤉	
1			
VM Name	VM Ope	VM UUID	VM Status
win2k3-french		500c4e02-f4b2-3602-9792-e615c48517a2	poweredOn
win2k3-xj		4239b2dd-4add-3e76-d99f-97a8e2d0620a	poweredOn
win2k3-german		564d9426-96a7-4d72-5b3a-c7b7d515d80d	poweredOn
win2k3- zxy		500c4173-192c-d823-db37-ad83e1daf747	poweredOn
[VMware ホスト レポー [新規レポートの作成] 択する。 [VMware ホスト レポー [VMware ホスト レポー	ト]を右 ?	フリックし、 [新規レポートの作成 マンをクリックし、 [VMware ホスト ブルクリックする。 Rし、右表示枠にドラッグする。	;]を選択する。 レポート]を選
	VM Name           win2k3-french           win2k3-sij           win2k3-german           win2k3-zxy           マネージャ] >[モデリング]           マネージャ] >[モデリング]           「大のいずれかを行いま           [VMware ホスト レポー           「新規レポートの作成]           択する。           [VMware ホスト レポー           [VMware ホスト レポー	VM Name         VM Ope           win2k3-french         win2k3-french           win2k3-xj         win2k3-german           win2k3-german         win2k3-german           win2k3-zxy         vin2k3-german           マネージャ] >[モデリング]>[レポー           マネージャ] >[モデリング]>[レポー           *, 次のいずれかを行います。           [VMware ホストレポート]を右く           「新規レポートの作成]           訳する。           [VMware ホストレポート]をダブ           [VMware ホストレポート]を選其	VM Name         VM Ope         VM UUID           win2k3-french         500c4e0244b2-3602-8792-e615c48617a2           win2k3-xj         4239b2dd-4add-3e76-d99f-97a8e2d0620a           win2k3-german         564d9426-96a7-4d72-5b3a-c7b7d516d80d           win2k3-zxy         500c4173-192c-d823-db37-ad83e1daf747           マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレス           マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレス           マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレス           マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレス           ジャのいずれかを行います。           [VMware ホストレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]           (新規レポートの作成]]           (新規レポートの作成]           ジー           (YMware ホストレポート]を選択し、「新規レポートの作成           (VMware ホストレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。

重要情報	レポートのトップ・レベルには, システムで検出された各 VMware ホストについての情報が表示されます。[仮想マシン数]カラムの数字をクリックすると, 次のレイヤにドリルダウンし, 当該ホストの VMware 仮想マシンすべてについての詳細情報が表示されます。
	[カラムの選択] 🔐 ボタンを使用して,レポートに表示する属性を選択します。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リ スト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして [IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細 については、「IT ユニバース・マネージャのショー トカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

### VMware 仮想センター・レポート

このレポートには、単一のリソース論理プールとして実行される物理サーバ(VM ホスト)および仮想マシン(VM)を管理する仮想センタに関する情報が示されます。

ſ	🖺 VMware Virtuaenter Report1* 🛪					
💾 🗟 🕲 📼 🗐 📾 👻 🔁 🔹 🔄 Show Clinstances of: 🛛 vare ESX Server (4) 💌 🗶 🖅 🥰 🔣 👫 🔄				🔁 🔣 🖬 🔍		
<u>virtual centers</u> ⇒ nile						
	Device	Server	VM Count	Version	Platform	Model
	📄 baikal1	VMware ES⊠i	3	5.0.0.469512	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200
	📄 huron1	VMware ESX	<u>6</u>	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200
	📄 ontario1	VMware ESX	4	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200
	📄 michgan1	VMware ESX	<u>6</u>	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200

利用方法	[ <b>マネージャ] &gt;[モデリング]&gt;[レポート]を選択します。[カスタムレポート</b> ]表示枠 で,次のいずれかを行います。
	• [VMware 仮想センターレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択 する。
	• [新規レポートの作成] ※ ボタンをクリックし, [VMware 仮想センターレポート] を選択する。
	• [VMware 仮想センターレポート]をダブルクリックする。
	• [VMware 仮想センターレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには、仮想センタについての情報が表示されます。 [VMware ホスト数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、当該 仮想センタ内のVMware ホストそれぞれに関する情報が表示されます。
	第 2 レイヤで[仮想マシン数]カラムの数字をクリックすると,次のレイヤにドリルダウンし,当該ホストの VMware 仮想マシンすべてについての詳細情報を表示できます。
	[カラムの選択] 🔣 ボタンを使用して、レポートに表示する属性を選択します。
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)

UI要素	詳細
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<ショートカット・メ ニュー>	レポートで CI を右 クリックして[IT ユニバース マネージャ]ショートカット・メ ニューにアクセスします。詳細については、「IT ユニバース・マネージャの ショートカット・メニュー」(218ページ)を参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。

# ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート

このレポートでは,不正な資格情報など,選択した管理ゾーンでのアクティビティ実行時にデータ・フロー管理で発生する特定の問題を検出できます。

利用方法	[ <b>モデリング]&gt;[レポート</b> ]を選択します。[ <b>カスタム レポート</b> ]表示枠で,次のいずれ かを行います。
	• [新規レポートの作成] 😹 ボタンをクリックして, [ゾーンベースのディスカバリエ ラーレポート]を選択する。
	• [ディスカバリ ステータス]で:
	■ [ゾーンベースのディスカバリエラーレポート]をダブルクリックする。
	■ [ゾーンベースのディスカバリ エラー レポート]を右 クリックし, [新規レポートの 作成]を選択する。
	■ [ <b>ゾーンベースのディスカバリ エラー レポート</b> ]を選択し, 右表示枠にドラッグ する。
重要情報	• 表示するカラムを選択には、 [カラムの選択] 🔐 ボタンをクリックします。
	<ul> <li>カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。</li> </ul>
関連タスク	「カスタム・レポートの生成方法」(331ページ)
関連情報	• 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の[ディスカバリの進行状況] ダイアログ・ボックス
	<ul> <li>『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のエラー・メッセージの概要</li> </ul>

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照し てください。
アクティビティ・タイプ	.エラーを表示するディスカバリ・アクティビティのタイプを選択します。 ディスカバリ・アクティビティ・エラーのすべてのタイプを表示するには, [ <b>すべて</b> ]を選択します。
管理ゾーン	エラーを表示する管理ゾーンを選択します。 すべての管理ゾーンを選択す るか、特定の管理ゾーンを選択することが可能です。
生成	クリックして、レポートを生成します。

UI要素	詳細
重大度	表示するエラーのタイプを選択します。 エラーの定義については,『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』のエラーの重大度レベル を参照してください。
	<b>注</b> : 複数のエラー・タイプを選択できます。
時間範囲	エラーを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[ <b>開始日付</b> ]および[ <b>終了日付</b> ]ボックスに自動的に表示されます。
	<b>注:</b> 手動で[開始日付]および[終了日付]の値をカスタマイズするには、 [時間範囲]一覧から[カスタム]を選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細
CI タイプ	トリガ CI の CIT です。
エラー・メッセージ	詳細なエラー・メッセージ。
エラー・サマリ	エラーの要約。
ジョブ	エラーがレポートされているジョブ。
プローブ	エラーをレポートした Data Flow Probe。
関連 IP	トリガCIに関連することが認識されているIP。
関連ノード	トリガCIに関連するノード。
重大度	エラーの重大度のレベル(警告,エラー,致命的エラー)。
エラー報告時間	エラーがレポートされた時間。
トリガ Cl	エラーがレポートされたトリガ CI。

## ツールバー・オプションのレポート

本項では、[レポート]表示枠のツールバー・オプションについて説明します。

UI要素	詳細
📴 レポートのバラメータ	レポートに対して定義されたパラメータを表示します。
	レポートを保存:選択したレポートを保存します。

UI要素	詳細
11	<b>レポート・プロパティ</b> [レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックスを開くと, レポートのタイトル, サブタイトル, 形式を設定できます。
٩	<b>定期レポート</b> :[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボックスを開くと、次のジョブを定義できます。
	• レポート生成のスケジュール
	<ul> <li>レポートを送信する1つ以上の形式と、レポートの受取人を指定します。</li> </ul>
	<ul> <li>ジョブの繰り返しの指定</li> </ul>
	[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボックスの詳細については,「[ス ナップショットをスケジュールする]/[定期レポート]」(404ページ)を参照して ください。
	<b>注:このオプション</b> は、レポートを生成する前または保存したレポートを 開くときにのみ使用できます。
	メールを送信:[メールを送信]ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形 式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを 含む電子メールを送信できます。さまざまな形式の詳細については、「ツー ルバー・オプションのレポート」(419ページ)を参照してください。
	添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの 形式を1つ以上選択します。
	注:
	• 必須フィールドにはアスタリスク(*)が付いています。
	• [メールを送信]ダイアログ・ボックスでは、 [From]フィールドに現在 のユーザのユーザ詳細で定義された電子メール・アドレスが分布さ れます。現在のユーザに電子メールが指定されていない場合, カス タマの標準設定の電子メール・アドレスが使用されます。
<b>ā</b>	<b>アーカイブ・レポート</b> :レポート結果をデータベースに保存できます。レポート
	がアーカイブされたら, 🖳 ボタンがレポート名の横に表示されます。
	<b>注:</b> トポロジ・レポートおよびゴールド・マスタ・レポートでのみ有効になり ます。

UI要素	詳細
e	<b>ダイレクト・リンクの生成</b> :選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。
1	レポートのエクスポート :
	レポートのエクスポートをプレビューする形 式を選 択 できます。 次 のオプション を使 用 できます。
	• CSV:レポートのデータは、カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ファ イル形式に設定されます。これは、スプレッドシードで表示できます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区 切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の 値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイ ルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。
	• <b>PDF</b> : レポートのデータは, PDF 形式 でエクスポートされます。
	<b>注:</b> PDF にエクスポートする場合,レポートが読みやすくなるよう表 示列の適切な数を選択します。
	• XLS:レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel) ファイル形式に整形されます。
	<b>注:</b> 大規模なレポートについては、インフラストラクチャ設定マネー ジャの[ <b>XLS エクスポートの列 サイズ]</b> 設定で固定の列 サイズを設 定することで、レポートのエクスポートに要する時間を削減できま す。
	• XML:レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	<b>ヒント:</b> レポートから HTML コードを抽出するには、次の手順を実行します。
	• ファイルをHTML エディタで開きます。
	• 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。

UI要素	詳細
2.	テナントを割り当て:[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き,選択したカスタム・レポートにテナントを割り当てることができます。
	注:
	<ul> <li>■ このオプションは保存したレポートでのみ使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>このオプションは、マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利用できます。</li> </ul>
2	<b>セキュリティを管理:</b> レポートの権限を特定のロールに割り当てたり,選択 したリソース・グループにレポートを追加できます。
	注:このオプションは保存したレポートでのみ使用できます。
📊 棒グラフ	棒 グラフ:生成されたレポートが棒グラフとして表示されます。
🌍 円グラフ	<b>円グラフ</b> :生成されたレポートが円グラフとして表示されます。
<b>Ⅲ</b> 〒−ブル	<b>テーブル</b> :生成されたレポートがテーブル形式で表示されます。
	短いラベルを表示: グラフのラベルの情報の最大化/最小化が状態が切り 替わります。
	注:このオプションは円グラフでのみ使用できます。
	<b>凡例を表示</b> : グラフのラ凡例の表示 / 非表示が状態が切り替わります。
	<b>注:このオプションは円 グラフでのみ</b> 使 用 できます。
*	スライス・グラフ:円 グラフのセグメントが切り離されている状態と切り離され ていない状態が切り替わります。
	注:このオプションは円グラフでのみ使用できます。
	すべてを展開:ツリー構造が展開されます。
8	<b>すべてを折りたたみ</b> :ツリー構造が折りたたまれます。
*	CMDB から削除:選択した CI が CMDB から削除されます。
	<b>プロパティ</b> :選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが 開きます。

UI要素	詳細
S	更新:レポート・ツリーが更新されます。
	カラムの選択:レポートに表示するカラムを選択できます。詳細については、「[カラムの選択]ダイアログ・ボックス」(523ページ)を参照してください。
≜1	<b>カラム・コンテンツの並べ替え</b> :選択したカラム・コンテンツの並べ替え順を 設定できます。
9	検索:ユーティリティの表示/非表示が切り替わります。
	フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索:[検索]フィール ドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
	<b>フレーズのすべての発生をハイライト表示:[検索</b> ]フィールドに入力した文 字列に一致する, CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。
😞 生成 📄	レポートを生成:選択したレポートを生成できます。
9 生成	<b>注:</b> このボタンは, レポート・パラメータを定 義 するまでは無 効 になって います。
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	<b>注</b> :現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになってい ます。
<生成されたレポー ト>	生成されたアクティブなレポートが表示されます。
検索	[検索]フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、 リスト内の CIを検索します。

# 英語以外のロケールでのレポート - 注意事項および制限 事項

- HP Universal CMDB は、50文字より長いマルチバイト文字を含むカスタム・レポート名はサポートしていません。
- ある言語ロケールで作成されたレポートが別の言語ロケールの電子メールで送信された場合,レポートにはサーバの言語と元のロケールの言語のシステム情報が含まれます。
- レポートのファイル名にマルチバイト文字(日本語,中国語,韓国語など)が含まれており、そのレポートが電子メールの添付ファイルとして送信された場合、レポート名が読めなくなります。

- CI インスタンスを PDF ファイルにエクスポート すると、その PDF ファイルでマルチバイト文字(日本語,中国語,韓国語など)は表示 されない場合 があります。
- トポロジ・レポートのスナップショットの保存時,英語以外の最大25文字を名前に含めることができます。

# 第10章:影響分析マネージャ

本章の内容

影響分析マネージャの概要	425
影響ルールの定義方法 - ワークフロー	425
影響分析マネージャのユーザ・インタフェース	428

### 影響分析マネージャの概要

影響分析マネージャでは, IT インフラストラクチャにおけるコンポーネント間の相互依存関係を定義 して, インフラストラクチャの変更(新しいソフトウェアのインストールやアップグレードなど)がシステムにど のように影響するかをシミュレートできます。

TQL クエリに基づいて影響ルールを作成すると、問題の真の原因とそのビジネス・インパクトを究明できます。 定義する各影響ルールは、個別の影響分析 TQL クエリに関連付けられます。 TQL クエリの詳細については、「トポロジ・クエリ言語(TQL)」(15ページ)を参照してください。

影響ルールを定義して, 複数の影響分析クエリ・ノード間の因果関係を指定します。1つのクエリ・ ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして, 別のクエリ・ノードをその影響 を受けるものとして定義します。因果関係が確立されると, 影響分析マネージャによって, 根本原 因クエリ・ノードで行われる変更の影響を究明できます。

次に, IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行し, 変更がシステムに与える影響をシミュレート して, 変更の根本原因を検出できます(詳細については,「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」 (231ページ)を参照してください)。これで, アクション, 更新, 新規デプロイメント, またはサービス配 信障害の関与の可能性を適宜に評価して処理できます。

影響を受ける CI での変更シミュレーションによって, CI のマップ・ステータスが変化 する可能性があり ます。これは CI のシンボルにステータス・アイコンを追加することで明らかになります。トポロジ・マップに は、トリガ CI のステータスに加えて, その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。それぞれの 色は異なるステータスを示します。

ステータス・アイコンとそれらを示す色の詳細については、「[影響を表示]表示枠」(235ページ)を参照してください。

また、次の情報を表示するレポートを作成できます。

- システムで変更の影響を受けるCI。
- トリガ CI(システムに加える変更を示す CI)。
- 特定のビジネス・サービスに属する CI。

### 影響ルールの定義方法 - ワークフロー

本項では、「CPU動作の変化が、接続されているノードに影響を与える」という影響ルールを定義 する方法について説明します。

本項の内容

- 「影響分析 TQL クエリの作成」(426ページ)
- •「影響ルールの定義」(426ページ)

#### 1. 影響分析 TQL クエリの作成

影響分析 TQL クエリを作成するには、影響分析 TQL を作成し、次にクエリを定義する TQL ク エリ・ノードと関係を追加する必要があります。

[マネージャ]>[モデリング]>[影響分析マネージャ]を選択して、影響分析マネージャを開きま す。影響分析 TQL クエリの作成方法の詳細については、「新規影響ルール/影響ルールのプ ロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」(438ページ)を参照してください。クエリにクエリ・ノード と関係を追加する方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」 (24ページ)を参照してください。

#### 影響分析 TQL クエリの例:

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを Composition 関係 でリンクします。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** 影響分析 TQL クエリは一 定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブル シューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。

#### 2. 影響ルールの定義

影響 ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガ・クエリ・ノードとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、[影響を受けるものを定義]を選択して、[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。次に、[追加]ボタンをクリックして、[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については、「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」(437ページ)を参照してください。

**注**:影響ルール定義の[change]状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は[operation]のみです。

#### 影響ルールの例:

[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[条件]領域で,システムの変更シミュレーションが 起動される条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で,影響を受けるクエリ・ノードに 対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が100%に設定されているため、ノードの重大度はCPUの重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

▲ 影響ル〜)	定義
詳細:	
条件	
状態:	operation
演算子:	等価
値の比較:	Normal
対象範囲	
◉ 任意	
○すべて	
○ 範囲	0 % - 100 %
◯ 固定きれ	た重大度: Critical ▼
◉ 重大度は	トリガの重大度との相対値 (%): 100
	OK キャンセル

結果のTQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



**注:** 影響分析の結果を取得するには、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行 する必要があります。詳細については、「影響分析結果の取得方法 - シナリオ」(191 ページ)を参照してください。

# 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

[詳細]ダイアログ・ボックス	428
[影響分析マネージャ]ページ	429
[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス	436
[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス	437
新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード	438

## [詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、 [影響ルール定義]ダイアログ・ボックスで作成した新しい影響ルールが表示されます。

利用方 法	影響分析マネージャの[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスで[ <b>次へ</b> ]をク リックします。
関連タ スク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
関連情 ^超	•「影響分析マネージャの概要」(425ページ)
ŦIX	• 「影響分析マネージャのユーザ・インタフェース」(428ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
詳細	新しい影響ルールの詳細です。
状態	[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[状態]リストで選択したカテゴリです。

# [影響分析マネージャ]ページ

このページでは、影響ルールを定義できます。

利用方法	[ナビゲーション]メニューで[ <b>影響分析マネージャ</b> ]を選択するか, [マネージャ]>[モ デリング]>[影響分析マネージャ]を選択します。
重要情報	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは,一定の制限に従う 必要があります。詳細については,「トラブルシューティングおよび制限事項」(91 ページ)を参照してください。
関連タスク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
関連情報	• 「影響分析マネージャの概要」(425ページ)
	• 「影響分析マネージャのユーザ・インタフェース」(428ページ)

#### [影響ルール]表示枠

この領域には、定義済みフォルダおよび影響ルールの階層ツリー構造が表示されます。各影響ルールは TQL クエリと関連しています。

重要情報	独自の影響ルールを作成することも、HP Universal CMDBのインストールで提供される標準のルールを使用することもできます。
	標準設定の影響ルールには定義済みフォルダが提供されるため, これらのフォルダ を変更するか, 組織の要件に従ってフォルダを追加できます。
	影響ルールまたはフォルダをドラッグ・アンド・ドロップして, フォルダ間で移動できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
	<b>新規フォルダ</b> :新しいフォルダを作成します。
*	<b>新規作成:</b> 影響ルールを作成します。[新規影響ルール]ウィザードが開きます。
*	<b>削除</b> :選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。

UI要素	詳細
S	<b>更新</b> :ほかのユーザによって変更された可能性がある階 層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	保存:影響ルールをCMDBに保存します。(新規影響 ルールを作成した場合,または既存のルールを変更した 場合にのみ利用可能です)
	<b>プロパティ</b> : [影響ルールのプロパティ] ウィザードを開きま す。 ルールの説明を変更できます。
Es.	<b>テナントを割り当て:</b> [テナントを割り当て]ダイアログ・ボック スが開き,影響ルールにテナントを割り当てることができま す。
	<b>注:</b> このボタンは、マルチテナンシーが有効な場合にの み利用できます。
8	セキュリティを管理:選択した影響ルールを特定のロール またはリソース・グループに割り当てることができます。
Q	<b>プレビュー</b> : 選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
	XML ヘエクスポート:影響ルールをXML ファイルにエクス ポートできます。
фр хи	XML からインポート:保存された影響ルールを含むXML ファイルを影響分析マネージャにインポートできます。
<b>a</b>	フォルダを表します。
· <b>@</b>	影響ルールを表します。
<影響ルール・ツリー>	既存のテンプレートがソリー形式で表示されます。
	<b>注:</b> ツリーには影響 ルールのみが表示されます。 影響 分析タイプの TQL クエリ(モデリング・スタジオで作成さ れる) は表示されません。

フォルダまたは影響ルールを右クリックすると、次のオプションを使用できます。

UI 要素	詳細
<del>テナ</del> ントを割り 当て	[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き,選択した影響ルールにテナント を割り当てることができます。
	<b>注:</b> このオプションは, マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利用で きます。
削除	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
XML ヘエクス ポート	標準の[XML ヘエクスポート]ダイアログ・ボックスが表示され,影響ルールをXML スクリプトとして保存できます。このオプションは,関連するTQL クエリも再配置さ れるという条件で,ワークステーション間で影響ルールを移動するのに使用できま す。
XML からイン ポート	保存された影響ルールを含む XML ファイルを影響分析マネージャにインポート します。
セキュリティを管 理	[セキュリティを管理]をクリックして,選択した影響ルールを特定のロールまたはリ ソース・グループに割り当てます。
新規作成	影響ルールを作成します。[新規影響ルール]ウィザードが開きます。
新規フォルダ	新しいフォルダを作成します。
プレビュー	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
プロパティ	[影響ルールのプロパティ]ウィザードを開きます。ルールの説明を変更できます。
フォルダの名前 の変更	フォルダ名を変更します。
保存	(新規影響ルールを作成した場合,または既存のルールを変更した場合にの み利用可能です)影響ルールを CMDB に保存します。
名前を付けて 保存	[影響ルールとして名前を付けて保存]ウィザードを表示し、既存のクエリをベースにして新しい影響ルールを作成できます。

#### 編集表示枠

この領域には選択した影響ルールが表示されます。影響ルールは TQL クエリで定義したクエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。

重要情報	• [影響ルール]表示枠でフォルダを選択すると、[編集]表示枠は空の状態 です。
	• [影響ルール]表示枠で影響ルールを選択すると,[編集]表示枠には選択 したルールが表示されます。このルールは TQL クエリで定義した TQL クエリ・ ノードと,そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。

関連タスク	「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方法」(24ページ)
関連情報	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に 従う必要があります。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」 (91ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
+	トリガ・クエリ・ノードを示します。影響を受けるクエリ・ノードの右にあります。
+	影響を受けるクエリ・ノードを示します。トリガ・クエリ・ノードのアイコンの右にあり ます。
Ŧ	影響を受けるクエリ・ノードとトリガ・クエリ・ノードの両方であるクエリ・ノードを示 します。
<メイン・メ ニュー>	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。
<クエリ・ノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。
<ショートカット・ メニュー・オプショ ン>	詳細については、「ショートカット・メニュー・オプション」(32ページ)を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプション」(163ページ)を参照してください。
<ツールチップ>	クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると, そのノードまたは 関係のツールチップが表示されます。
	このツールチップには次の情報が含まれます。
	• 要素名: クエリ・ノードの名前です。
	• CI タイプ:CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。 詳細については、「CI タイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してください。
	• 選択したクエリ・ノードと関係の定義:属性条件です。詳細については「[ク エリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してく ださい。
	<ul> <li>トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの名前:これは、カーソルが置かれているクエリ・ノードがトリガ・クエリ・ノードである場合にのみ関係します。</li> </ul>

### CIタイプ・セレクタ

この領域には, CMDB にある CI タイプの階層 ツリー構造が表示されます。
重要情報	Cl タイプ・セレクタは, エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, ト リガ TQL エディタに含まれています。
	TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表 示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存さ れます。詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加方 法」(24ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> 各 CIT の右側に, CMDB内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	•「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定 義 方 法」(23ページ)
	•「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<	CI タイプをマップに追加:選択した CI タイプを編集表示枠に移動します。
S	更新:Clタイプ・ツリーを更新します。
Q	検索:入力したCIタイプが検索されます。
1	<b>すべてを展開</b> :Clタイプ・ツリー内のすべてのサブツリーを展開します。
1	<b>すべてを折りたたみ</b> : CI タイプ・ツリー内のサブツリーを折りたたみます。
<検索ウィンドウ>	検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。

ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、 CI タイプを右 クリックしたときに以下の要素を選択できます。

メニュー項 目	詳細
CI タイプ をマップに 追加	選択すると,選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。

メニュー項 目	詳細
CI タイプ の定義へ 移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インス タンスを表 示	[CIT インスタンス]ウィンドウが開き,選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については,「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。

#### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	詳細表示枠は、モデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリエディタ、DFMのトリガ・クエリ・エディタの各マネージャとユーザ・インタフェースで、ウィンドウ下部に表示されます。
	ナータを含んでいるタブの傾には、小さな緑色のインシケータをか表示されます。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	• 「パターン・ビューの作 成 方 法 」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	• 「パースペクティブの作成方法」(254ページ)

UI要素	詳細
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は, 左矢印または 右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[ <b>リストを表示する</b> ]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリ ストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。 詳細については,「[属性]タブ」(73ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
カーディナリティ	カーディナリティは,関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば,ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合,TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については,「[カーディナリティ]タブ」(75ページ)を参照してください。
データ・ソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。
	注:このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。
	• CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。
	• 要素名 :クエリ・ノード/関係の名前です。 モデリング・スタジオにのみ表 示されます。
	<ul> <li>クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは、[はい]または[いいえ]という語によって示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは表示されません。</li> </ul>
編集	[ <b>編集</b> ]をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。
要素レイアウト	選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に 含めるために選択された属性が一覧表示されます([特定の属性]が属 性条件として選択されている場合)。また,除外された属性と、属性で選 択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については、「[要素 レイアウト]タブ」(81ページ)を参照してください。
	注:このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
要素タイプ	クエリ・ノード または関係に対して定義されたサブタイプ条件が表示されます。詳細については,「[要素タイプ]タブ」(79ページ)を参照してください。
	注:このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。

UI要素	詳細
エンリッチメント・ルー ル	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが 表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合 は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイア ログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、「[クエリノード /関係の定義]ダイアログ・ボックス」(508ページ)を参照してください。 注: このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。
影響を受けるクエリ・ ノード	選択したトリガ・クエリ・ノードで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノード が表示されます。必要な場合は、[編集]をクリックして、[影響を受けるク エリノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、 「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」(436ページ)を参照してく ださい。 注: このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されま
	す。詳細については、「[修飾子]タブ」(83ページ)を参照してください。 注:このタブは、エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにの み表示されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素 インスタンスが表示されます。詳細については、「[ID]タブ」(84ページ)を参照してください。

# [影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリでトリガ影響分析 クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システム で発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義できます。

利用方法	トリガとして機能するクエリ・ノードまたは関係を右クリックして, [影響を受ける ものを定義]を選択します。 [影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスが 開いて, TQL クエリのクエリ・ノードが表示されます。
重要情報	TQL クエリを作成する前に、クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードとなるクエリ・ ノードと、変更の影響を受けるクエリ・ノードを事前に知っておく必要があります。 定義はここで行います。
関連タスク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
関連情報	<ul> <li>「影響分析マネージャの概要」(425ページ)</li> <li>「影響分析マネージャのユーザ・インタフェース」(428ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
[影響を受け るクエリノー ド]表示枠	影響分析クエリ・ノードのリストを影響ルールに含めます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。 [ <b>次へ</b> ]をクリックすると,選択したクエリ・ ノードの詳細が表示されます。

### [影響ルール定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件の設定、トリガ条件の範囲の定義、影響の重大度の定義ができます。

利用方法	影響分析マネージャの[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスの詳細ページで, [追加]をクリックします。
重要情報	<ul> <li>[条件]領域で、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。この 条件が満たされると、システムの変更シミュレーションが起動されます。</li> </ul>
	たとえば, クエリ・ノードの動作状態が標準でないことを示す影響分析条件を 定義できます。 クエリ・ノード・インスタンスの動作状態が変化して標準でなくな ると, 条件が満たされ, システムの変更シミュレーションが起動されます。
	• [スコープ]領域では、 どのくらいのインスタンスのトリガ・クエリ・ノード がシステムの 変更を起動する条件を満たすか定義します。
	トリガ条件は, トリガ・クエリ・ノードの1つのインスタンス, 一定割合のトリガ・イン スタンス, またはすべてのインスタンスに適用できます。
	たとえば, システムのノードが少なくとも 10% ダウンしたときに予 測される影響を 定 義 できます。
	<ul> <li>ダイアログ・ボックス下部で、影響分析の影響の重要度を定義します。</li> </ul>
関連タスク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ).
関連情報	• 「影響分析マネージャの概要」(425ページ)
	• 「影響分析マネージャのユーザ・インタフェース」(428ページ)

UI 要素	詳細
すべて	すべてのインスタンスが条件を満たす必要があります。
任意	1つ以上のインスタンスが条件を満たす必要があります。
詳細	定義する影響ルールの詳細です。

UI 要素	詳細		
固定された 重大度	発生するすべてのシステム変更に対して一定の重要度を定義しておき, リストから 必要な重要度を選択します。		
関数	[関数]([対象範囲]領域で[すべて]および[範囲]オプションを選択したときに表示)を選択し、範囲に含まれているすべてのトリガ・クエリ・ノード・インスタンスの重要度の関数として、システム変更の重要度を定義します。リストから、[平均]または [最大]を選択します。 たとえば、[平均]を選択すると、システム変更の重要度はすべてのトリガ・インスタン		
	スの平均重要度になります。		
演算子	必要な演算子を選択します。属性条件の定義で使用できる演算子のリストについては、「属性演算子の定義」(37ページ)を参照してください。		
範囲	ー定割合のインスタンスがすべて,条件を満たす必要があります。たとえば,50%~100%の範囲を入力した場合,50%以上のインスタンスが条件を満たすと,変更が起動されます。		
重大度は トリガの重 大度との相 対値(%)	[重大度はトリガの重大度との相対値(%)]([対象範囲]領域で[任意]オプション を選択すると表示)を選択して、トリガ・イベントの重要度に(パーセンテージとして) 関連する各システム変更の重要度を定義します。 与えられたボックスにパーセンテージを入力します。		
状態	必要な状態を選択します。リストに表示される状態は、状態マネージャで定義した 状態です。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネー ジャ」を参照してください。		
値の比較	必要な属性を選択します。		

# 新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存 ウィザード

このウィザードでは、影響ルールを作成、変更できます。

利用方法	•	▶ 影響 ルールを作 成 するには、 [影響 ルール] 表 示 枠 のどこかを右 クリックして [ <b>第</b> 作成]をクリックするか、 「新規作成] ³³ ボタンをクリックします。			
<ul> <li>既存の影響ルールを リックして、[プロパティ]</li> </ul>		既存の影響ルールを変更するには、[影響ルール]表示枠で影響ルールを右ク リックして、[ <b>プロパティ</b> ]を選択します。			
	•	既存のクエリに基づいて新しい影響ルールを作成するには、 [影響ルール]表示 枠で影響ルールを右クリックして、 [名前を付けて保存]を選択します。			

重要情報	<ul> <li>影響ルールを作成した後で、TQL クエリに大きな変更を加えると、システムによってそのルールが削除されます。これらの変更は、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリノードの削除や、最小および最大関係定義の変更などです。詳細については、「「カーディナリティ]タブ」(75ページ)を参照してください。</li> <li>TQL クエリにクエリ・ノードを追加するなどの小さな変更では、ルールは削除されません。</li> <li>影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> </ul>
関連タスク	「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ).
ウィザード・ マップ	「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」には 次のページが含まれます。 「[影響ルールのー般属性]ページ」(439ページ) >「[影響ルールベースクエリ]ペー ジ」(440ページ) >「[影響ルールグループ]ページ」(441ページ)
関連情報	<ul> <li>「影響分析マネージャの概要」(425ページ)</li> <li>「影響分析マネージャのユーザ・インタフェース」(428ページ)</li> </ul>

### [影響ルールの一般属性]ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールの一意の名前と詳細を入力できます。

重要情報	<ul> <li>影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。</li> <li>詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> </ul>
	• TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規影響 ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」(438ページ)を 参照してください。
	<ul> <li>標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ようこそ]ページを表示しないようにできます。詳細については、「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・ マップ	「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」(438 ページ)には、次のページが含まれています。
	「[影響ルールの一般属性]ページ」>「[影響ルールベースクエリ]ページ」>「[影響 ルールグループ]ページ」
関連情報	「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細	
ルールの詳細	影響ルールの詳細を入力します(任意指定)。	
ルール名	影響ルールの一意の名前を入力します。 ルール名には、\/:"<> %?の文字を含むことができません。最後の文字 を空白スペースにすることはできません。	
	<b>注:</b> 影響 ルール名が空の状態であるか、別の影響 ルールで使用して いる名前が含まれているか、無効な文字が使用されている場合は、 [次へ]および[完了]ボタンが使用不可になります。	

### [影響ルールベース クエリ]ページ

このウィザード・ページでは、影響クエリの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義できます。既存のクエリを使用するか、新しいクエリを作成できます。

重要情報	<ul> <li>影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。 詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照して ください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規影響 ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」(438ページ)を 参照してください。</li> </ul>
ウィザード・ マップ	「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」は次のページを含みます。
	「[影響ルールの一般属性]ページ」>「 <b>[影響ルールベース クエリ]ページ」</b> >「[影響ルール グループ]ページ」
関連情報	「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)

UI 要素	詳細
新しいクエリの影 響 ルールに基づく	新しい TQL クエリを影響 ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを 選択します。 クエリ結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。
既存のクエリの影 響ルールに基づく	既存の TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は, このチェック・ボックス を選択します。必要な影響分析 TQL クエリをドロップダウン・リストから選択し ます。

UI 要素	詳細	
ベース・クエリ詳細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。	
ベース・クエリ名	影響分析 TQL クエリの一意の名前を入力します。 [既存のクエリの影響ルールに基づく]オプションを選択した場合、ルールの基礎とする影響分析 TQL クエリを選択します。	
現在の定義に基 づいて新規クエリ を保存	選択すると,影響ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。	
	注: このフィールドは,影響ルール・ウィザードにのみ表示されます。	

### [影響ルールグループ]ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールを実行できる場所を定義できます。

重要情報	<ul> <li>影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。</li> <li>詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> </ul>
	<ul> <li>TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規影響 ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」(438ページ) を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>標準設定では、このウィザードは、このページで[次へ]をクリックすると[ウィザードの完了]ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの完了]ページを表示しないようにできます。詳細については、「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・	「[影響ルールグループ]ページ」には次のページが含まれます。
<i><b><i><b>マツ</b></i></b></i>	「[影響ルールのー般属性]ページ」>「[影響ルールベースクエリ]ページ」>「 <b>[影</b> 響ルールグループ]ページ」
関連情報	「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)

UI 要素	詳細
<影響ルールの バンドル>	利用可能なバンドルが表示されます。この影響ルールが含まれているバンドルを 選択します。
	新規影響ルールの場合は, [UCMDB:ルールを UCMDB アプリケーション内で 実行]オプションが標準設定で選択されます。

# 第11章: CI タイプ・マネージャ

本章の内容

CI タイプの概要	442
CI タイプ属 性	443
CI タイプの関係	444
廃止 Cl タイプ	445
システム・タイプ・マネージャ	445
CI タイプの作成方法	446
関係タイプの作成方法	447
計算された関係タイプの作成方法	448
リストと列挙定義の作成方法	449
列挙定義の作成方法 – ワークフロー	450
CI タイプと関係の説明を表示	451
CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース	452

HP Software-as-a-Serviceの顧客に対する注:Clタイプ・マネージャのデータは表示できますが、編集できません。

# CI タイプの概要

構成アイテム(CI)によって, IT インフラストラクチャのハードウェア, ソフトウェア, サービス, ビジネス・プロセス, またはコンポーネントを表すことができます。同様のプロパティを持つCIは, 1つのCIタイプ (CIT)にグループ化されます。それぞれのCITには, CIと関連プロパティを作成するテンプレートがあります。

すべての CI は CI タイプに属 する必要 があります。 CIT の主なカテゴリは次のとおりです。

- ビジネス要素: プロセスや組織グループなど, ビジネスの論理要素に対応する CIT。
- IT プロセス・レコード: IT インフラストラクチャで発生する変更に対応する CIT。
- モニタ: ビジネス環境から収集された入力測定値を処理する CIT。
- 場所:デバイス,企業組織,または職務をサポートする人の場所に対応するCIT。
- パーティ:人または組織などのアクティブなエンティティに対応する CIT。

- Cl コレクション: Cl の論理的な集合。
- インフラストラクチャ要素:ビジネス環境に導入された物理要素(ハードウェアとソフトウェア)に対応するCIT。

[CI タイプ] 表示枠には、CIT が前述のカテゴリの下にツリー構造で整列されます。[CI タイプ] 表示枠でツリーを展開すると、CI タイプ・モデルを参照できます。 左の表示枠で CIT を選択すると、ほかの CIT との潜在的な有効関係とともに、トポロジ・マップに表示されます。

また, ビジネス・ニーズに合わせて, 新しい CIT を定義することもできます。新しい CIT の定義の詳細 については、「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」(460ページ)を参照してください。

# CI タイプ属性

すべての CI タイプには、名前、説明、および標準設定値などを定義する属性があります。 CI タイプ・ ツリーでほかの CIT の下にグループ化された CIT は、上位の CIT から属性を継承します。

新しい CI タイプを定義するときは、まず既存の CIT のリストから基本構成アイテム・タイプを選択しま す。新しい CIT は既存の CIT の属性を継承します。その後、新しい CIT の属性を設定できます。 既存の CIT の属性を編集するには、[CI タイプ]表示枠でツリーから CIT を選択し、トポロジ・マップの[属性]タブを選択します。 CIT 属性の詳細については、「[属性]ページ」(463ページ) を参照して ください。

本項の内容

- 「CI タイプ識 別 メソッド」(443ページ)
- 「CI タイプの命名」(444ページ)

#### CI タイプ識 別 メソッド

作成されたすべての CI には、同じ CI タイプの異なるインスタンスを区別 するために使用される自動 的に生成されるグローバル ID が与えられます。UCMDB は、2 つの CI インスタンスが同じものとして 定義され、その結果 1 つのインスタンスに結合される条件を設定できる識別メソッドを提供します。 たとえば、[**キー属性別**]メソッドは、特定の一致属性により CI を同じにする定義に関与します。 「[詳細]ページ」(461ページ)に説明されている方法で、追加の識別メソッドも選択できます。

[キー属性別]オプションを選択する場合、キー属性として CIT の属性を1つまたは複数指定できま す。キー属性は CIT の識別子として使用されます。CIT のインスタンスを定義する場合、CIT のキー 属性が当該タイプに属する CI の必須フィールドとなります。特定の CIT に必要なだけのキー属性を 割り当てることができます。新しい CIT を定義するとき、または既存の CIT を[キー属性別]に変更す るときにキー属性を割り当てない場合、ウィザードの[修飾子]ページで ABSTRACT_CLASS 修飾 子を選択する必要があります。

その CIT のすべてのインスタンスのキー属性値が一意である場合は,既存の CIT のキー属性を変更 または削除できます。その CIT のすべてのインスタンスのキー属性値が一意である場合は,識別メ ソッドを[キー属性別]に変更できます。選択した変更が同一のキー属性値を持つ CIT の複数のイ ンスタンスを引き起こす場合,エラー・メッセージが CIT のインスタンスは結合されても,アクションが許 可されないことを示します。 識別メソッドを選択する場合, CIT のキー属性を定義することはできませんが, その親 CIT のキー属 性を保持します。これらのキー属性は, そのタイプの CI の必須フィールドであり, 削除できません。こ の識別メソッドでは, 選択した修飾子には制限はありません。

CI タイプの少なくとも1つが共通の祖先 CIT からその識別メソッドを継承する場合は,識別は兄弟 CI タイプにも関連します。たとえば、CI タイプの Router および Switch Router は兄弟 CI タイプ,祖 先 CIT の子孫 Node です。少なくともそれらの1つが識別メソッドとして親から継承された場合は、 識別条件が一致すれば2つのタイプのCI を結合できます。その場合は、結合された CI の CI タイプ は直前に更新された兄弟のCI タイプになります。CI のいずれかに結合された CI の CI タイプに存在 しない属性があった場合は、それらはフィルタにより結合された CI から除外されます。

#### CI タイプの命名

HP Universal CMDB では, CMDB ベース・アプリケーションのエンティティ名 は次の表記規則に従います。

- CIT 属性の値: すべてのプリミティブ型がサポートされています(long, double, float, string など)。
- CIT 属性の値(string型): すべての特殊文字がサポートされています。最大長は4,000文字で す。
- CIT 名: 文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア(_)のみが許可されます。注:
  - 最初の文字を番号にすることはできません。
  - [名前]フィールドでは大文字/小文字を区別しますが,異なるCITに大文字/小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。
  - 最大長は200文字です。
- CIT 属性名: 文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア(_)のみが許可されます。注:
  - 最初の文字は、番号にすることができます。
  - [属性名]フィールドでは大文字/小文字を区別しません。
  - 最大長は200文字です。
- CIT 属性の長さ:1つのCIT内にあるすべての属性値の全長は、Microsoft SQL Serverの制限のために8Kバイトを超えられません。この制限は特定の条件では緩和されます。詳細については、http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms186981.aspx を参照してください。

# CI タイプの関係

関係は、2つのCI間のリンクを定義します。関係はIT環境におけるエンティティ間の依存関係と接続を表します。[CIタイプ]表示枠のドロップダウン・ボックスで関係または計算された関係を選択すると、トポロジ・マップに、選択した関係でリンクされているCITの有効なインスタンスがすべて表示されます。計算された関係の詳細については、「計算された関係の使用」(96ページ)を参照してください。

CIT に定義したのと同じ属性が関係にも定義されます。キー属性も関係に割り当てることができますが、必須ではありません。新しい関係タイプの定義の詳細については、「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」(460ページ)を参照してください。

# 廃止 CI タイプ

今後のバージョンの製品で削除される予定のCIT および関係は,廃止 CIT として認識されます。このような CIT は,ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。廃止 CIT にポイン タを合わせると,代替のCIT など,そのCIT に関する情報を含むツールチップが表示されます。

**注:** 取り消し線は、トポロジ・マップで14ポイント以上のフォント・サイズが選択されている場合のみ表示されます。

モデリング・スタジオの CIT ツリーには廃止 CIT が表示されますが、新規 TQL クエリやビューの作成で は使用しないことをお勧めします。廃止 CIT の代わりに、代替の CIT としてツールチップに表示されて いる CIT を使用してください。廃止 CIT は、定義済みのクエリおよびビューには表示されません。

削除予定のCIT 属性は、廃止属性です。また、これらの属性は、ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。



次の図は,廃止 CIT を含む TQL クエリを表しています。

# システム・タイプ・マネージャ

システム・タイプ・マネージャでは、属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成できます。システム・タイプ・マネージャの詳細については、「[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックス」(482ページ)を参照してください。

次の属性タイプを作成できます。

- **リスト**: 値の定義済みリスト(Location など)を作成できます。
- 列挙:値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。列挙は状態による 重要度値リストとして使用するように設計されています。詳細については、『HP Universal CMDB管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。

重要度リストは次の目的に利用します。

- IT ユニバース・マネージャで影響分析の結果を取得する。詳細については、「IT ユニバース・マネージャ」(176ページ)を参照してください。
- 影響ルールを作成する。詳細については、「影響分析マネージャ」(425ページ)を参照してください。

リストおよび列挙の値は次の目的に利用できます。

- CIT の属性を編集する。詳細については、「CIタイプの作成方法」(446ページ)を参照してください。
- TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義する。詳細については、「[クエリ・ノード / 関係の プロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

# CIタイプの作成方法

このタスクでは, [構成アイテムタイプを作成]ウィザードを使って CIT を作成する場合に従うプロセスを記述します。

本項の内容

- •「前提条件」(446ページ)
- 「CI タイプの定 義」(446ページ)
- 「CI タイプの属性の設定」(446ページ)
- 「CIタイプへの修飾子の割り当て」(447ページ)
- •「CIタイプへのアイコンの割り当て」(447ページ)
- 「CIタイプ・メニューのカスタマイズ」(447ページ)
- 「CIタイプの標準設定ラベルの定義」(447ページ)
- 「一致ルールの定義」(447ページ)
- 1. 前提条件

Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから[Cl タイプ]を選択します。次に, [新規作成] 🔛 をクリックして[構成アイテムタイプを作成]ウィザードを起動します。

2. CIタイプの定義

新しい CI タイプの名前,説明,およびベースの構成アイテム・タイプを入力し,識別メソッドを選択します。詳細については,「[詳細]ページ」(461ページ)を参照してください。

#### 3. CI タイプの属性の設定

新しい CI タイプの属性を編集します。詳細については,「[属性]ページ」(463ページ)を参照し

#### てください。

**注**: リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、 追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、「リストと列挙定義の作 成方法」(449ページ)を参照してください。

#### 4. CIタイプへの修飾子の割り当て

新しい CI タイプの定義に修飾子を割り当てます。詳細については、「[修飾子]ページ」(467 ページ)を参照してください。

#### 5. CIタイプへのアイコンの割り当て

新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。詳細については、「[アイコン]ページ」(470ページ)を参照してください。

#### 6. CIタイプ・メニューのカスタマイズ

新しい CI タイプのショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細 については、「[アタッチメニュー]ページ」(471ページ)を参照してください。

#### 7. CIタイプの標準設定ラベルの定義

Cl タイプ・ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、「[標準設定ラベル]ページ」(474ページ)を参照してください。

#### 8. 一致ルールの定義

必要な場合,新しいCIタイプの一致ルールを定義します。詳細については,「[一致ルール] ページ」(475ページ)を参照してください。

**注:** この手順は, HP Universal CMDB Configuration Manager を実行する顧客に対しての み関連します。

# 関係タイプの作成方法

このタスクでは, [関係を作成]ウィザードを使って関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

本項の内容

- 「前提条件」(448ページ)
- 「関係の定義」(448ページ)
- •「関係の属性の設定」(448ページ)
- •「関係への修飾子の割り当て」(448ページ)

- 「関係メニューのカスタマイズ」(448ページ)
- 「関係の標準設定ラベルの定義」(448ページ)

#### 1. 前提条件

CIタイプ・マネージャで, [CIタイプ]表示枠のリスト・ボックスから[関係]を選択します。次に, [新規作成] ※ をクリックして[関係を作成] ウィザードを起動します。

#### 2. 関係の定義

新しい関係の名前,説明,およびベースのClタイプを入力します。詳細については,「[詳細] ページ」(461ページ)を参照してください。

#### 3. **関係の属性の設定**

新しい関係の属性を編集します。詳細については、「[属性]ページ」(463ページ)を参照してく ださい。

**注:** リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、 追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、「リストと列挙定義の作 成方法」(449ページ)を参照してください。

#### 4. 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照してください。

#### 5. 関係メニューのカスタマイズ

新しい関係のショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、「[アタッチメニュー]ページ」(471ページ)を参照してください。

#### 6. 関係の標準設定ラベルの定義

関係ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、「[標準設定ラベル]ページ」 (474ページ)を参照してください。

# 計算された関係タイプの作成方法

このタスクでは, [計算関係の作成]ウィザードを使って計算された関係タイプを作成する場合に従う プロセスを記述します。

本項の内容

- •「前提条件」(449ページ)
- 「計算された関係の定義」(449ページ)

- 「関係への修飾子の割り当て」(449ページ)
- •「必須のトリプレットの追加」(449ページ)

#### 1. 前提条件

Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから[計算関係]を選択します。次に, [新規作成] 2010 をクリックして[計算関係の作成] ウィザードを起動します。

#### 2. 計算された関係の定義

新しい計算された関係の名前,説明,およびベースのClタイプを入力します。詳細については、「[詳細]ページ」(461ページ)を参照してください。

3. 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照してください。

#### 4. 必須のトリプレットの追加

必要なトリプレットを追加します。詳細については、「[トリプレット]ページ」(469ページ)を参照してください。

### リストと列挙定義の作成方法

本項では、リストおよび列挙定義を作成するタスクについて説明します。

本項の内容

- 「リスト 定義の作成」(449ページ)
- 「列挙定義の作成」(449ページ)
- 1. リスト 定義の 作成

定義済み値の[リスト]定義を作成できます。たとえば、Locationというリスト定義に以下の値が含まれていることがあります。

- New York
- Boston
- Baltimore

詳細については、「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ボックス」(477ページ)を参照してください。

#### 2. 列挙定義の作成

[列挙] 定義を作成し、リストの各値に色を割り当てることができます。詳細については、「[リス

ト/一覧定義の作成/更新]ダイアログ・ボックス」(477ページ)を参照してください。列挙定義の 例については、「列挙定義の作成方法 - ワークフロー」(450ページ)を参照してください。

### 列挙定義の作成方法 – ワークフロー

次の手順で、列挙定義を作成する方法について説明します。

注:必要な結果を取得するには、このタスクの各手順に従う必要があります。

列挙定義を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. [マネージャ]>[モデリング]>[Cl タイプ マネージャ]を選択します。
- 2. メイン・メニューで[Cl タイプ]>[システム タイプ マネージャ]を選択すると、[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3. [追加] 🛃 ボタンをクリックして[リスト 定義の作成] ダイアログ・ボックスを開きます。

**注:** あるいは, [マネージャ]>[管理]>[状態マネージャ]を選択して, [新規列挙]ボタン をクリックすると, [列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4. [**列挙**]を選択します。
- 5. [名前]ボックスで,必要な名前を入力します。
- 6. [表示名]ボックスで,必要な表示名を入力します(任意指定)。

この例では、次の重要度リストを作成する方法について説明します。

+	値	重要度
0	緑	標準
1	オレンジ	重大
2	赤	致命的

- 7. [追加] 🛃 ボタンをクリックして新しい行を作成します。
- 8. [値]ボックスに Normal と入力し, [キー]ボックスに0, と入力します。また, [色] セクションで [緑]を選択します。
- 9. [追加] 🛃 ボタンをクリックして別の行を作成します。
- 10. [値] ボックスに Major と入力し, [キー] ボックスに1と入力します。また, [色] セクションで[オレンジ]を選択します。

- 11. [追加] 🛨 ボタンをクリックして別の行を作成します。
- 12. [値]ボックスに Critical と入力し, [キー]ボックスに 2 と入力します。また, [色] セクションで [赤]を選択します。

次の図は、変更後の[列挙定義]セクションを示しています。

名前: 表示名 タイフ 列挙5	Oper_States G: グ: 〇リスト ④ 3 定義	利挙
*	Normal Major Critical	値: Critical キー: 2 色 〇 ● 緑 〇 ● 薄緑 〇 ● 黄 〇 ● オレンジ ● ● 赤 〇 ■ グレー

13. [OK]をクリックして、変更内容を保存します。

# CI タイプと関係の説明を表示

CI タイプ・マネージャの左表示枠に、利用可能な CI タイプの一覧をツリー形式で表示できます。 「CI タイプ・マネージャ・ページ」(456ページ)で説明しているように、個別の CI タイプをインクリメンタル 検索することができます。特定の CI タイプの詳細を確認するには、ツリーでそのタイプを選択し、トポ ロジ・マップで対応するアイコンの上にポインタを置いたままにします。 CI タイプの説明が記載された ツールチップが表示されます。

関係については、左表示枠で[関係]を選択し、関係の最初の文字でインクリメンタル検索をします。必要な関係を選択し、トポロジ・マップでそのアイコンの上にポインタを置いたままにすると、関係の詳細が記載されたツールチップが表示されます。

CI タイプと関係の詳細については、UCMDB CI タイプと関係情報 PDF を生成できます。詳細については、「[選択した CIT を PDF ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス」(481ページ)を参照してくださ

い。または, [Cl タイプ] 表示枠のツールバーで[**UCMDB クラス モデルの表示**] 🔝 ボタンをクリックすると, UCMDB クラス・モデル・リファレンスにアクセスできます。

# CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

[属性の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス	.452
[関係の追加/削除]ダイアログ・ボックス	.455
Cl タイプ・マネージャ・ページ	.456
構 成 アイテム・タイプ / 関 係 / 計 算 関 係 の作 成	.460
[リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ボックス	.477
[選択した CIT を Excel ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス	.479
[選択したCITをPDF ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス	.481
[システム タイプ マネージャ]ダイアログ・ボックス	482

### [属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい属性を定義して CIT に追加したり、CIT の既存の属性を編集できます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで[属性]タブを選択して[ <b>追加</b> ] 争 ボタンをクリックするか, あるいは属性を選択して[ <b>編集</b> ]ボタンをクリックするか,属性をダブルクリックしま す。
重要情報	[編集] モードでは、変更できないフィールドは使用不可になります。 インスタンスのある CI タイプの場合は、一部のフィールドを編集できません。詳細については、「[属性] ページ」(463ページ)を参照してください。
関連タスク	<ul> <li>「CI タイプの作成方法」(446ページ)</li> <li>「関係タイプの作成方法」(447ページ)</li> </ul>
関連情報	<ul> <li>「CI タイプの概要」(442ページ)</li> <li>「CI タイプ属性」(443ページ)</li> </ul>

[詳細]タブ

UI 要素	詳細
属性名	新しい属性に一意の名前を入力します。文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダー スコア(_)のみが許可されます。注:
	• 最初の文字は、番号にすることができます。
	• [属性名]フィールドでは大文字/小文字を区別しません。
	• 最大長は200文字です。
属性タイプ	次のオプションのいずれかを選択します。
	<ul> <li>プリミティブ:次のフィールド・タイプのいずれかを選択します</li> <li>:boolean, bytes, date number, double number, float number, integer, list of integers, list of strings, long number, string, xml。</li> </ul>
	<ul> <li>列挙/リスト:システム・タイプ・マネージャで定義した列挙およびリストの一覧 が含まれます。詳細については、「システム・タイプ・マネージャ」(445ページ) を参照してください。</li> </ul>
	このオプションによって,定義済みの値で属性を定義できます。たとえば,場 所属性は次の値が含まれた <b>location</b> リストで定義できます :Singapore, Paris, New York。
標準設定値	属性の標準設定値を入力するか選択します。 [標準設定値] フィールドのオ プションは、選択した属性タイプによって異なります。
	注: list of integers または list of strings のプリミティブ属性タイ プを選択すると、複数の値を入力できます。
詳細	新しい属性の詳細を入力します。説明は2,048文字まで使用できます。
	注:このフィールドは省略可能です。
表示名	HP Universal CMDB で識別するために、新しい属性の名前を入力します。
	注:このフィールドは省略可能です。
スコープ	新しい属性の対象範囲(属性が属するクラス・モデル)を選択します。
値のサイズ	新しい属性の最大物理サイズの値を入力します(bytes および string の場 合にのみ利用可能)。

### [詳細設定]タブ

UI要素	詳細
アセット・データ	アセット・レポートに属性値を表示する場合に選択します。
比較可能	この属性は、複合 CI の比較に使用する場合に選択します。
ディスカバリ自動トリム	選択した場合, プローブから送信される結果はトリムされま す。つまり, 結果の冒頭および末尾に空白がないように, 先 頭と末尾のスペースとタブがトリムされます。
ディスカバリ自動短縮	選択すると、STRINGタイプの属性がサイズ制限を超えた場合、ディスカバリにより値が短縮されます。詳細については、 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「サーバサ イドのデータの正規化」を参照してください。
編集可能	属性の将来的な編集を有効にする場合に選択します。 <b>編集可能</b> (または値を持つもの)としてマークされた属性だけが, IT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブに表示されます。
インデックス	属性取得パフォーマンスを高める場合に選択します。このオプ ションは、検索条件で頻繁に使用する属性に利用することを お勧めします。たとえば、IP address は、通常、ノードのイン デックス属性です。
小文字	このオプションを選択すると、属性値が小文字で表示されます。
管理	この指定は HP Universal CMDB Configuration Manager の ユーザのみ関連します。
	<ul> <li>注:</li> <li>この修飾子を特定の属性に選択すると、[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイアログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。</li> <li>[管理対象]は、list of integers または list of strings タイプの属性には適用されません。</li> </ul>
履歴用の追跡ではありません	履歴保存からこの属性を除外する場合に選択します。
パスワード	このオプションを選択すると、属性値がアスタリスク(非表示値)で表示されます。
必須	値がCITを作成するのに必要であり、属性を必須のものとして定義する場合に選択します。
静的	属性を静的属性として定義する場合に選択します。

UI要素	詳細
一意	このオプションを選択すると、 CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要になります。
大文字	このオプションを選択すると、属性値が大文字で表示されます。
更新値ポリシーを使用	この修飾子の詳細については、「更新値ポリシーを使用修飾子」(22ページ)を参照してください。
可視	IT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブにこの属性を表示 する場合に選択します。

#### UCMDB Browser 修飾子

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
CMS Browser Editable	この属性をUCMDB Browser で編集できるようにする場合に選択します。
CMS ブラ <del>ウザ</del> 検索可能	この属性がUCMDB Browser で検索されるように選択します。
CMS ブラ <del>ウザ</del> 可 視	この属性がUCMDB Browser で可視されるように選択します。 [プレビュー モードで可視]フィールドは、属性がUCMDB Browser のプレビュー・ モードで表示されるかどうかを決定します。 [プロパティグループ割り当て]フィールドは、属性が表示されるプロパティ・ウィ ジェット内のグループを決定します。
モデリングで非 表示	[CMS ブラウザ可視]が選択された状態で、[モデリングで非表示]を選択する と、UCMDB BrowserのLightweight Modeling コンポーネントに属性が表示され ません。
検索結果の エクスポートで 非表示	この属性がUCMDB Browser でエクスポートされる検索結果から除外されるように選択します。

# [関係の追加/削除]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIT 間で(物理または論理接続を定義する)標準設定関係または新 しい関係の追加または削除を行います。

利用方法	CI タイプ・マネージャで、1 つまたは2つの CIT を右 クリックして、[関係の追
	<b>加/削除</b> ]を選択します。

重要情報	2 つの CIT 間の関係を追加するときは, CTRL キーを押しながら CIT 名 をクリックしてリンクする 2 つの CIT を選択します。 いずれかの CIT を右 ク リックし, [ <b>関係の追加/削除</b> ]を選択します。
関連情報	•「CI タイプの概 要」(442ページ)
	•「CI タイプの関 係 」( 444ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<クエリ node1 からクエリ	第 1 クエリ・ノードから第 2 クエリ・ノードの方向に追加する関係を
node2>	選択します。
<クエリ node2 からクエリ	第 2 クエリ・ノードから第 1 クエリ・ノードの方向に追加する関係を
node1>	選択します。
関係名	可能性のある関係のリスト。

# CI タイプ・マネージャ・ページ

このページでは、CIタイプ・モデルの情報を表示できます。この情報には、システムで定義されたすべての構成アイテム・タイプ(CIT)および CIT 間の接続を定義する関係に関する定義が含まれています。それぞれの CIT には独自の属性に加えて、親 CIT から継承した属性もあります。

利用方法	ナビゲーション・メニューから[Cl タイプ マネージャ]を選択するか, [マネー ジャ]>[モデリング]>[Cl タイプ マネージャ]を選択します。
重要情報	CI タイプ・マネージャは次の表示枠で構成されています。
	• CI タイプ: CI タイプと関係の階層リストが表示されます。 CIT の横に表示される数値は, CMDB に存在するその CIT のインスタンス数を示します。
	<ul> <li>トポロジ マップ:システムの CIT と関係のトポロジ・マップが表示されます。</li> </ul>
関連タスク	•「CI タイプの作成方法」(446ページ)
	•「関係タイプの作成方法」(447ページ)
	• 「計算された関係タイプの作成方法」(448ページ)

関連情報	● 「CI タイプの概 要」(442ページ)
	●「CI タイプ属性」(443ページ)
	● 「CI タイプの関 係 」( 444ページ)
	● 「廃止 CI タイプ」(445ページ)
	<ul> <li>●「CIタイプと関係の説明を表示」(451ページ)</li> </ul>
	• 「CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース」(452ページ)

#### ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
*	新規作成: [構成アイテムタイプを作成]ウィザードを開いて,新しい Clタ イプを定義できます。詳細については,「構成アイテム・タイプ/関係/計算 関係の作成」(460ページ)を参照してください。
*	<b>削除:</b> 選択した CI タイプまたは関係を削除します。このオプションは,子も インスタンスもない CI タイプにのみ利用できます。
	<b>注</b> : CI タイプまたは関係を削除すると、その CI タイプや関係に依存す るすべてのリソースも削除されます。 [ <b>削除</b> ]をクリックすると、 [削除の 確認]ダイアログ・ボックスに依存するリソースの各タイプに対するリンク が表示されます。 リンクをクリックすると、依存リソースが表示されます。 依存リソースにはクエリ、ビュー、レポート、エンリッチメント、または影響 ルールが含まれます。
S	更新:ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造の データ内容が更新されます。
	保存:CIタイプに行った変更を保存します。
Ref.	XML からインポート:外部ファイルから CIT をインポートできます。
	XML ヘエクスポート: CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。この オプションは, サーバ間で移動するのに使います。
<b>E</b>	<b>クラス・モデルのエクスポート</b> : CIT をエクスポートできます。 エクスポート形式 を選択します。 次のオプションを使用できます。
	• <b>PDF</b> : テーブルのデータは, PDF 形式 でエクスポートされます。
	• XLS:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファ イル形式に整形されます。

UI要素	詳細
8	UCMDB クラス・モデルの表示:[Class Model Reference]が開きます。これには、クラス・モデル内のすべてのパッケージ、CIタイプ、関係に関する情報が含まれています。
<ci タイプ="" 関係<br="">ボックス&gt;</ci>	次のオプションのいずれかを選択します。
	• CI タイプ: CIT モデルの CI タイプが表示されます。
	• 関係: CIT モデルの関係が表示されます。
	• 計算関係: CIT モデルの計算された関係が表示されます。

UI要素	詳細		
<編集表示枠>	次のタブを利用できます。		
	• CI タイプの依存関係: CIT とその関係を含めて, CI タイプ・モデルをトポロジ・マップに表示します。選択した CI タイプまたは関係の名前が,表示枠の最上部にある境界線に表示されます。CIT をポイントすると、 ツールチップに CIT の表示名 とその説明が表示されます。		
	• 詳細: 左の表示枠で選択した CI タイプに関する基本情報を編集できます。詳細については、「[詳細]ページ」(461ページ)を参照してください。		
	• 属性: 選択した CIT の属性を編集できます。詳細については、「[属性]ページ」(463ページ)を参照してください。		
	• 修飾子:修飾子は選択した CIT に割り当てることができます。詳細に ついては、「[修飾子]ページ」(467ページ)を参照してください。		
	<ul> <li>トリプレット:計算された関係を作成できます。詳細については、「[トリ プレット]ページ」(469ページ)を参照してください。このタブは計算された 関係にのみ表示されます。</li> </ul>		
	<ul> <li>アイコン:アイコンは選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、「「アイコン」ページ」(470ページ)を参照してください。このタブは、関係に対しては表示されません。</li> </ul>		
	<ul> <li>アタッチ・メニュー :メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URL を開くなど)を追加して、CIのショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右 クリックすると表示されます。詳細については、「[アタッチメニュー]ページ」(471ページ)を参照してください。</li> </ul>		
	• 標準設定ラベル: CIT ラベルに表示される属性を定義できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。詳細については、「[標準設定ラベル]ページ」(474ページ)を参照してください。		
	<ul> <li>一致ルール: HP Universal CMDB Configuration Manager で使用する 一致ルールを定義できます。詳細については、Configuration Manager ドキュメントを参照してください。このタブは関係に対してのみ表示され、UCMDB が Configuration Manager で実行されている場合にのみ 表示されます。</li> </ul>		
<メイン・メニュー>	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。		
<ツールバー>	詳細については、「ツールバー・オプション」(163ページ)を参照してください。		

UI要素	詳細
[Cl タイプ]表示枠	CIT 間の継承関係が含まれる, CMDB で各 CIT のインスタンスの数を表示する CI タイプ・モデルの階層 ツリー構造です。 CI タイプ・モデルに含まれているすべての CIT は, CIT または関係に分類されます。トポロジ・マップで選択した CIT の関係および隣接項目をドリル・ダウンして表示できます。インクリメンタル検索で CIT または関係のリストを検索するには、必要な選択に達するまで, CIT または関係の先頭文字を繰り返し入力します。また、フル・ネームを入力しても、 CIT または関係を検索できます。

#### ショートカット・メニュー

CI タイプ・マネージャには、 [CI タイプ] 表示枠または依存関係マップで CI タイプを右クリックすると利用できる、次のオプションが含まれています。

UI要素	詳細
関係の追加/削除	[関係の追加/削除]ダイアログ・ボックスを開いて, CIT に関係を追加した り削除したりできます。詳細については,「[関係の追加/削除]ダイアロ グ・ボックス」(455ページ)を参照してください。
選択した項目の削 除	選択した CI タイプを削除します。 このオプションは,子もインスタンスもない CI タイプにのみ利用できます。
	<b>注</b> : CI タイプまたは関係を削除すると、その CI タイプや関係に依存す るすべてのリソースも削除されます。 [ <b>選択した項目の削除</b> ]を選択す ると、 [削除の確認]ダイアログ・ボックスに依存するリソースの各タイプ に対するリンクが表示されます。 リンクをクリックすると、依存リソースが 表示されます。 依存リソースにはクエリ、ビュー、レポート、エンリッチメン ト、または影響ルールが含まれます。
XML ヘエクスポート	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。このオプションは,サーバ間 で移動するのに使います。
新規作成	[構成アイテムタイプを作成]ウィザードを開いて,新しい CI タイプを定義 できます。詳細については,「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作 成」(460ページ)を参照してください。
CIT インスタンスを表 示	[CI インスタンス]ダイアログ・ボックスが開き,選択した CIT のすべてのインス タンスが表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイアログ・ボック ス」(63ページ)を参照してください。

# 構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成

このウィザードでは、新しい構成アイテム・タイプまたは関係を定義できます。

利用	Cl タイプ・マネージャのトポロジ・マップまたは[Cl タイプ]表示枠で Cl タイプまたは関係
万法	をクリックして, [Cl タイプ]表示枠で[新規作成]を選択するか, [新規作成] 🏁 ボタン をクリックします。
関連	•「CI タイプの作成方法」(446ページ)
329	• 「関係タイプの作成方法」(447ページ)
	• 「計算された関係タイプの作成方法」(448ページ)
ウィ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
ヮー ド・ マップ	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレット]ページ」>「[ア イコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラベル]ページ」>「[一致ルー ル]ページ」
関連	• 「CI タイプの概 要」( 442ページ)
1月 书区	• 「CI タイプ属性」(443ページ)
	• 「CI タイプの関 係」( 444ページ)

[構成アイテムタイプを作成]ウィザードには、次のページが含まれています。

- •「[詳細]ページ」(461ページ)
- •「[属性]ページ」(463ページ)
- [[修飾子]ページ」(467ページ)
- 「[トリプレット]ページ」(469ページ)
- 「[アイコン]ページ」(470ページ)
- 「[アタッチメニュー]ページ」(471ページ)
- •「[標準設定ラベル]ページ」(474ページ)
- 「[-致ルール]ページ」(475ページ)

### [詳細]ページ

このウィザード・ページでは、定義する新しい CI タイプに関する基本情報を入力できます。

**重要情報** [構成アイテムタイプを作成]ウィザードの一般情報については、「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」を参照してください。

ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「【詳細】ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレット] ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラ ベル]ページ」>「[一致ルール]ページ」

UI要素	詳細
ベースの Cl タイプ	作成する CIT のベース CIT を選択します。 新しい CIT はベース CIT の属 性を継承します。
	<b>注</b> :このフィールドは[構成アイテムタイプを作成]ウィザードにのみ表示 されます。 CI タイプ・マネージャの[詳細]タブで既存の CIT を編集する 場合は関係ありません。
作成者	新しいCITを作成したユーザです。
	注:このフィールドは省略可能です。
説明	新しい CIT の説明です。説明は 2,048 文字まで使用できます。
	注:このフィールドは省略可能です。
表示名	CIT がHP Universal CMDB インタフェースに表示されるときの名前です。
	注:このフィールドは省略可能です。

UI 要素	詳細
ID	定義されているすべての新規のCIには、CMDB ID とglobal_id プロパティに 基づいた ID があります。選択した CIT のインスタンスに対する追加の識別 メソッドも設定できます。次のオプションを利用できます。
	• キー属性別: [利用可能な属性]表示枠から属性を選択し, [選択された属性]表示枠に移動します。これらの属性は, CITキー属性として定義されます。すべてのキー属性に一致する値を持つ CIT のインスタンスが1つのインスタンスに結合されます。
	<ul> <li>識別ルール別:XML 識別ルールを定義するには、[編集]ボタンをクリックします。XML 識別ルールの例については、『HP Universal CMDBデータ・フロー管理ガイド』の識別ルールの作成方法を参照してください。</li> </ul>
	• 親から継承: CIT は,親 CIT として同じ識別メソッドを使用します。
	• ID なし: 追加の識別メソッドはありません。
	注:関係の場合は、[キー属性別]オプションのみを利用できます。
Name	注:関係の場合は、 [キー属性別]オプションのみを利用できます。 新しい CIT の一意の名前です。文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア (_)のみが許可されます。注:
Name	注:関係の場合は、[+→属性別]オプションのみを利用できます。 新しい CIT の一意の名前です。文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア (_)のみが許可されます。注: • 最初の文字を番号にすることはできません。
Name	<ul> <li>注:関係の場合は、[+-属性別]オプションのみを利用できます。</li> <li>新しい CIT の一意の名前です。文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア (_)のみが許可されます。注:</li> <li>最初の文字を番号にすることはできません。</li> <li>[名前]フィールドでは大文字/小文字を区別しますが、異なる CIT に 大文字/小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。</li> </ul>
Name	<ul> <li>注:関係の場合は、[キー属性別]オプションのみを利用できます。</li> <li>新しい CIT の一意の名前です。文字はa-z, A-Z, 0-9 およびアンダースコア (_)のみが許可されます。注:</li> <li>最初の文字を番号にすることはできません。</li> <li>[名前]フィールドでは大文字/小文字を区別しますが、異なる CIT に 大文字/小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。</li> <li>最大長は 200 文字です。</li> </ul>

### [属性]ページ

このウィザード・ページでは, CIT タイプの属性を編集できます。

重要情報	各属性には、その名前、表示名、タイプ、説明、標準設定値が表示され た列があります。また、各属性修飾子用の列があります。チェック・マークは、 修飾子が選択されていることを示します。
	[編集]ボタンをクリックして、属性の詳細と修飾子を編集します。インスタン スのある CI タイプの場合は、[CIT インスタンスがある場合は修飾子を変更 できます]列に表示されるように、一部の修飾子は変更できません。インスタ ンスがある CI タイプに選択した属性の修飾子が変更されると、各 CI インス タンスの属性はそれに応じて変更されます(たとえば、[可視]属性が選択 されると、CI インスタンスは IT ユニバース・マネージャで可視になります)。

ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ / 関係 / 計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「 <b>[属性]ページ」</b> >「[修飾子]ページ」>「[トリプレット] ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラ ベル]ページ」>「[ー致ルール]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細	修飾子は, CIT インス タンスがある場合は変 更できます。
4	追加:新しい属性を定義できます。詳細については、「[属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス」(452ページ)を参照してください。	該当なし
	編集:[属性の編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細 については,「[属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス」 (452ページ)を参照してください。	該当なし
	<b>注:</b> CIT の親の属性を変更すると、テキストが明るい青になります。CIT 自体の属性を変更した場合、テキストは濃い青のままです。	
×	<b>削除:</b> 選択した属性を削除します。このオプションは、新たに定義した属性に対してのみ使用できます。	該当なし
$\bigcirc$	<b>リセット :</b> 既存の属性を編集した後で,属性の設定をリセットします。	該当なし
	カラムの選択:[カラムの選択]ダイアログ・ボックスを使用して,表示するカラムを選択します。詳細については,「[カラムの選択]ダイアログ・ボックス」(523ページ)を参照してください。	該当なし
<属性>	新しい CIT と関連する属性をすべて表示します。黒で表示 される属性は、新しい CIT が基本 CIT から継承した属性 です。濃い青で表示される属性は、新しい CIT とその子孫 専用の属性です。明るい青で表示される属性は、新しい CIT で変更された継承属性です。	該当なし

UI 要素	詳細	修飾子は, CIT インス タンスがある場合は変 更できます。
アセット・ データ	属性値がアセット・レポートに表示されるかどうかを示しま す。詳細については、「アセット・レポート」(342ページ)を参 照してください。	<i>(</i> よい
	注: この修飾子を特定の属性に選択すると、[CI イン スタンス]ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして 表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイ アログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。	
CMS Browser Editable	この属性がUCMDB Browser で編集可能かどうかを示します。	はい
CMS ブラ ウザ検索 可能	この属性がUCMDB Browser で検索可能かどうかを示します。	はい
CMS ブラ ウザ可 視	この属性がUCMDB Browser で可視かどうかを示します。	はい
比較可 能	この属性が, 複合 CI の比較に使用されるかどうかを示しま す。詳細については、「CI 比較レポート」(357ページ)を参 照してください。このような属性の値の変更は, 履歴に保存 されます。	はい
	注: この修飾子を特定の属性に選択すると、[CI イン スタンス]ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして 表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイ アログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。	
標準設 定値	属性の標準設定値です。この値が表示されるのは、新しい CITを定義したのに、属性の実行時の値がない場合です。	該当なし
詳細	属性の詳細です。	該当なし
ディスカバ リ自動トリ ム	プローブから送信される結果がトリムされているかどうかを示 します。	はい
ディスカバ リ自動短 縮	STRING タイプの属性に対して自動短縮機能が有効になっているかどうかを示します。	はい
表示名	HP Universal CMDB インタフェースに表示される属性名です。	該当なし

UI 要素	詳細	修飾子は, CIT インス タンスがある場合は変 更できます。
編集可 能	属性を編集できるかどうかを示します。	はい
	<b>編集可能</b> (または値を持つもの)としてマークされた属性だけが, IT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブに表示されます。	
インデック ス	属性がインデックス属性として定義されているかどうかを示します。 インデックス属性として定義されていると、属性取得パフォーマンスが高まります。	はい
	このオプションは, 検索条件で頻繁に使用する属性に利用 することをお勧めします。たとえば, IP address は, 通常, ノードのインデックス属性です。	
+	属性がキー属性として定義されているかどうかを示します。	はい
	<b>注:</b> このカラムは、 [キー属性別]が識別メソッドとして選択されているときにのみ関連します。	
小文字	属性値を小文字のままにするかどうかを示します。	はい
管理	この指定は HP Universal CMDB Configuration Manager の ユーザのみ関連します。	はい
	注: この修飾子を特定の属性に選択すると、[CI イン スタンス]ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして 表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイ アログ・ボックス」(63ページ)を参照してください。	
名前	属性の実際の名前(表示名とは異なる名前)です。名前 は英語である必要があります。	該当なし
履歴用の 追跡では ありません	この修飾子を所定の属性に選択すると、属性は履歴によってモニタリングされません。	はい
必須	属性が、値がCITの作成に必要な必須属性として定義されているかどうかを示します。	インスタンスの属性が 空でない場合のみ
静的	属性が静的属性として定義されているかどうかを示します。	なし
タイプ	属性のタイプです。	該当なし
UDM ス コープ	属性がUDM クラス・モデルに含まれるかどうかを示します。	なし

UI要素	詳細	修飾子は, CIT インス タンスがある場合は変 更できます。
一意	属性が, CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要な, 一意の属性として定義されているかどうかを示します。	なし
大文字	属性値を大文字のままにするかどうかを示します。	はい
可視	属性がIT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブに表示されるかどうかを示します。	はい

### [修飾子]ページ

このウィザード・ページでは、修飾子をCITタイプの定義に割り当てることができます。

重要情報	修飾子によって, CIT に追加属性を定義できます。[修飾子]リストで, [追加]ボタンを使って必要な修飾子を選択し,選択したものを[構成アイ テムタイプ修飾子]リストに移動します。複数の選択を行う場合は, Ctrl キーを押したままにします。
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「 <b>[修飾子]ページ」</b> >「[トリプレット] ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラ ベル]ページ」>「[一致ルール]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
m	すべての修飾子を[ <b>構成アイテムタイプ修飾子</b> ]リストに移動します。
\$	選択した修飾子を[ <b>構成アイテムタイプ修飾子</b> ]リストに追加します。複数の修飾子を選択するには、CTRL キーを押しながら選択します。
\$	選択した修飾子を[構成アイテムタイプ修飾子]リストから削除します。
	すべての修飾子を[ <b>構成アイテムタイプ修飾子</b> ]リストから削除します。
挿入	新しいカスタム修飾子を定義するには、テキスト・ボックス修飾子名を入力して、 [ <b>挿入</b> ]をクリックします。修飾子が[ <b>構成アイテムタイプ修飾子</b> ]リストに表示されます。
<構成アイテム・タ イプ修飾子>	新しい CIT の属性を定義する修飾子のリストです。たとえば,修飾子を使っ て, CIT を抽象 CIT として定義できます。 つまり, この CIT からはインスタンスを 作成できません。

UI 要素	詳細
<修飾子>	使用できる修飾子オプションのリスト。
ABSTRACT_ CLASS	この CIT のインスタンスは作 成 できません。
BLE_LINK_ CLASS	HP Business Service Management にのみ関連します。
CONTAINER	この修飾子は, Membership(メンバシップ), Composition(コンポジション), Containment(コンテインメント)など, 包含関係を表す関係に割り当てられます。
HANDLER	HP Business Service Managementにのみ関連します。
HIDDEN_ CLASS	この CIT のインスタンスは, アプリケーションのどこにも表示されません。
MAJOR_APP	この修飾子が割り当てられた CI タイプは、[アプリケーションブレークダウン]カ スタム・レポートに表示されます。詳細については、「アプリケーション・ブレークダ ウン・レポート」(338ページ)を参照してください。
MODELING_ ENABLED	CIT をモデリング・スタジオのモデルとして機能させることができます。詳細については、「ビジネス CI モデル」(243ページ)を参照してください。 注: この修飾子は、CI タイプの子孫の構成 アイテムである CI タイプにのみ選択できます。
NETWORK_ DEVICES	ネット ワーク・デバイスを表す, すべての CI タイプに共通の修飾子です。 ネット ワーク・デバイスに関連する TQL クエリに使用でき, クエリの CI タイプの代替と して機能します。
PM_SUSPECT	HP Business Service Management にのみ関連します。
READ_ONLY_ CLASS	この CIT は編 集 できません。
RECURSIVE_ DELETE	関係に適用されます。関係の一方の端で CI が削除されると、システムにより 関係の他端の CI がチェックされます。ほかのどの CI とも関係付けられていない場合、この CI も削除されます。 注: この修飾子はモデリング・スタジオの修飾子一覧にのみ表示されます。
STRONG_ CONTAINMENT	関係に適用されます。 end2の root_container 属性に end1の ID が割り当て られたことを示します。
## [トリプレット]ページ

このウィザード・ページでは,計算された関係を作成できます。[トリプレット]ページの各行は,トポロ ジ・マップでソース CI からターゲット CI に至るパスで許容される手順の1つを示します。

注: ウィザードのこの手順は,計算された関係にのみ関連があります。

重要情報	• このページは、[Cl タイプ]表示枠のドロップダウン・ボックスで[計算関係]を 選択した場合に表示されます。
	<ul> <li>計算された関係の詳細については、「計算された関係の使用」(96ページ)</li> <li>を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>[構成アイテムタイプを作成]ウィザードの一般情報については、「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」(460ページ)を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ / 関係 / 計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」> <b>「[トリプレット]</b> ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラベ ル]ページ」>「[一致ルール]ページ」
関連情報	「計算された関係の使用」(96ページ)

UI 要素	詳細
+	追加:計算された関係でソース CI からターゲット CI に至るトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義できます。 [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「 [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックス」(60ページ)を参照してください。
	編集:トリプレットを編集できます。 [トリプレットの編集]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「 [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックス」(60ページ)を参照してください。
×	削除:選択したトリプレットを削除します。
関係	2 つのクエリ・ノードを接続するのに必要な関係です。
関係の方向	関係のソースおよびターゲットです。 • ➡ 方向は、ソースからターゲットです。
	• 🔚 方向は, ターゲットからソースです。

UI 要素	詳細
ソース	必須のソース・クエリ・ノードです。
ターゲット	必須のターゲット・クエリ・ノードです。

## [アイコン]ページ

このウィザード・ページでは、新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。

注: ウィザードのこの手順は、関係には関連がありません。

重要情報	それぞれの CIT は標準設定 アイコンで表示されます。ただし、一定の条件が当てはまる場合は、同じ CIT に異なるアイコンを添付できます。たとえば、属性値の1 つが変わると、同じ CIT に別のアイコンを結び付けることができます。
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレット] ページ」>「 <b>[アイコン]ページ」</b> >「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定ラ ベル]ページ」>「[ー致ルール]ページ」

UI要素	詳細
+	<b>アイコン機能を追加</b> :行を追加します。
	<b>注: [構成アイテムタイプのアイコンを, その属性値に応じて変更する</b> ]を選択した場合にのみ使用できます。
×	<b>アイコン機能を削除</b> :選択した行を削除します。
	<b>注: [構成アイテムタイプのアイコンを, その属性値に応じて変更す</b> る]を選択した場合にのみ使用できます。
属性	CIT に割り当てるアイコンを決める属性を選択します。

UI要素	詳細
構成アイテム・タイプ のアイコンを,その属 性値に応じて変更 する	各属性値にアイコンを割り当てることができます。たとえば、City属性に2 つの値を定義できます。City=Londonの場合は、あるアイコンが表示され ます。City=Beijingの場合は、別のアイコンが表示されます。
	<b>注:</b> 既存のビューに表示される CIT のアイコンを変更しても、その ビューでは CIT のアイコンが更新されません。
構 成 アイテム・タイプ・ メイン・アイコン	CIT が属 するグループを選 択します。
アイコン	[値]カラムに入力した値と関連付けるアイコンを選択します。
值	選択した属性に対応する値を入力します。入力する各値ごとに新しい行 を追加できます。

### [アタッチメニュー]ページ

このウィザード・ページでは、メニュー項目とコマンド(ping、プログラムの実行、URLを開くなど)を追加 して、CIのショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、ITユニバース・ マネージャで CIインスタンスを右クリックすると表示されます。

重要情報	CIT にメソッドが明確に定義されていない場合,そのCIT はメソッドが定 義されている親 CIT または最も近い祖先からすべてのメニューを継承しま す。
	メニューを作成したり変更すると、編集する特定のCIT にのみ変化が起こ ります。
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次の項目が含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレッ ト]ページ」>「[アイコン]ページ」> <b>「[アタッチメニュー]ページ」</b> >「[標準 設定ラベル]ページ」>「[ー 致ルール]ページ」

UI 要素	詳細
<b>+</b>	ツリーからメニュー項目を選択して, このボタンをクリックします。選択した項目の下に, 新しいエントリが表示されます。
×	クリックすると、メニュー項目が削除されます。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで上に移動します。
w.	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで下に移動します。

UI要素	詳細
<ツリー>	標準設定メニュー項目が含まれている階層ツリー。
	<b>注意</b> :標準設定メニュー項目の定義を編集するのはお勧めしま せん。
コマンド	World Wide Web 上の特定の位置に接続するには、URLを選択し、 正確なインターネット・アドレス(たとえ ば、http://www.hp.com/go/software)を入力します(URL コマンド・ タイプ・オプションを選択した場合にのみ使用できます)。
	注: [コマンド] フィールドで変数を使用する場合は, command name %1 という形式を使って,「パラメータ」(473ページ)で説明し ているように CIT 属性を定義します。リストでの順番に従って, %1 がパラメータ値に置換されます。たとえば, %1 はリストの最初のパ ラメータに置換され, %2 はリストの2番目のパラメータに置換され るというようになります。
詳細	メソッドの詳細を入力します(これは内部でのみ使用され,メニューに は表示されません)。
既存メソッド	IT ユニバース CIT およびすべての祖先から継承した定義済みメソッド のリストからコマンドを選ぶ場合に選択します。
アイコン	ショートカット・メニューでメニュー・オプションの横に表示されるアイコンを 選択します。
	<b>注:</b> このフィールドは省略可能です。
メニュー項目名	新しいメニュー項目がメニューに表示されるときの名前を入力します。
メソッド	メニューにコマンドを追加 できます。
	<b>注:</b> メソッドを作成し, 既存のメソッドを上書きしないようにするには, 新しいメニュー項目を作成し, そこに新しいメソッドを配置することをお勧めします。
メソッド名	コマンドの名前を入力します。
新規メソッド	メニュー項目にアクション(pingなど)を追加する場合に選択します。

UI要素	詳細
パラメータ	コマンドまたは URL に属性を追加するには,[パラメータの追加]ボタン をクリックして,リストから属性を選択します。
	既存のエントリを削除するには、そのエントリを選択して、 [パラメータの 削除]ボタンをクリックします。
	<b>注:</b> 内部プロセスを選択していないと、パラメータは関連しません。
ユーザの確認を求める	項目が表示される前に, ユーザがメニュー項目へのアクセスを確認する チェック・ボックスを選択します。
セパレータ	2 つのメニュー項目間にセパレータを配置するには、次のとおりにします。
	[OK]をクリックすると, 選択したメニュー・オプションの下にセパレータが 配置されます。
ショートカット	任意のキーの組み合わせを押して、メニュー項目のショートカット (CTRL+hなど)を作成します。
	注:このフィールドは省略可能です。
サブメニュー	選択したメニュー・オプションの下にサブメニューを作成する場合に選択 します。
	×     川除     メモを追加       調達 CI を取得     メモを追加       アクション     メニュー

UI要素	詳細
タイプ	次のコマンド・タイプを選択します。
	• URL:指定したURLのWebページを開きます。コマンドでURL ボックスに開かれるWebページのURLを入力します。
	• Inner Process: 内部のHP Universal CMDB アクションをトリガし ます。 アクションのドロップダウン・リスト からアクションを選択します。
	• Execute: 実行可能アクションをトリガします。 [実行可能]ボックス に実行可能コマンドを入力します。
	<b>注: [実行可能</b> ]ボックスで, 実行可能ファイルの名前のみを 入力します(たとえば, notepad.exe など)。実行可能ファイル にパスを入力しないでください。パスは, プログラムを実行できま せん。

### [標準設定ラベル]ページ

このウィザード・ページでは、 CIT タイプ・ラベルに表示される属性を編集できます。 複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。

重要情報	ラベルは、[Clタイプ属性]表示枠で属性を選択して[形式]表示枠に追加し、[形式]表示枠の演算子を使用してそれらをつなげて作成します。
	ラベルは新しい CI タイプの CI の下 にタイト ルとして表示されます。 ラベルの 定義は、さまざまな属性値を含めるようにカスタマイズできます。 たとえ ば、 Node CIT の機能ラベルはホスト名とネットワークで構成され、表示され るラベルはserver1 10.0.65.0のようになります。
	ラベルは正規表現を使って作成することもできます。
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレット] ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定 ラベル]ページ」>「[一致ルール]ページ」(475ページ)

UI要素	詳細
+	選択した属性を追加:選択した属性が[形式]表示枠に追加されます。
0	<b>括弧:</b> 書式設定されたテキストに丸括弧を追加します(ほかの機能と併用します)。

UI要素	詳細
&	And:書式設定されたテキストの2つの属性間にAND演算子を置きます。たとえば、network_netaddr&network_domainでは、クエリ・ノードのネットワーク・アドレスとドメインが表示されます。
l .	Or:書式設定されたテキストの2つの属性間にOR演算子を置きます。
ſ	<b>正規表現</b> : ラベルの定義に(正規表現構文を使用して)正規表現を追加します。エントリの構造は (v1, v2, v3)のようになります。ここで, v1 は選択した属性, v2 は正規表現自体(値がグループに分割されます), v3 は選択したグループの番号を示します。
	たとえば,選択した属性が名,スペース,および姓で構成される名前の場合,正規表現は (name, (\S*)(\S*), 3) となります。つまり,姓は 標準設定ラベルの名前属性に使用できます。
	正規表現構文の使い方の例については、「正規表現の例」(526ページ) を参照してください。
5	<b>取り消す:</b> 最後に行った変更を元に戻します。
2	やり直す:最後に行った操作を繰り返します。
4	クリア:[形式]表示枠がクリアされます。
Q	<b>標準設定に戻す:</b> 標準設定を戻します。
CI タイプ属性	CIT ラベルに含める属性の利用可能なオプションを表示します。
CI タイプ・ラベル定 義 形 式	CIT ラベルに表示するために選択した属性を表示します。
	たとえば、ノードにホスト名とオペレーティング・システムのラベルを付けるには、host_hostname および host_os 属性を選択します。 CIT ラベルは host1 UNIX のようになります。
	条件は AND とOR の組み合わせを使って定義できます。
	<b>注: [形式</b> ]表示枠から属性を削除するには、その属性を強調表示して、 Delete キーを押します。

## [一致ルール]ページ

このウィザード・ページでは, HP Universal CMDB Configuration Manager で使用するための比較可能な属性の一致ルールを定義できます。

重要情報	このページは, Configuration Manager をインストールしている場合にのみ関 連します。 一致ルールの詳細については, Configuration Manager ドキュメ ントを参照してください。
	<b>注:</b> インフラストラクチャ設定マネージャで,[Configuration Manager 一致ルールを有効化]設定をTrueに設定して,[一致ルール]ページ を手動でアクティブ化します。
ウィザード・マップ	「構成アイテム・タイプ/関係/計算関係の作成」には次のページが含まれます。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[トリプレット] ページ」>「[アイコン]ページ」>「[アタッチメニュー]ページ」>「[標準設定 ラベル]ページ」>「[一致ルール]ページ」

UI要素	詳細
<b>&gt;</b>	選択した比較可能な属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一 致する必要がある属性]表示枠に移動します。複数の属性を選択するに は, CTRL キーを押しながら選択します。
<	選択した属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要が ある属性]表示枠から削除します。
	すべての属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要があ る属性]表示枠に移動します。
<b></b>	すべての属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要がある属性]表示枠から削除します。
♠ ₩	上および下ボタンを使用して、一致ルールの順序を設定します。
比較可能な属性	選択した CI タイプのすべての属性のリスト(比較可能修飾子を選択した 状態)。
ー 致 ルールの優先 度	定義された優先度に応じて、選択した属性がConfiguration Managerで 使用されて、一致ルールが満たされているかどうかを判断します。
ー 致 する必 要 があ る属 性	コンポーネント CI の選択した属性の値は、複合 CI どうしを比較する場合 に、Configuration Manager の一致ルールを満たすために一致する必要が あります。
	必要な一致属性を指定する場合に,Wildcards ワイルドカードは使用で きません。完全一致が見つからない場合は、コンポーネント CI は比較され ません。

# [リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,新しいリストまたは列挙を定義できます。作成したリストまたは列挙の 定義は,[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックスに表示され,必要に応じて編集できます(詳 細については,「[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックス」(482ページ)を参照してください)。

利用方法	[システム タイプ マネージャ]ダイアログ・ボックスで[追加] ᠯ ボタンをクリック します。
重要情報	状態マネージャからも[列挙定義の作成]および[列挙定義の更新]ダイア ログ・ボックスにアクセスできます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。
関連タスク	•「リストと列挙定義の作成方法」(449ページ)
	•「列挙定義の作成方法 - ワークフロー」(450ページ)
関連情報	• 「システム・タイプ・マネージャ」(445ページ)
	<ul> <li>「[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックス」(482ページ)</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示名	システム・タイプ定義のリストに表示する名前を入力します。 このフィールド を空のままにすると、 [名前]フィールドのエントリが使用されます。
列挙	値の定義済みリストを作成し,各値に色を割り当てることもできます。詳 細については,「[列挙定義]領域」(478ページ)を参照してください。
リスト	値の定義済みリストを作成できます。詳細については、「[リスト定義]領 域」(477ページ)を参照してください。
名前	属性に一意の名前を入力します。

### [リスト定義]領域

この領域では、値の定義済みリストを作成できます。

利用方法	[リスト/列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスで[リスト]を選択します。
重要情報	たとえば, Location属性は、次の値が含まれた場所リストで定義できます。
	New York
	Boston
	Baltimore

UI要素	詳細
+	<b>追加:</b> リストの定義を追加します。行内をダブルクリックして,表示されたカレンダーから日付を選択するか([日付]タイプを選択した場合),必要な値を入力します。
×	[削除]:選択したリスト定義を削除します。
₽↓	<b>ソート</b> :リストをアルファベット順に並べ替えます。
タイプ	次のフィールド・タイプのいずれかを選択します。 <ul> <li>日付</li> <li>倍精度</li> <li>整数</li> <li>4倍精度</li> </ul>
	• 又子列

含まれている要素は次のとおりです(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

### [列挙定義]領域

この領域では、すべての値に色を割り当てる機能などを使って、値の定義済みリストからリストを作成できます([リスト]と同様)。

利用方法	[リスト/列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスで[ <b>列挙</b> ]を選択します。
重要情報	列挙は状態による重要度値リストとして使用するように設計されていま す。キー値を必要とするリストには列挙を使用できます。
	<ul> <li>注:</li> <li>既存の列挙定義がCIT属性の標準設定値として指定されている場合,その値を変更することはできません。</li> <li>既存の列挙定義の値を変更すると,選択した値の属性を含むそのCITのすべてのCIインスタンスがその属性の標準設定値にリセットされます。</li> </ul>
関連情報	「列挙定義の作成方法 – ワークフロー」(450ページ)

UI 要素	詳細
+	<b>追加:</b> 列挙定義を追加します。
×	[削除]:選択した列挙定義を削除します。
色	重要度を示す色を選択します。
	<b>注:</b> 灰色は、タイプ[管理]の列挙を作成するときにのみ有効になります。
+	カテゴリの重要度リストを記述する数字を入力して,列挙を作成します。
	次のルールに従って、キー値を割り当てます。
	<ul> <li>キー値のリストは、必ずゼロ(0)から始める必要があります(ゼロは標準状態を示します)。そうしないと、状態マネージャにリストが表示されません(詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください)。</li> </ul>
	<ul> <li>リストは必ず連続してナンバリングする必要があります。</li> </ul>
	列挙定義の例については、「列挙定義の作成方法 - ワークフロー」(450 ページ)を参照してください。
值	文字列または数字の値(Red やmy value など)を入力します。値はITユ ニバース・マネージャで CI のツールチップに表示されます。

# [選択した CIT を Excel ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI タイプを Excel レポートにエクスポートできます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで, [ <b>クラス モデルをエクスポート</b> ] 🛅 ボタンをクリックし て, [ <b>選択した CIT を Excel ヘエクスポート</b> ]を選択します。

重要情報	レポートのルート CI タイプとルート関係として機能する CIT と関係を選択で きます。 CIT または関係を選択しない場合,標準設定が使用されます。 ルート CIT とルート関係は互いに独立しています。
	レポートは, ルート CIT とすべての子 孫 の CIT を表 示します。 レポートには, 次 のページが含まれます。
	• CIT 階層: ツリー形式でルート CIT の下に属性へのリンクとともに CIT を 表示します。
	• 関係階層:ツリー形式でルート関係の下に属性へのリンクとともに関係 を表示します。
	<ul> <li>CIT 属性: CIT の下に各 CIT のCIT 属性の名前,タイプ,説明,および表示レベルを表示します。</li> </ul>
	<ul> <li>関係属性:ルート関係の下に各関係の関係属性の名前,タイプ,説明,および表示レベルを表示します。</li> </ul>
	<ul> <li>有効な関係:ルート CIT の下に各 CIT の有効な関係のすべてを表示 します。</li> </ul>
	<ul> <li>列挙:システム・タイプ・マネージャからのすべての列挙定義を表示します。(ルート CIT またはルート関係には依存していません)。</li> </ul>
	<ul> <li>リスト:システム・タイプ・マネージャからのすべてのリスト定義を表示します。(ルート CIT またはルート関係には依存していません)。</li> </ul>
	レポートに表示するページを選択できます。
関連情報	●「CI タイプの概 要」( 442ページ)
	• 「CI タイプと関係の説明を表示」(451ページ)
	<ul> <li>         ・「ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要」(515ページ)     </li> </ul>

UI要素	詳細
ルート CI タイプ	省略記号
ルート関係	省略記号

UI要素	詳細
エクスポートするペー ジを選択	レポートで表示するページを選択します(必要なすべてのページのチェック・ ボックスを選択します)。次のオプションを利用できます。
	• CIT ワークシート: CIT 階層とCIT 属性のワークシートが含まれます。
	• 関係 ワークシート:関係階層と関係属性のワークシートが含まれます。
	• 有効な関係ワークシート:有効な関係ワークシートが含まれます。
	• タイプ定義 ワークシート:列挙およびリストのワークシートが含まれます。

# [選択した CIT を PDF ヘエクスポート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI タイプを PDF レポートにエクスポートできます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで, [ <b>クラス モデルをエクスポート</b> ] 🎦 ボタンをクリックし て, [ <b>選択した CIT を PDF ヘエクスポート</b> ]を選択します。
重要情報	このダイアログ・ボックスの出力は、UCMDB CI タイプと関係情報 PDF になり ます。Universal Data Model(UDM) について説明しています。
関連情報	•「CI タイプの概 要」(442ページ)
	• 「CI タイプと関係の説明を表示」(451ページ)
	• 「ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要」(515ページ)

UI 要素	詳細
all Data	選択した CIT のすべての情報を表示するように選択します。
changes only	前のデータ・モデルから選択した CIT の変更内容のみを表示するように選択します。
CITs	省略記号 🔤 ボタンをクリックして, エクスポートする CIT を選択します。
Filter attributes by qualifiers	レポートの属性を修飾子でフィルタするように選択します。必要な修飾子を ボックスに入力します。このレポートは、選択した修飾子を持つ属性のみを表示 します。
Relations	省略記号 🔜 ボタンをクリックして, エクスポートする関係を選択します。

UI要素	詳細	
Show Properties	選択したCITと関係の範囲を選択します。	
	• UDM: UDM からの CIT と関係 が含まれます。	
	• CMS: CMS で使用されている CIT と関係のみが含まれます。	
Show Qualifiers	エクスポートしたレポートに修飾子の情報が含まれるように選択します。	
Show Relationships	エクスポートしたレポートに関係の情報が含まれるように選択します。 s	
Show Valid Links	エクスポートしたレポートに有効なリンク情報が含まれるように選択します。有効 なリンクのセクションは,選択した CIT の有効な関係のすべてを表示します。	

# [システム タイプ マネージャ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 [リスト/列 挙 定 義 の作 成] ダイアログ・ボックスで定 義した属 性タイプを 表示 できます。

利用方法	Cl タイプ・マネージャで, <b>[Cl タイプ</b> ]>[ <b>システム タイプ マネージャ</b> ]を選択します。
関連タスク	•「リストと列挙定義の作成方法」(449ページ)
	•「列挙定義の作成方法 - ワークフロー」(450ページ)
関連情報	• 「CI タイプの概 要」(442ページ)
	<ul> <li>「システム・タイプ・マネージャ」(445ページ)</li> </ul>

UI 要素	詳細
+	<b>追加</b> :属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成できます。次の属性タイ プの定義を作成できます。
	<ul> <li>リスト定義</li> </ul>
	• 列挙定義
	これらの属性タイプについては、「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新]ダイアログ・ ボックス」(477ページ)を参照してください。
Ø	<b>編集:</b> 既存の定義を編集できます。詳細については、「[リスト/一覧定義の作成 /更新]ダイアログ・ボックス」(477ページ)を参照してください。

UI 要素	詳細
×	<b>削除</b> :既存の定義を削除します。削除するシステム・タイプ定義を選択して, [ <b>削</b> 除]ボタンをクリックします。
<システム・タ イプ定義>	システム・タイプ・マネージャで作成した列挙およびリスト定義の一覧です。

# 第12章:エンリッチメント・マネージャ

本章の内容

エンリッチメント・マネージャー概要	.484
エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ	.486
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加する方法	. 490
新規テナント関連付けルールの定義方法	.491
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース	492

# エンリッチメント・マネージャ-概要

エンリッチメント・ルールは、次に示すいくつかの目的で使用できます。

- 新しい CI および関係 を CMDB に追加
- CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- CMDB内の特定のCIインスタンスの属性値を更新

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は、検出プロセスによって自動的に検出できない実際の関係と CIを表す概念上のものであるという点で、ほかのクエリ・ノードと関係と異なります。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は TQL クエリの一部として作成されます。 TQL のほかの TQL クエ リ・ノードは通常のもの、つまりすでに CMDB内に存在している TQL クエリ・ノードです。 TQL クエリの 詳細については、「トポロジ・クエリ言語(TQL)」(15ページ)を参照してください。

次の例では、Node タイプの通常のクエリ・ノードが Composition エンリッチメント 関係で Websphere AS エンリッチメント・クエリ・ノードにリンクされています。



TQL クエリ・コンテキスト内にエンリッチメント・クエリ・ノードを配置することで, クエリはノードの属性から データを取得し, それを使用して CMDB に新しい情報を挿入します。

エンリッチメント・ルールを作成すると、次の結果になる可能性があります。

• The CMDB が拡張される。現在 CMDB に含まれていないエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が 追加されます。

次のエンリッチメント・ルールの例では、通常のWindows クエリ・ノード(すでに CMDB に存在)が Composition エンリッチメント関係で Log File エンリッチメント・クエリ・ノードに接続されています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての Windows CI インスタンスについて、新しい Log File CI インスタンスが作成され、Composition 関係で Windows CI にリンクされることを示し ています。

- CMDB から特定の CI インスタンスが削除される。例については、「エンリッチメント・ルールを定義 する方法 - シナリオ」(486ページ)を参照してください。
- CI属性の値が更新される:エンリッチメント・ルールを使用して,すでに CMDB に存在する CIの 属性を更新します。

次のエンリッチメント・ルールの例は、通常のWindows クエリ・ノード(すでに CMDB に存在)がエンリッチメント・ルールで更新されたことを示しています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての Windows Cl がエンリッチメント・ルールで定義 された属性値で更新されることを示しています。

# エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ

このタスクでは、次のエンリッチメント・ルールを作成する方法について説明します。

IPAddress CI は同一の2つの Node CI に接続されます。1つの Node CI は IP アドレスで識別され、もう1つは最下層 MAC アドレスで識別されます。このようなインスタンスすべてについて、IP アドレスで識別される Node CI を CMDB から削除します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

#### 本項の内容

- 「エンリッチメント TQL クエリの作 成」(486ページ)
- 「最下層 MAC アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義」(488ページ)
- 「IP アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義」(489ページ)
- •「エンリッチメント・ルールの定義」(489ページ)
- 1. エンリッチメント TQL クエリの作成

エンリッチメント TQL クエリを作成するには、エンリッチメント・ルールを定義し、次にクエリを定義する通常の TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

**注:** エンリッチメント・クエリ・ノードと関係の追加は、少なくとも1つの通常のクエリ・ノードがクエリに追加された後に行うことができます。

[マネージャ]>[モデリング]>[エンリッチメント マネージャ]を選択します。エンリッチメント TQL クエ リの作成方法の詳細については、「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパ ティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」(500ページ)を参照してください。クエリにクエ リ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加 方法」(24ページ)を参照してください。

フェデレート CI タイプのクエリ・ノードをエンリッチメント TQL クエリに追加 できますが, エンリッチメント・ルールで定義されたアクションがこれらのクエリ・ノード に影響を与える場合は, そのルールを保存するときに, それらのソースは自動的に UCMDB に設定されます。フェデレート・クエリ・ノードや 関係を, フェデレート・クエリ・ノード に更新したり, フェデレート・クエリ・ノード から削除することはできません。

#### エンリッチメント TQL クエリの例

doubleHosts1 という新しいエンリッチメント TQL クエリ(Network フォルダの下)がエンリッチ メント・マネージャに作成されます。

ルール名:	doubleHosts1	
ルールの詳細:	Delete incomplete host	
☑ ルールを有効にする		

doubleHosts1 エンリッチメント・ルールは、 [エンリッチメント・ルール]表示枠に表示されます。



このエンリッチメント TQL クエリでは, IP アドレスクエリ・ノードが Containment 関係 で2つの Node タイプのノード にリンクされています。 クエリ結果は, 矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティン グおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。

### 2. 最下層 MAC アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ]ページの上部でクエリ・モードを選択します。編集表示枠で,必要な Node タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [クエリノードのプロパティ]を選択して[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。次に[属性]タブで属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については, 「[クエリ・ノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

最下層 MAC アドレスでノードを識別する属性条件定義の例

[属性]タブで、この属性条件定義が最下層 MAC アドレスによって該当のノードを識別します。

- 属性名 Node is Complete
- 演算子等しい
- 値 True

### 3. IP アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ]ページの上部でクエリ・モードを選択します。編集表示枠で,必要な Node タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [クエリノードのプロパティ]を選択して[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。次に[属性]タブで2つの属性条件を定義します。 属性条件の定義方法の詳細については, 「[クエリ・ノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

IP アドレスでノードを識別できるようにするための属性条件の例

これは, IP アドレスによってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために[属性]タブに定義する必要がある1つ目の属性条件です。

属性名 Node is Complete

演算子等しい

值 False

これは, IP アドレスによってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために[属性]タブに定義する必要がある2つ目の属性条件です。

属性名 Node is Complete

演算子 null

値値は変更できません

### 4. エンリッチメント・ルールの定義

IP アドレスで識別される Node タイプのクエリ・ノードのすべてのインスタンスを削除するエンリッチメント・ルールを定義します。ツールバーからエンリッチメント・モードを選択します。[エンリッチメント ルール]表示枠でdoubleHosts1エンリッチメント・ルールを選択します。IP アドレスで識別される Node タイプのクエリ・ノードを右クリックし、[関係/クエリノードを削除]を選択します。

削除済みインジケータを含む Node タイプのクエリ・ノードの例

Node タイプのクエリ・ノードには、同一の属性とカーディナリティ設定を持つすべてのノード・ インスタンスが CMDB から削除されることを示す削除済みインジケータが付きました。エンリッ チメント・クエリは次のようになります。



# エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加する方法

本項では, エンリッチメント・マネージャでエンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加する方法について説明します。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順を実行します。

- 1. [エンリッチメント ルール]表示枠のツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加するエン リッチメント・ルールを選択するか、または新しく作成します。詳細については、「新規エンリッチメ ント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」 (500ページ)を参照してください。
- 2. ページ上部の[クエリ/エンリッチメント]ドロップダウンで, [エンリッチモード]を選択します。



 CI タイプ・セレクタに表示されるツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードとして機能させるクエリ・ ノードをクリックし編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。
 追加したエンリッチメント・クエリ・ノードは、追加済み インジケータによって表示されます。

注: ルールには複数のエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。

4. エンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQLノード(1つまたは複数)にリンクして、操作に必要な

内容を持ったエンリッチメント・クエリ・ノードを提供します。

次に示すエンリッチメント・ルールを検証してください。

- ルールでは、新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQL クエリ・ノードの少なくとも1つにリンクする必要があります。
- エンリッチメント・クエリ・ノードは、エンリッチメント関係を持つ相手とのみリンクできます。
- 新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを(CIT 定義に従って)別のクエリ・ノードに含める必要がある場合は、Composition関係を使って、このエンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQLクエリ・ノードに接続する必要があります。
- エンリッチメント・クエリ・ノードを非表示のTQL クエリ・ノードにリンクすることはできません。
- 5. 2つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次のいずれからの手順で行います。
  - CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要なクエリ・ノードを選択し、右ク リックして[関係の追加]を選択します。
  - [関係を作成] 🌆 ボタンをクリックし, 必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。

追加したエンリッチメント関係は、追加済み・インジケータによって表示されます。

[関係の追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[関係の追加/編集]ダイア ログ・ボックス」(51ページ)を参照してください。

6. [OK]をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

# 新規テナント関連付けルールの定義方法

次タスクで、テナント関連付けルールを定義する方法について説明します。

注:このボタンは、マルチテナンシーの有効時にのみ関連します。

### 1. [新規テナント関連付けルール]ウィザードが実行されます。

エンリッチメント・マネージャで、 [新規エンリッチメント ルール] 「お規テナント関連付けルール]を選択します。各ウィザード・ページに、一般属性とベース・クエ リの情報を入力します。詳細については、「新規テナント関連付けルール/テナント関連付け ルールのプロパティ/テナント関連付けルールとして保存ウィザード」(504ページ)を参照してください。

**注:** ウィザードの[ルールの一般属性]ページで[**ルールを有効にする**]チェックボックスを選択して、ルールを有効にします。

### 2. **ルール・クエリの構築**

新規クエリでテナント関連付けルールに基づく場合,必要な CI をキャンバスにドラッグし,必要な関係をドラッグすることで,クエリを構築します。

### 3. 選択したクエリ・ノードの所有者テナントの更新

[テナント関連付けルール]によって更新するクエリ・ノードを右クリックし、[所有者テナントを更新]を選択します。[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックスが開きます。所有者テナントを更新]を消したオプションの必要パラメータを選択します。[OK]をクリックします。詳細については、「[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」(513ページ)を参照してください。

注: ルール内で複数のクエリ・ノードの所有者テナントを更新できます。

### 4. 選択したクエリ・ノードの[利用者テナント]の更新

テナント関連付けルールによって更新するクエリ・ノードを右クリックし, [利用者テナントを更新] を選択します。[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックスが開きます。 顧客テナントを更新す る方法([値別]または[属性別])を選択し, 選択したオプションの必要パラメータを選択しま す。[OK]をクリックします。詳細については, 「[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」(511 ページ)を参照してください。

注:

- ルール内で複数のクエリ・ノードの利用者テナントを更新できます。
- 同じクエリ・ノードの所有者テナントと利用者テナントの両方を、単一のテナント関連付 けルールで更新できます。

### 5. ファイルの保存

[保存] 🔲 をクリックしてテナント 関連付けルールを保存します。 ルールは, その優先度で定義 した頻度に従って実行されます。

# エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

[エンリッチメント マネージャ]ページ	. 493
新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして 保存ウィザード	C 500
新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連付けルー ルとして保存ウィザード	. 504
[クエリノード / 関係の定義]ダイアログ・ボックス	508
[クエリノード定義] - [詳細な属性]ダイアログ・ボックス	510

[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス	
[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス	

## [エンリッチメント マネージャ]ページ

このページでは, エンリッチメント・ルールを定義できます。これらのルールは特定の TQL クエリに基づいており, 次のような目的で使用できます。

- 新しい CI および関係 を CMDB に追加
- CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- CMDB内の特定のCIインスタンスの属性値を更新

利用方法	ナビゲーション・メニューから[ <b>エンリッチメント マネージャ</b> ]を選択するか, [マネージャ] >[モデリング]>[エンリッチメント マネージャ]を選択します。
重要情報	エンリッチメント・マネージャでは2つのモードを使用できます。ツールバーのエンリッチ メント・モード/クエリ・モードのリストを常にチェックして,現在選択しているモードを 確認してください。
関連タスク	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	「新規テナント関連付けルールの定義方法」(491ページ)
関連情報	•「エンリッチメント・マネージャー概要」(484ページ)
	<ul> <li>「エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース」(492ページ)</li> </ul>

### [エンリッチメント ルール]表示枠

定義済みのフォルダおよびエンリッチメント・ルールの階層ツリー構造を表示します。各エンリッチメント・ルールは TQL クエリに関連付けられています。

重要情報	独自エンリッチメント・ルールを作成することも, HP Universal CMDBに付属 する定義済みのエンリッチメント・ルール(ファクトリ・エンリッチメント・ルール)を 利用することもできます。
	標準のフォルダは定義済みのクエリ専用です。これらのフォルダを変更, また は組織の要件に応じて別のフォルダを追加できます。
	エンリッチメント・ルールまたはフォルダは、 ドラッグ・アンド・ドロップ操作 でフォ ルダ間の移動が可能です。

UI要素	詳細
	新規フォルダ:新しいフォルダを作成します。

UI 要素	詳細
*	<b>新規作成:エンリッチメント・ルール</b> を作成します。 [新規エンリッチメント ルール] ウィザードが開きます。
	<b>注:</b> マルチテナンシ環境では、下部右側にある小さな矢印をクリックし てオプションを表示します。 [新規エンリッチメント ルール]を選択すると、 新規エンリッチメント・ルール・ウィザードが開きます。 [新規テナント関連 付けルール]を選択すると、新規テナント関連付けルール・ウィザードが 開きます。
×	<b>削除</b> :選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
C	更新:ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造の データ内容が更新されます。
	保存:エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。(エンリッチメント・ ルールが作成されたか,既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた 場合にのみ有効)
	プロパティ:[エンリッチメント ルールのプロパティ]ウィザードが開きます。エン リッチメント・ルールの説明やアクティブ化の状態を変更できます。
Q	<b>プレビュー</b> :選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
	<b>注:このボタンは、マルチテナンシーが有効な場合には利用できませ</b> ん。
<b></b>	フォルダを表します。
Ð	エンリッチメント・ルールを表します。
<b>2</b> 5-	テナント関連付けルールを表します。
	注: このアイコンは、マルチテナンシーが有効な場合にのみ関連します。
<エンリッチメント・ ルール・ツリー>	既存のエンリッチメント・ルールがツリー形式で表示されます。
	<b>注</b> : ツリーにはエンリッチメント・ルールのみが表示されます。 TQL クエリ・ タイプのエンリッチメント(モデリング・スタジオで作成)はこのツリーに表示 されません。

フォルダまたはエンリッチメント・ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI要素	詳細
削除	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
XML ヘエクスポー ト	標準の保存ダイアログ・ボックスが表示され, エンリッチメント・ルールを XML スクリプトとして保存できます。このオプションは, 関連する TQL クエリも再配 置されるという条件で, ワークステーション間でエンリッチメント・ルールを移動 するのに使用できます。
XML からインポー ト	保存されたエンリッチメント・ルールを含む XML ファイルをエンリッチメント・マ ネージャにインポートします。
新規エンリッチメン ト・ルール	エンリッチメント・ルールを作成します。 [新規エンリッチメント ルール]ウィザード が開きます。
新規フォルダ	新しいフォルダを作成します。
新規テナント関連 付けルール	テナント関連付けルールを作成します。[新規テナント関連付けルール]ウィ ザードを新規に起動します。
プレビュー	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
プロパティ	[エンリッチメント ルールのプロパティ]ウィザードが開きます。 ルールの説明や アクティブ化の状態を変更できます。
フォルダの名前の 変更	フォルダの名前を変更します。
保存	(エンリッチメント・ルールが新規に作成されたか,既存のエンリッチメント・ルー ルに変更が加えられた場合にのみ有効)エンリッチメント・ルールを CMDB に 保存します。
名前を付けて保 存	[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存]ウィザードを表示します。 この ウィザードで, クエリの新しい名前や説明を定義できます。 このオプションは, 既存のエンリッチメント・ルールに基づく新しいエンリッチメント・ルールの作成に 使用できます。

### 編集表示枠

エンリッチメント・クエリ・ノードおよび関係を作成, 定義します。

重要情報	• [エンリッチメント ルール]表示枠でフォルダを選択すると、編集表示枠は空の状態です。
	• [エンリッチメント ルール] 表示 枠内のエンリッチメント・ルールを選択した場合,編集表示枠には、TQL クエリで定義された TQL ク エリ・ノードとTQL ノード間の関係で構成された選択したルール、 および作成してルールに追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードと 関係が表示されます。
	<ul> <li>エンリッチメント・マネージャでは、[エンリッチメント]モードと[クエリ] モードの2つのモードを使用できます。</li> </ul>
	作業しているモードによって, ショートカット・メニューに表示される オプションが異なります。詳細については, 後述の編集表示枠を 参照してください。
	<ul> <li>エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算できます。また、エンリッチメント・ルールから作成されたインスタンスを CMDB から削除できます。詳細については、「追加数」(164ページ)と「エンリッチメント結果を削除する」(170ページ)を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
関連情報	TQL クエリの作成方法の詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。

UI要素	詳細
+	追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係を示します。
•	CMDB から削除されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
ĸ	更新されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
エンリッチメント モード 💌 TQL モード エンリッチメント モード	エンリッチメント・マネージャでは, <b>[エンリッチメント</b> ]モードと[ <b>クエリ]</b> モードの2つのモードを使用できます。 次の作業ができます。
クエリ・モードとエンリッチメン ト・モード	<ul> <li>クエリ・モードでは、通常の(エンリッチメントではない)関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みのTQL クエリに追加できます。</li> </ul>
	• エンリッチメント・モードでは、エンリッチメントの関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みのTQL クエリに追加できます。

UI要素	詳細
<メイン・メニュー>	詳細については、「メイン・メニュー」(160ページ)を参照してください。
<クエリ・ノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。
<ショートカット・メニュー>のオ プション	詳細については、「ショートカット・メニュー・オプション」(32ページ)を 参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については、「ツールバー・オプション」(163ページ)を参照して ください。
<ツールチップ>	クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、その ノードまたは関係のツールチップが表示されます。
	このツールチップには次の情報が含まれます。
	• 要素名: クエリ・ノードの名前です。
	<ul> <li>CI タイプ:CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、「CI タイプ・マネージャ」(442ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• 選択したクエリ・ノードと関係の定義:属性条件です。詳細については「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。

### CI タイプ・セレクタ

この領域には、CMDBにあるCIタイプの階層ツリー構造が表示されます。

重要情報	CI タイプ・セレクタは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネー ジャ、トリガ TQL エディタに含まれています。 TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編 集表示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、「TQL クエリへのクエリ・ ノードと関係の追加方法」(24ページ)を参照してください。 注:各 CIT の右側に、CMDB 内の各 CIT のインスタンス数が 表示されます。
関連タスク	<ul> <li>「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)</li> <li>「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)</li> <li>「TQL クエリの定義方法」(23ページ)</li> <li>「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)</li> </ul>

UI 要素	詳細
<b></b>	CI タイプをマップに追加:選択した CI タイプを編集表示枠に移動します。
S	更新:Clタイプ・ツリーを更新します。
٩	検索:入力した CI タイプが検索されます。
1	<b>すべてを展開</b> :Clタイプ・ツリー内のすべてのサブツリーを展開します。
<b>B</b>	<b>すべてを折りたたみ</b> :Clタイプ・ツリー内のサブツリーを折りたたみます。
<検索ウィンドウ>	検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、 CI タイプを右 クリックしたときに以下の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
CI タイプをマップに追加	選択すると、選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インスタンスを表示	[CIT インスタンス] ウィンド ウが開き,選択した CIT のすべてのインスタン スが表示されます。詳細については、「CI インスタンス・ダイアログ・ボック ス」(63ページ)を参照してください。

### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	詳細表示枠は, モデリング・スタジオ, 影響分析マネージャ, エンリッチメント・マネージャ, 入力クエリエディタ, DFM のトリガ・クエリ・エディタの各マネージャとユーザ・イン タフェースで, ウィンドウ下部に表示されます。
	データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ*が表示されます。
関連タスク	•「影響ルールの定義方法 - ワークフロー」(425ページ)
	• 「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
	•「TQL クエリの定義方法」(23ページ)
	• 「パターン・ビューの作成方法」(251ページ)
	• 「テンプレートの作成方法」(252ページ)
	<ul> <li>「パースペクティブの作成方法」(254ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、 左矢印または 右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[ <b>リストを表示する</b> ]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリ ストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。 詳細については,「[属性]タブ」(73ページ)を参照してください。
カーディナリティ	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合、TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については、「[カーディナリティ]タブ」(75ページ)を参照してください。
データ・ソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。
	注:このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。 • CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。
詳細	次の情報が表示されます。 • CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。 • 要素名:クエリ・ノード/関係の名前です。モデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。 • Cl タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。 • 要素名:クエリ・ノード/関係の名前です。モデリング・スタジオにのみ表示されます。 • クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは、[はい]または[いいえ] という語によって示されます。
詳細	<ul> <li>次の情報が表示されます。</li> <li>CIタイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。</li> <li>要素名:クエリ・ノード/関係の名前です。モデリング・スタジオにのみ表示されます。</li> <li>クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは、[はい]または[いいえ] という語によって示されます。</li> <li>サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択したCIとその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは表示されません。</li> </ul>

UI要素	詳細
要素レイアウト	選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に 含めるために選択された属性が一覧表示されます(「特定の属性」が属 性条件として選択されている場合)。また,除外された属性と、属性で選 択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については、「[要素 レイアウト]タブ」(81ページ)を参照してください。
要素タイプ	クエリ・ノードまたは関係に対して定義されたサブタイプ条件が表示されます。詳細については,「[要素タイプ]タブ」(79ページ)を参照してください。
	注: このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
エンリッチメント・ルー ル	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが 表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合 は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイア ログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、「[クエリノード /関係の定義]ダイアログ・ボックス」(508ページ)を参照してください。
	注:このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。
影響を受けるクエリ・ ノード	選択したトリガ・クエリ・ノードで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノード が表示されます。必要な場合は、[ <b>編集</b> ]をクリックして、[影響を受けるク エリノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、 「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」(436ページ)を参照してく ださい。
	注:このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されま す。詳細については,「[修飾子]タブ」(83ページ)を参照してください。
	<b>注:</b> このタブは, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにの み表示されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素 インスタンスが表示されます。詳細については、「[ID]タブ」(84ページ)を参 照してください。

# 新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ /エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールを作成または変更できます。

利用方法	• 新規エンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール]表示枠の どこかを右クリックして[新規エンリッチメント ルール]をクリックするか、[新規エン
	リッチメント ルール] 🚵 ボタンをクリックします。
	• 既存のエンリッチメント・ルールを変更するには、 [エンリッチメント ルール]表示枠 でエンリッチメント・ルールを右クリックして、 [プロパティ]を選択します。
	• 既存のクエリに基づいて新しいエンリッチメント・ルールを作成するには、 [エンリッ チメント ルール]表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、 [名前を付け て保存]を選択します。
重要情報	<ul> <li>新規エンリッチメント・ルールを作成する場合、ルールに必要な TQL クエリの変更はアプリケーションが許可しないことに留意してください。これらの変更は次のとおりです。</li> </ul>
	<ul> <li>どの関係にも接続しなくなるクエリ・ノードが発生するような、エンリッチメント TQL クエリからエンリッチメント・クエリ・ノードに接続されているクエリ・ノードまた は関係を削除する操作。</li> </ul>
	<ul> <li>エンリッチメント・ルールで使用しているクエリ・ノードまたは関係のカーディナリティ定義を0(不要)に変更することはできません。関係カーディナリティの詳細については、「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」(71ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
関連タスク	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
ウィザード・ マップ	「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ ルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
	「[ルールー般属性]ページ」>「[ルールベースクエリ]ページ」
関連情報	•「エンリッチメント・マネージャー概要」(484ページ)
	• 「エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース」(492ページ)
	• 「トポロジ・クエリ言 語 ( TQL) 」( 15ページ)

### [ルールー般属性]ページ

このウィザード・ページでは、エンリッチメント・ルールの一意の名前と説明を入力できます。

<ul> <li>エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
• TQL クエリ作 成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規エンリッ チメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして 保存 ウィザード」(500ページ)を参照してください。
<ul> <li>標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。</li> <li>詳細については、「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>
「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ ルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
「トポロジ・クエリ言 語 ( TQL) 」( 15ページ)

UI要素	詳細
ルールの詳細	ルールの詳細を入力します(任意指定)。
ルールを有効にす る	このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります(任意指定)。
	標準設定:選択されていない
	<ul> <li>注:</li> <li>有効なエンリッチメント・ルールが無効化された場合([ルールを有効にする]チェック・ボックスをクリア)、CMDBで発生したルールに関連するすべての変更がシステムから削除されます。エンリッチメント・ルールを無効化すると、[エンリッチメント ルール]表示枠でエンリッチメント・ルールの横に赤い[X]が表示されます。</li> <li>ルールを再度有効にするには、[エンリッチメント ルール]表示枠でルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。[ー般属性]ページで[ルールを有効にする]を選択します。</li> </ul>

< >   _は
D 除 I へ エー
ž
t

## [ルールベースクエリ]ページ

このウィザードでは,エンリッチメント・ルールのベースとなる TQL クエリのプロパティを定義できます。

重要情報	<ul> <li>エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
	• TQL クエリ作 成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規エンリッ チメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして 保存ウィザード」(500ページ)を参照してください。
	<ul> <li>標準設定では、このウィザードは、このページで[次へ]をクリックすると[ウィザードの 完了]ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、 [ウィザードの完了]ページを表示しないようにできます。詳細については、「[ユー ザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・ マップ	「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ ルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
	「[ルールー 般属性]ページ」>「[ルール ベース クエリ]ページ」
関連情報	「トポロジ・クエリ言 語 ( TQL) 」( 15ページ)

#### ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
新しいクエリのエ ンリッチメントに基 づく	新しい TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は, この チェック・ボックスを選択します。 TQL 結果は, 新しい TQL クエリに定義した属 性に基づいたものになります。
既存のクエリのエ ンリッチメント・ ルールに基づく	既存のTQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、この チェック・ボックスを選択します。必要なエンリッチメント TQL クエリをドロップダウ ン・リストから選択します。
ベース・クエリ詳 細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。
ベース・クエリ名	エンリッチメント TQL クエリの一 意 の名 前 を入 力します。
	[既存の TQL のエンリッチメント ルールに基づく]オプションを選択した場合, ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択します。
ベース・クエリの優 先度	新しい TQL クエリの優先度(低,中,高,至急)を選択します。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に 再実行する頻度が決定します。
現在の定義に基 づいて新規クエリ を保存	選択すると, エンリッチメント・ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。
	注: このフィールドは、 [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存]ウィ ザードにのみ表示されます。

# 新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパ ティ/テナント関連付けルールとして保存ウィザード

このウィザードでは、テナント関連付けルールを作成、変更できます。

利用方法	<ul> <li>新規テナント関連付けルールを作成するには、[エンリッチメント ルール]表示枠の 任意の場所で右クリックして[新規テナント関連付けルール]をクリックするか、[新 規] ジョボタンの横の下向き矢印をクリックして[新規テナント関連付けルール]を 選択します。</li> </ul>
	• 既存のテナント関連付けルールを変更するには、 [エンリッチメント ルール]表示枠 でテナント関連付けルールを右クリックして、 [プロパティ]を選択します。
	• 既存のクエリに基づいて新しいテナント関連付けルールを作成するには、 [エンリッ チメント ルール]表示枠でテナント関連付けルールを右クリックして、 <b>[名前を付け</b> て保存]を選択します。
重要情報	💩 は, アクティブなテナント関連付けルールを示します。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------
	🖧 非 アクティブなテナント 関連付 けルールを表します。
	注:
	<ul> <li>このウィザードは、マルチテナンシが有効な場合のみ使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>テナント関連付けルールの基礎として機能するTQL クエリはー定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
関連タスク	<ul> <li>「新規テナント関連付けルールの定義方法」(491ページ)</li> </ul>
	• 「マルチテナンシーのワークフロー」
ウィザード・ マップ	「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連 付けルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
	「[ルールー般属性]ページ」>「[ルールベースクエリ]ページ」
関連情報	• 「トポロジ・クエリ言 語 ( TQL) 」 ( 15ページ)
	• 「マルチテナンシの概要」
	• 「テナント関連付けルール」

#### [ルールー般属性]ページ

このウィザード・ページでは、テナント関連付けルールの一意の名前と詳細を入力できます。

重要情報	<ul> <li>エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
	• TQL クエリ作 成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規エンリッ チメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして 保存ウィザード」(500ページ)を参照してください。
	<ul> <li>標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。</li> <li>詳細については、「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>

モデリング・ガイド 第12章:エンリッチメント・マネージャ

ウィザード・ マップ	「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連 付けルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
	「[ルールー 般属性]ページ」>「[ルールベースクエリ]ページ」
関連情報	「トポロジ・クエリ言 語 ( TQL) 」 ( 15ページ)

UI 要素	詳細
ルールの詳細	ルールの詳細を入力します(任意指定)。
ルールを有効にす る	このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります(任意指定)。
	標準設定:選択されていない
	• 有効なテナント関連付けルールが無効化された場合([ルールを有効 にする]チェック・ボックスをクリア), CMDB で発生したルールに関連す るすべての変更がシステムから削除されます。テナント関連付けルール を無効化すると、[エンリッチメントルール]表示枠でルールの横に赤い [X]が表示されます。
	<ul> <li>ルールを再度有効にするには、[エンリッチメント ルール]表示枠でルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。[一般属性]ページで [ルールを有効にする]を選択します。</li> </ul>
ルール名	テナント関連付けルールの一意の名前を入力します。ルール名には、\/:"< > %?の文字を含むことができません。最後の文字を空白スペースにすること はできません。
	<b>注:</b> ルール名が空の状態であるか、別のテナント関連付けルールで使用 している名前が含まれているか、無効な文字が使用されている場合は、 [次へ]および[完了]ボタンが使用不可になります。

UI 要素	詳細
最終 <i>ア</i> クセス日 時を更新	このオプションが選択されると、テナント関連付けルールは影響を及ぼす CIの [最終アクセス日時]プロパティを更新します。チェック・ボックスの選択を解除 すると、テナント関連付けルールはその属性を更新せず、そのためそれらの CI への接触を行いません。これにより、テナント関連付けルールは該当する CIの エージングに影響を与えません。
	注:
	<ul> <li>定義済みのテナント関連付けルールの場合は、このオプションは標準 設定で選択されています。</li> </ul>
	<ul> <li>テナント関連付けルールによって作成された新しい CI の場合は、 チェック・ボックスが選択解除されても[最終アクセス日時]プロパティは 更新されます。</li> </ul>

#### [ルールベースクエリ]ページ

このウィザード・ページでは, テナント関連付けルールの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義 できます。

重要情報	<ul> <li>エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(91ページ)を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
	• TQL クエリ作 成後の変更の影響に関する重要な情報については、「新規エンリッ チメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして 保存 ウィザード」(500ページ)を参照してください。
	<ul> <li>標準設定では、このウィザードは、このページで[次へ]をクリックすると[ウィザードの 完了]ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、 [ウィザードの完了]ページを表示しないようにできます。詳細については、「[ユー ザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」(91ページ)を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・ マップ	「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連 付けルールとして保存ウィザード」には次のページが含まれます。
関連情報	「トポロジ・クエリ言語(TQL)」(15ページ)

UI要素	詳細
新しいクエリのテナ ント関連付けルー ルに基づく	新しい TQL クエリをテナント関連付けルールのベースにする場合は、この チェック・ボックスを選択します。 TQL 結果は、新しい TQL クエリに定義した属 性に基づいたものになります。
既存のクエリのテ ナント関連付け ルールに基づく	既存のTQL クエリをテナント関連付けルールのベースにする場合は, この チェック・ボックスを選択します。 必要な TQL クエリをドロップダウン・リストから 選択します。
ベース・クエリ詳細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。
ベース・クエリ名	TQL クエリの一意の名前を入力します。
	[Base the Tenant Association rule on an existing query]オプションを選択した場合、ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択します。
ベース・クエリの優 先度	新しい TQL クエリの優先度(低,中,高,至急)を選択します。この設定に より、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に 再実行する頻度が決定します。
現在の定義に基 づいて新規クエリ を保存	選択すると, テナント関連付けルールの定義のベースとなる新しい TQL クエリ が保存されます。
	<b>注:</b> このフィールドは、 [テナント関連付けルールとして保存] ウィザードにのみ表示されます。

### [クエリノード / 関係の定義]ダイアログ・ボックス

選択したクエリ・ノード/関係の属性を表示します。キー属性と選択したクエリ・ノードの必須属性は太字で表示されます。

利用方法	エンリッチメント・モード([エンリッチメント マネージャ]ページの上部で[ <b>クエリ/エンリッチ</b> メント]ドロップダウンから[エンリッチメント]を選択)の場合, クエリ・ノードまたは関係 を右クリックし, [関係を更新]または[クエリノードを更新]を選択します。
重要情報	エンリッチメント・ルールを使用して、 CMDB内の CI 属性の値を更新するか、現在値が設定されていない属性にデータを追加します。たとえば、 このオプションを使用して、 すべての CI インスタンスに同時にメモを追加できます。
	キー属性とエンリッチメント・クエリ・ノードの必須属性の値を入力する必要があります。 これらの値の定義に使用する方法で,作成されるインスタンス数が決まります。
	動的な値を入力すると, 膨大な数のインスタンスを作成できます。たとえば, CIT Nodeのhost_keyまたは CIT <b>IpAddress</b> の IP アドレス属性に動的な値を入力しま す。
関連タスク	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 - シナリオ」(486ページ)
関連情報	•「エンリッチメント・マネージャー概要」(484ページ)
	<ul> <li>「エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース」(492ページ)</li> </ul>

#### [属性]領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
名前	属性名です。
タイプ	選択した属性のフィールドのタイプです。
値	次のいずれかで値が定義されます。
	• [属性の設定]領域の[値]ボックス。
	• [属性の設定]領域の複数の[属性別]ボックスの値の組み合わせ。
	• [クエリノード定義 — 詳細な属性]ダイアログ・ボックスの[ <b>タイプ</b> ]カラムで [簡易]を選択した場合, [値]カラム。
	• [クエリノード定義 — 詳細な属性]ダイアログ・ボックスの[タイプ]カラムで [属性別]を選択した場合, [値]カラムと[値]カラムの右側のカラムの値の組み合わせ。

#### [属性の設定]領域

UI要素	詳細
詳細設定	[クエリノード定義 - 詳細な属性]ダイアログ・ボックスを使用して属性 値を定義します。
	<b>クリア:</b> [属性]領域の[値]カラムを消去します。
	<b>注:</b> この要素は、フィールド・タイプ[ <b>文字列</b> ]の属性を選択した場合にのみアクティブになります。
属性別	TQL クエリのほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。
	• 左側のボックスで必要なクエリ・ノードを選択します。
	• 右側のボックスでクエリ・ノードの必須属性を選択します。
	□ 適用:選択した属性定義を[属性]領域の[値]カラムに追加します。
	Ø クリア: [属性]領域の[値]カラムを消去します。

UI要素	詳細
正規表現グループ	(フィールド・タイプの属性に[ <b>文字列</b> ]を選択した場合にのみ表示)正 規表現構文を使用して正規表現を追加した場合にのみグループ番 号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作成すると きに注目する部分を表します。括弧()のセットでグループとみなされま す。
正規表現	(フィールド・タイプの属性に[文字列]を選択した場合にのみ表示)正 規表現構文を使用して正規表現を追加します。正規表現パターンを 入力します。 正規表現構文の使い方の例については、「正規表現の例」(526ペー ジ)を参照してください。
値([属性の設定]領 域)	定数値を定義します。[値]ボックスに必要な値を入力するか, [値]リストから値を選択します。

#### [クエリノード定義] - [詳細な属性]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、単純または複雑な表現を使用して、文字列タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義できます。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。

利用方法	[クエリノード定義]ダイアログ・ボックスの 文字列 タイプの属性を選択します。[詳細 設定]を選択し, []ボタンをクリックします。
関連タスク	「エンリッチメント・ルールを定義する方法 – シナリオ」(486ページ)
関連情報	•「エンリッチメント・マネージャー概要」(484ページ)
	•「エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース」(492ページ)

UI 要素	詳細
<b>+</b>	<b>追加:</b> 単純または複雑な表現を使用して属性値を定義します。[ <b>タイプ</b> ]カラムに 新しいエントリを作成します。新しいエントリをクリックし, [簡易]または[属性別]を選 択します。詳細については, 後述の[ <b>タイプ</b> ]カラムの説明を参照してください。
×	削除:選択した属性値を削除します。
	上へ:選択した行を上へ移動します。

UI 要素	詳細
V	<b>下へ</b> :選択した行を下へ移動します。
詳細な値	([ <b>タイプ</b> ]カラムで[ <b>属性別</b> ]を選択している場合にのみ利用可能)ボックス内のエント リをクリックし,必須属性を選択します。
連結	このダイアログ・ボックスに一覧表示されているすべての属性値を使用します。
正規表現 グループ	([タイプ]カラムで[属性別]を選択している場合にのみ利用可能)[正規表現グ ループ]カラム内をクリックし、 ボタンをクリックし、開いた[正規表現グループ] ダイアログ・ボックスの[値]にグループ番号を入力します。これは、正規表現パターン のうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧()のセットでグループ とみなされます。
正規表現	([ <b>タイプ</b> ]カラムで[ <b>属性別</b> ]を選択している場合にのみ利用可能)[ <b>正規表現</b> ]カラ ム内をクリックして 「ボタンをクリックし,開いた[正規表現]ダイアログ・ボックスの [値]に正規表現パターンを入力します。
	正規表現構文の使い方の例については、「正規表現の例」(526ページ)を参照し てください。
タイプ	[ <b>タイプ</b> ]カラム内のエントリをクリックし,次のいずれかのオプションを選択します。
	• <b>簡易</b> :単純表現を使用して定数値を定義します。
	• 属性別: TQL のほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。
	<b>標準設定</b> :簡易
値を持つ 最初の属 性を使用	このダイアログ・ボックスに一覧表示されている空ではない最初の属性値を使用します。
值	• [ <b>タイプ</b> ]カラムで[単純]を選択した場合, [値]カラム内をクリックして ボタンをクリックし, [単純]ダイアログ・ボックスの[値]に必要な値を入力します。
	<b>注:</b> 1 つの単純表現のみを使用して属性値を定義した場合, [ <b>値</b> ]カラムを 空白にできません。
	• [ <b>タイプ</b> ]カラムで[ <b>属性別</b> ]を選択した場合, [値]カラム内をクリックし, リストから必要な値を選択します。

## [所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI の利用者テナントの更新ルールを定義できます。

モデリング・ガイド 第12章:エンリッチメント・マネージャ

利用方法	[エンリッチメント マネージャ]で[ <b>エンリッチメント モード</b> ]を選択します。[テナント関 連付けルール]で必要なクエリ・ノードを右クリックし, [ <b>利用者テナントを更新</b> ]を選 択します。
重要情報	このダイアログ・ボックスは、マルチテナンシーの有効な場合にのみ使用できます。
関連タスク	「新規テナント関連付けルールの定義方法」(491ページ)
関連情報	• 「マルチテナンシの概要」
	•「テナント関連付けルール」

UI要素	詳細
選択した値を元の 値に追加	このオプションを選択すると、選択した利用者テナントが、更新したクエリ・ ノードの元の利用者テナントに追加されます。
属性値の取得元	選択したクエリ・ノードのテナント属性を選択して, 更新したクエリ・ノードに 適用します。次のオプションを選択できます。
	• 所有者テナントの属性:選択したクエリ・ノードの所有者テナントを,更 新したクエリ・ノードの利用者テナントとして適用します。
	• 利用者テナントの属性:選択したクエリ・ノードの利用者テナントを,更新したクエリ・ノードの所有者テナントとして適用します。
	注:この要素は、 [属性別]を選択した場合にのみ関連します。
元の値を上書き	このオプションを選択すると、選択した利用者テナントが、更新したクエリ・ ノードの元の利用者テナントと置き換わります。
ノードを選択	選択したクエリ・ノードを, [利用可能なノード]ペインから[選択済みのノー ド]ペインに, 矢印ボタンを使用して移動します。
	注:この要素は、 [属性別]を選択した場合にのみ関連します。
テナントを選択	選択したテナントを, [利用可能なテナント]ペインから[選択済みのテナント]ペインに, 矢印ボタンを使用して移動します。
	注:この要素は、 [値別]を選択した場合にのみ関連します。
利用者テナントを更	顧客テナントの更新方法を選択します。次のオプションを使用できます。
त्रग	• 値別:利用者テナントから直接テナントを選択します。
	• 属性別:ルールでその他のクエリ・ノードを選択します。更新したクエリ・ ノードには、選択したクエリ・ノードの所有者テナントが割り当てられま す。

## [所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIの所有者テナントの更新ルールを定義できます。

利用方法	[エンリッチメント マネージャ]で[ <b>エンリッチメント モード</b> ]を選択します。[テナント関 連付けルール]で, 必要なクエリ・ノードを右クリックし, [ <b>所有者テナントを更新</b> ]を 選択します。
重要情報	このダイアログ・ボックスは、マルチテナンシーの有効な場合にのみ使用できます。
関連タスク	「新規テナント関連付けルールの定義方法」(491ページ)
関連情報	• 「マルチテナンシの概要」
	•「テナント関連付けルール」

UI要素	詳細
テナントを選択	ドロップダウン・リストからテナントを選択します。
	注:この要素は、 [値別]を選択した場合にのみ関連します。
所有者テナントの選択元	ドロップダウン・リストからクエリ・ノードを選択します。
	注:この要素は、 [属性別]を選択した場合にのみ関連します。
所有者テナントを更 新	所有者テナントの更新方法を選択します。次のオプションを使用できま す。
	• 値別:ドロップダウン・リストからテナントを直接選択します。
	• 属性別:ルールで別のクエリ・ノードを選択します。更新したクエリ・ノードには,選択したクエリ・ノードの所有者テナントが割り当てられます。

# HP Universal CMDB データ・モデル

# 第13章: UCMDB データ・モデルの紹介

本章の内容

ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要 ......515

## ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要

Universal Data model(UDM)は、共通言語を使用してHP ソフトウェア製品を統合可能にするための情報モデルを提供します。UDM は、CI タイプの形式で語彙とそれらの間の関係、および属性を提供します。この語彙と語彙から派生した作成物は、エンタープライズ環境でのインテグレーションだけでなく、迅速な設計とデプロイメントを可能にし、メンテナンスと統合の進化を容易にするために使用されます。UDM は、HP Universal CMDBおよびそのインテグレーションを含む多くの管理製品とソリューションに適用されます。

UCMDB CI タイプと関係情報 PDF を生成できます。これは、UDM 内の特定のCI タイプと関係に 関する情報を提供します。詳細については、「[選択した CITを PDF ヘエクスポート]ダイアログ・ ボックス」(481ページ)を参照してください。UDM Powerpointドキュメントは HP Live Network でも見 つかります。または、「ヘルプ]>[UCMDB クラス モデル]を選択して UCMDB クラス・モデル・リファレン スにアクセスします。

# 第14章: UML ツールへの UCMDB データ・モデルの エクスポート

本章の内容

UML へのエクスポート・ツール - 概要	516
クラス・モデルのエクスポート方法	516
クラス・モデルの選択部分のXMLを変換する方法	517
UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース	518
ツール・プラグイン入力	520

注: 現在, Altova UModel バージョン 2008 と2009 がサポートされています。

## UML へのエクスポート・ツール - 概要

UML ツールへのエクスポートでは、UCMDB クラス・モデルの選択したセクションを UML ツールと互換性のある形式にエクスポートし、モデルを UML 図として表示 できます。

ツールへの入力項目は, UCMDB クラス・モデルXML ファイルです(JMX サービス UCMDB:service=Class Model Services/ exportClassModelToXml() によって取得される)。

**注:** JMX コンソールにアクセスするには、ブラウザのアドレスに次を入力します。http://<サーバ 名>:8080/jmx-console。ここで、<サーバ名>は、HP Universal CMDB がインストールされている マシンの名前です。

## クラス・モデルのエクスポート方法

このタスクでは, [クラス モデルの UML ツールへのエクスポート] ウィザード の使 用 方 法 について説 明します。

本項の内容

- •「前提条件」(516ページ)
- 「UML ツールの実行」(517ページ)
- 「エクスポートしたファイルの Altova での表示」(517ページ)
- 1. 前提条件

次のzipファイルを任意の場所にデプロイしてツールをセットアップします。

<ボリューム>:\hp\UCMDB\UCMDBServer\tools\ExportClassModel.zip

#### 2. UML ツールの実行

[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードを使用して, UML ツールにエクスポート する CIT とその属性を選択します。

[UML へのエクスポート]ウィザードを使用した作業の詳細については、「UML へのクラス・モデル のエクスポート・ウィザード」(518ページ)を参照してください。

#### 3. エクスポートしたファイルの Altova での表示

- a. Altova では, [ファイル]>[XMI ファイルからインポート]を選択します。
- b. XMI ファイルを選択します。[モデルツリー]表示枠にクラス・モデル・エントリが表示されます。
- c. エントリを右 クリックして[新規ダイアグラムに表示]>[コンテンツ]を選択します。[OK]をク リックします。

## クラス・モデルの選択部分の XML を変換する方法

このタスクでは、クラス・モデルの選択部分のXMLをUMLツール形式に変換するカスタム・プラグインの使用方法について説明します。

Java クラスまたは XSLT テキスト・ファイルのプラグインを使用 できます。 Java クラスを使用 する場合, ITransformToUML(ExportToUML.jar) インターフェイスを実装 する必要 がありま

す。transformToUML() メソッドがXML ストリングをパラメータとして受信し, 出力ファイルに書き込まれるバイトアレイとして返します。

カスタム・プラグイン入力の詳細については、「ツール・プラグイン入力」(520ページ)を参照してください。

本項の内容

- 「Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化」(517ページ)
- •「XSLT テキスト・ファイルを使用したプラグインのアクティブ化」(518ページ)

#### Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化

表示名と完全修飾クラス名を、次のように ExportToUML ディレクトリの**config.xml**ファイルに追加し ます。

```
<ConverterToUML>
<Name><display name></Name>
<Class><fully qualified class name></Class>
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、「クラス・モデルのエクスポート方法」(516ページ)を参照してください。

#### XSLT テキスト・ファイルを使用したプラグインのアクティブ化

この場合には,指定したファイルのXSLT がクラス・モデルXML に適用され,出力ファイルに書き込まれます。

表示名とXSLT ファイルのフル・パスを、次のように ExportToUML ディレクトリのconfig.xmlファイルに追加します。

```
<ConverterToUML>
<Name><display name></Name>
<XsltFile><Full_path_of_the_XSLT_file></XsltFile>
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、「クラス・モデルのエクスポート方法」(516ページ)を参照してください。

## UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース

本項の内容

UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード ......518

#### UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード

このウィザードでは、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択できます。

利用方法	ツールをデプロイした場所を参照します。ExportClassModel ディレクトリで ExportClassModel.jar を右クリックします。[アプリケーションから開く]>[Java 2 プ ラットフォーム SE バイナリ]を選択します。
重要情報	標準設定では、ツールによりExportClassModel ディレクトリの ClassModel.xml ファイルが開かれます。[ファイル]>[クラス・モデル ファイルを開く]メニューでほかの ファイルを開くことができます。
関連タスク	「クラス・モデルのエクスポート方法」(516ページ)
ウィザード・ マップ	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには、以下のページが含まれています。
	「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」(518ページ) > 「有効なリンクの 選択」(519ページ) > 「選択した項目のエクスポート」(519ページ)
関連情報	• 「UML へのエクスポート・ツール - 概要」(516ページ)
	<ul> <li>「ツール・プラグイン入力」(520ページ)</li> </ul>

UI要素	詳細
ファイル	XML ファイルのリストを表示します。 クラス・モデルを含むファイルを開きます。
[属性の選択]表示枠	UML ツールに表示する属性を選択します。
	選択した CIT の属性はこの表示枠に表示されます。属性の色は次の とおりです。
	<ul> <li>親 CIT から継承する属性は黒です。</li> </ul>
	<ul> <li>この CIT に固有の属性は濃い青です。</li> </ul>
[CI タイプの選択]表	ここに表示される CIT は、ClassModel.xml ファイルから取得されます。
示枠	UML ツールにエクスポートする CIT とそのサブ・ノードを選択します。
	サブインデックスをすべて選択またはすべてクリアするには, ボタンを使用 します。

#### 有効なリンクの選択

このウィザード・ページでは、2つの CIT 間で使用できるリンクを選択できます。

重要情報	ウィザードに関する一般情報は、「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」 (518ページ)で入手できます。
ウィザード・ マップ	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには,以下 のページが含まれてい ます。
	「有効なリンクの選択」>「選択した項目のエクスポート」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
8	CIT のリストからフィルタが削除されます。
適用 フィルタ	有効なリンクのリストをフィルタ処理できます。 CIT のリストをフィルタ処理し, CIT または 関係ごとにリストを並べ替えできます。

#### 選択した項目のエクスポート

このウィザード・ページでは、選択した CIT とその属性を UML ツールにエクスポートできます。

**重要情報** ウィザードに関する一般情報は、「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」 (518ページ)で入手できます。

ウィザード・	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザード には,以下 のページが含 まれてい
マップ	ます。
	「有効なリンクの選択」>「選択した項目のエクスポート」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
エクス ポート	クリックして, UCMDB CIT とその属性を追加する XMI 形式の UML ファイルを参照します。
	CIT のペアの有効なリンクがない場合は、「有効なリンクなし」メッセージが[有効なリンクの選択]ページに表示されます。

## ツール・プラグイン入力

プラグインへの入力は、次の形式のXML文字列(選択したクラス/属性/有効なリンク)です。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
    <Class-Model>
        <Class class-name="hostresource" display-name="Host Resource" visibility
="public">
            <Attribute name="isvirtual" display-name="Is Virtual" visibility="pu</pre>
blic"/>
            <Attribute name="city" display-name="City" visibility="public"/>
        </Class>
        <Class class-name="host_node" display-name="Computer" visibility="publi
c">
            <Derived-From class-name="host"/>
        </Class>
        <Class class-name="vax" display-name="VAX" visibility="public">
            <Attribute name="root_actualdeletionperiod" display-name="Actual Del</pre>
etion Period" visibility="public"/>
            <Attribute name="data allow auto discovery" display-name="Allow CI U</pre>
pdate" visibility="public"/>
            <Derived-From class-name="host_node"/>
        </Class>
        <Class class-name="host" display-name="Host" visibility="public">
            <Attribute name="host_iscomplete" display-name="Host Is Complete" vi</pre>
sibility="public"/>
            <Attribute name="host_isroute" display-name="Host Is Route" visibili</pre>
ty="public"/>
            <Attribute name="host_hostname" display-name="Host Name" visibility=
"public"/>
            <Attribute name="host_os" display-name="Host Operating System" visib
ility="public"/>
        </Class>
        <Class class-name="unix" display-name="Unix" visibility="public">
```



# 第15章: テーブルでの作業

本章の内容

	500
カラハ(ハイ・ノダノエース	523
///////////////////////////////////////	 

### カラムのインタフェース

本項の内容

[カラムの選択]ダイアログ・ボックス	523
[カラム コンテンツの並 べ替 え] ダイアログ・ボックス	. 524

## [カラムの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示する情報を選択できます。カラムを非表示にするか、非表示状態のカラムを表示するように選択できます。

利用方法	[ <b>カラムの選択</b> ]ボタン 🔐 をクリックします。 このボタンはレポート内の各テーブルの上に表示されます。
重要情報	リストのカラム順序(可視カラムの表示枠内)により、テーブルに表示されるカラムの順序が決定されます。テーブル・カラムの順序を変更するには、上下の矢印ボ タンを押すか、カラムを新しい場所にドラッグして必要な位置へ移動します。

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	詳細
⇒	カラムを表示します。選択したカラムを[ <b>利用可能なカラム</b> ]表示枠から[ <b>可視カラ</b> ム]表示枠に移動します。
¢	選択したカラムを非表示にします。選択したカラムを[ <b>可視カラム</b> ]表示枠から[ <b>利</b> 用可能なカラム]表示枠に移動します。
m	すべての非表示カラムを表示します。 すべてのカラムを[ <b>利用可能なカラム</b> ]表示枠 から[ <b>可視カラム</b> ]表示枠に移動します。
uu iiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii	すべてのカラムを非表示にします。すべてのカラムを[ <b>可視カラム</b> ]表示枠から[ <b>利用</b> <b>可能なカラム</b> ]表示枠に移動します。
	[可視カラム]ペインのリスト中で,選択したカラムを上に移動します。
V	[ <b>可視カラム</b> ]ペインのリスト中で,選択したカラムを下に移動します。

UI 要素	詳細
利用可能 なカラム	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されません。
可視カラム	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されます。

#### [カラム コンテンツの並 ベ替 え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テーブルに表示されるエントリの並べ替え順序を設定、変更できます。

利用方法	[ <b>カラム コンテンツの並 べ替 え</b> ]ボタン İ をクリックします。
重要情報	• 1 つのカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順を実行します。
	カラム名を[ <b>利用可能なカラム</b> ]から[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]リストに移動しま す。名前を選択し,該当するボタンをクリックして昇順(上向きの三角形)また は降順(下向きの三角形)のいずれで並べ替えるかを決めます。
	<ul> <li>2つ以上のカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順を実行します。</li> </ul>
	カラム名 ( 複数 )を[ <b>利用可能なカラム</b> ]から[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]リストに移 動します。各カラムについて,昇順または降順のいずれで並べ替えるかを決めま す。
	<ul> <li>カラムの並べ替え順序を変更するには、次の手順を実行します。</li> </ul>
	[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]リストでエントリを選択し,上向きまたは下向き矢印を 選択して順序を変更します(リスト内の上部にあるエントリがまず並べ替えら れ,その後,下部にあるエントリが並べ替えられます)。テーブルのカラムのヘッ ダーに数が表示されます。
	注: 並べ替えることができるのは、表示されているカラムのみです。テーブル内に 表示するカラムとその表示順序を定義する方法の詳細については、「[カラムの選択]ダイアログ・ボックス」(523ページ).参照してください。

含まれている要素は次のとおりです。

UI要素	詳細
⇒	選択したカラムを[利用可能なカラム]表示枠から[並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。この手順は、選択したカラムをダブルクリックすること でも行えます。
<b>(</b>	選択したカラムを[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]表示枠から[ <b>利用可能なカラム</b> ] 表示枠に移動します。

UI要素	詳細
	すべてのカラムを[ <b>利用可能なカラム</b> ]表示枠から[ <b>並べ替えられたカラム</b> ] 表示枠に移動します。
<b>5</b>	すべてのカラムを[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]表示枠から[ <b>利用可能なカラム</b> ] 表示枠に移動します。
₩ ♠	リスト内で選択したカラムを上または下に移動して、すでに決められている 並べ替え順序内での優先順位を上げ下げできます。
타 타	カラムの内容を昇順または降順に並べ替えることができます。
	[ <b>並べ替えられたカラム</b> ]表示枠でカラム名を選択し,昇順または降順ボタンをクリックします。
利用可能なカラム	内容が並べ替えられていないカラムです。
	注: 複数のカラムを選択できます。
並べ替えられたカラ ム	内容が昇順または降順で並べ替えられたカラムです。

## 第16章:正規表現の例

本章の内容

#### 正規表現の例

• IP アドレス(aa.yy.zz.mm)を定義する正規表現は、次のように入力します。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
aa でラベルを作成する	(.*)([.].*[.].*[.].*)	1
yy でラベルを作成する	(.*[.])(.*)([.].*[.].*)	2
zz でラベルを作成する	(.*[.].*[.])(.*)([.].*)	2
mm でラベルを作成する	(.*[.].*[.].*[.])(.*)	2

• 次のように正規表現を入力して,選択された属性の最初または最後の文字でラベルを作成できます。

目的	最初のフィールドへの入力 内容	2 つ目のフィールドへの入力 内容
最初の文字でラベルを作成す る	(.)(.*)	1
最後の文字でラベルを作成す る	(.*)(.)	2
最初の2文字でラベルを作成 する	()(.*)	1
最後の2文字でラベルを作成 する	(.*)()	2

# お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、 以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

モデリング・ガイド (Universal CMDB 10.10) へのフィード バック

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新 規メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。